

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

|      |                    |     |
|------|--------------------|-----|
| （目次） | 看護学部 看護学科          | 2   |
| （目次） | リハビリテーション学部 理学療法学科 | 125 |
| （目次） | リハビリテーション学部 作業療法学科 | 260 |

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

（目次） 看護学部 看護学科

1. 「専門学校教育から大学教育へ移行する理由」として、「①質の高い医療専門職の育成」、「②健康科学の学問的発展」、「③効果的な IPE」及び「④一般教養科目群の拡充」の4つが掲げられているが、それらの意義が必ずしも明らかでなく、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程にどのように反映されているか明確ではないので、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 5
2. 養成する人材像として、「多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人」をあげているが、根拠とされている中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では、「高度職業専門人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切に改めること。（是正事項） ..... 17
3. 大学設置の必要性として、種々の社会的背景や地域からの要望が掲げられているが、教育研究上の目的との関係が必ずしも明らかではなく、例えば、「医療の対象者が性的マイノリティや外国人等に多様化していること」などの社会的背景として想定される課題に対する対応についても、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにどのように反映されているか不明確である。これらのことから、大学設置の必要性や社会的背景における説明と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を具体的に説明し、必要に応じて、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程等について適切に改めること。（是正事項） ..... 24
4. 学科ごとに設定する養成人材像や3つのポリシー等について、多くが同様の内容であるため、授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう適切に改めること。（是正事項） ..... 28
5. 教育課程の編成においては、専門学校の授業と比較し、「幅広い知識と深い教養と総合的判断力を養うため、基幹分野を中心として大幅な科目増を行う」との説明がなされているが、具体的にどの授業科目が対応している科目なのか説明すること。また、これらの科目が移行理由として説明されている、「質の高い医療専門職の育成」「健康科学の学問的発展」「効果的な IPE」「一般教養科目群を拡充する」にどのように対応しているのか、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 49
6. 履修モデルの説明において、履修に当たっての選択科目の考え方として、高度先進医療コース、災害医療コース、がん医療コースが示されているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係性が明らかでなく、また、3つのコースに分ける趣旨や養成する人材像の違い、コース分けの時期や方法等が明らかでないことから、具体的に説明すること。また、学生が、いずれかのコースを選択するのではなく、単に選択科目の考え方を示しているのであれば、「コース」という文言について適切に改めること。なお、「高度先進医療」の定義についても明らかにすること。（是正事項） ..... 61

7. 専門職連携教育Ⅰ～Ⅳなど、複数の教員が担当することとされている科目について、どの教員が主に担当するのかシラバスに明記すること。また、全員が同時に参加できる施設・設備が備わっていないように見受けられるため、具体的な実施形態について詳細に説明すること。(是正事項) ..... 63
8. 学習成果の評価について、以下について説明すること。(是正事項) ..... 74
  - (1)「各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す」とあるが、趣旨が不明確であるため、例を示しながら具体的に説明すること。 ..... 74
  - (2)GPA については導入することのみが記載されており、内容が不明確であるため、詳細に説明すること。 ..... 76
  - (3)シラバスに記載された成績評価指標について、「客観試験」「技術試験」「定期試験」等の趣旨の不明確な指標が見受けられることから、客観的評価が可能な指標かについても検討の上、適切に改めるとともに、評価方法ごとの割合などについては、シラバスにも記載し、学生に適切に周知すること。 77
9. シラバスにオフィスアワーに関する記載がなされていないため、明確にすること。(改善事項) ・78
- 1 0. 設置の趣旨の説明において、本学の特色の一つに「充実した ICT 環境による自由度の高い学習支援 (ICT 教育)」を掲げているが、教育課程をみると、1 年次の「医療と情報リテラシー」のみと見受けられ、また、「一部の授業について学習用動画を作成し」「学修できる教材を整備する」、「遠隔教育の整備をする」等、ICT の活用が強調されているが、講義・演習・実習科目等多様な授業形態がある中でどの授業でどのように活用されるか不明確であるため、その妥当性も含め具体的に説明すること。(是正事項) ..... 79
- 1 1. 語学教育として、英語に加えて中国語又は韓国語が必修科目とされている趣旨について説明すること。(改善事項) ..... 83
- 1 2. 科目の名称について、「カウンセリング」など、大学の科目の名称らしくないものが散見されるため、適切に修正すること。(改善事項) ..... 84
- 1 3. 「統合演習」において、第 2 回から第 4 回に OSCE に関する授業を実施する計画とされているが、その趣旨が不明確であるため、本授業における OSCE の位置付けを明確にした上で、妥当性を説明するか、必要に応じて修正すること。(是正事項) ..... 85
- 1 4. 入学者選抜について、例えば、「学校推薦型選抜 (一般)」においては「面接、調査書、小論文を主たる判定資料とする」とある等、評価に関する項目が明確ではないため、各項目の評価割合なども含め、アドミッション・ポリシーに記載されている内容をどのように担保するのか、試験区分ごとに具体的に説明すること。また、学力試験において、数学等の教科名のみが記載されているものは、必要な科目名まで明示すること。(是正事項) ..... 88
- 1 5. 教員組織について、助手が多く配置され、実習科目別教員配置表には大半の実習先に助手が配置されている等、実習科目に大きな役割を果たすように見受けられる。その一方で、実習指導に当たる

教員負担については教員別授業担当表を確認する限り、一部教員に大きな負担がかかる体制であることから、将来にわたって、教員が実習科目において適切に指導できるのか懸念がある。このため、教員の将来的な採用計画を示した上で、今後の対応について明確に説明すること。(是正事項) ..... 93

1 6. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項) ..... 96

1 7. 「習得」や「学習」等、シラバスに誤字が散見される他、「設置認可等に関わる組織の移行表」では、他に設置する専門学校の名称の多くが同じものになっている等、書類上に誤記と思われる内容が散見されるため、網羅的に確認をした上で、適切に修正すること。(改善事項) ..... 98

1 8. 学生確保の見通しにおける分析について、例えば県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率等は必ずしも看護系の学科に細分化したものとなっていない等不十分であるため、細分化して分析すること。(是正事項) ..... 100

1 9. 既設専門学校の学生確保の状況については、単年度のみの数値に基づく分析となっているため、過去5年程度の推移を示した上で説明すること。(是正事項) ..... 109

2 0. 学生確保の見通しにおいて、中長期的なニーズの説明として、高等学校2年生に対し、今後短期大学や専門学校に比べて看護系大学を志望する生徒が増えるかを質問し、その結果をもって説明しているが、高等学校の生徒に中長期的な看護系大学の志望者の推移について問うことが適切とは考えにくいいため、適切かつ客観的に改めて説明すること。なお、その際には、看護系大学全体ではなく、本学科の学生の確保が中長期的に見込まれる旨を説明すること。(是正事項) ..... 116

2 1. 本学科が養成する人材の社会的需要について、医療施設の採用担当者に移行調査を行い、294名採用可能との回答があったことを根拠に人材需要を説明しているが、意向調査では単に単年度の採用移行人数を確認しているのみと見受けられ、養成する人材の継続的な社会的需要が見込まれるかが必ずしも明らかでないため、客観的な数値で改めて説明すること。(是正事項) ..... 121



(是正事項) 看護学部 看護学科

1. 「専門学校教育から大学教育へ移行する理由」として、「①質の高い医療専門職の育成」、「②健康科学の学問的発展」、「③効果的な IPE」及び「④一般教養科目群の拡充」の4つが掲げられているが、それらの意義が必ずしも明らかでなく、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程にどのように反映されているか明確ではないので、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

専門学校教育から大学教育へ移行する理由として掲げた4つの意義(①質の高い医療専門職の育成(以下、「①」とします。)、②健康科学の学問的発展(以下、「②」とします。)、③効果的な IPE(以下、「③」とします。)、④一般教養科目群の拡充(以下、「④」とします。))に対して、養成する人材像、3つのポリシー、教育課程へは以下のとおり反映させています。

【意義】①について、専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えております。②について、健康科学は、1985(昭和60)年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っています。一方、健康の概念は広く、従来の学問領域では捉えることが困難となっています。そこで、本学では「探究心」を培うことで、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成します。③について、高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠です。そこで、本学では看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁しており、かつ3年制専門学校では各学科の臨地実習・臨床実習の時期の相違から、IPEは正課外等で実施できたとしても、1年次から各年次にわたって段階的に効果的な専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)を導入することが困難でした。そこで、本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働(Interprofessional Work: IPW)に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することで社会貢献ができる人材を育成します。④について、一般教養科目群の多くは学問として長い歴史をもち、十分に醸成された学問といえます。これらの学問を学修することは医療専門職にとっても基盤となる人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができると考えています。そして換言すれば、倫理観を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えています。

【養成する人材像】①について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「質の高い医療専門職の育成」は、下線部分に反映させています。②について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させています。③について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させています。④について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考

力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「一般教養科目群の拡充」は、下線部分に反映させている。

【ディプロマ・ポリシー】①について、「質の高い医療専門職の育成」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」及び「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」の下線部分に反映させています。②について、「健康科学の学問的発展」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させています。③について、「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させています。④について、「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させています。

【カリキュラム・ポリシー】①について、カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させています。②について、カリキュラム・ポリシーのうち、「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」の下線部分に反映させています。③について、カリキュラム・ポリシーのうち、「科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」、「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と関連させて学修する授業科目を開設する。」、「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させています。④について、カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させています。

【アドミッション・ポリシー】①について、アドミッション・ポリシーのうち、「健康及び医療に関心を持ち、深く学びたいという意欲のある者」の下線部分に反映させています。②について、アドミッション・ポリシーのうち、「医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者」の下線部分に反映させています。③について、アドミッション・ポリシーのうち、「人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、及び「人と関わることが好きで、人の話をよく聴くことができる者」の下線部分に反映させています。④について、アドミッション・ポリシーのうち、「本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者」の下線部分に反

映させています。

【教育課程】①について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（1単位・15時間）」、「理学療法臨床推論（1単位・15時間）」、「作業療法臨床推論（1単位・15時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（1単位・15時間）」、「高度先進医療論（1単位・15時間）」、「作業療法特論（1単位・15時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで反映させています。②について、基幹分野で根拠の導き方を学び、専門基礎分野で主な研究テーマや素材を学び、専門分野で研究と臨床との接点を学びます。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学部）、専門分野では卒業研究科目を開設したことで反映させています。③について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）」（1単位・30時間）を開設したことで反映させています。④について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで反映させています。

#### 4つの移行理由の意義と養成する人材像、3つのポリシー、教育課程への反映

| 反映する<br>事項 | ①質の高い医療専門職の育成                                                                                                           | ②健康科学の学問的発展                                                                                                                      | ③効果的な IPE                                                                                                                                                                                    | ④一般教養科目群の拡充                                                                                                              |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 意義         | 専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことから、より質の高い医療専門職を育成することができる。 | 健康科学は、1985（昭和60）年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っている。一方、健康が広い概念であるために、従来の学問領域では捉えることが困 | 高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠である。そこで、本学では看護学科、理学療法学科、作業療法学科を有しており、かつ3年制専門学校では臨床実習・臨床実習の時期の差異から、スポット的に IPE を実施できたとしても、1年次から各年次にわたって段階的に効果的な専門職連携教育（Interprofessional | 一般教養科目群の多くは長い歴史をもち、十分に醸成された学問である。これらの学問を学修することは人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができる。すなわち、倫理観の育成は、より質の高い医療専門職 |

|            |                                                                                                                                              |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                            |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            |                                                                                                                                              | <p>難となっている。そこで、本学では「探究心」を培い、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成する。</p>                                                                                   | <p>Education：IPE）を導入することが困難であった。そこで本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することができる人材を育成する。</p> | <p>門職を育成することができる。</p>                                                                                                                      |
| 養成する人材像    | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>質の高い医療専門職の育成</u>」は、下線部分に反映させている。</p> | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>健康科学の学問的発展</u>」は、下線部分に反映させている。</p> | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>効果的な IPE</u>」は、下線部分に反映させている。</p>           | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>一般教養科目群の拡充</u>」は、下線部分に反映させている。</p> |
| ディプロマ・ポリシー | <p>「<u>質の高い医療専門職の育成</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「①医療職として、<u>幅広い教養と人間愛（倫理観）</u>及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「③医療職として、<u>高度な知識と技術及び多くの専門職と連</u></p>     | <p>「<u>健康科学の学問的発展</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「②医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを<u>科学的に解決する能力</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                                | <p>「<u>効果的な IPE</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「③医療職として、<u>高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                             | <p>「<u>一般教養科目群の拡充</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「①医療職として、<u>幅広い教養と人間愛（倫理観）</u>及び<u>生涯にわたり自己研鑽する態度</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                    |

|              |                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | 携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させている。                                                                                                                                              |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                 |
| カリキュラム・ポリシー  | 「質の高い医療専門職の育成」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「健康科学の学問的発展」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「効果的な IPE」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」、「③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。」、「④各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「一般教養科目群の拡充」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させている。 |
| アドミッション・ポリシー | 「質の高い医療専門職の育成」は、アドミッション・ポリシーのうち、「①医療に興                                                                                                                                                    | 「健康科学の学問的発展」は、アドミッション・ポリシーのうち、「⑤医療専門職の資格                                                                             | 「効果的な IPE」は、アドミッション・ポリシーのうち、「②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、                                                                                                                                                                                                                                                                    | 「一般教養科目群の拡充」は、アドミッション・ポリシーのうち、「④本学で学ぶために                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 味・関心をもち、 <u>深く学びたいという意欲のある者</u> 」の下線部分に反映させている。                                                                                                                                                                                                                                                                                       | を取得し、 <u>広く社会で貢献したいと</u><br><u>の意欲をもつ者</u> 」の下線部分に反映させている。                                                                                                                                                                                                                                                                     | 及び「③人と関わるこ<br>とが好きで、人の <u>話</u> をよく<br><u>聴くことができる者</u> 」の<br>下線部分に反映させてい<br>る。                                                                                                                                                                                | 必要な <u>基礎学力</u><br>(思考力・判断<br>力・表現力等)と<br><u>学修態度</u> を身につ<br>けている者」の下<br>線部分に反映させ<br>ている。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 教育課程 | 「質の高い医療<br>専門職の育成」<br>は、各専門職の養<br>成にかかる指定規<br>則に加えて、「看護<br>臨床推論（1単<br>位・15時間）」、<br>「理学療法臨床推<br>論（1単位・15時<br>間）」、「作業療法臨<br>床推論（1単位・<br>15時間）」等を開<br>設することで、ク<br>リティカルシンキ<br>ング（考える力）<br>を身につけ、「高度<br>先進医療看護学<br>（1単位・15時<br>間）」、「高度先進医<br>療論（1単位・15<br>時間）」、「作業療法<br>特論（1単位・15<br>時間）」を履修さ<br>せ、最新の知見を<br>学ぶ科目を開設し<br>たことで反映させ<br>ている。 | 「健康科学の学<br>問的発展」は、基<br>幹分野で根拠の導<br>き方を学び、専門<br>基礎分野で主な研<br>究テーマや素材を<br>学び、専門分野で<br>研究と臨床との接<br>点を学ぶ。すなわ<br>ち、各指定規則に<br>加えて、基幹分野<br>の「健康科学入門<br>（1単位・15時<br>間）」を開設したこ<br>と、専門基礎分野<br>の「健康科学医療<br>論（1単位・15時<br>間）」を開設したこ<br>と（看護学部）、一<br>般臨床医学系の時<br>間数を増大したこ<br>と（リハビリテー<br>ション学部）、専門<br>分野では卒業研究<br>科目を開設したこ<br>とで反映させてい<br>る。 | 「効果的な IPE」は、<br>各専門職の養成にか<br>かる指定規則に加<br>えて、「専門職連携<br>教育Ⅰ（専門職連<br>携の基礎）」（1単<br>位・30時間）、「専<br>門職連携教育Ⅱ（<br>専門職連携の構築<br>）」（1単位・30時<br>間）、「専門職連携<br>教育Ⅲ（専門職連<br>携における尊重）<br>（1単位・30時間）」、「専門職<br>連携教育Ⅳ（専門<br>職連携における協<br>働）」（1単位・30<br>時間）」を開設し<br>たことで反映させ<br>ている。 | 「一般教養科目<br>群の拡充」は、各<br>専門職の養成にか<br>かる指定規則に加<br>えて、幅広く多様<br>性に富む適応性を<br>高めるため、発達<br>心理学（1単位・<br>30時間）、ジェン<br>ダー論（1単位・<br>15時間）、法学<br>（1単位・15時<br>間）、経営学（1<br>単位・15時間）、<br>国際関係論（1<br>単位・15時間）等<br>を基幹分野に開設<br>したこと、保健・医<br>療・福祉分野を幅<br>広く学修するため<br>、「保健医療福祉<br>制度論（2単位・<br>30時間）」、「カウ<br>ンセリング論（1<br>単位・15時間）」<br>等の医療関連科目<br>を開設したことで<br>反映させている。 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <p>《14～18 ページ》</p> <p><b>1-4-1 質の高い医療専門職の育成</b></p> <p>① 意義</p> <p><u>専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えている。</u></p> <p>② 養成する人材像への反映</p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u><br/><u>かんづく「質の高い医療専門職の育成」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ 3つのポリシーへの反映</p> <p><u>ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」及び「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> | <p>《7 ページ》</p> <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「健康及び医療に関心をもち、深く学びたいという意欲のある者」の下線部分に反映させている。</u></p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p><u>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（１単位・１５時間）」、「理学療法臨床推論（１単位・１５時間）」、「作業療法臨床推論（１単位・１５時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（１単位・１５時間）」、「高度先進医療論（１単位・１５時間）」、「作業療法特論（１単位・１５時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで反映させています。</u></p> <p><b>1-4-2 健康科学の学問的発展</b></p> <p>① <u>意義</u></p> <p><u>健康科学は、1985（昭和 60）年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っている。一方、健康の概念は広く、従来の学問領域では捉えることが困難となっています。そこで、本学では「探究心」を培うことで、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成する。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u></p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u><br/><u>かんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u></p> |   |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシーのうち、「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者」の下線部分に反映させている。</u></p> |   |
| <p>④ 教育課程への反映</p> <p><u>基幹分野で根拠の導き方を学び、専門基礎分野で主な研究テーマや素材を学び、専門分野で研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学部）、専門分野では卒業研究科目を開設したことで反映させている。</u></p>                                                                                                                               |   |
| <p><b>1-4-3 効果的な専門職連携教育（IPE）</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |   |
| <p>① 意義</p> <p><u>高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠となる。本学は看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁しており、かつ3年制専門学校では各学科の臨地実習・臨床実習の時期</u></p>                                                                                                                                                                                                                            |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>の相違から正課外等で実施する他は実施困難であった効果的な専門職連携教育</u><br/> <u>(Interprofessional Education : IPE) を1年次から各年次にわたって段階的に導入する。</u>加えて、<u>本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働 (Interprofessional Work : IPW) に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することで社会貢献ができる人材を育成する。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u><br/> <u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。なかんずく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u><br/> <u>「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させている。</u><br/> <u>カリキュラム・ポリシーのうち、「科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。」「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、及び「人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者」の下線部分に反映させている。</u></p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p><u>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）」を開設したことで反映させている。</u></p> <p><b>1-4-4 一般教養科目群の拡充</b></p> <p>① <u>意義</u></p> <p><u>一般教養科目群の多くは学問として長い歴史をもち、十分に醸成された学問といえる。これらの学問を学修することは医療専門職にとっても基盤となる人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができると考えている。さらに換言すれば、倫理観を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えている。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u></p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>かんずく「一般教養科目群の拡充」は、<u>下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u></p> <p>「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させている。</p> <p>カリキュラム・ポリシーのうち、「<u>人間愛・自己実現</u>」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させている。</p> <p>アドミッション・ポリシーのうち、「<u>本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</u>」の下線部分に反映させている。</p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「<u>カウンセリング論（1単位・15時間）</u>」等の医療関連科目を開設したことで反映させている。</p> |   |

(是正事項) 看護学部 看護学科

2. 養成する人材像として、「多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人」をあげているが、根拠とされている中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では、「高度職業専門人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切に改めること。(是正事項)

(対応)

2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切なものとなるよう設置の趣旨等を記載した書類を以下のとおり改めます。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、生活者である人を対象とする職業であることから、【中略】、問題を追究していくクリティカルシンキング（考える力）を身につける必要がある。</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。これに必要となる能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</u></p> <p>《21 ページ》</p> <p>① 倫理観</p> <p>医療専門職の倫理観は、【中略】</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識</p> | <p>《9～10 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、生活者である人を対象とする職業であることから、【中略】、問題を追究していくクリティカルシンキング（考える力）を身につける必要がある。</p> <p>本学では多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人を養成する。</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成 17）年 1 月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別できる。</u></p> <p>《10 ページ》</p> <p>① 倫理観</p> <p>医療専門職の倫理観は、【中略】</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。</p> <p>② 探究心</p> <p>医療専門職の探究心は、【中略】</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが<u>重要である</u>。また、研究は次世代への課題を提起し、中長期的にみて新たな領域や産業を創出すると考え、本学の養成する人材像として「探究心」は重要なコンピテンシーである。</p> <p>③ 実践力</p> <p>医療専門職の実践力は、【中略】</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による<u>演習の導入により</u>、臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせる<u>能力を導き出す</u>。このように、専門性の深化や役割を学び続ける<u>探究心を培い、地域医療の発展へと展開する実践力を育成する</u>。</p> <p>《23～24 ページ》</p> <p><b>1-6-1 看護基礎教育における学士課程の必要性</b></p> <p>少子高齢社会の急速な進展や、【中略】</p> <p>教育基本法の第7条（大学）では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培う</p> | <p>が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、「知の創出」を巡らすうえで重要なことは、生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。ここで強調したいことは生命の尊厳を基盤とする倫理観なしには、医療専門職の「知の創出」は成し得ないということである。</p> <p>② 探究心</p> <p>医療専門職の探究心は、【中略】</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが「知の創出」につながるものと考える。</p> <p>③ 実践力</p> <p>医療専門職の実践力は、【中略】</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせるという新しい「知」として導き出される。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、「知の創出」へとつなげ、地域医療の発展へと展開する実践力を養成する。</p> <p>《12～13 ページ》</p> <p><b>1-6-1 看護基礎教育における学士課程の必要性</b></p> <p>少子高齢社会の急速な進展や、【中略】</p> <p>教育基本法の第7条（大学）では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培う</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>とともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」と規定されており、看護の体系化の基盤づくりを担う看護系大学の看護基礎教育における学士課程は、こうした社会の変遷に対応するうえにおいて必要かつ重要であり、その存在意義は大きい。加えて、アジアにおける看護基礎教育については、韓国、フィリピン、マカオは4年制大学教育のみとなっている。</p>            | <p>とともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」と規定されており、看護の知の創出と体系化の基盤づくりを担う看護系大学の看護基礎教育における学士課程は、こうした社会の変遷に対応するうえにおいて必要かつ重要であり、その存在意義は大きい。加えて、アジアにおける看護基礎教育については、韓国、フィリピン、マカオは4年制大学教育のみとなっている。</p> |
| <p>《51 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                          | <p>《35 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                    |
| <p><b>2 学部・学科等の特色</b></p>                                                                                                                                                                                                | <p><b>2 学部・学科等の特色</b></p>                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>2-1 令和健康科学大学（仮称）の特色</b></p>                                                                                                                                                                                        | <p><b>2-1 令和健康科学大学（仮称）の特色</b></p>                                                                                                                                                                                  |
| <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                             | <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                       |
| <p>【中略】</p>                                                                                                                                                                                                              | <p>【中略】</p>                                                                                                                                                                                                        |
| <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                             | <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                       |
| <p>「①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の7つの機能を併用する。」としている。</p>                                                                                     | <p>「①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学修機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の7つの機能を併用する。」としている。</p>                                                                               |
| <p>以上の内容を踏まえ、本学では「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うものとする。医療専門職に必要な倫理観、多様な価値観をもつ人間の理解、良好な人間関係の構築、問題解決能力、探究心、自己学修能力等の学士力を基盤にして専門教育につなげられるように、<u>これらの能力を体系的に育成する</u>。また、社会情勢を踏まえ、<u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応できる実践力を養う。<u>そのうえで、本学では超高齢</u></p> | <p>以上の内容を踏まえ、本学では②「高度専門職業人養成」及び③「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うものとする。医療専門職に必要な倫理観、多様な価値観をもつ人間の理解、良好な人間関係の構築、問題解決能力、探究心、自己学修能力等の学士力を基盤にして専門教育につなげられるように、<u>これらの能力を体系的に育成することで、「高度専門職業人」と「幅広い職業人」とを併せもつ人材を「養成」</u></p>          |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>社会において、あらゆる場における最適な生活（well-being）への包括的な健康支援が可能な、専門的知識・技術・態度を備えた医療専門職を育成するための教育課程を編成する。</p> <p>具体的には、【中略】</p> <p>上記5つを本学の特色とし、これに加えて各学部・学科の特色を策定することで、本学が養成する人材像のコンピテンシー（倫理観、探究心、実践力）を身につけた医療専門職（看護師、理学療法士、作業療法士）を育成する。</p>                                                                                       | <p>できると考える。また、社会情勢を踏まえ、高度化・多様化する医療に対応できる実践力を養う。すなわち、本学では「幅広い教養と思考力、探究心を統合した実践力を備えた医療専門職の育成する」ため、特色ある教育課程を編成する。</p> <p>具体的には、【中略】</p> <p>上記5つを本学の特色とし、これに加えて各学部・学科の特色を策定することで、本学が養成する人材像のコンピテンシー（倫理観、探究心、実践力）を身につけた「高度専門職業人」である医療専門職（看護師、理学療法士、作業療法士）を育成する。</p>               |
| <p>《85 ページ》</p> <p><b>5-1 教員の配置</b></p> <p>本学の教員採用・承認は【中略】</p> <p>このことから、本学の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして多様性を備えた幅広い職業人の養成という目標に沿った教育課程の実現のために、専門分野、専門基礎分野を担当する専任教員には、豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置した。</p>                                                                                                    | <p>《65 ページ》</p> <p><b>5-1 教員の配置</b></p> <p>本学の教員採用・承認は、【中略】</p> <p>このことから、本学の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして多様性を備えた高度専門職業人の養成という目標に沿った教育課程の実現のために、専門分野、専門基礎分野を担当する専任教員には、豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置した。</p>                                                           |
| <p>《124～125 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「幅広い職業人」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へ</p> | <p>《101～102 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| と繋がっていく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| (新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>《20～22 ページ》</p> <p>(2) 令和健康科学大学の養成する人材像<br/> 本学の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職</u>」である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《看護学部看護学科》<br/> 看護学部看護学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u>おして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、<u>持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/> リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をと</u>おして<u>基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健</u></p> | <p>《12～13 ページ》</p> <p>(2) 令和健康科学大学の養成する人材像<br/> 本学の養成する人材像は「<u>「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職</u>」である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《看護学部看護学科》<br/> 看護学部看護学科の養成する人材像は「高い職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、地域の健康社会の実現に寄与する看護師」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/> リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する理学療法士」である。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>康長寿社会の実現に寄与する理学療法士」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u>おして<u>応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。</p> <p>(3) 倫理観について</p> <p>医療専門職の倫理観は、<u>対象である生命の尊厳を尊重する姿勢である。こうした倫理観は、自己洞察と内省により獲得される。</u></p> <p>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨地実習・臨床実習等をとおして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成され则认为る。</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、<u>生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。</u></p> | <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する作業療法士」である。</p> <p>(3) 倫理観について</p> <p>医療専門職の倫理観は、人間の尊厳を基盤とする。これは医療専門職としてふさわしい職業倫理であり、理論や知識だけでなく、自己洞察と内省により獲得される。</p> <p>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨地実習・臨床実習等をとおして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成され则认为る。</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そしてまた、医療は「人間」を対象とするため、そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、「<u>知の創出</u>」を巡らすうえで重要なことは、人間の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。ここで強調したいことは人間の尊厳を基盤とする倫理観なしには、医療専門職の「<u>知の創出</u>」は成し得ないということである。</p> <p>(4) 探究心について</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(4) 探究心について</p> <p>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる。と考える。</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが<u>重要である。また、研究は次世代への課題を提起し、中長期的にみて新たな領域や産業を創出すると考え、本学の養成する人材像として「探究心」は重要なコンピテンシーである。</u></p> <p>(5) 実践力について</p> <p>医療専門職の実践力は、倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものである<u>といえる</u>。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、<u>臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う</u>。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせる能力を導き出す。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、地域医療の発展へと展開する実践力を<u>育成する</u>。</p> | <p>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる。と考える。</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが「知の創出」につながるものと考え</p> <p>(5) 実践力について</p> <p>医療専門職の実践力は、医療職としての倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものである。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせるという新しい「知」として導き出される。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、「知の創出」へとつなげ、地域医療の発展へと展開する実践力を養成する。</p> |

(是正事項) 看護学部 看護学科

3. 大学設置の必要性として、種々の社会的背景や地域からの要望が掲げられているが、教育研究上の目的との関係が必ずしも明らかではなく、例えば、「医療の対象者が性的マイノリティや外国人等に多様化していること」などの社会的背景として想定される課題に対する対応についても、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにどのように反映されているか不明確である。これらのことから、大学設置の必要性や社会的背景における説明と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を具体的に説明し、必要に応じて、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程等について適切に改めること。(是正事項)

(対応)

大学設置の必要性と教育研究上の目的との関係が明らかな部分があり、当該部分について以下のとおり設置の趣旨等を記載した書類を適切に改めます。

大学設置の必要性について、本学では「健康の重要性向上と健康寿命の延伸に伴う医療専門職の不足」及び「医療の多様化と高度化」の2つの側面があると考えます。

(1) 健康の重要性向上と健康寿命の延伸に伴う医療専門職の不足

我が国において健康に対する重要性は年々向上しております。一方、生産年齢人口が減少していく中で、現在の医療制度を維持・発展させるためには、国民一人ひとりの健康寿命を延伸し、誰もが元気に暮らしていける社会の実現が望まれています。このような状況を鑑みて、「持続可能な健康長寿社会の実現」を一つのコンセプトとして本学を設置することにしました。即ち、「医療費の適正化」のために、「地域包括ケアの推進」が喫緊の課題と捉え、本学が地域・社会から求められている担い手として貢献することを目的としています。また、別の観点から、多様化かつ高度化する地域医療の担い手としては、専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）が必須であり、加えて専門職の質の向上が求められております。そこで、本学は専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって段階的に修得し、将来のIPWに円滑な移行ができるよう教育課程を編成しております。また、専門職の質の向上については、専門学校で精錬した教育をより充実させるため必要に応じ教授内容、科目数、時間数等を拡充すること、そして各職種の養成にかかる指定規則上の科目以外の科目を学科の特色として反映いたしました。

これらを解決するために主に必要な能力は、健康観のパラダイムシフトです。すなわち、「疾病でないこと」という狭義の健康観から、「予防も含めていわゆる健康な人々をも対象とする」という広義の健康観です。これらのことを十分に理解したうえで、各専門職の強みを発揮することが健康寿命の延伸につながると考えられます。

本学の養成する人材像では、「持続可能な健康長寿社会の実現」という部分とつながりをもち、ディプロマ・ポリシーでは「持続可能な健康長寿社会の実現に寄与」、カリキュラム・ポリシーでは「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて」という語句で反映させています。

主に関連する本学の教育課程は、看護学部では「健康科学入門（1単位・15時間）」、「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「地域看護学概論（2単位・30時間）」、リハビリテーション学部では「健康科学入門（1単位・15時間）」、「論理的思考法（1単位・15時間）」、「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「予防理学療法学（1単位・15時間）※理学療法学科のみ」、「ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）※作業療法学科のみ」が該当します。

## (2) 医療の多様化と高度化

医療分野は日進月歩といわれるように、目覚ましい発展を遂げています。それに伴い、現代の医療は多様化し、かつ高度化してきております。多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味しています。高度化とは、救急医療に代表されるような高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味しています。

つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）の重要性が強調されるようになりました。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連関させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につけます。

本学の養成する人材像では、「多様化・高度化する医療において」という部分とつながりを持ち、ディプロマ・ポリシーでは「多様化かつ高度化する医療において」、カリキュラム・ポリシーでは「多様化かつ高度化する医療に対応するために」という語句で反映させています。

主に関連する本学の教育課程は、専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）＝「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携教育における尊重）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）」が該当します。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と高度化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>日進月歩といわれる近年の医療は多様化し、かつ高度化している。なお、多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味する。そして高度化とは、救急医療に代表されるように高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味する。</p> <p>つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）</p> | <p>《5 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と複雑化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>高齢者人口の増加と並行して、医療の対象者は、健康障害をもつ人や障害者だけでなく、性的マイノリティや外国人等にまで多様化しており、今後の医療は複雑化する。複雑化する医療に対応するためにも専門職連携協働が求められる。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>の重要性が強調されている。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連携させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につける。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |   |

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《24 ページ》</p> <p>（２）医療の多様化と複雑化</p> <p>近年、我が国では諸外国と比べ、例をみないスピードで高齢化が進行しており、2019（令和元）年版高齢社会白書（概要版）によれば、2018（平成30）年10月1日現在の我が国の総人口は1億2,644万人となった。そのうち65歳以上人口は3,558万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.1となる。なお、65～74歳人口は1,760万人、総人口に占める割合は13.9%であるのに対し、75歳以上人口は1,798万人、総人口に占める割合は14.2%で65～74歳人口を上回っている。また、高齢化率の将来推計では、2025（令和7年）には30.0%、2035（令和17）年には32.8%、2065（令和47）年には38.4%と増加の一途を辿る。</p> <p><u>日進月歩といわれる近年の医療は多様化し、かつ高度化している。なお、多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味する。そして高度化とは、救急医療に代表されるように高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その</u></p> | <p>《15～16 ページ》</p> <p>（２）医療の多様化と複雑化</p> <p>近年、我が国では諸外国と比べ、例をみないスピードで高齢化が進行しており、2019（令和元）年版高齢社会白書（概要版）によれば、2018（平成30）年10月1日現在の我が国の総人口は1億2,644万人となった。そのうち65歳以上人口は3,558万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.1となる。なお、65～74歳人口は1,760万人、総人口に占める割合は13.9%であるのに対し、75歳以上人口は1,798万人、総人口に占める割合は14.2%で65～74歳人口を上回っている。また、高齢化率の将来推計では、2025（令和7年）には30.0%、2035（令和17）年には32.8%、2065（令和47）年には38.4%と増加の一途を辿る。</p> <p>高齢者人口の増加と並行して、医療の対象者は、健康障害をもつ人や障害者だけでなく、性的マイノリティや外国人等にまで多様化しており、今後の医療は複雑化する。複雑化する医療に対応するためにも専門職連携協働が求められる。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味する。</p> <p>つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）の重要性が強調されている。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連関させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につける。</p> |   |

(是正事項) 看護学部 看護学科

4. 学科ごとに設定する養成人材像や3つのポリシー等について、多くが同様の内容であるため、授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう適切に改めること。(是正事項)

(対応)

本審査意見を踏まえ、下記の方針により養成する人材像、3つのポリシーを授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう改めます。また、養成する人材像、3つのポリシーの変更に伴い、対応する資料を改めます。

【別紙資料1】 養成する人材像と3つのポリシー

(1) 養成する人材像について

本学の設置の趣旨を考慮し、令和健康科学大学の養成する人材像に「多様化・高度化する医療において、」「多様な対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する」を追加しました。また、大学全体の養成する人材像の変更に伴い、3学科の養成する人材像を修正しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれの養成する人材像に専門職種の特徴を踏まえ、適切な形に改めました。(表1. 養成する人材像の新旧対照表)

(2) ディプロマ・ポリシーについて

養成する人材像の変更に伴い、大学全体のディプロマ・ポリシーに「多様化・高度化する医療において、」「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」を追加しました。また、本審査意見や本学の教育理念を考慮し「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」を追加しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれのディプロマ・ポリシーについては大学全体のディプロマ・ポリシーの変更を反映すると共に、専門職種の特徴を踏まえ、適切な形に改めました。(表2. ディプロマ・ポリシーの新旧対照表)

(3) カリキュラム・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシーの変更に伴い、大学全体のカリキュラム・ポリシーに「多様化かつ高度化」「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、」を追加いたしました。また、より教育課程の内容と整合するように「基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に」を追加いたしました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれのカリキュラム・ポリシーについては、大学全体のカリキュラム・ポリシーを反映すると共に、専門職種の特徴を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを改めた点を反映し、より専門職種の特徴がでるよう修正をいたしました。なお、教育課程との整合も鑑み、より設置の趣旨や教育課程の内容を適切に反映できるようなポリシーとしたため、カリキュラム・ポリシーの変更に伴う教育課程の変更はありません。(表3. カリキュラム・ポリシーの新旧対照表)

(4) アドミッション・ポリシーについて

本学の設置の趣旨、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの変更に伴い、大学全体のアドミッション・ポリシーに「健康及び」を追加致しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科のアドミッション・ポリシーの変更はありません。(表4. アドミッション・ポリシーの新旧対照表)



表 1. 養成する人材像の新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                               | 旧                                                                          |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | 多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、 <u>多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職</u>                                        | 「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職                           |
| 看護<br>学科             | 多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、 <u>多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u> おして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、 <u>持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>        | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、健康社会の実現に寄与する看護師   |
| 理学<br>療法<br>学科       | 多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、 <u>多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をと</u> おして <u>基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>           | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する理学療法士 |
| 作業<br>療法<br>学科       | 多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、 <u>多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u> おして <u>応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u> | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する作業療法士 |

表2. ディプロマ・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <p>①医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。</p> <p>②医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。</p> <p>③多様化・高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>④多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。</p> <p>⑤自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。</p>                             | <p>①医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。〔倫理観〕</p> <p>②医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。〔探究心〕</p> <p>③医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。〔実践力〕</p>                                                                                                                                         |
| 看護<br>学科             | <p>①健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>②生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍する能力を有している。</p> <p>⑥自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</p> | <p>①健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>②生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> <p>⑥生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> |
| 理<br>学               | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                            | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 療<br>法<br>学<br>科           | <p>②<u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、<u>先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をと</u>おし<u>て</u>広く社会に<u>貢献</u>する能力を有している。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の基本的動作能力の回復を図ること</u>でチームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥<u>自己実現を成し遂げるために</u>、生涯にわたって<u>人格の涵養に努め</u>、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p>                                                                       | <p>②対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を活用する能力を有している。</p> <p>③疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる理学療法が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥生涯にわたって理学療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                 |
| 作<br>業<br>療<br>法<br>学<br>科 | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>②<u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、<u>作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をと</u>おして広く社会に<u>貢献</u>する能力を有している。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ること</u>でチームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥<u>自己実現を成し遂げるために</u>、生涯にわたって<u>人格の涵養に努め</u>、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p> | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>②対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を活用する能力を有している。</p> <p>③価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる作業療法が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥生涯にわたって作業療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> |

表3. カリキュラム・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |
| 看護<br>学科             | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |

|        | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>④看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p>                                                                                                                                                      | <p>④看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                      |
| 理学療法学科 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> |

|        | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | ⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を <u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 作業療法学科 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、<u>専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</u></p> <p>④専門的な視点から<u>捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する</u>授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④専門的な視点から知らえた作業の知識と応用技術を身につけ課題解決能力を培うための授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |

表4. アドミッション・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                             |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | ①健康及び医療に関心をもち、深く学びたいという意欲のある者<br>②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者<br>③人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者<br>④本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者<br>⑤医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 | ①医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者<br>②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者<br>③人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者<br>④本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者<br>⑤医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、【中略】</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</u></p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-5-4-1 令和健康科学大学（仮称）のディプロマ・ポリシー</b></p> <p>本学では、医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）に基づいて対象者を全人的に捉え、<u>多様化かつ高度化している医療に対応すべく、チームの一員として、地域医療の向上に</u></p> | <p>《9～10 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、【中略】</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別できる。</p> <p>《11 ページ》</p> <p><b>1-5-4-1 令和健康科学大学（仮称）のディプロマ・ポリシー</b></p> <p>本学では、医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）に基づいて対象者を全人的に捉え、高度化・多様化している医療に対応すべく、チームの一員として、地域医療の向上に貢</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>貢献できる人材を育成するために、以下の<u>5つ</u>を本学のディプロマ・ポリシーとして設定する。</p> <p>① <u>医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。</u></p> <p>② <u>医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。</u></p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。</u></p> <p>④ <u>多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。</u></p> <p>⑤ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。</u></p> | <p>貢献できる人材を育成するために、以下の3つを本学のディプロマ・ポリシーとして設定する。</p> <p>① 医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。〔倫理観〕</p> <p>② 医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。〔探究心〕</p> <p>③ 医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。〔実践力〕</p> <p>【資料10】 社会的背景、養成する人材像、DPのつながり</p>                                         |
| <p>【資料10】 社会的背景から養成する人材像、<u>ディプロマ・ポリシーのつながり</u></p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-5-4-2 令和健康科学大学（仮称）のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>本学では、ディプロマ・ポリシー達成のために、次の6つの方針（カリキュラム・ポリシー）で教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって</u></p>                                       | <p>《11 ページ》</p> <p><b>1-5-4-2 令和健康科学大学（仮称）のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>本学では、ディプロマ・ポリシー達成のために、次の6つの方針（カリキュラム・ポリシー）で教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③ <u>高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって</u></p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>持続可能な健康長寿社会の実現に向け</u>て、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に</u>開設する。</p> <p>《23 ページ》</p> <p><b>1-5-4-3 令和健康科学大学（仮称）のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>本学では、建学の精神・教育理念の下、カリキュラム・ポリシーに沿った学びを行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術を修得するために必要となる、次の5つの能力や態度・資質を備えた入学者を求める。</p> <p>① <u>健康及び医療に関心</u>をもち、深く学びたいという意欲のある者</p> <p>② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者</p> <p>③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者</p> <p>④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</p> <p>⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者</p> <p>《26 ページ》</p> | <p>臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ 各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-5-4-3 令和健康科学大学（仮称）のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>本学では、建学の精神・教育理念の下、カリキュラム・ポリシーに沿った学びを行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術を修得するために必要となる、次の5つの能力や態度・資質を備えた入学者を求める。</p> <p>① 医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者</p> <p>② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者</p> <p>③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者</p> <p>④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</p> <p>⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者</p> <p>《15 ページ》</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1-6-4 看護学部・看護学科における養成する人材像</b></p> <p>看護学部・看護学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u>おして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> <p>《27 ページ》</p> <p><b>1-6-6 看護学部・看護学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科では、看護職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・看護に対応し医療チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できるとともに、地域医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</li> <li>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</li> <li>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</li> <li>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</li> <li>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍する能力を有している。</li> </ol> | <p><b>1-6-4 看護学部・看護学科における養成する人材像</b></p> <p>看護学部・看護学科の養成する人材像は「職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、健康社会の実現に寄与する看護師」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> <p>《16 ページ》</p> <p><b>1-6-6 看護学部・看護学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科では、看護職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・看護に対応し医療チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できるとともに、地域医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</li> <li>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</li> <li>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</li> <li>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</li> <li>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</li> </ol> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</u></p> <p>《27 ページ》</p> <p><b>1-6-7 看護学部・看護学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科のカリキュラム・ポリシーは以下の6つである。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</u></p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p> <p>《33 ページ》</p> <p><b>1-7-4 リハビリテーション学部の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育の目的を</p> | <p>⑥ 生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> <p>《16～17 ページ》</p> <p><b>1-6-7 看護学部・看護学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科のカリキュラム・ポリシーは以下の6つである。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-7-4 リハビリテーション学部の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育の目的を</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>踏まえ、人間の健康を科学し、健康長寿社会の実現に寄与することができる人材、すなわち、<u>「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的なリハビリテーションの探究と実践をとおりて対象者の生活の質（Quality of Life：QOL）の向上を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与するリハビリテーション専門職」</u>である。</p>                                                                           | <p>踏まえ、人間の健康を科学することができる人材、すなわち、「対象者を全人的に捉え、生命の尊厳を基盤とした倫理観のもと、保健・医療・福祉等の多様な場で、多くの専門職と連携・協働しながら、対象者の抱えるあらゆる健康課題をその個性に応じた科学的根拠に基づくリハビリテーション（EBR）の実践ができる理学療法士及び作業療法士のリーダーを育成する」ことに加えて、「生涯にわたりリハビリテーションを主体的に探究し、自己実現を目指す理学療法士及び作業療法士を育成する」こととする。</p>                                               |
| <p>《34～35 ページ》</p> <p><b>1-7-6-3 理学療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおりて基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                 | <p>《24 ページ》</p> <p><b>1-7-6-3 理学療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおりて、健康社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                                                               |
| <p>《36 ページ》</p> <p><b>1-7-6-5 理学療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>理学療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し、医療チームを構成する理学療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけて主体的に学修する態度を有している。</p> | <p>《25 ページ》</p> <p><b>1-7-6-5 理学療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>理学療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し、医療チームを構成する理学療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけて、主体的に学修する態度を有している。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>② <u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をとって広く社会に貢献する能力を有している。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の基本的動作能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。</u></p> <p>⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p>                         | <p>② 対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を活用する能力を有している。</p> <p>③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる理学療法が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥ 生涯にわたって理学療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                         |
| <p>《36～37 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>《26 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p><b>1-7-6-6 理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p><b>1-7-6-6 理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うため</u>に、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                           | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                      |
| <p>《39 ページ》</p> <p><b>1-7-7-3 作業療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u>おして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、<u>持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> | <p>《28 ページ》</p> <p><b>1-7-7-3 作業療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をと</u>おして、健康社会の実現に寄与する作業療法士」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                                           |
| <p>《40 ページ》</p> <p><b>1-7-7-5 作業療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>作業療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し医療チームを構成する作業療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につ</p>                     | <p>《29～30 ページ》</p> <p><b>1-7-7-5 作業療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>作業療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し医療チームを構成する作業療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につ</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>け、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>② <u>多様性のある対象者の個別の健康課題</u>に対し、科学的根拠に基づく作業療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、<u>作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をとおして広く社会に貢献する能力</u>を有している。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力</u>を有している。</p> <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養</u>を有している。</p> | <p>け、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>② 対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を活用する能力を有している。</p> <p>③ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる作業療法が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥ 生涯にわたって作業療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                                    |
| <p>《40～41 ページ》</p> <p><b>1-7-7-6 作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目</u>を開設する。</p> <p>④ 専門的な視点から<u>捉えた作業の知識と応用技術</u>を身につけ、<u>対象者の応用的動作能力</u></p>                               | <p>《29～30 ページ》</p> <p><b>1-7-7-6 作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                                                                       | <p>にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                     |
| <p>《65～66 ページ》</p> <p><b>4-2-2 看護学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学科の教育課程編成においては、</p> <p>【中略】</p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化</u>する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習・臨床実習と関連させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>《47～48 ページ》</p> <p><b>4-2-2 看護学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学科の教育課程編成においては、</p> <p>【中略】</p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4 年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p> <p>《71～72 ページ》</p> <p><b>4-2-4 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>—</p> <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p> <p>理学療法学科では学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4 年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を</u>培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4 年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《52～53 ページ》</p> <p><b>4-2-4 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>—</p> <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p> <p>理学療法学科では学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4 年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>《77～78 ページ》</p> <p><b>4-2-6 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>《58～59 ページ》</p> <p><b>4-2-6 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に担当して編成する。</p> <p>作業療法学科は学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化</u>する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな</p> | <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に担当して編成する。</p> <p>作業療法学科は学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                         | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                               |
| <p>《124～125 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。</u>なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「<u>幅広い職業人</u>」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> | <p>《101～102 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「<u>高度専門職業人</u>」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> |
| <p>《125～127 ページ》</p> <p><b>10-2-2 臨地実習計画の概要</b></p> <p>2) 臨地実習の段階と臨地実習内容</p> <p>看護学科の卒業要件単位は、基幹分野から必修科目16単位及び選択科目6単位（外国語系の選択必修科目2単位含む）以上、専門基礎分野から必修科目29単位及び選択科目3単位以</p>                                                                                                                                                                    | <p>《103～105 ページ》</p> <p><b>10-2-2 臨地実習計画の概要</b></p> <p>2) 臨地実習の段階と臨地実習内容</p> <p>看護学科の卒業要件単位は、基幹分野から必修科目16単位及び選択科目6単位（外国語系の選択必修科目2単位含む）以上、専門基礎分野から必修科目29単位及び選択科目3単位以</p>                                                                                                              |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>上、専門分野から必修科目 73 単位及び選択科目 1 単位以上、合わせて 128 単位以上となる。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと科目の関係を資料に示す。</p> <div data-bbox="193 423 802 1081"> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</u></p> </div> | <p>上、専門分野から必修科目 73 単位及び選択科目 1 単位以上、合わせて 128 単位以上となる。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと科目の関係を資料に示す。</p> <div data-bbox="828 423 1437 1081"> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑥ 生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> </div> |
| <p><b>【中略】</b></p> <p>次に、以下のディプロマ・ポリシーに関連する臨地実習について説明する。</p> <div data-bbox="193 1361 802 1552"> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍<u>する能力を有している。</u></p> </div>                                                                                                                                                                                                                                          | <p><b>【中略】</b></p> <p>次に、以下のディプロマ・ポリシーに関連する臨地実習について説明する。</p> <div data-bbox="828 1361 1437 1507"> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                           |

## (是正事項) 看護学部 看護学科

5. 教育課程の編成においては、専門学校の授業と比較し、「幅広い知識と深い教養と総合的判断力を養うため、基幹分野を中心として大幅な科目増を行う」との説明がなされているが、具体的にどの授業科目が対応している科目なのか説明すること。また、これらの科目が移行理由として説明されている、「質の高い医療専門職の育成」「健康科学の学問的発展」「効果的な IPE」「一般教養科目群を拡充する」にどのように対応しているのか、具体的に説明すること。(是正事項)

## (対応)

各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目を以下「表 1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧」にて示しています。科目を新しく追加しただけでなく、科目の時間数が増加した科目や科目内容をより充実させた科目も掲載しています。

専門学校から大学へと移行するに伴い、廃止した科目も一部存在しますが、専門学校と比較して、大学では看護学科で 46 科目・49 単位、理学療法学科で 64 科目・68 単位、作業療法学科では 64 科目・72 単位の科目・単位の増加や授業内容の充実がみられ、専門学校と比較して大幅な科目増・授業内容の充実がなされています。

また、増加した科目と専門学校からの 4 つの移行理由との関係を「表 2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表」にて示します。4 つの移行理由それぞれに対し増加した科目の対応がみられます。

表 1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧

|      | 看護学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 理学療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 作業療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②発達心理学 (1 単位・30 時間)、③ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、④経営学 (1 単位・15 時間)、⑤コミュニケーション論 (1 単位・15 時間)、⑥国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑦アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑧福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑨健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑩統計学 (1 単位・30 時間) ⑪生物学 (1 単位・30 時間)、⑫物理学 (1 単位・30 時間)、⑬英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑭韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑮韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②教育学 (1 単位・15 時間)、③発達心理学 (1 単位・30 時間)、④ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、⑤法学 (1 単位・15 時間)、⑥経営学 (1 単位・15 時間)、⑦社会学 (1 単位・15 時間)、⑧倫理学 (1 単位・15 時間)、⑨人間関係論 (1 単位・15 時間)、⑩国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑪文化人類学 (1 単位・15 時間)、⑫アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑬福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑭健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑮論理的思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②教育学 (1 単位・15 時間)、③発達心理学 (1 単位・30 時間)、④ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、⑤法学 (1 単位・15 時間)、⑥経営学 (1 単位・15 時間)、⑦社会学 (1 単位・15 時間)、⑧倫理学 (1 単位・15 時間)、⑨人間関係論 (1 単位・15 時間)、⑩国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑪文化人類学 (1 単位・15 時間)、⑫アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑬福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑭健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑮論理的思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 間)、⑯中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、⑰中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、⑱スポーツ理論(1単位・15時間)、⑲スポーツ実践(1単位・30時間)【19科目・19単位・435時間】                                                                                                                                                                                                                      | 英語)(1単位・30時間)、⑱英語Ⅱ(医療文献読解)(1単位・30時間)、⑲韓国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、⑳韓国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉑中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉒中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉓スポーツ理論(1単位・15時間)、㉔スポーツ実践(1単位・30時間)【24科目・24単位・480時間】                                                                                                                                                                                                                        | 英語)(1単位・30時間)、⑱英語Ⅱ(医療文献読解)(1単位・30時間)、⑲韓国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉑韓国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉒中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉓中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉔スポーツ理論(1単位・15時間)、㉕スポーツ実践(1単位・30時間)【24科目・24単位・480時間】                                                                                                                                                                                                                        |
| 専門基礎分野 | ①放射線医学(1単位・15時間)、②感染症看護(1単位・15時間)、③食事療法学(1単位・15時間)、④リハビリテーション概論(1単位・15時間)、⑤健康科学医療論(1単位・15時間)、⑥看護統計学(1単位・15時間)、⑦保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑧家族看護論(1単位・15時間)、⑨カウンセリング論(1単位・15時間)、⑩専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑪専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、⑫専門職連携教育Ⅲ(専門職連携における尊重)(1単位・30時間)、⑬専門職連携教育Ⅳ(専門職連携教育における協働)(1単位・30時間)【13科目・14単位・270時間】 | ①解剖学実習(1単位・45時間)、②生理学実習(1単位・45時間)、③運動生理学(1単位・15時間)、④内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑤神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑥整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑦精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑧小児科学(1単位・30時間)、⑨老年学(1単位・30時間)、⑩救急救命医学(1単位・15時間)、⑪公衆衛生学(1単位・30時間)、⑫医療危機管理論(1単位・30時間)、⑬栄養学(1単位・15時間)、⑭薬理学(1単位・15時間)、⑮医用画像診断学(1単位・15時間)、⑯ケアマネジメント論(1単位・15時間)、⑰カウンセリング論(1単位・15時間)、⑱保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、㉑ | ①解剖学実習(1単位・45時間)、②生理学実習(1単位・45時間)、③運動生理学(1単位・15時間)、④内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑤神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑥整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑦精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑧小児科学(1単位・30時間)、⑨老年学(1単位・30時間)、⑩救急救命医学(1単位・15時間)、⑪公衆衛生学(1単位・30時間)、⑫医療危機管理論(1単位・30時間)、⑬栄養学(1単位・15時間)、⑭薬理学(1単位・15時間)、⑮医用画像診断学(1単位・15時間)、⑯ケアマネジメント論(1単位・15時間)、⑰カウンセリング論(1単位・15時間)、⑱保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、㉑ |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、②専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【22科目・23単位・555時間】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、②専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【21科目・22単位・555時間】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 専門分野 | ①看護倫理（1単位・15時間）、②地域看護学概論（2単位・30時間）、③地域看護学援助論（1単位・30時間）、④地域看護学演習（1単位・30時間）、⑤地域看護学実習（1単位・45時間）、⑥がん看護学（1単位・15時間）、⑦認知症看護論（1単位・15時間）、⑧認知症老年看護学実習（1単位・45時間）、⑨看護臨床推論（1単位・15時間）、⑩看護職のキャリア出発とキャリアデザイン（1単位・15時間）、⑪看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム（1単位・15時間）、⑫災害看護初期対応（1単位・15時間）、⑬高度先進医療看護学（1単位・15時間）、⑭卒業研究（2単位・60時間）【14科目・16単位・300時間】 | ①バイオメカニクス（1単位・15時間）、②病態運動学（1単位・30時間）、③基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）（1単位・30時間）、④基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）（1単位・30時間）、⑤医用画像評価学（1単位・15時間）、⑥理学療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦物理療法Ⅱ（1単位・30時間）、⑧理学療法技術学Ⅰ（総論）（2単位・30時間）、⑨理学療法技術学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）、⑩高次脳機能障害学（1単位・15時間）、⑪疼痛理学療法学（1単位・15時間）、⑫福祉住環境論（1単位・15時間）、⑬予防理学療法学（1単位・15時間）、⑭高度先進医療論（1単位・15時間）、⑮基礎臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑯検査測定臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑰卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）（2単位・60時間）、⑱卒業研究Ⅱ（研究の実践）（2単位・60時間）【18科目・21単位・495時間】 | ①作業科学（1単位・15時間）、②作業療法理論（1単位・15時間）、③作業療法研究法（1単位・30時間）、④精神機能評価学演習（1単位・30時間）、⑤発達期評価学演習（1単位・30時間）、⑥作業療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦生活行為向上マネジメント（2単位・30時間）、⑧発達期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑨高齢期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑩摂食・嚥下作業療法（1単位・15時間）、⑪感覚統合療法（1単位・15時間）、⑫認知症作業療法（1単位・15時間）、⑬リハビリテーション工学（1単位・15時間）、⑭作業療法特論（1単位・15時間）、⑮ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）、⑯職業リハビリテーション（1単位・15時間）、⑰総合臨床実習Ⅲ（6単位・270時間）、⑱卒業研究（1単位・30時間）、⑲卒業研究演習（2単位・60時間）【19科目・26単位・690時間】 |

表2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表

|        | 「質の高い医療専門職の育成」                                                                                                                                                                                               | 「健康科学の学問的発展」                                                                                                                          | 「効果的な IPE」                                                                                                                              | 「一般教養科目群を拡充する」                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野   | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「国際関係論（1単位・15時間）」、「アジアの文学（1単位・15時間）」、「福岡の歴史と文化（1単位・15時間）」により多様性のある対象者を理解するための教養を身につけるための科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。                                          | 「健康科学入門（1単位・15時間）」、「統計学（1単位・30時間）」、「スポーツ理論（1単位・15時間）」、「スポーツ実践（1単位・30時間）」により健康を科学し、科学的に根拠を導く方法を身につけるための科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。 | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「経営学（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「人間関係論（1単位・15時間）」によりチームでの協調性を養うための幅広い知識を身につけるための科目を開設したことで「効果的な IPE」に対応させている。 | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。 |
| 専門基礎分野 | 看護学部では「放射線医学（1単位・15時間）」、「感染症看護（1単位・15時間）」、「食事療法学（1単位・15時間）」、「リハビリテーション概論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「内科学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理 | 看護学部では「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「看護統計学（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理            | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育            | 科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。看護学部では「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「家族看護論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「カウ                                                                                                          |



|      |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 位・30時間)」、「神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「小児科学(1単位・30時間)」、「老年学(1単位・30時間)」、「救急救命医学(1単位・15時間)」、等の医学の基礎となる科目を開設・増設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。                                    | 学(1単位・15時間)」、「医用画像診断学(1単位・15時間)」等で研究分野のうち基礎研究に該当する知識を修得し、研究の素材やテーマの知識を身につけることで「健康科学の学問的発展」に対応させている。                                                                                               | IV(専門職連携教育における協働)(1単位・30時間)」を開設したことで「効果的なIPE」に対応させている。                                                                                                  | ンセリング(1単位・15時間)」、「保健医療福祉制度論(2単位・30時間)」等の保健・医療・福祉にかかる幅広い科目を開設することで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。                                                                                           |
| 専門分野 | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論(1単位・15時間)」、「理学療法臨床推論(1単位・15時間)」、「作業療法臨床推論(1単位・15時間)」等を開設することで、クリティカルシンキング(考える力)を身につけ、「高度先進医療看護学(1単位・15時間)」、「高度先進医療論(1単位・15時間)」、「作業療法特論(1単位・15時間)」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育 | 基幹分野・専門基礎分野に連なり専門分野では研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門(1単位・15時間)」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論(1単位・15時間)」を開設したこと(看護学部)、一般臨床医学系の時間数を増大したこと(リハビリテーション学部)、専門分野では卒業研究科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。 | 全ての臨地実習・臨床実習を履修した後の4年後期に「専門職連携教育IV(専門職連携教育における協働)」開設したことで、臨地実習・臨床実習で経験してきた実践力を統合させ、卒後の専門職連携協働(IPW)へ円滑に実践することをねらいとしている。このように臨床実習と連関させて「効果的なIPE」に対応させている。 | 看護学科では「看護倫理(1単位・15時間)」、理学療法学科では「バイオメカニクス(1単位・15時間)」、「病態運動学(1単位・30時間)」、作業療法学科では「作業科学(1単位・15時間)」、「リハビリテーション工学(1単位・15時間)」により各専門分野科目群を学ぶ上で必要となる基礎的な教養科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。 |

|             |  |  |  |
|-------------|--|--|--|
| 成」に対応させている。 |  |  |  |
|-------------|--|--|--|

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新

旧

《43～48 ページ》

1-8-2-4 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目

各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目を以下「表1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧」にて示す。科目を新しく追加しただけでなく、科目の時間数が増加した科目や科目内容をより充実させた科目も掲載する。

専門学校から大学へと移行するに伴い、廃止した科目も一部存在するものの、専門学校と比較して、大学では看護学科で46科目・49単位、理学療法学科で64科目・68単位、作業療法学科では64科目・72単位の科目・単位の増加や授業内容の充実がみられ、専門学校と比較して大幅な科目増・授業内容の充実がなされている。

表1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧

|                  | 看護学科                                                                                                                                                                                                                                                                         | 理学療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                       | 作業療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基<br>幹<br>分<br>野 | ①フレッシューズセミナー（1単位・15時間）、<br>②発達心理学（1単位・30時間）、③ジェンダー論（1単位・15時間）、<br>④経営学（1単位・15時間）、⑤コミュニケーション論（1単位・15時間）、⑥国際関係論（1単位・15時間）、⑦アジアの文学（1単位・15時間）、⑧福岡の歴史と文化（1単位・15時間）、<br>⑨健康科学入門（1単位・15時間）、⑩統計学（1単位・30時間）⑪生物学（1単位・30時間）、⑫物理学（1単位・30時間）、⑬英語Ⅱ（医療文献読解）（1単位・30時間）、⑭韓国語Ⅰ（日常会話）（1単位・15時間） | ①フレッシューズセミナー（1単位・15時間）、<br>②教育学（1単位・15時間）、③発達心理学（1単位・30時間）、④ジェンダー論（1単位・15時間）、⑤法学（1単位・15時間）、⑥経営学（1単位・15時間）、⑦社会学（1単位・15時間）、<br>⑧倫理学（1単位・15時間）、⑨人間関係論（1単位・15時間）、⑩国際関係論（1単位・15時間）、⑪文化人類学（1単位・15時間）、⑫アジアの文学（1単位・15時間）、⑬福岡の歴史と文化（1単位・15時間）、<br>⑭健康科学入門（1単位・15時間）、⑮論理的思考法（1単位・15時間） | ①フレッシューズセミナー（1単位・15時間）、<br>②教育学（1単位・15時間）、③発達心理学（1単位・30時間）、④ジェンダー論（1単位・15時間）、⑤法学（1単位・15時間）、⑥経営学（1単位・15時間）、⑦社会学（1単位・15時間）、<br>⑧倫理学（1単位・15時間）、⑨人間関係論（1単位・15時間）、⑩国際関係論（1単位・15時間）、⑪文化人類学（1単位・15時間）、⑫アジアの文学（1単位・15時間）、⑬福岡の歴史と文化（1単位・15時間）、<br>⑭健康科学入門（1単位・15時間）、⑮論理的思考法（1単位・15時間） |

| 新      |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>位・30 時間)、⑮韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、⑯中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑰中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、⑱スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、⑲スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【19 科目・19 単位・435 時間】</p>                                                                                                                      | <p>間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療英語) (1 単位・30 時間)、⑱英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑲韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑳韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉑中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、㉒中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉓スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、㉔スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【24 科目・24 単位・480 時間】</p>                                       | <p>間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療英語) (1 単位・30 時間)、⑱英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑲韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑳韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉑中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、㉒中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉓スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、㉔スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【24 科目・24 単位・480 時間】</p>                                      |
| 専門基礎分野 | <p>①放射線医学 (1 単位・15 時間)、②感染症看護 (1 単位・15 時間)、③食事療法学 (1 単位・15 時間)、④リハビリテーション概論 (1 単位・15 時間)、⑤健康科学医療論 (1 単位・15 時間)、⑥看護統計学 (1 単位・15 時間)、⑦保健医療福祉制度論 (2 単位・30 時間)、⑧家族看護論 (1 単位・15 時間)、⑨カウンセリング論 (1 単位・15 時間)、⑩専門職連携教育 I (専門職連携の基礎) (1 単位・30 時間)、⑪専門職連携教育 II (専門職連携の構築) (1 単位・30 時間)、⑫専門職</p> | <p>①解剖学実習 (1 単位・45 時間)、②生理学実習 (1 単位・45 時間)、③運動生理学 (1 単位・15 時間)、④内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑤神経内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑥整形外科 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑦精神医学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑧小児科学 (1 単位・30 時間)、⑨老年学 (1 単位・30 時間)、⑩救急救命医学 (1 単位・15 時間)、⑪公衆衛生学 (1 単位・30 時間)、⑫医療危機管理論 (1 単位・30 時間)、⑬栄養学 (1 単位・15 時間)</p> | <p>①解剖学実習 (1 単位・45 時間)、②生理学実習 (1 単位・45 時間)、③運動生理学 (1 単位・15 時間)、④内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑤神経内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、整形外科 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑥精神医学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑦小児科学 (1 単位・30 時間)、⑧老年学 (1 単位・30 時間)、⑨救急救命医学 (1 単位・15 時間)、⑩公衆衛生学 (1 単位・30 時間)、⑪医療危機管理論 (1 単位・30 時間)、⑫栄養学 (1 単位・15 時間)</p> |

| 新    |                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                 | 旧                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、⑬専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【13科目・14単位・270時間】</p>                                                                                                             | <p>位・15時間）、⑭薬理学（1単位・15時間）、⑮医用画像診断学（1単位・15時間）、⑯ケアマネジメント論（1単位・15時間）、⑰カウンセリング論（1単位・15時間）、⑱保健医療福祉制度論（2単位・30時間）、⑲専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1単位・30時間）、⑳専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1単位・30時間）、㉑専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、㉒専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【22科目・23単位・555時間】</p> | <p>間）、⑬薬理学（1単位・15時間）、⑭医用画像診断学（1単位・15時間）、⑮ケアマネジメント論（1単位・15時間）、⑯カウンセリング論（1単位・15時間）、⑰保健医療福祉制度論（2単位・30時間）、⑱専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1単位・30時間）、⑲専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1単位・30時間）、⑳専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、㉑専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【21科目・22単位・555時間】</p> |
| 専門分野 | <p>①看護倫理（1単位・15時間）、②地域看護学概論（2単位・30時間）、③地域看護学援助論（1単位・30時間）、④地域看護学演習（1単位・30時間）、⑤地域看護学実習（1単位・45時間）、⑥がん看護学（1単位・15時間）、⑦認知症看護論（1単位・15時間）、⑧認知症老年看護学実習（1単位・45時間）、⑨看護臨床推論（1単位・15時間）、⑩看護職のキャリア出発とキャリアデザイン</p> | <p>①バイオメカニクス（1単位・15時間）、②病態運動学（1単位・30時間）、③基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）（1単位・30時間）、④基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）（1単位・30時間）、⑤医用画像評価学（1単位・15時間）、⑥理学療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦物理療法Ⅱ（1単位・30時間）、⑧理学療法技術Ⅰ（総論）（2単位・30時間）、⑨理学療</p>                                                                    | <p>①作業科学（1単位・15時間）、②作業療法理論（1単位・15時間）、③作業療法研究法（1単位・30時間）、④精神機能評価学演習（1単位・30時間）、⑤発達期評価学演習（1単位・30時間）、⑥作業療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦生活行為向上マネジメント（2単位・30時間）、⑧発達期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑨高齢期作業療法学演習（1単位・30時</p>                                                                 |

| 新                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| ザイン（１単位・１５時間）、⑪看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム（１単位・１５時間）、⑫災害看護初期対応（１単位・１５時間）、⑬高度先進医療看護学（１単位・１５時間）、⑭卒業研究（２単位・６０時間）【１４科目・１６単位・３００時間】 | 法技術学Ⅱ（各論）（１単位・１５時間）、⑩高次脳機能障害学（１単位・１５時間）、⑪疼痛理学療法（１単位・１５時間）、⑫福祉住環境論（１単位・１５時間）、⑬予防理学療法学（１単位・１５時間）、⑭高度先進医療論（１単位・１５時間）、⑮基礎臨床実習Ⅱ（１単位・４５時間）、⑯検査測定臨床実習Ⅱ（１単位・４５時間）、⑰卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）（２単位・６０時間）、⑱卒業研究Ⅱ（研究の実践）（２単位・６０時間）【１８科目・２１単位・４９５時間】 | 間）、⑩摂食・嚥下作業療法（１単位・１５時間）、⑪感覚統合療法（１単位・１５時間）、⑫認知症作業療法（１単位・１５時間）、⑬リハビリテーション工学（１単位・１５時間）、⑭作業療法特論（１単位・１５時間）、⑮ヘルスプロモーション作業療法学（１単位・１５時間）、⑯職業リハビリテーション（１単位・１５時間）、⑰総合臨床実習Ⅲ（６単位・２７０時間）、⑱卒業研究（１単位・３０時間）、⑲卒業研究演習（２単位・６０時間）【１９科目・２６単位・６９０時間】 |   |

### 1-8-2-5 大学で増加した科目と移行理由の対応表

増加した科目と専門学校からの４つの移行理由との関係を「表２．大学で増加した科目と移行理由の対応表」にて示す。４つの移行理由それぞれに対し増加した科目の対応がみられる。

表２．大学で増加した科目と移行理由の対応表

|      | 「質の高い医療専門職の育成」                                                           | 「健康科学の学問的発展」                                                                | 「効果的な IPE」                                                                     | 「一般教養科目群を拡充する」                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野 | 「ジェンダー論（１単位・１５時間）」、「コミュニケーション論（１単位・１５時間）」、「国際関係論（１単位・１５時間）」、「アジアの文学（１単位・ | 「健康科学入門（１単位・１５時間）」、「統計学（１単位・３０時間）」、「スポーツ理論（１単位・１５時間）」、「スポーツ実践（１単位・３０時間）」により | 「ジェンダー論（１単位・１５時間）」、「経営学（１単位・１５時間）」、「コミュニケーション論（１単位・１５時間）」、「人間関係論（１単位・１５時間）」により | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（１単位・３０時間）、ジェンダー論（１単位・１５時間）、法 |

| 新                          |                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧 |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                            | 15 時間)」、「福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)」により多様性のあ<br>る対象者を理解す<br>るための教養を身<br>につけるための科<br>目を開設したこと<br>で「質の高い医療<br>専門職の育成」に<br>対応させている。                                                                                                         | 健康を科学し、科<br>学的に根拠を導く<br>方法を身につける<br>ための科目を開設<br>したことで「健康<br>科学の学問的発<br>展」に対応させて<br>いる。                                                                                                                                                   | チームでの協調性<br>を養うための幅広<br>い知識を身につけ<br>るための科目を開<br>設したことで「効<br>果的な IPE」に対<br>応させている。                                                                                                                                                    | 学 (1 単位・15<br>時間)、経営学<br>(1 単位・15 時<br>間)、国際関係論<br>(1 単位・15 時<br>間)等を基幹分野<br>に開設したこと、<br>保健・医療・福祉<br>分野を幅広く学修<br>するため、「保健<br>医療福祉制度論<br>(2 単位・30 時<br>間)」、「カウンセ<br>リング論 (1 単<br>位・15 時間)」等<br>の医療関連科目を<br>開設したことで<br>「一般教養科目群<br>の拡充」に対応さ<br>せている。 |   |
| 専<br>門<br>基<br>礎<br>分<br>野 | 看護学部では<br>「放射線医学 (1<br>単位・15 時<br>間)」、「感染症看<br>護 (1 単位・15<br>時間)」、「食事療<br>法学 (1 単位・15<br>時間)」、「リハビ<br>リテーション概論<br>(1 単位・15 時<br>間)」等の科目を<br>開設し、リハビリ<br>テーション学部で<br>は「内科学Ⅱ (各<br>論) (1 単位・30<br>時間)」、「神経内<br>科学Ⅱ (各論)<br>(1 単位・30 時 | 看護学部では<br>「健康科学医療論<br>(1 単位・15 時<br>間)」、「看護統計<br>学 (1 単位・15<br>時間)」、等の科目<br>を開設し、リハビ<br>リテーション学部<br>では「公衆衛生学<br>(1 単位・30 時<br>間)」、「医療危機<br>管理論 (1 単位・<br>30 時間)」、「栄養<br>学 (1 単位・15<br>時間)」、「薬理学<br>(1 単位・15 時<br>間)」、「医用画像<br>診断学 (1 単位・ | 各専門職の養成<br>にかかる指定規則<br>に加えて、「専門職<br>連携教育Ⅰ (専門<br>職連携の基礎)」<br>(1 単位・30 時<br>間)、「専門職連携<br>教育Ⅱ (専門職連<br>携の構築)」(1 単<br>位・30 時間)、「専<br>門職連携教育Ⅲ<br>(専門職連携にお<br>ける尊重) (1 単<br>位・30 時間)」、<br>「専門職連携教育<br>Ⅳ (専門職連携教<br>育における協働)<br>(1 単位・30 時 | 科目を開設した<br>ことで「一般教養<br>科目群の拡充」に<br>対応させている。<br>看護学部では「保<br>健医療福祉制度論<br>(2 単位・30 時<br>間)」、「家族看護<br>論 (1 単位・15<br>時間)」等の科目<br>を開設し、リハビ<br>リテーション学部<br>では「ケアマネジ<br>メント論 (1 単<br>位・15 時間)」、<br>「カウンセリング<br>(1 単位・15 時<br>間)」、「保健医療                     |   |

| 新     |                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>間)」、「整形外科学Ⅱ（各論）（1単位・30時間）」、「精神医学Ⅱ（各論）（1単位・30時間）」、「小児科学（1単位・30時間）」、「老年学（1単位・30時間）」、「救急救命医学（1単位・15時間）」、等の医学の基礎となる科目を開設・増設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。</p>        | <p>15時間)」等で研究分野のうち基礎研究に該当する知識を修得し、研究の素材やテーマの知識を身につけることで「健康科学の学問的発展」に対応させている。</p>                                                                             | <p>間)」を開設したことで「効果的なIPE」に対応させている。</p>                                                                                                                 | <p>福祉制度論（2単位・30時間）」等の保健・医療・福祉にかかる幅広い科目を開設することで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p>                                                                                             |
| 専門分野一 | <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（1単位・15時間）」、「理学療法臨床推論（1単位・15時間）」、「作業療法臨床推論（1単位・15時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（1単位・15時間）」、「高度先進医療論（1単位・15時間）」</p> | <p>基幹分野・専門基礎分野に連なり専門分野では研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学</p> | <p>全ての臨地実習・臨床実習を履修した後の4年後期に「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）」開設したことで、臨地実習・臨床実習で経験してきた実践力を統合させ、卒後の専門職連携協働（IPW）へ円滑に実践することをねらいとしている。このように臨床実習と連関させて「効果的なIPE」</p> | <p>看護学科では「看護倫理（1単位・15時間）」、「理学療法学科では「バイオメカニクス（1単位・15時間）」、「病態運動学（1単位・30時間）」、作業療法学科では「作業科学（1単位・15時間）」、「リハビリテーション工学（1単位・15時間）」により各専門分野科目群を学ぶ上で必要となる基礎的な教養科目を開設したことで</p> |

| 新 |                                                                                                       |                                                                  |               |                               | 旧 |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------|-------------------------------|---|
|   | 間)」、「作業療法<br>特論（1単位・15<br>時間）」を履修さ<br>せ、最新の知見を<br>学ぶ科目を開設し<br>たことで「質の高<br>い医療専門職の育<br>成」に対応させて<br>いる。 | 部)、専門分野で<br>は卒業研究科目を<br>開設したことで<br>「健康科学の学問<br>的発展」に対応さ<br>せている。 | に対応させてい<br>る。 | 「一般教養科目群<br>の拡充」に対応さ<br>せている。 |   |



## (是正事項) 看護学部 看護学科

6. 履修モデルの説明において、履修に当たっての選択科目の考え方として、高度先進医療コース、災害医療コース、がん医療コースが示されているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係性が明らかでなく、また、3つのコースに分ける趣旨や養成する人材像の違い、コース分けの時期や方法等が明らかでないことから、具体的に説明すること。また、学生が、いずれかのコースを選択するのではなく、単に選択科目の考え方を示しているのであれば、「コース」という文言について適切に改めること。なお、「高度先進医療」の定義についても明らかにすること。(是正事項)

## (対応)

履修モデルの説明における3つは、選択科目の考え方を例示しているもので、学生が3つのうちから選択するものではありません。齟齬をきたさないよう「コース」という名称をそれぞれ「救急看護系履修モデル」、「災害看護系履修モデル」、「がん看護系履修モデル」と改め、履修モデルであることを明確にしました。

また、審査意見を踏まえ、看護学部看護学科の履修モデル1にかかる履修モデルの名称を当該選択科目の内容特性をよりの確に表現するため、「高度先進医療看護学系履修モデル」から「救急看護系履修モデル」へと変更して説明します。

## (1) 救急看護系履修モデルの説明

基幹分野では発達心理学やジェンダー論、国際関係論を選択し、多様な対象を全人的に捉える基礎的な知識を身につけます。さらに物理学を選択することで力と運動や、エネルギーの変化による反応など人間の動きを科学的に理解できるように学びます。専門基礎分野では救急看護に欠かせない感染症看護と、保健・医療・福祉の連携について社会福祉学で学び、専門分野での高度先進医療看護学で急性期の対応の実践力につなげます。

## (2) 救急看護の定義について

看護学科における「救急看護系履修モデル」における「救急看護」の定義については、「対象の特定の状況に対する看護であり、その状況とは一時的で緊急性のある救急状況を指す。」と捉えております。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《93～94 ページ》</p> <p><b>6-3-2 看護学科の履修モデル</b></p> <p>看護学科では、履修にあたって選択科目の考え方として、①履修モデル1 (救急看護系)、②履修モデル2 (災害看護系)、③履修モデル3 (がん看護系) の3つを示す。</p> <p>1) 履修モデル1 (救急看護系履修モデル)</p> <p>基幹分野では発達心理学やジェンダー論、国際関係論を選択し、多様な対象を全人的に捉え</p> | <p>《73～74 ページ》</p> <p><b>6-3-2 看護学科の履修モデル</b></p> <p>看護学科では、履修にあたって選択科目の考え方として、①履修モデル1 (高度先進医療看護系)、②履修モデル2 (災害看護系)、③履修モデル3 (がん看護系) の3つを示す。</p> <p>1) 履修モデル1 (高度先進医療看護系)</p> <p>急性発症した対象者の看護に関心がある場合は、高度先進医療看護学コースとして、基幹分</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>る基礎的な知識を身につける。さらに物理学を選択することで力と運動や、エネルギーの変化による反応など人間の動きを科学的に理解できるように学ぶ。専門基礎分野では救急看護に欠かせない感染症看護と、保健・医療・福祉の連携について社会福祉学で学び、専門分野での高度先進医療看護学で急性期の対応の実践力につなげる。</p>                                                                                                                                                | <p>野では「発達心理学」、「ジェンダー論」、「国際関係論」を選択し、多様な対象を全人的に捉える基礎的な知識を身につける。さらに、「物理学」を選択することで、人間の動きを科学的に理解できるように学ぶ。専門基礎分野では先進医療に欠かせない「感染症看護」と、これからの地域や医療現場における保健・医療・福祉の連携について学び、専門分野での「高度先進医療看護学」で急性期の対応の実践力につなげる。</p>                                                                                         |
| <p>2) 履修モデル2 (災害看護系履修モデル)</p> <p><u>災害看護履修モデル</u>として、基幹分野では「発達心理学」、「ジェンダー論」、「国際関係論」を選択し、対象理解を深めるとともに世界の情勢にも目を向けられるようにする。さらに「生物学」を選択することで、人間の生命の仕組みや保持機構を学び、生命の本質について専門分野に活かせるようにする。専門基礎分野では災害時に不可欠となる感染症に対して「感染症看護」、「社会福祉学」の他に「カウンセリング」を選択することで、対象者への対応能力をスキルアップできる。また、専門分野で「災害看護初期対応」を具体的に学ぶことで実践力につなげる。</p> | <p>2) 履修モデル2 (災害看護系)</p> <p>災害看護コースとして、基幹分野では「発達心理学」、「ジェンダー論」、「国際関係論」を選択し、対象理解を深めるとともに世界の情勢にも目を向けられるようにする。さらに「生物学」を選択することで、人間の生命の仕組みや保持機構を学び、生命の本質について専門分野に活かせるようにする。専門基礎分野では災害時に不可欠となる感染症に対して「感染症看護」、「社会福祉学」の他に「カウンセリング」を選択することで、対象者への対応能力をスキルアップできる。また、専門分野で「災害看護初期対応」を具体的に学ぶことで実践力につなげる。</p> |
| <p>3) 履修モデル3 (がん看護系履修モデル)</p> <p><u>がん看護系履修モデル</u>として、基幹分野では「発達心理学」、「ジェンダー論」以外に「アジアの文学」、「生物学」を選択することで、人間の生命や生き方について洞察するための基礎的能力を養う。専門基礎分野では「感染症看護」、「食事療法学」、「カウンセリング」を選択することで対象の生命保持のための知識や倫理に基づいた対応能力を身につける。専門分野では「がん看護学」を選択し、がん罹患した対象者を全人的に捉え、全人的苦痛に対応できるように学ぶことで実践力につなげる。</p>                               | <p>3) 履修モデル3 (がん看護系)</p> <p>がん看護コースとして、基幹分野では「発達心理学」、「ジェンダー論」以外に「アジアの文学」、「生物学」を選択することで、人間の生命や生き方について洞察するための基礎的能力を養う。専門基礎分野では「感染症看護」、「食事療法学」、「カウンセリング」を選択することで対象の生命保持のための知識や倫理に基づいた対応能力を身につける。専門分野では「がん看護学」を選択し、がん罹患した対象者を全人的に捉え、全人的苦痛に対応できるように学ぶことで実践力につなげる。</p>                                |

(是正事項) 看護学部 看護学科

7. 専門職連携教育Ⅰ～Ⅳなど、複数の教員が担当することとされている科目について、どの教員が主に担当するのかシラバスに明記すること。また、全員が同時に参加できる施設・設備が備わっていないように見受けられるため、具体的な実施形態について詳細に説明すること。(是正事項)

(対応)

専門職連携教育Ⅰ～Ⅳなどにおける複数の教員が担当する科目における主に担当する教員については、シラバス上で筆頭に掲げましたが、さらに下線を附して明記することとします。

また、220名が参加する専門職連携教育は大人数を一堂に会して授業する形式で行うことを原則とせず(発表会やオリエンテーション等の講義形式を除く)、教育効果が最大限に得られる人数を対象として複数回に分けて行う形式とします。

【科目名】専門職連携教育Ⅰ～Ⅳ

①講義形式の場合(主として専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ)

1号館5階の講堂あるいは2号館1階のメインホールにて実施します。

②演習形式の場合(主として専門職連携教育Ⅲ・Ⅳ)

グループワークや発表会等であれば全員を一堂に会して実施するため1号館5階の講堂あるいは2号館1階のメインホールを使用します。実技演習の必要がある場合は、2号館3階のシミュレーションセンターでデモンストレーションしている映像を各教室へ配信するか、または、教育効果を鑑みて幾つかのグループをユニットとして、当該ユニット単位で授業を複数回実施します。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《80～81 ページ》</p> <p><b>4-3 専門職連携教育</b></p> <p>教育の特色として掲げる専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)は、対象者の疾病のみに視点を注ぐのではなく、生活する人として全人的に捉えてケアするという「患者・利用者のための医療」の実現に向けて、<u>専門職間の連携能力を段階的に身につけることを目的とし、将来の専門職連携協働へと円滑に実践できるよう看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科合同による教育体系を編成している。</u></p> <p>1年次には、「看護学概論(1年前期・必修科目・2単位)」、「理学療法学概論(1年前期・必修科目・1単位)」、「作業療法学概論(1年前期・必修科目・2単位)」等で自職種について</p> | <p>《62 ページ》</p> <p><b>4-3 専門職連携教育</b></p> <p>教育の特色として掲げる専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)は、対象者の疾病のみに視点を注ぐのではなく、生活する人として全人的に捉えてケアするという「患者・利用者のための医療」の実現に向けて、<u>専門職間の連携能力を段階的に身につけることを目的とし、将来の専門職連携協働へと円滑に実践できるよう看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科合同による教育体系を編成している。</u></p> <p>1年次には、「看護学概論(1年前期・必修科目・2単位)」、「理学療法学概論(1年前期・必修科目・1単位)」、「作業療法学概論(1年前期・必修科目・2単位)」等で自職種について</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>概要を理解し、看護学科の「生活援助実習（１年後期・必修科目・１単位）」、理学療法学科の「基礎臨床実習Ⅰ（１年前期・必修科目・１単位）」・「基礎臨床実習Ⅱ（１年後期・必修科目・１単位）」、作業療法学科の「基礎臨床実習（１年通年・必修科目・１単位）」をとおして、専門職としての倫理観や態度、基礎的な技術を体験的に身につける。これと並行して３学部に通に開設した、１年次の「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（１年後期・必修科目・１単位）」では、専門職連携についての基本的な考え方や医療専門職の種類や機能を学び、２年次の「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（２年前期・必修科目・１単位）」では、専門職連携の根幹となるチーム医療・ケアの理念に基づいたチームを形成することを体験する。３年次の「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（３年前期・必修科目・１単位）」においては、各専門職種により生じるジレンマや意見の対立に対して、専門職連携協働の意義やチームの一員として果たす役割を探究することで、他専門職種を尊重することを学ぶ。４年次の「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）（４年後期・必修科目・１単位）」では、各専門職が対等な立場で協力して、患者・利用者を全人的にアセスメントし、チームでケア計画を立案することを学修する。</p> <p>本学の近隣には、グループ病院である福岡和白病院、香椎丘リハビリテーション病院、福岡新水巻病院があり、専門職連携教育Ⅱにおいて現職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等と連携を図る。臨地実習・臨床実習においては、上述の病院だけでなく、関連施設である株式会社シダー、NPO 法人列島会、社会福祉法人あきの会が運営するデイケア・デイサービス施設等の介護・福祉関連施設との連携も積極的に実施していくことで、臨床と密接に連携した独自の教育環境のもと専門職連携教育を展開</p> | <p>概要を理解し、看護学科の「生活援助実習（１年後期・必修科目・１単位）」、理学療法学科の「基礎臨床実習Ⅰ（１年前期・必修科目・１単位）」・「基礎臨床実習Ⅱ（１年後期・必修科目・１単位）」、作業療法学科の「基礎臨床実習（１年通年・必修科目・１単位）」をとおして、専門職としての倫理観や態度、基礎的な技術を体験的に身につける。これと並行して３学部に通に開設した、１年次の「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（１年後期・必修科目・１単位）」では、専門職連携についての基本的な考え方や医療専門職の種類や機能を学び、２年次の「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（２年前期・必修科目・１単位）」では、専門職連携の根幹となるチーム医療・ケアの理念に基づいたチームを形成することを体験する。３年次の「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（３年前期・必修科目・１単位）」においては、各専門職種により生じるジレンマや意見の対立に対して、専門職連携協働の意義やチームの一員として果たす役割を探究することで、他専門職種を尊重することを学ぶ。４年次の「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）（４年後期・必修科目・１単位）」では、各専門職が対等な立場で協力して、患者・利用者を全人的にアセスメントし、チームでケア計画を立案することを学修する。</p> <p>本学の近隣には、グループ病院である福岡和白病院、香椎丘リハビリテーション病院、福岡新水巻病院があり、専門職連携教育Ⅱにおいて現職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等と連携を図る。臨地実習・臨床実習においては、上述の病院だけでなく、関連施設である株式会社シダー、NPO 法人列島会、社会福祉法人あきの会が運営するデイケア・デイサービス施設等の介護・福祉関連施設との連携も積極的に実施していくことで、臨床と密接に連携した独自の教育環境のもと専門職連携教育を展開</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| <p>する。</p> <p><u>また、220 名が参加する専門職連携教育は<br/>大人数を一堂に会して授業する形式で行うこ<br/>とを原則とせず（発表会やオリエンテーショ<br/>ン等の講義形式を除く）、教育効果が最大限に<br/>得られる人数を対象として複数回に分けて行<br/>う形式としする。以下に、授業形態ごとの実<br/>施形態について説明する。</u></p> <p><b>【科目名】専門職連携教育Ⅰ～Ⅳ</b></p> <p><u>①講義形式の場合（主として専門職連携教育<br/>Ⅰ・Ⅱ）</u></p> <p><u>1 号館 5 階の講堂あるいは 2 号館 1 階のメ<br/>インホールにて実施する。</u></p> <p><u>②演習形式の場合（主として専門職連携教育<br/>Ⅲ・Ⅳ）</u></p> <p><u>グループワークや発表会等であれば全員を<br/>一堂に会して実施するため 1 号館 5 階の講堂<br/>あるいは 2 号館 1 階のメインホールを使用す<br/>る。実技演習の必要がある場合は、2 号館 3<br/>階のシミュレーションセンターでデモンスト<br/>レーションしている映像を各教室へ配信する<br/>か、または、教育効果を鑑みて幾つかのグル<br/>ープをユニットとして、当該ユニット単位で<br/>授業を複数回実施する。</u></p> <p>以下に年次ごとの科目構成とそれぞれの教<br/>育目的について学科ごとに記載する。</p> | <p>する。</p> <p>以下に年次ごとの科目構成とそれぞれの教<br/>育目的について学科ごとに記載する。</p> |

| (新旧対照)                                                                                                                                                                                                                            |                                  |                     |                                                      |                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|---------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」                                                                                                                                                                                                      |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                         | 授業形態                             | 単位数<br>(時間数)        | 配当年次                                                 | 担 当 教 員                                                       |
| 専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）                                                                                                                                                                                                                | 演習                               | 1 単位<br>(30 時間)     | 1 年後期                                                | <u>白石裕子</u> 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠<br>阿波那彦 <u>松本典久</u> 中山広宣 江口喜久雄 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                           |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。 |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                           |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる<br>2. チームビルディングの理論と実際について説明できる<br>3. 各医療専門職の種類と機能について説明できる<br>4. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる                                                                                       |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修                                                                                                                                                                                                                 |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む                                                                                                                                                                                                        |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする                                                                                                                                                                                                    |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                | (DP1)                            | (DP2)               | (DP3)                                                |                                                               |
| DP                                                                                                                                                                                                                                | ○ (DP4)                          | ◎ (DP5)             | (DP6)                                                |                                                               |
| 回数                                                                                                                                                                                                                                | 日程                               | 単 元                 | 内 容                                                  | 担当教員                                                          |
| 1                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | オリエンテーション           | ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？<br>・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 | 全員                                                            |
| 2                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | 国際疾病分類の理念           | ・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識 1<br>・国際疾病分類（WHO ICF）の理念  | 全員                                                            |
| 3                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | チーム医療とチームビルディング     | ・チーム医療のあり方、メンバーシップとは<br>・チームビルディングの理論と実際             | 全員                                                            |
| 4                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | チームビルディングの実際        | チームを作り課題に取り組む（チームメンバー発表 自己紹介）                        | 全員                                                            |
| 5                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | チームで討議              | 課題に対する評価（計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等）             | 全員                                                            |
| 6                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | IPE の基礎             | ・IPE 展開のための基礎知識<br>・医療と福祉の接点                         | 全員                                                            |
| 7                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | 医療専門職の種類と機能①        | 医師、放射線技師、管理栄養士の役割・教育・機能                              | 全員                                                            |
| 8                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | 医療専門職の種類と機能②        | 看護師、薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能                               | 全員                                                            |
| 9                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日                           | 医療専門職の種類と機能③        | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能                          | 全員                                                            |
| 10                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日                           | 医療福祉専門職間の連携         | 専門職連携の理論と実際                                          | 全員                                                            |
| 11                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日                           | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学修 GW                                          | 全員                                                            |
| 12                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日                           | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学修 GW                                          | 全員                                                            |
| 13                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日                           | ふれあい体験振り返り          | 体験学修を振り返り意見交換を行う 発表準備                                | 全員                                                            |
| 14                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日                           | グループ発表              | 各グループ発表                                              | 全員                                                            |
| 15                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日                           | 総括                  | 自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる                        | 全員                                                            |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                               | 課題レポート(100%)                     |                     |                                                      |                                                               |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                               | 講師資料                             |                     |                                                      |                                                               |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                             |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                              |                                  |                     |                                                      |                                                               |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                          | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |                     |                                                      |                                                               |

| 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」                                                                                                                                                                                                      |         |                     |                                                      |                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                         | 授業形態    | 単位数<br>(時間数)        | 配当年次                                                 | 担 当 教 員                                         |
| 専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）                                                                                                                                                                                                                | 演習      | 1 単位<br>(30 時間)     | 1 年後期                                                | 白石裕子 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠<br>阿波那彦 野中紘士 中山広宣 江口喜久雄 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                           |         |                     |                                                      |                                                 |
| 保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。 |         |                     |                                                      |                                                 |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                           |         |                     |                                                      |                                                 |
| 5. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる<br>6. チームビルディングの理論と実際について説明できる<br>7. 各医療専門職の種類と機能について説明できる<br>8. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる                                                                                       |         |                     |                                                      |                                                 |
| 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習                                                                                                                                                                                                                 |         |                     |                                                      |                                                 |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする                                                                                                                                                                      |         |                     |                                                      |                                                 |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                | (DP1)   | (DP2)               | (DP3)                                                |                                                 |
| DP                                                                                                                                                                                                                                | ○ (DP4) | ◎ (DP5)             | (DP6)                                                |                                                 |
| 回数                                                                                                                                                                                                                                | 日程      | 単 元                 | 内 容                                                  | 担当教員                                            |
| 1                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | オリエンテーション           | ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？<br>・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 | 全員                                              |
| 2                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | 国際疾病分類の理念           | ・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識1<br>・国際疾病分類（WHO ICF）の理念   | 全員                                              |
| 3                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | チーム医療とチームビルディング     | ・チーム医療のあり方、メンバーシップとは<br>・チームビルディングの理論と実際             | 全員                                              |
| 4                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | チームビルディングの実際        | チームを作り課題に取り組む（チームメンバー発表 自己紹介）                        | 全員                                              |
| 5                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | チームで討議              | 課題に対する評価（計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等）             | 全員                                              |
| 6                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | IPE の基礎             | ・IPE 展開のための基礎知識<br>・医療と福祉の接点                         | 全員                                              |
| 7                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | 医療専門職の種類と機能①        | 医師、放射線技師、管理栄養士の役割・教育・機能                              | 全員                                              |
| 8                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | 医療専門職の種類と機能②        | 看護師、薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能                               | 全員                                              |
| 9                                                                                                                                                                                                                                 | 月<br>日  | 医療専門職の種類と機能③        | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能                          | 全員                                              |
| 10                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日  | 医療福祉専門職間の連携         | 専門職連携の理論と実際                                          | 全員                                              |
| 11                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日  | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学習 GW                                          | 全員                                              |
| 12                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日  | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学習 GW                                          | 全員                                              |
| 13                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日  | ふれあい体験振り返り          | 体験学習を振り返り意見交換を行う 発表準備                                | 全員                                              |
| 14                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日  | グループ発表              | 各グループ発表                                              | 全員                                              |
| 15                                                                                                                                                                                                                                | 月<br>日  | 総括                  | 自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる                        | 全員                                              |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                               |         | 課題レポート(100%)        |                                                      |                                                 |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                               |         | 講師資料                |                                                      |                                                 |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                             |         |                     |                                                      |                                                 |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                              |         |                     |                                                      |                                                 |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                          |         |                     |                                                      |                                                 |

| 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」                                                                                                                                                                                               |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                  | 授業形態                             | 単位数<br>(時間数)           | 配当年次                                                        | 担 当 教 員                                                                                               |
| 専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）                                                                                                                                                                                                         | 演習                               | 1 単位<br>(30 時間)        | 2 年前期                                                       | 白石裕子 田中裕二 竹元仁美 寺岡祥子 松本宗賢<br>池田敏子 岩倉真由美 開田ひとみ 弓岡光徳<br>溝田勝彦 永崎孝之 田中真一 阿波那彦 古後晴基<br>中山広宣 小西紀一 山根伸吾 江口喜久雄 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                    |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。 |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                       |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 1. ICF の概念を活用して事例の課題を抽出することができる<br>2. 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる<br>3. 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる<br>4. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる<br>5. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べることができる                               |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事前学修・事後学修                                                                                                                                                                                                                  |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学修：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                         |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                   |                                  | (DP1)                  | (DP2)                                                       | (DP3)                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                                                                            | ○                                | (DP4)                  | ◎ (DP5)                                                     | (DP6)                                                                                                 |
| 回数                                                                                                                                                                                                                         | 日程                               | 単 元                    | 内 容                                                         | 担当教員                                                                                                  |
| 1                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 授業ガイダンス                | 授業の概要 ICF（国際生活機能分類）について グループワークの進め方<br>教員紹介、自己紹介、学科紹介の検討・準備 | 全員                                                                                                    |
| 2                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 3                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 4                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 5                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | ICF に基づく仮題の明確化（アセスメント） | 事例紹介、事例についての検討<br>（ディスカッションに基づいた事例についての ICF を用いた課題抽出）       | 全員                                                                                                    |
| 6                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 総合サービスの計画（計画立案）        | 事例についての検討（ディスカッションに基づいたグループでの目標設定、総合サービスの計画作成、他職種の理解）       | 全員                                                                                                    |
| 7                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 8                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 9                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | プレゼンテーション（実施）          | グループごとに中間発表、意見交換                                            | 全員                                                                                                    |
| 10                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 11                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 12                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 13                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 14                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | プレゼンテーション（総括）          | 予選会で選ばれた 5 グループで全体発表を行う                                     | 全員                                                                                                    |
| 15                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | 総合評価                   | 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する                                     | 全員                                                                                                    |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                        | 課題レポート（100％）                     |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                        | 講師資料                             |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                      |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                       |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                   | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |                        |                                                             |                                                                                                       |



【旧】シラバス「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」

| 授 業 科 目 名          | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                               |
|--------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 2 年前期 | 白石裕子 田中裕二 竹元仁美 寺岡祥子 松本宗賢<br>池田敏子 岩倉真由美 開田ひとみ 弓岡光徳<br>溝田勝彦 永崎孝之 田中真一 阿波那彦 野中紘士<br>中山広宣 小西紀一 山根伸吾 江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                    |          |       |         |       |       |   |       |         |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------|---------|-------|-------|---|-------|---------|-------|
| 保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。 |          |       |         |       |       |   |       |         |       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                    |          |       |         |       |       |   |       |         |       |
| 1. ICF の概念を活用して事例の課題を抽出することができる<br>2. 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる<br>3. 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる<br>4. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる<br>5. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べることができる                               |          |       |         |       |       |   |       |         |       |
| 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習                                                                                                                                                                                                          |          |       |         |       |       |   |       |         |       |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                         |          |       |         |       |       |   |       |         |       |
| <table><tr><td rowspan="2">対応<br/>DP</td><td></td><td>(DP1)</td><td>(DP2)</td><td>(DP3)</td></tr><tr><td>○</td><td>(DP4)</td><td>◎ (DP5)</td><td>(DP6)</td></tr></table>                                                   | 対応<br>DP |       | (DP1)   | (DP2) | (DP3) | ○ | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                   |          |       | (DP1)   | (DP2) | (DP3) |   |       |         |       |
|                                                                                                                                                                                                                            | ○        | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |       |   |       |         |       |

| 回数 | 日程     | 単 元                    | 内 容                                                         | 担当教員 |
|----|--------|------------------------|-------------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業ガイダンス                | 授業の概要 ICF（国際生活機能分類）について グループワークの進め方<br>教員紹介、自己紹介、学科紹介の検討・準備 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | ICF に基づく仮題の明確化（アセスメント） | 事例紹介、事例についての検討<br>（ディスカッションに基づいた事例についての ICF を用いた課題抽出）       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | 総合サービスの計画（計画立案）        | 事例についての検討（ディスカッションに基づいたグループでの目標設定、総合サービスの計画作成、他職種の理解）       | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | プレゼンテーション（実施）          | グループごとに中間発表、意見交換                                            | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | プレゼンテーション（総括）          | 予選会で選ばれた 5 グループで全体発表を行う                                     | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 総合評価                   | 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する                                     | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート（100％） |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

| 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」                                                                                                                                                                                                     |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業科目名                                                                                                                                                                                                                               | 授業形態         | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次                                     | 担当教員                                                                                                                                                                                                         |
| 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）                                                                                                                                                                                                               | 演習           | 1 単位<br>(30 時間) | 3 年前期                                    | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香<br>岩倉真由美 中本亮 松井聡子 大村由紀美<br>八谷瑞紀 岡真一郎 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡太<br>岡本伸弘 松本典久 弓岡光徳 原田伸哉 坪内優太<br>中山広宣 田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾<br>江口喜久雄、角田孝行、太田研吾 |
| 授業概要                                                                                                                                                                                                                                |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。 |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 1. 選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>2. チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる<br>3. チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる<br>4. 自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる<br>5. 他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる                                           |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 事前学修・事後学修                                                                                                                                                                                                                           |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む                                                                                                                                                                                                          |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする                                                                                                                                                                                                          |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                  | (DP1)        | (DP2)           | (DP3)                                    |                                                                                                                                                                                                              |
| DP                                                                                                                                                                                                                                  | ○ (DP4)      | ◎ (DP5)         | (DP6)                                    |                                                                                                                                                                                                              |
| 回数                                                                                                                                                                                                                                  | 日程           | 単 元             | 内 容                                      | 担当教員                                                                                                                                                                                                         |
| 1                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 検討事例の決定         | チーム作り（自己紹介 チームリーダー選択 メンバーの役割決定）<br>事例の共有 | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 2                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | アセスメント          | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 3                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | アセスメント          | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 4                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 計画立案            | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 5                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 計画立案            | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 6                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 協働実施（計画立案）      | 看護、理学、作業の分野で実施する計画を討議する                  | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 7                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 実施              | シミュレーションで実施                              | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 8                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 評価              | 実施状況をビデオで振り返る。                           | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 9                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日          | 事例に基づき検討        | 各 G の内容を発表する                             | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 10                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日          | 事例に基づき検討        | 各 G の内容を発表する                             | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 11                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日          | 専門職連携について全体討議   | 各グループ発表を通して全体で討議                         | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 12                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日          | 患者の立場から         | 患者の立場からみた専門職連携の現状と課題                     | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 13                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日          | 専門職連携の現状と課題     | 専門職連携の現状と課題                              | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 14                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日          | 行政の役割           | 行政から見た専門職連携の必要性と課題                       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 15                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日          | 専門職連携について       | まとめ                                      | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                                 | 課題レポート（100%） |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                                 | 講師資料         |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                               |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                                |              |                 |                                          |                                                                                                                                                                                                              |

|                                                                                                                                                                                                                                     |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------|------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                            |     | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」                                                                                                                                                                                                     |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                           |     | 授業形態                             | 単位数<br>(時間数)                             | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                      |
| 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）                                                                                                                                                                                                               |     | 演習                               | 1 単位<br>(30 時間)                          | 3 年前期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香<br>岩倉真由美 中本亮 松井聡子 大村由紀美<br>八谷瑞紀 光武翼 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡太<br>岡本伸弘 野中嘉代子 大田瑞穂 原田伸哉 坪内優太<br>中山広宣 田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾<br>江口喜久雄、角田孝行、太田研吾 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                             |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。 |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 1. 選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>2. チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる<br>3. チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる<br>4. 自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる<br>5. 他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる                                           |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 事前学習・事後学習                                                                                                                                                                                                                           |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする                                                                                                                                                                            |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                  |     | (DP1)                            |                                          | (DP2) | (DP3)                                                                                                                                                                                                        |
| DP                                                                                                                                                                                                                                  | ○   | (DP4)                            | ◎                                        | (DP5) | (DP6)                                                                                                                                                                                                        |
| 回数                                                                                                                                                                                                                                  | 日程  | 単 元                              | 内 容                                      |       | 担当教員                                                                                                                                                                                                         |
| 1                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 検討事例の決定                          | チーム作り（自己紹介 チームリーダー選択 メンバーの役割決定）<br>事例の共有 |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 2                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | アセスメント                           | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 3                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | アセスメント                           | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 4                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 計画立案                             | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 5                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 計画立案                             | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 6                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 協働実施（計画立案）                       | 看護、理学、作業の分野で実施する計画を討議する                  |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 7                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 実施                               | シミュレーションで実施                              |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 8                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 評価                               | 実施状況をビデオで振り返る。                           |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 9                                                                                                                                                                                                                                   | 月 日 | 事例に基づき検討                         | 各 G の内容を発表する                             |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 10                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日 | 事例に基づき検討                         | 各 G の内容を発表する                             |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 11                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日 | 専門職連携について全体討議                    | 各グループ発表を通して全体で討議                         |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 12                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日 | 患者の立場から                          | 患者の立場からみた専門職連携の現状と課題                     |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 13                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日 | 専門職連携の現状と課題                      | 専門職連携の現状と課題                              |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 14                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日 | 行政の役割                            | 行政から見た専門職連携の必要性和課題                       |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 15                                                                                                                                                                                                                                  | 月 日 | 専門職連携について                        | まとめ                                      |       | 全員                                                                                                                                                                                                           |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                                 |     | 課題レポート（100%）                     |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                                 |     | 講師資料                             |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                               |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                                |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                            |     |                                  |                                          |       |                                                                                                                                                                                                              |

【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香 岩倉真由美<br>中本亮 松井聡子 大村由紀美 八谷瑞紀 岡真一郎<br>齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 松本典久<br>弓岡光徳 原田伸哉 坪内優太 近藤敏 中山広宣<br>田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾 近藤昭彦<br>江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                                    |   |       |         |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------|---------|-------|
| 患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実際についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。 |   |       |         |       |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                       |   |       |         |       |
| 1. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる                                                                                                                                                                                                              |   |       |         |       |
| 2. チームメンバーおよび関わる多様な専門職と、良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる                                                                                                                                                                                        |   |       |         |       |
| 3. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる                                                                                                                                                                                                       |   |       |         |       |
| 4. 患者への全人的評価に基づいた計画を、チームとして立案できる                                                                                                                                                                                                           |   |       |         |       |
| 5. 専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識をチーム計画に反映できる                                                                                                                                                                                                      |   |       |         |       |
| 事前学修・事後学修                                                                                                                                                                                                                                  |   |       |         |       |
| 事前学修：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる                                                                                                                                                                                                        |   |       |         |       |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                                                                           |   |       |         |       |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                         |   | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
| DP                                                                                                                                                                                                                                         | ○ | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                | 内 容                                                      | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|----------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業概要               | 授業ガイダンス<br>事例を割り当ててグループを分ける                              | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 患者情報収集①-           | 対象の背景の情報をカルテより情報収集を行い、患者、利用者から必要となる情報収集の内容（問診、身体所見）を整理する | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 患者情報収集②            | シミュレーション下で患者（シミュレーター or 模擬患者）から情報収集を行う。                  | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 自職種のアセスメント         | 自職種で患者の問題点を明確にする                                         | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームでの問題の明確化        | 目標を決定し、実践、計画について議論する                                     | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チーム計画①             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | チーム計画②             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 学修成果発表の準備          | 学修成果発表の準備                                                | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅰ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅱ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅲ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅳ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携の実践<br>授業のまとめ | 専門職連携の実践 今後の課題と IPW に向けて、授業の振り返り                         | 全員   |

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%)                     |
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香 岩倉真由美<br>中本亮 松井聡子 大村由紀美 八谷瑞紀 光武翼<br>齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 野中嘉代子<br>大田瑞穂 原田伸哉 坪内優太 近藤敏 中山広宣<br>田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾 近藤昭彦<br>江口喜久雄 |

授 業 概 要

患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実践についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。

- 到達目標
1. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる
  2. チームメンバーおよび関わる多様な専門職と、良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる
  3. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる
  4. 患者への全人的評価に基づいた計画を、チームとして立案できる
  5. 専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識をチーム計画に反映できる

| 事前学習・事後学習                           |         |         |       |  |  |
|-------------------------------------|---------|---------|-------|--|--|
| 事前学習：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる |         |         |       |  |  |
| 事後学習：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する    |         |         |       |  |  |
| 対応                                  | (DP1)   | (DP2)   | (DP3) |  |  |
| DP                                  | ○ (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |  |  |

| 回数 | 日程     | 単 元                | 内 容                                                      | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|----------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業概要               | 授業ガイダンス<br>事例を割り当ててグループを分ける                              | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 患者情報収集①            | 対象の背景の情報をカルテより情報収集を行い、患者、利用者から必要となる情報収集の内容（問診、身体所見）を整理する | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 患者情報収集②            | シミュレーション下で患者（シミュレーター or 模擬患者）から情報収集を行う。                  | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 自職種のアセスメント         | 自職種で患者の問題点を明確にする                                         | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームでの問題の明確化        | 目標を決定し、実践、計画について議論する                                     | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チーム計画①             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | チーム計画②             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 学習成果発表の準備          | 学習成果発表の準備                                                | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅰ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅱ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅲ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅳ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携の実践<br>授業のまとめ | 専門職連携の実践 今後の課題と IPW に向けて、授業の振り返り                         | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%) |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

## (是正事項) 看護学部 看護学科

8. 学習成果の評価について、以下について説明すること。(是正事項)

- (1)「各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す」とあるが、趣旨が不明確であるため、例を示しながら具体的に説明すること。

## (対応)

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 (平成 30) 年 11 月 26 日 中央教育審議会答申)によると、大学教育の質の保証をするために、第一義的には大学自らが率先して教育の質の保証に取り組むことが重要であると述べられており、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営(教学マネジメント)」の確立が求められています。

本学も教学マネジメントの確立のため、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を展開します。各科目とディプロマ・ポリシーの関係性を吟味し、科目の到達目標がディプロマ・ポリシーに示される能力に反映できるかを定量的に検討することを趣旨として、学修成果の評価に「学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。」と記載しました。

具体的には、①各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させること、②各科目の到達目標に対する達成度を提出物・期末試験等の評価を通じて定量的に行うこと等を実施し、各科目への評価を通じ、ディプロマ・ポリシーに記載された能力が確実に身につくよう評価を実施します。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《64 ページ》</p> <p><b>4-2 教育課程編成の基本的な考え方</b></p> <p>令和健康科学大学（仮称）において教育課程の編成は学則で定める。学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また、学年を分けて2学期制とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>授業科目は、基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つに区分する。</p> <p>各授業科目の単位を定めるにあたっては、大学設置基準〈文部省令第28号・1956（昭和31）年10月22日〉（以下、設置基準という）に基づき、講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とし、実習（学内での実習は45時間をもって1単位としている。なお、講義は講師（指導者）が学修内容を伝達する手法を主とする授業形態であり、演習は学修内容を模擬的・総合的に学修者に体験さ</p> | <p>《46 ページ》</p> <p><b>4-2 教育課程編成の基本的な考え方</b></p> <p>令和健康科学大学（仮称）において教育課程の編成は学則で定める。学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また、学年を分けて2学期制とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>授業科目は、基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つに区分する。</p> <p>各授業科目の単位を定めるにあたっては、大学設置基準〈文部省令第28号・1956（昭和31）年10月22日〉（以下、設置基準という）に基づき、講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とし、実習（学内での実習は45時間をもって1単位としている。なお、講義は講師（指導者）が学修内容を伝達する手法を主とする授業形態であり、演習は学修内容を模擬的・総合的に学修者に体験さ</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>せ伝える手法を主とした授業形態としている。即ち、主体的・対話的で深い学びの視点を主とした場合、本学では演習に相当するものと定義する。</p> <p>各授業科目の授業は前期 15 週、後期 15 週を基本としている。</p> <p><u>「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 (平成 30) 年 11 月 26 日 中央教育審議会答申)によると、大学教育の質の保証をするために、第一義的には大学自らが率先して教育の質の保証に取り組むことが重要であると述べられており、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営(教学マネジメント)」の確立が求められている。</u></p> <p><u>本学も教学マネジメントの確立のため、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を展開する。各科目とディプロマ・ポリシーの関係性を吟味し、科目の到達目標がディプロマ・ポリシーに示される能力に反映できるかを定量的に検討し、学修成果の評価あたる。</u></p> <p>《70 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。<u>具体的には「各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させること」「各科目の到達目標に対する達成度を提出物・期末試験等の評価を通じて定量的に行うこと」等を実施し、各科目への評価を通じ、ディプロマ・ポリシーに記載された能力が確実に身につくよう評価を実施する。</u></p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の</p> | <p>せ伝える手法を主とした授業形態としている。即ち、主体的・対話的で深い学びの視点を主とした場合、本学では演習に相当するものと定義する。</p> <p>各授業科目の授業は前期 15 週、後期 15 週を基本としている。</p> <p>《52 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> |

| 新        | 旧 |
|----------|---|
| 改善に役立てる。 |   |

(2)GPA については導入することのみが記載されており、内容が不明確であるため、詳細に説明すること。

(対応)

各学期（前期・後期）に区分して履修した全科目について、1 単位当たりの成績の平均値を 5 点満点の評価値（Grade Point Average：GPA）に換算し、当該値を成績評価に用います。

GPA を求めるため、各科目の粗点を 10 で除した後に 5 を減じた値を GP（Grade Point）として変換します（ただし、 $GP \geq 0$  とし、 $GP < 0$  の場合は全て 0 とします）。

全科目の GP と単位数の合計との積を履修登録した科目の単位の合計で除した値を GPA とします。得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者選定、特待生制度の継続判定、学生自身の目標に対する自己評価指標等の際にも参考値として用いる予定です。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《70～71 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA（Grade Point Average）を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> <p><u>GPA を求めるため、各科目の粗点を 10 で除した後に 5 を減じた値を GP（Grade Point）として変換しする（ただし、<math>GP \geq 0</math> とし、<math>GP &lt; 0</math> の場合は全て 0 とする）。</u></p> <p><u>全科目の GP と単位数の合計との積を履修登録した科目の単位の合計で除した値を GPA とする。得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配</u></p> | <p>《52 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA（Grade Point Average）を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> |



| 新                                                                             | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------|---|
| <u>置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者選定、特待生制度の継続判定、学生自身の目標に対する自己評価指標等の際にも参考値として用いる予定である。</u> |   |

(3)シラバスに記載された成績評価指標について、「客観試験」「技術試験」「定期試験」等の趣旨の不明確な指標が見受けられることから、客観的評価が可能な指標かについても検討の上、適切に改めるとともに、評価方法ごとの割合などについては、シラバスにも記載し、学生に適切に周知すること。

(対応)

シラバスに「客観試験」、「技術試験」、「定期試験」等の表記揺れや、趣旨の不明確な指標が認められます。客観的評価が可能である成績評価指標であることを再度学内で検討し、下記の通り、評価指標を統一しました。

また、各科目における成績判定については、当該評価指標の割合についてシラバスにも記載し、学生に適切に周知することとします。

(新旧対照表) シラバス 評価 (看護学部看護学科)

| 新    | 旧    |
|------|------|
| 筆記試験 | 客観試験 |
| 実技試験 | 技術試験 |

(新旧対照表) シラバス 評価 (リハビリテーション学部 作業療法学科)

| 新    | 旧    |
|------|------|
| 筆記試験 | 客観試験 |
| 筆記試験 | 定期試験 |
| 筆記試験 | 期末試験 |

(新旧対照表) シラバス 評価 (リハビリテーション学部 理学療法学科)

| 新    | 旧      |
|------|--------|
| 筆記試験 | 定期試験   |
| 筆記試験 | 試験     |
| 筆記試験 | 最終試験   |
| 筆記試験 | 期末試験   |
| 筆記試験 | 期末筆記試験 |
| 筆記試験 | 記述試験   |

(改善事項) 看護学部 看護学科

9. シラバスにオフィスアワーに関する記載がなされていないため、明確にすること。(改善事項)

(対応)

各シラバスのオフィスアワーを空欄にしていたため、担当教員の授業、会議、研究等の予定と照合しながら現時点での状況で記載しました。

## (是正事項) 看護学部 看護学科

10. 設置の趣旨の説明において、本学の特色の一つに「充実した ICT 環境による自由度の高い学習支援 (ICT 教育)」を掲げているが、教育課程をみると、1 年次の「医療と情報リテラシー」のみと見受けられ、また、「一部の授業について学習用動画を作成し」「学修できる教材を整備する」、「遠隔教育の整備をする」等、ICT の活用が強調されているが、講義・演習・実習科目等多様な授業形態がある中でどの授業でどのように活用されるか不明確であるため、その妥当性も含め具体的に説明すること。(是正事項)

## (対応)

全学生及び全教員に iPad®等のタブレットデバイスを整備し、誰でも、どこでも、何度でも利用・学修できる環境とします。また、授業の出欠管理・連絡の伝達や履修状況の確認等もタブレット端末を用いて行わせることとします。

可能な限り教科書を電子書籍とし、各授業のダイジェストを 5～10 分程度の動画として本学の限定公開とし、学生の予習・復習に利用させ、学修効果をより高まるようにします。

学内の学修において、実際の臨床場面の現実感 (reality) をもたせるため、AR (Augmented reality: 拡張現実) や VR (virtual reality: 仮想現実) といった技術を取り入れることで、技術・技能の向上のみならず、モチベーションを高める効果を期待します。

授業形態ごとの ICT の活用については以下を想定しております。

|      |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義形式 | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理 (ファイリング) することで知識の整理を容易にします。 |
| 演習形式 | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にします。                |
| 実習形式 | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子カルテに対応できるようにします。                                         |

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《51～55 ページ》</p> <p><b>2-2 看護学部・看護学科の特色</b></p> <p>看護学部・看護学科では、【中略】</p> <p>2) 充実した ICT 環境による自由度の高い学修支援 (ICT 教育)</p> <p>情報の収集・分析・評価・要約・創造・表現能力を重点目的として ICT 教育の充実を図る。教員主導の教育から学修者中心の教育へ移行すべく、教員の一斉指導から学生の自己調整と</p> | <p>《35～38 ページ》</p> <p><b>2-2 看護学部・看護学科の特色</b></p> <p>看護学部・看護学科では、【中略】</p> <p>2) 充実した ICT 環境による自由度の高い学修支援 (ICT 教育)</p> <p>情報の収集・分析・評価・要約・創造・表現能力を重点目的として ICT 教育の充実を図る。教員主導の教育から学修者中心の教育へ移行すべく、教員の一斉指導から学生の自己調整と</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------|------|----------------------------|--|
| <p>協働へ転換を図る。そして、授業といったピンポイントで活用するにとどまらず、学修者の日常へと範囲を拡大していく、いわば教具ではなく、文具としての ICT にその範囲を拡充することに努めていく。これにより、課題評価に基づくツールの選択能力が高まることが期待できる。</p> <p><u>また、学内の学修において、実際の臨床場面の現実感（reality）をもたせるため、AR（Augmented reality：拡張現実）や VR（virtual reality：仮想現実）といった技術を取り入れることで、技術・技能の向上のみならず、モチベーションを高める効果を期待できる。</u></p> <p>対象となる専門基礎分野、専門分野の一部の授業について、学修用動画を作成し、「いつでも」・「どこでも」・「何度でも」学修できる教材を整備するとともに、学年を跨いだ自由度の高い学修環境を構築することを目標とする。</p> <p>国家試験合格に向けた学修教材としてのドリルや、日々の学修記録活動の実施、臨地実習用の模擬カルテの作成（認知スキルループリッ、運動スキルチェックリストを含む）等にも ICT 教育を導入していく予定である。</p> <p><u>授業形態ごとの具体的な ICT 活用については以下を想定している。</u></p> | <p>協働へ転換を図る。そして、授業といったピンポイントで活用するにとどまらず、学修者の日常へと範囲を拡大していく、いわば教具ではなく、文具としての ICT にその範囲を拡充することに努めていく。これにより、課題評価に基づくツールの選択能力が高まることが期待できる。</p> <p>対象となる専門基礎分野、専門分野の一部の授業について、学修用動画を作成し、「いつでも」・「どこでも」・「何度でも」学修できる教材を整備するとともに、学年を跨いだ自由度の高い学修環境を構築することを目標とする。</p> <p>国家試験合格に向けた学修教材としてのドリルや、日々の学修記録活動の実施、臨地実習用の模擬カルテの作成（認知スキルループリッ、運動スキルチェックリストを含む）等にも ICT 教育を導入していく予定である。</p> |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 1402 384 1682">講義形式</td><td data-bbox="384 1402 799 1682">配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理（ファイリング）することで知識の整理を容易にする</td></tr> <tr> <td data-bbox="225 1682 384 1917">演習形式</td><td data-bbox="384 1682 799 1917">デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にする</td></tr> <tr> <td data-bbox="225 1917 384 2018">実習形式</td><td data-bbox="384 1917 799 2018">授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子</td></tr> </table>                                                                                          | 講義形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理（ファイリング）することで知識の整理を容易にする | 演習形式 | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にする | 実習形式 | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子 |  |
| 講義形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理（ファイリング）することで知識の整理を容易にする                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
| 演習形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にする                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
| 実習形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧              |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <table border="1" data-bbox="221 237 802 333"> <tr> <td data-bbox="221 237 381 333"></td><td data-bbox="381 237 802 333">カルテに対応できるようにする</td></tr> </table> <p>3) 自己学修を支援する学修環境</p> <p>自己学修の環境整備とは、事前・事後学修の環境を整備していくことである。理想的には内発的動機付けの下における事前・事後学修であるが、学修方略の教育を含め、eラーニングを中心に自己学修支援を図る。<u>具体的には、可能な限り教科書を電子書籍とし、各授業のダイジェストを 5～10 分程度の動画として本学の限定公開とし、学生の予習・復習に利用させ、学修効果をより高まるようにする。</u>また、看護技術については、事前に撮影した動画で教材を作成し、教室外の学内・自宅、あるいは臨地実習中でも自己学修できる環境をつくる。また、学内の実習室は常に開放し、「演習」・「臨地実習」の後、技術試験の前等、いつでも看護技術を練習できる環境を整備する。</p> <p>4) いつでも、どこでも学修できる環境（ICT 教育）</p> <p>本学では eラーニングの環境を整備する。<u>教員及び学生は本学が整備する iPad®等のタブレット型コンピューターを利用できるため、資料の一元化が可能となる。</u>また、学生は、自宅でも学内と同じように、学生同士や教員との協同学修の充実を図ることができる。学修は PDF の資料を基に進めていき、PDF 資料にメモや教員からのコメントを残すことができ、さらに、その資料を PDF にすることもできるため、学生それぞれの能力にあった資料を学生自身で作成することができる。</p> <p>学修管理システム（Learning Management System : LMS）を導入することで、PDF 資料の提供、課題提出、講義動画の閲覧、シミュレーション実践の動画閲覧、授業の予習・復習、掲示板を使ったディスカッション等の学修環</p> |                | カルテに対応できるようにする | <p>3) 自己学修を支援する学修環境</p> <p>自己学修の環境整備とは、事前・事後学修の環境を整備していくことである。理想的には内発的動機付けの下における事前・事後学修であるが、学修方略の教育を含め、eラーニングを中心に自己学修支援を図る。また、看護技術については、事前に撮影した動画で教材を作成し、教室外の学内・自宅、あるいは臨地実習中でも自己学修できる環境をつくる。また、学内の実習室は常に開放し、「演習」・「臨地実習」の後、技術試験の前等、いつでも看護技術を練習できる環境を整備する。</p> <p>4) いつでも、どこでも学修できる環境（ICT 教育）</p> <p>本学では eラーニングの環境を整備する。学生は本学が整備するタブレット型コンピューターを利用できるため、資料の一元化が可能となる。また、学生は、自宅でも学内と同じように、学生同士や教員との協同学修の充実を図ることができる。学修は PDF の資料を基に進めていき、PDF 資料にメモや教員からのコメントを残すことができ、さらに、その資料を PDF にすることもできるため、学生それぞれの能力にあった資料を学生自身で作成することができる。</p> <p>学修管理システム（Learning Management System : LMS）を導入することで、PDF 資料の提供、課題提出、講義動画の閲覧、シミュレーション実践の動画閲覧、授業の予習・復習、掲示板を使ったディスカッション等の学修環</p> |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | カルテに対応できるようにする |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>境を提供することができる。学修する場所は教室内にとどまらず、いつでも、どこでも学修することができ、効率よく学修できる環境を整備している。また、遠隔教育の整備として、Live配信、オンデマンド型での学修もできるため、通常の授業から非常事態時の対応を含め、柔軟性の高い学修環境を整備する。遠隔教育の一環として教員と学生の相談等にも十分対応できるため、効率性の高い学修が可能であるといえる。</p> <p>5) 担任制とチューター制を併用したきめ細やかな学修及び生活指導</p> <p>一人の学生に対して、担任とチューターを配置することで、いつでも相談しやすい環境を整備し、教育の充実を図る。</p> <p>前述のとおり ICT を活用した国家試験合格に向けた学修、ICT を活用した日々の学修記録活動による自己調整学修能力の育成、ICT を活用した学生カルテの作成（成績・面談記録等）を補助的に用いて面談を実施し学生の状況把握に努めるものとする。<u>また、授業の出欠管理・連絡の伝達や履修状況の確認等もタブレット端末を用いて行わせることとする。</u></p> | <p>境を提供することができる。学修する場所は教室内にとどまらず、いつでも、どこでも学修することができ、効率よく学修できる環境を整備している。また、遠隔教育の整備として、Live配信、オンデマンド型での学修もできるため、通常の授業から非常事態時の対応を含め、柔軟性の高い学修環境を整備する。遠隔教育の一環として教員と学生の相談等にも十分対応できるため、効率性の高い学修が可能であるといえる。</p> <p>5) 担任制とチューター制を併用したきめ細やかな学修及び生活指導</p> <p>一人の学生に対して、担任とチューターを配置することで、いつでも相談しやすい環境を整備し、教育の充実を図る。</p> <p>前述のとおり ICT を活用した国家試験合格に向けた学修、ICT を活用した日々の学修記録活動による自己調整学修能力の育成、ICT を活用した学生カルテの作成（成績・面談記録等）を補助的に用いて面談を実施し学生の状況把握に努めるものとする。</p> |

## (改善事項) 看護学部 看護学科

1 1. 語学教育として、英語に加えて中国語又は韓国語が必修科目とされている趣旨について説明すること。(改善事項)

## (対応)

本学は福岡県に位置しており、学生の大半は福岡県より募集し、かつ、福岡県に就職することを想定しています。2018（平成 30）年 12 月末における福岡県内の在留外国人数は総数 77,044 人であり、国籍別順位をみると第 1 位が中国で 20,580 人（26.7%）、第 2 位が韓国・朝鮮の 16,797 人（21.8%）と、中国人または韓国・朝鮮人で全体の約半数を占めています。本学の位置する福岡県においては、医療を必要とする外国人の約 5 割は中国人或いは韓国・朝鮮人が占めていると考えられ、英語を必修とすると共に、中国語または韓国語を選択必修にすることで、本学が輩出する看護師、理学療法士、作業療法士は治療対象となる外国人へ何らかしらの意思疎通やコミュニケーションができるようになることを趣旨としています。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と高度化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> <p><u>2018（平成 30）年 12 月末における福岡県内の在留外国人数は総数 77,044 人であり、国籍別順位をみると第 1 位が中国で 20,580 人（26.7%）、第 2 位が韓国・朝鮮の 16,797 人（21.8%）と全体の約半数を占めている。本学を設置しようとする福岡県においては、医療を必要とする外国人の約 5 割は中国人及び韓国人が占めていると考えられ、英語と共に中国語・韓国語といった言語の必要性は高い。本学では英語を必修とすると共に、中国語または韓国語を選択必修にすることで、本学が輩出する看護師、理学療法士、作業療法士は治療対象となる外国人へ何らかしらの意思疎通やコミュニケーションができるようになることを期待している。</u></p> | <p>《5 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と複雑化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

(改善事項) 看護学部 看護学科

12. 科目の名称について、「カウンセリング」など、大学の科目の名称らしくないものが散見されるため、適切に修正すること。(改善事項)

(対応)

学内で協議を実施しました。一部の科目の名称について、専門的にみて一般的で、かつ大学の科目として相応しいものとなるよう修正します。修正した内容は下記「表1. 科目名の新旧対照表」にまとめます。

表1. 科目名の新旧対照表

| 新          | 旧         |
|------------|-----------|
| カウンセリング論   | カウンセリング   |
| リスクマネジメント論 | リスクマネジメント |
| 看護管理学      | 看護管理      |
| 国際看護学      | 国際看護論     |



## (是正事項) 看護学部 看護学科

13. 「統合演習」において、第2回から第4回に OSCE に関する授業を実施する計画とされているが、その趣旨が不明確であるため、本授業における OSCE の位置付けを明確にした上で、妥当性を説明するか、必要に応じて修正すること。(是正事項)

## (対応)

統合演習は看護技術を主にした臨床技能と、科学的根拠に基づく看護実践について、臨地実習を含め4年間で学修した内容を振り返る科目として開設し、その中の OSCE は看護実践の修得を評価することを目的として位置付けています。

第2回から第4回に実施を計画している OSCE に関する授業は、OSCE を形成的評価として捉え、学生が臨地実習での経験と学内での学修・演習とを統合させ、振り返りを行うことで、自身の能力や課題を明確にすることを可能とし、卒業後の看護実践へつなげていくことを趣旨としています。

一方で、OSCE は総括的評価との認識が一般的ですので、当該評価法の名称を「看護技能評価」と改めます。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《67～68 ページ》</p> <p><b>4-2-3-1 教育内容</b></p> <p><b>1年次</b>： 「基幹分野」を中心に「専門基礎分野」「専門分野」を履修する。【中略】</p> <p><b>4年次</b>： 「専門分野」の臨地実習は、急性期・終末期にある人や家族を対象とした内容で、人間の存在や看護の奥深さについて考え、全人的理解や看護実践を学ぶ。統合実習ではチームの一員として、さらに管理の面からも実践力に結びつくように学ぶ。看護を幅広く理解するために<u>国際看護学</u>や災害看護も学ぶ。卒業研究では看護を学んでの疑問や関心のある内容について、科学的根拠を探究するプロセスを学ぶことで看護実践や看護学の発展に寄与できる基礎的能力を身につける。</p> <p>また、統合実習では看護技術を主にした臨床技能と、科学的根拠に基づく看護実践について、臨地実習を含め4年間で学修した内容を振り返り、その中の OSCE は看護実践の修得を評価することを目的としている。</p> | <p>《49 ページ》</p> <p><b>4-2-3-1 教育内容</b></p> <p><b>1年次</b>： 「基幹分野」を中心に「専門基礎分野」「専門分野」を履修する。【中略】</p> <p><b>4年次</b>： 「専門分野」の臨地実習は、急性期・終末期にある人や家族を対象とした内容で、人間の存在や看護の奥深さについて考え、全人的理解や看護実践を学ぶ。統合実習ではチームの一員として、さらに管理の面からも実践力に結びつくように学ぶ。看護を幅広く理解するために国際看護論や災害看護も学ぶ。卒業研究では看護を学んでの疑問や関心のある内容について、科学的根拠を探究するプロセスを学ぶことで看護実践や看護学の発展に寄与できる基礎的能力を身につける。</p> |

(新旧対照)

【新】シラバス「統合演習」

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                 |
|-----------|------|-----------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 統合演習      | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 苑田裕樹 増山純二 辻慶子 神島滋子 竹元仁美<br>児玉裕美 川本起久子 梅木彰子 開田ひとみ 寺岡祥<br>子松井聡子 大村由紀美 島村美香 別城佐和子 松本<br>宗賢 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                       |         |       |       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------|-------|
| <p>学内演習、実習で実践した内容を振り返る目的として、高規格シミュレーターを用い、健康課題を持つ対象者に対し全人的ケア、ヒューマンケア（倫理的な価値）を基盤に、特定の健康課題に対して、科学的根拠（EBN）に基づいた看護実践と生活を支えるケアを実践する。また、多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの一員の役割について再考する。そのうえで、健康を科学する看護の本質について課題を見出し主体的に探究する。</p>      |         |       |       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                       |         |       |       |
| <p>1. 看護実践能力の課題と今後の取り組みについて明確にすることができる</p> <p>2. 看護技能評価を受け、看護技術を修得することができる</p> <p>3. 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる</p> <p>4. 高規格シミュレーター（もしくは、模擬患者）を使った看護過程学修を受け、健康を科学する看護の本質について課題を見出し主体的に探究することができる</p> |         |       |       |
| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修                                                                                                                                                                                                             |         |       |       |
| <p>事前学修：予習のための小テストを実施して授業に臨む</p> <p>事後学修：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめる</p>                                                                                                                                                            |         |       |       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                      | ○ (DP1) | (DP2) | (DP3) |
|                                                                                                                                                                                                                               | ◎ (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                         | 内 容                                | 担当教員 |
|----|--------|-----------------------------|------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | ガイダンス                       | 統合看護演習の目的/学修の進め方/グループ分けの説明         | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 看護技術①                       | 看護技能評価：看護技術①                       | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 看護技術②                       | 看護技能評価：看護技術②                       | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 看護技術③                       | 看護技能評価：看護技術③                       | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(成人看護学：急性期) ① | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(成人看護学：急性期) ② | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(成人看護学：慢性期) ① | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(成人看護学：慢性期) ② | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(小児看護学) ①     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(小児看護学) ②     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(母性看護学) ①     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(母性看護学) ②     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(在宅看護学) ①     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 事例に基づく看護過程<br>(在宅看護学) ②     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | リフレクション                     | 看護実践力の課題と今後の取り組みについて明確にする（グループワーク） | 全員   |

|          |                                       |
|----------|---------------------------------------|
| 評 価      | 看護技能評価(30%)、看護過程レポート(30%)、課題レポート(40%) |
| 教科書      | 講師資料                                  |
| 参考図書等    |                                       |
| 留意事項     |                                       |
| オフィスアワー等 | 月曜日（17 時～18 時）・水曜日（17 時～19 時）研究室      |

| 【旧】シラバス「統合演習」                                                                                                                                                                                                                                                 |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                                                     | 授業形態                                | 単位数<br>(時間数)               | 配当年次                               | 担 当 教 員                                                                             |
| 統合演習                                                                                                                                                                                                                                                          | 演習                                  | 1 単位<br>(30 時間)            | 4 年後期                              | 苑田裕樹 増山純二 辻慶子 神島滋子 竹元仁美<br>児玉裕美 川本起久子 梅木彰子 開田ひとみ 寺岡祥子<br>松井聡子 大村由紀美 島村美香 別城佐和子 松本宗賢 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                                                       |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 学内演習、実習で実践した内容を振り返る目的として、高規格シミュレーターを用い、健康課題を持つ対象者に対し全人的ケア・ヒューマンケア（倫理的な価値）を基盤に、特定の健康課題に対して、科学的根拠（EBN）に基づいた看護実践と生活を支えるケアを実践する。また、多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの一員の役割について再考する。そのうえで、健康を科学する看護の本質について課題を見出し主体的に探究する。                                             |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                                          |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 5. 看護実践能力の課題と今後の取り組みについて明確にすることができる<br>6. 客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE）を受け、看護技術を習得することができる<br>7. 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる<br>8. 高規格シミュレーター（もしくは、模擬患者）を使った看護過程学習を受け、健康を科学する看護の本質について課題を見出し主体的に探究することができる |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 事前学習・事後学習                                                                                                                                                                                                                                                     |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 事前学習：予習のための小テストを実施して授業に臨む<br>事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする                                                                                                                                                                                                     |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ (DP1)                             | (DP2)                      | (DP3)                              |                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                               | ◎ (DP4)                             | (DP5)                      | (DP6)                              |                                                                                     |
| 回数                                                                                                                                                                                                                                                            | 日程                                  | 単 元                        | 内 容                                | 担当教員                                                                                |
| 1                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | ガイダンス                      | 統合看護演習の目的/学習の進め方/グループ分けの説明         | 全員                                                                                  |
| 2                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 看護技術①                      | OSCE：看護技術①                         | 全員                                                                                  |
| 3                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 看護技術②                      | OSCE：看護技術②                         | 全員                                                                                  |
| 4                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 看護技術③                      | OSCE：看護技術③                         | 全員                                                                                  |
| 5                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（成人看護学：急性期）① | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 6                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（成人看護学：急性期）② | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 7                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（成人看護学：慢性期）① | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 8                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（成人看護学：慢性期）② | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 9                                                                                                                                                                                                                                                             | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（小児看護学）①     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 10                                                                                                                                                                                                                                                            | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（小児看護学）②     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 11                                                                                                                                                                                                                                                            | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（母性看護学）①     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 12                                                                                                                                                                                                                                                            | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（母性看護学）②     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 13                                                                                                                                                                                                                                                            | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（在宅看護学）①     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 14                                                                                                                                                                                                                                                            | 月<br>日                              | 事例に基づく看護過程<br>（在宅看護学）②     | シミュレーションを基にした事例の看護過程               | 全員                                                                                  |
| 15                                                                                                                                                                                                                                                            | 月<br>日                              | リフレクション                    | 看護実践力の課題と今後の取り組みについて明確にする（グループワーク） | 全員                                                                                  |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                                                           | OSCE(30%)、看護過程レポート(30%)、課題レポート(40%) |                            |                                    |                                                                                     |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                                                           | 講師資料                                |                            |                                    |                                                                                     |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                                                         |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                                                          |                                     |                            |                                    |                                                                                     |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                                                      |                                     |                            |                                    |                                                                                     |

## (是正事項) 看護学部 看護学科

14. 入学者選抜について、例えば、「学校推薦型選抜（一般）」においては「面接、調査書、小論文を主たる判定資料とする」とある等、評価に関する項目が明確ではないため、各項目の評価割合なども含め、アドミッション・ポリシーに記載されている内容をどのように担保するのか、試験区分ごとに具体的に説明すること。また、学力試験において、数学等の教科名のみが記載されているものは、必要な科目名まで明示すること。(是正事項)

## (対応)

本審査意見を踏まえ、入学者選抜における評価項目（判定資料）とその評価割合を示します。なお、アドミッション・ポリシーとの関係も含めて、申請時の「設置の趣旨等を記載した書類」の「【資料32-1】AP・DP・入学者選抜の関係（看護学科）」の内容を別紙のとおり改訂します。各評価割合につきましては、アドミッション・ポリシーの関係性から入学者選抜における多面的な評価を鑑みて重みづけを行っています。

## 【別紙資料2】 AP・DP・入学者選抜の関係

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《119～122 ページ》</p> <p><b>8-3-1 入学者選抜方法</b></p> <p>入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的かつ総合的に判定し、かつ、アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため、学校教育法に定める高等学校における教育目標の一つである一般的な教養の修得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行うこととする。具体的な選抜方法として入学者選抜の多様性の観点から、①総合型選抜、②学校推薦型選抜（一般・指定校）、③一般選抜、④大学入学共通テスト利用選抜、⑤社会人選抜を行うこととし、学力の3要素である①「知識・技能の確実な修得」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を多角的・総合的に評価・選抜する。入試区分に応じて、活用する評価方法や比重等を募集要項等で明らかにする。<u>各評価割合については、アドミッション・ポリシーの関係性から入学者選抜における多面的な評価を考慮して重みづけを行った。</u></p> | <p>《97～99 ページ》</p> <p><b>8-3-1 入学者選抜方法</b></p> <p>入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的かつ総合的に判定し、かつ、アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため、学校教育法に定める高等学校における教育目標の一つである一般的な教養の修得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行うこととする。具体的な選抜方法として入学者選抜の多様性の観点から、①総合型選抜、②学校推薦型選抜（一般・指定校）、③一般選抜、④大学入学共通テスト利用選抜、⑤社会人選抜を行うこととし、学力の3要素である①「知識・技能の確実な修得」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を多角的・総合的に評価・選抜する。入試区分に応じて、活用する評価方法や比重等を募集要項等で明らかにする。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>8-3-1-1 総合型選抜</b></p> <p>入学志願者が本学で学びたいという意欲を重視するとともに学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、調査書、面接および小論文により総合的に判定する。</p> <p><u>アドミSSION・ポリシー①～③、アドミSSION・ポリシー⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u>総合型選抜の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 7 名（12%）とする。<u>評価割合については面接 60%、調査書 20%、小論文 20%とし、面接を重視した選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-2 学校推薦型選抜（一般）</b></p> <p>本学を専願し、入学志願者の出身高等学校長の推薦を得る等の出願条件を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、面接、<u>推薦書、調査書および小論文により総合的に判定する。</u><u>アドミSSION・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に高等学校からの推薦文も考慮し多面的な評価を行う。</u><u>アドミSSION・ポリシー②、③、⑤については、主に面接にて人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u><u>学校推薦型選抜（一般）の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 8 名（13%）とする。</u><u>評価割合については面接 50%、調査書 10%、小論文 30%、推薦</u></p> | <p><b>8-3-1-1 総合型選抜</b></p> <p>入学志願者が本学で学びたいという意欲を重視するとともに学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、調査書、面接および小論文により総合的に判定する。</p> <p>総合型選抜の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 7 名（12%）とする。</p> <p><b>8-3-1-2 学校推薦型選抜（一般）</b></p> <p>本学を専願し、入学志願者の出身高等学校長の推薦を得る等の出願条件を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、面接、調査書および小論文を主たる判定資料とする。</p> <p>学校推薦型選抜（一般）の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 8 名（13%）とする。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>書 10%とし、面接を重視しつつも、総合型選抜と比較して学校からの評価やより基礎学力を重視するような選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-3 学校推薦型選抜（指定校）</b></p> <p>本学が指定した高等学校（指定校）に対し推薦枠を与えるものである。入学志願者の出身高等学校長の推薦及び指定した平均評定を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に判定するため、面接、<u>推薦書、調査書及び小論文により総合的に判定する。</u><u>アドミッション・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に高等学校からの推薦文も考慮し多面的な評価を行う。</u><u>アドミッション・ポリシー②、③、⑤については、主に面接にて人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u>学校推薦型選抜（指定校）の定員割合は、看護学科 15 名（19%）、理学療法学科 15 名（19%）、作業療法学科 12 名（20%）とする。<u>評価割合については面接 40%、調査書 10%、小論文 30%、推薦書 20%とし、学校推薦型選抜（一般）と比較して高等学校から提出される推薦書をより重視し、高校からの評価に重きを置いた選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-4 一般選抜（前期・後期）</b></p> <p>一般選抜（前期）は、学力試験として英語を必修科目とし、国語、数学及び理科（物理基礎・物理・化学基礎・化学、生物基礎・生物）から 2 科目を選択する形式とし、入学志願者の学修能力を判定する。<u>アドミッション・ポリシー①～③、⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッ</u></p> | <p><b>8-3-1-3 学校推薦型選抜（指定校）</b></p> <p>本学が指定した高等学校（指定校）に対し推薦枠を与えるものである。入学志願者の出身高等学校長の推薦及び指定した平均評定を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に判定するため、面接、調査書及び小論文を主たる判定資料とする。学校推薦型選抜（指定校）の定員割合は、看護学科 15 名（19%）、理学療法学科 15 名（19%）、作業療法学科 12 名（20%）とする。</p> <p><b>8-3-1-4 一般選抜（前期・後期）</b></p> <p>一般選抜（前期）は、学力試験として英語を必修科目とし、国語、数学及び理科（物理基礎・物理・化学基礎・化学、生物基礎・生物）から 2 科目を選択する形式とし、入学志願者の学修能力を判定する。各学科のアドミッション・ポリシーにかかる①～③については面接により適切に判定する。</p> <p>一般選抜（前期）は特待生選抜を兼ねるもの</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>ション・ポリシー④については学力試験・調査書にて基礎学力と学修態度を確認する。</u></p> <p>一般選抜（前期）は特待生選抜を兼ねるものとする。また、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般・指定校）で合格を得た入学志願者に対しても特待生選抜の受験を認め、当該受験者に対しては合否を判定せず、特待生の可否のみを判定する。なお、特待生の種類としては、授業料の全額免除及び半額免除を若干名ずつ予定する。<u>評価割合については学力試験 60%、面接 30%、調査書 10%とし、より学力を重視した選抜方法とする。</u></p> <p>一般選抜（後期）は、多彩な学生の募集と受験生の受験機会の確保を目的とする。面接、小論文及び調査書により適切に判定する。<u>アドミッション・ポリシー①～③、⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。評価割合については面接 60%、調査書 10%、小論文 30%とし、多面的な能力を確認できる面接を重視することで多彩な学生募集を行う。</u>また、一般選抜（後期）の実施により受験日程を広げ、受験生の受験機会の確保を行う。</p> <p>一般選抜（前期・後期）の定員割合は、看護学科 40 名（50%）、理学療法学科 40 名（50%）、作業療法学科 30 名（50%）とする。</p> <p><b>8-3-1-5 大学入学共通テスト利用選抜</b></p> <p>大学入学共通テスト利用選抜は、大学入学共通テストにおける国語及び英語を必修科目として、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）、数学から 1 科目を選択のうえ、計 3 科目が一定の学力水準に達しているかを判定に用いることとする。</p> <p><u>評価割合としてはアドミッション・ポリシー④を確認する学力試験が全体の 80%を占めるた</u></p> | <p>とする。また、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般・指定校）で合格を得た入学志願者に対しても特待生選抜の受験を認め、当該受験者に対しては合否を判定せず、特待生の可否のみを判定する。なお、特待生の種類としては、授業料の全額免除及び半額免除を若干名ずつ予定する。</p> <p>一般選抜（後期）は、多彩な学生の募集と受験生の受験機会の確保を目的とする。面接、小論文及び調査書により適切に判定する。</p> <p>一般選抜（前期・後期）の定員割合は、看護学科 40 名（50%）、理学療法学科 40 名（50%）、作業療法学科 30 名（50%）とする。</p> <p><b>8-3-1-5 大学入学共通テスト利用選抜</b></p> <p>大学入学共通テスト利用選抜は、大学入学共通テストにおける国語及び英語を必修科目として、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）、数学から 1 科目を選択のうえ、計 3 科目が一定の学力水準に達しているかを判定に用いることとする。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜の定員割合は、看護学科 5 名（6%）、理学療法学科 5 名</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>め、基礎学力、学習態度を重視する選抜方法となるが、アドミSSION・ポリシー①～③、⑤についても、調査書の「指導上の参考になる諸事項」等に記載された内容を加味し、大学入学前の意欲や多様な活動から確認を行う。評価割合については学力試験 80%、調査書 20%とし、学力を重視する選抜方法とする。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜の定員割合は、看護学科 5 名（6 %）、理学療法学科 5 名（6 %）、作業療法学科 3 名（5 %）とする。</p> <p><b>8-3-1-6 社会人選抜</b></p> <p>社会人としての職業経験をもち、かつ、看護学・理学療法学・作業療法学の修得に関する資質と能力を備え、学修意欲の旺盛な入学志願者を受け入れるため、学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、自己推薦文、面接及び小論文を主たる判定資料とする。アドミSSION・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に、志願者の自己推薦文も加味し、評価を行う。アドミSSION・ポリシー②、③については面接にて人を尊重する考えや共感力、調整力、協調性、傾聴力を確認する。アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて思考力・論理性等といった基礎学力や学修態度を確認する。アドミSSION・ポリシー⑤については面接と志願理由書から社会への貢献意識等を確認する。評価割合については面接 50%、調査書 5%、小論文 35%、志願理由書 5%、自己推薦文 5%とし、多様な判定資料により多面的な評価を実施する。社会人選抜の定員割合は、看護学科若干名、理学療法学科若干名、作業療法学科若干名とする。</p> | <p>（6 %）、作業療法学科 3 名（5 %）とする。</p> <p><b>8-3-1-6 社会人選抜</b></p> <p>社会人としての職業経験をもち、かつ、看護学・理学療法学・作業療法学の修得に関する資質と能力を備え、学修意欲の旺盛な入学志願者を受け入れるため、学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、自己推薦文、面接及び小論文を主たる判定資料とする。</p> <p>社会人選抜の定員割合は、看護学科若干名、理学療法学科若干名、作業療法学科若干名とする。</p> |



## (是正事項) 看護学部 看護学科

15. 教員組織について、助手が多く配置され、実習科目別教員配置表には大半の実習先に助手が配置されている等、実習科目に大きな役割を果たすように見受けられる。その一方で、実習指導に当たる教員負担については教員別授業担当表を確認する限り、一部教員に大きな負担がかかる体制であることから、将来にわたって、教員が実習科目において適切に指導できるのか懸念がある。このため、教員の将来的な採用計画を示した上で、今後の対応について明確に説明すること。(是正事項)

## (対応)

審査意見の通り、本学では助手が実習科目に大きな役割を果たす計画となっています。そのため、当該助手は臨地実習開始前に臨地実習指導案を教員に提出し、当該実習の目的や到達目標を共有することで、更なる教育の質の担保を図ることとします。本学で採用予定の助手の多くは実習指導経験が豊富で、修士以上の学位を保有する者も多くいることから、教育の質は担保できていると考えています。

また、申請書類のうち、「設置の趣旨等を記載した書類 添付資料 38-3 (実習科目別教員配置表)」では、在宅看護学領域の一部教員に大きな負担がかかる体制が認められました。助手に対する指導を含め、臨地実習担当教員の役割を円滑に遂行できるよう、当該表を修正しました。

## 【別紙資料3】 実習科目別教員配置

今後の対応としましては、各領域において教員の拡充を図り、負担の偏重を是正するとともに、特に、在宅看護学領域については、教授への登用を予定する構想で、全領域で助手から教員へと実習指導体制をシフトすることで教育の更なる充実を図る予定です。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《138～140 ページ》</p> <p><b>10-2-7 臨地実習水準の確保の方策</b></p> <p>【中略】</p> <p><b>2) 臨地実習指導計画</b></p> <p>【中略】</p> <p><b>(2) 教員及び助手の配置並びに指導計画</b></p> <p>臨地実習科目責任者は教授、【中略】</p> <p>なお、完成年度の臨地実習指導計画は、「科目別教員配置表」に示すとおりである。また、教員別に前期・後期の臨地実習科目を含む週間授業計画は「教員別週間授業担当表」に示すとおりである。<u>また、各領域において教員間の負担の偏重が発生しないよう教員の拡充を図る等の配慮を行う。特に、在宅看護学領域については、教授への登用を予定する構想であり、全領域で助手から教員へと実習指導体制をシフトす</u></p> | <p>《115～117 ページ》</p> <p><b>10-2-7 臨地実習水準の確保の方策</b></p> <p>【中略】</p> <p><b>2) 臨地実習指導計画</b></p> <p>【中略】</p> <p><b>(2) 教員及び助手の配置並びに指導計画</b></p> <p>臨地実習科目責任者は教授、【中略】</p> <p>なお、完成年度の臨地実習指導計画は、「科目別教員配置表」に示すとおりである。また、教員別に前期・後期の臨地実習科目を含む週間授業計画は「教員別週間授業担当表」に示すとおりである。</p> <p>なお、臨地実習中の緊急時の対応として、臨地実習担当教員は常時対応可能な体制とする。</p> <p>【資料 38】 科目別教員配置表</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ることで教育の更なる充実を図る。</p> <p>なお、臨地実習中の緊急時の対応として、臨地実習担当教員は常時対応可能な体制とする。</p> <p>【資料 38】 科目別教員配置表<br/>【資料 39】 教員別週間授業担当表</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>【資料 39】 教員別週間授業担当表</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>《141～142 ページ》</p> <p><b>1 0 - 2 - 8 助手の配置</b></p> <p>【中略】</p> <p><b>2) 採用基準</b></p> <p>採用については、助手の臨地実習における役割を考え、担当する臨地実習科目に関する領域の実務経験を有するものとする。看護師として実務経験が5年以上あり、周囲との調和を図り、大学での教育に強い関心があるものとする。助手には将来、専任教員としての能力育成のために大学院への進学を奨励し、教育研究の機会が確保できるように配慮する。現在までに12名の助手が内定しており、既に大学院修士課程を修了している者が6名、在籍中の者が2名である。他の4名も今後大学院へ進学予定であり、<u>本学で採用予定の助手の多くは実習指導経験が豊富で、修士以上の学位を保有する者も多くいることから、教育の質は担保できていると考えている。</u></p> <p><b>3) 教員と助手の連携</b></p> <p>教員と助手は以下のように連携を図り、教育の一貫性と質を確保した臨地実習指導の体制を整える。</p> <p>① 助手は基本的に臨地実習担当教員との2人体制で臨地実習指導を行い、臨地実習担当教員へ報告・連絡・相談が常にできる体制とする。</p> <p>② 臨地実習担当教員は、本学における教育課程と臨地実習の位置づけ、臨地実習の目的・目標・方法を説明した上で、学生の臨地実習目標達成に向けた臨地実習指導の連</p> | <p>《118～119 ページ》</p> <p><b>1 0 - 2 - 8 助手の配置</b></p> <p>【中略】</p> <p><b>2) 採用基準</b></p> <p>採用については、助手の臨地実習における役割を考え、担当する臨地実習科目に関する領域の実務経験を有するものとする。看護師として実務経験が5年以上あり、周囲との調和を図り、大学での教育に強い関心があるものとする。助手には将来、専任教員としての能力育成のために大学院への進学を奨励し、教育研究の機会が確保できるように配慮する。現在までに12名の助手が内定しており、既に大学院修士課程を修了している者が6名、在籍中の者が2名である。他の4名も今後大学院へ進学予定である。</p> <p><b>3) 教員と助手の連携</b></p> <p>教員と助手は以下のように連携を図り、教育の一貫性と質を確保した臨地実習指導の体制を整える。</p> <p>① 助手は基本的に臨地実習担当教員との2人体制で臨地実習指導を行い、臨地実習担当教員へ報告・連絡・相談が常にできる体制とする。</p> <p>② 臨地実習担当教員は、本学における教育課程と臨地実習の位置づけ、臨地実習の目的・目標・方法を説明した上で、学生の臨地実習目標達成に向けた臨地実習指導の連</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>携について助手と話し合う。</p> <p>③ 臨地実習担当教員は、助手に対して臨地実習指導者と連携できるように指導及び支援する。</p> <p>④ 臨地実習担当教員と助手は、学生のレディネスや学生の個人特性等を共有し、効果的な臨地実習指導について話し合い、一貫した指導ができるようにする。</p> <p>⑤ <u>助手は臨地実習開始前に臨地実習指導案を教員に提出し、当該実習の目的や到達目標を共有する。</u></p> | <p>携について助手と話し合う。</p> <p>③ 臨地実習担当教員は、助手に対して臨地実習指導者と連携できるように指導及び支援する。</p> <p>④ 臨地実習担当教員と助手は、学生のレディネスや学生の個人特性等を共有し、効果的な臨地実習指導について話し合い、一貫した指導ができるようにする。</p> |

## (改善事項) 看護学部 看護学科

16. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項)

## (対応)

本学における教員組織編成については完成年度において本学定年年齢である 65 歳を超える教員が 22 名（看護学科 9 名、理学療法学科 7 名、作業療法学科 6 名）と比較的高齢の教員もおります。

これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するためです。65 歳を超える教員のうち、看護学科 7 名、理学療法学科 6 名（うち 4 名が医師）、作業療法学科 4 名の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものであります。

完成年度以降も踏まえて、比較的高齢の教員の後任者の採用方針は、大学運営の側面から鑑みた教員組織の継続性や活性化等を考慮し、年齢的な偏重を来さないようにすることとしています。加えて、後任者の選考につきましては、若手教員の登用を含めて採用を検討することとし、教育の質を確保できるよう段階的な若返りを図ることとします。つまり、教員組織の継続性と教育研究の質を一定水準以上に確保するという双方の観点からみても問題のないような形で構想しています。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《87～88 ページ》</p> <p><b>5-2-4 教員組織編成について</b></p> <p>本学における教員組織編成については、完成年度において本学定年年齢である 65 歳を超える教員が <u>22 名</u>（看護学科 <u>9 名</u>、理学療法学科 <u>7 名</u>、作業療法学科 <u>6 名</u>）と比較的高齢の教員もおります。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するためです。65 歳を超える教員のうち、看護学科 <u>7 名</u>、理学療法学科 <u>6 名</u>（うち 4 名が医師）、作業療法学科 <u>4 名</u>の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものである。</p> <p>完成年度以降も踏まえて、比較的高齢の教員の後任者の採用方針は、大学運営の側面から鑑みた教員組織の継続性や活性化等を考慮し、年齢的な偏重を来さないようにすることとしている。加えて、後任者の選考については、若手教員の登用を含めて採用を検討することとし、教育の質を確保できるよう段階的な若返りを図ることとする。つまり、教員組織の継続性と教育研究の質を一定水準以上に確保するという双方</p> | <p>《67 ページ》</p> <p><b>5-2-4 教員組織編成について</b></p> <p>本学における教員組織編成については、本学定年年齢である 65 歳以上の教員が 17 名（看護学科 6 名、理学療法学科 6 名、作業療法学科 4 名）と比較的高齢の教員もいる。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するため、65 歳以上の教員のうち、看護学科 5 名、理学療法学科 5 名（うち 4 名が医師）、作業療法学科 2 名の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものである。</p> <p>【資料 24】 定年に関する規定に基づく特例教員一覧</p> |

| 新                                | 旧 |
|----------------------------------|---|
| <u>の観点からみても問題のないような形で構想している。</u> |   |
| 【資料 24】 定年に関する規定に基づく特例教員一覧       |   |

## (改善事項) 看護学部 看護学科

17. 「習得」や「学習」等、シラバスに誤字が散見される他、「設置認可等に関わる組織の移行表」では、他に設置する専門学校の名称の多くが同じものになっている等、書類上に誤記と思われる内容が散見されるため、網羅的に確認をした上で、適切に修正すること。(改善事項)

## (対応)

本審査意見を踏まえ、改めて書類上の誤記を確認し、網羅的に改めました。特に「設置認可等に関わる組織の移行表」については以下のとおり修正しました。

## (新旧対照表) 学校法人巨樹の会 設置認可等に関わる組織の移行表

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>令和3年度</b><br><u>福岡和白リハビリテーション学院</u><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <b>令和3年度</b><br>和白リハビリテーション専門学校<br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>令和4年度</b><br><u>福岡和白リハビリテーション学院</u><br><div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <hr/> <div>計 0 - 0</div><br><u>福岡水巻看護助産学校</u><br><div>看護学科 80 - 240</div> <div>助産学科 25 - 25</div> <hr/> <div>計 105 - 265</div><br><u>下関看護リハビリテーション学校</u><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>看護学科 40 - 120</div> <hr/> <div>計 120 - 360</div><br><u>小倉リハビリテーション学院</u><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div> | <b>令和4年度</b><br>和白リハビリテーション専門学校<br><div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <hr/> <div>計 0 - 0</div><br>和白リハビリテーション専門学校<br><div>看護学科 80 - 240</div> <div>助産学科 25 - 25</div> <hr/> <div>計 105 - 265</div><br>和白リハビリテーション専門学校<br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>看護学科 40 - 120</div> <hr/> <div>計 120 - 360</div><br>和白リハビリテーション専門学校<br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div> |

看護学部 看護学科

| 新                      |     |   |     | 旧               |     |   |     |
|------------------------|-----|---|-----|-----------------|-----|---|-----|
| <u>八千代リハビリテーション学院</u>  |     |   |     | 和白リハビリテーション専門学校 |     |   |     |
| 理学療法学科                 | 80  | - | 240 | 理学療法学科          | 80  | - | 240 |
| 作業療法学科                 | 40  | - | 120 | 作業療法学科          | 40  | - | 120 |
| 理学療法学科（夜間）             | 40  | - | 160 | 理学療法学科（夜間）      | 40  | - | 160 |
| 計                      | 160 | - | 520 | 計               | 160 | - | 520 |
| <u>武雄看護リハビリテーション学校</u> |     |   |     | 和白リハビリテーション専門学校 |     |   |     |
| 理学療法学科                 | 40  | - | 120 | 理学療法学科          | 40  | - | 120 |
| 看護学科                   | 40  | - | 120 | 看護学科            | 40  | - | 120 |
| 計                      | 80  | - | 240 | 計               | 80  | - | 240 |

(是正事項) 看護学部 看護学科

18. 学生確保の見通しにおける分析について、例えば県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率等は必ずしも看護系の学科に細分化したものとなっていない等不十分であるため、細分化して分析すること。(是正事項)

(対応)

福岡県内の看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁する大学（以下、「競合大学」という。）における学科単位の入学状況に関するデータを「別紙資料4 競合大学の入学状況」にまとめます。それを踏まえて、学科ごとに学生確保の見通しについて改めて説明します。

【別紙資料4】 競合大学の入学状況

(1) 競合大学の学科単位の入学定員に対する入学者数

① 看護学科

福岡県内で看護学科を擁する大学は14校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、いずれの大学でも90%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も全ての大学において97%を超えています。また、14校における看護学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.5倍を超えており、平均で4.7倍となっています。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考えます。

② 理学療法学科

福岡県内で理学療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、1校を除く他の3校で100%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も1校を除く他の3校において100%を超えています。また、4校における理学療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.0倍を超えており、平均で4.1倍となっています。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考えます。

③ 作業療法学科

福岡県内で作業療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、うち2校が100%未満となった年度を認めます。特に、2020（令和2）年度における入学定員充足率は、1校が80%未満、もう1校では40%未満となっています。また、4校における作業療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも1.0倍を超えており、平均で2.6倍となっています。

(2) 競合大学との地域性及び教育の特色からみた学生確保の見通し

競合大学との地域性からみた学生確保の見通しについて説明します。歴史的・経済圏から福岡



県は「北九州地域」、「筑豊地域」、「福岡地域」、「筑後地域」の4地域に分けられます。福岡県人口移動調査によりますと、2021（令和2）年9月1日現在の人口は北九州地域で約125万人、筑豊地域で約40万人、福岡地域で約268万人、筑後地域で約79万人です。本学の位置する「福岡地域」は人口が最も多く、かつ増加している有利な位置にあるといえます。

#### ① 看護学科

福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっています。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加しています。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持しています。看護学部を擁する競合大学14校の入学定員充足率の平均値は、2018（平成30）年度は108.3%、2019（平成31）年は111.1%、2020（令和2）年度は102.7%と福岡県全体としてマーケット環境は良好であるといえます。

地域性から見た競合大学としては、本学が位置する福岡地区にある8校を想定しています。さらに、本学が独自に行ったアンケートの結果から、当該8校のうち3校は特に競合性が高いと捉えており、差別化を図る必要があると考えます。特に競合性が高い3校と比較した場合、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみです。また、本学は隣接するグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は有利と考え、加えて1年次から4年次にわたって段階的な専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）も本学のみの教育特色といえます。こうした差別化要素について、入学を志願する対象者に分かりやすく伝え、本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる看護師になりたい学生を広く募集していくこととします。

#### ② 理学療法学科・作業療法学科

福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっています。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加しています。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇しています。また、作業療法学科についても志願者数は2018（平成30）年度の330名から2020（令和2）年度には469名まで増加し、志願倍率も2.8倍から2.9倍へと上昇しています。

一方、4校の競合大学の入学定員充足率や志願倍率をみると各大学の差異が認められます。特に作業療法学科では入学定員充足率が最も低い40%から、最も高い110%まで幅があります。この要因としては、大学の立地、教育上の特色（学べる内容）等が考えられ、高校生を中心とした入学志願者の志向性によって大学を選択しているためと考えます。

##### i. 立地による影響

大学の立地が志願者数・入学者数に与える影響は大きいと考察しています。本学が位置する福岡地域は、最も人口が多く、九州地方の中心地といえる福岡地域は九州地方及び福岡県全域から人口が流入しやすく、学生確保においても有利といえます。2校の競合大学、とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も低い競合大学が位置する筑後地区は人口が約79万人とやや乏しく、マーケット環境は厳しいといえるため、入学定員充足率が低調である要

因と考察できます。

ii. 教育上の特色（学べる内容）

教育研究上の特色（学べる内容）も志願者数・入学者数に影響を与えていると考察しています。とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も高い競合大学では、同一のグループ病院・施設と連携して実践的な教育を提供できる点に学生は魅力を感じていると分析しています。これは、本学の教育の特色とも合致するため、本学でも学生確保の見通しが立つと分析しています。

以上の2つの要素を踏まえ、本学の学生確保の見通しについて改めて考察します。本学は人口が最も多い福岡地域にある点から、立地はプラスの影響が高いと考えられ、同じ福岡地区に位置する競合大学として1校あります。当該競合大学の入学定員充足率は好調であり、理学療法学科・作業療法学科共に直近2年間のデータでは110%を超えている点からも、福岡地区のマーケット環境は良好であるといえます。なお、本学が独自に行ったアンケート結果でも、本学の理学療法学科・作業療法学科に「ぜひ受験したい」、「受験したい」、「受験先の候補として検討する」と回答した2,803名のうち626名（22.3%）が当該競合大学への進学も検討しており、3校の他の競合大学への進学を検討している者が340名程度（約12%）であることを比較しても当該競合大学は最も競合性が高いといえます。

次に、教育上の特色について本学の優位性を考察します。理学療法学科・作業療法学科を有する4大学のうち、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみです。さらに、本学の理学療法学科・作業療法学科は近隣にあるグループ病院で臨床実習のほとんどを実施することから分かるように、隣接したグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は、募集が好調な競合大学と類似しており、入学志願者の志向性と合致していると考えます。また、1年次から4年次にわたって段階的に専門職連携教育

（Interprofessional Education：IPE）を実践的に実施している競合大学はなく、かつ、取得単位数も本学が最も多く、こうした差別化要素を学生に分かりやすく伝えることで、学生確保の見通しは立つと考えています。設置認可後は本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる理学療法士・作業療法士になりたい学生を広く募集していくこととします。

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《3～4 ページ》</p> <p><b>（1）定員充足の見込み</b></p> <p>本学では下記7点の根拠により、</p> <p><b>【中略】</b></p> <p>⑤福岡県内の看護学科および理学療法・作業療法学科が入学定員を上回る出願者数を確保できている点にある。福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっている。また、</p> | <p>《2 ページ》</p> <p><b>（1）定員充足の見込み</b></p> <p>本学では下記7点の根拠により、</p> <p><b>【中略】</b></p> <p>⑤福岡県内の看護学系および理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部が十分に定員を確保できている点にある。近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）における福岡県内の看護学系統の学科を擁する学部の志願倍率が</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加している。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持している。福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっている。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加している。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇していることから本学は定員を確保する見通しがあると判断した。</p> <p>《7～10 ページ》</p> <p>⑤福岡県内における看護学科、理学療法学科、作業療法学科の学生確保の状況</p> <p>（i）競合大学の学科単位の入学定員に対する入学者数</p> <p>（a）看護学科</p> <p>福岡県内で看護学科を擁する大学は14校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、いずれの大学でも90%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も全ての大学において97%を超えている。また、14校における看護学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.5倍を超えており、平均で4.7倍となっている。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考える。</p> | <p>2倍を下回ったことはなく、直近の志願倍率の平均は6.6倍であり、収容定員充足率の平均は106%である。また、近3年における福岡県内の理学療法・作業療法学系統を擁する学部の志願倍率も2倍を下回ったことはなく、直近の志願倍率の平均は2.9倍であり、収容定員充足率の平均は103%である。このことから本学は定員を確保する見通しがあると判断した。</p> <p>《5 ページ》</p> <p>⑤福岡県内の看護・理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部の学生確保の状況</p> <p>福岡県内の看護学系統の学科を擁する学部の志願倍率は近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）において2.5倍～26.4倍であり、2倍を下回る志願倍率の学部はなく、2019（令和元）年の志願倍率の平均は6.6倍と非常に高い志願倍率である。また、近3年の収容定員充足率も94%～120%であり、2019（令和元）年の収容定員充足率の平均は106%とほとんどの学部において収容定員充足率が100%を超えている。</p> <p>また、福岡県内の理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部の志願倍率は近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）において2.1倍～3.7倍であり、2倍を下回る志願倍率の学部はなく、2019（令和元）年の志願倍率の平均は2.9倍である。また、近3年の収容定員充足率も97%～113%であり、2019（令和元）年</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>(b)理学療法学科</u></p> <p><u>福岡県内で理学療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、1校を除く他の3校で100%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も1校を除く他の3校において100%を超えている。また、4校における理学療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.0倍を超えており、平均で4.1倍となっている。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考える。</u></p> <p><u>(c)作業療法学科</u></p> <p><u>福岡県内で作業療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、うち2校が100%未満となった年度を認める。特に、2020（令和2）年度における入学定員充足率は、1校が80%未満、もう1校では40%未満となっている。また、4校における作業療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも1.0倍を超えており、平均で2.6倍となっている。</u></p> <p><u>（ii）競合大学との地域性及び教育の特色からみた学生確保の見通し</u></p> <p><u>競合大学との地域性からみた学生確保の見通しについて説明する。歴史的・経済圏から福岡県は「北九州地域」、「筑豊地域」、「福岡地域」、「筑後地域」の4地域に分けられる。福岡県人</u></p> | <p>の収容定員充足率の平均は103%とほとんどの学部において収容定員充足率が100%を超えている。</p> <p>福岡県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率・収容定員充足率の推移を踏まえると福岡県内で本学が設置を構想している看護学部・リハビリテーション学部においても十分に定員を確保することができると判断した。</p> <p>（資料4 福岡県内大学同系統学科の入学定員に対する志願者数）</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>口移動調査によると、2021（令和2）年9月1日現在の人口は北九州地域で約125万人、筑豊地域で約40万人、福岡地域で約268万人、筑後地域で約79万人である。本学の位置する「福岡地域」は人口が最も多く、かつ増加している有利な位置にあるといえる。</p> <p><u>(a)看護学科</u></p> <p>福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっている。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加している。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持している。看護学部を擁する競合大学14校の入学定員充足率の平均値は、2018（平成30）年度は108.3%、2019（平成31）年は111.1%、2020（令和2）年度は102.7%と福岡県全体としてマーケット環境は良好であるといえる。</p> <p>地域性から見た競合大学としては、本学が位置する福岡地区にある8校を想定している。</p> <p>さらに、本学が独自に行ったアンケートの結果から、当該8校のうち3校は特に競合性が高いと捉えており、差別化を図る必要があると考えている。特に競合性が高い3校と比較した場合、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみである。また、本学は隣接するグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は有利と考え、加えて1年次から4年次にわたって段階的な専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）も本学のみの教育特色といえる。こうした差別化要素について、入学を志願する対象者に分かりやすく伝え、本学の教育研究上の理念や特色</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる看護師になりたい学生を広く募集していくこととする。</p> <p><u>(b)理学療法学科・作業療法学科</u></p> <p>福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっている。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加している。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇している。また、作業療法学科についても志願者数は2018（平成30）年度の330名から2020（令和2）年度には469名まで増加し、志願倍率も2.8倍から2.9倍へと上昇している。</p> <p>一方、4校の競合大学の入学定員充足率や志願倍率をみると各大学の差異が認められる。特に作業療法学科では入学定員充足率が最も低い40%から、最も高い110%まで幅がある。この要因としては、大学の立地、教育上の特色（学べる内容）等が考えられ、高校生を中心とした入学志願者の志向性によって大学を選択しているためと考える。</p> <p><u>i) 立地による影響</u></p> <p>大学の立地が志願者数・入学者数に与える影響は大きいと考察している。本学が位置する福岡地域は、最も人口が多く、九州地方の中心地といえる福岡地域は九州地方及び福岡県全域から人口が流入しやすく、学生確保においても有利といえる。2校の競合大学、とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も低い競合大学が位置する筑後地区は人口が約79万人とやや乏しく、マーケット環境は厳し</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>いといえるため、入学定員充足率が低調である要因と考察できる。</u></p> <p><u>ii) 教育上の特色 (学べる内容)</u></p> <p><u>教育研究上の特色 (学べる内容) も志願者数・入学者数に影響を与えていると考察している。とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も高い競合大学では、同一のグループ病院・施設と連携して実践的な教育を提供できる点に学生は魅力を感じていると分析している。これは、本学の教育の特色とも合致するため、本学でも学生確保の見通しが立つと分析している。</u></p> <p><u>以上の2つの要素を踏まえ、本学の学生確保の見通しについて改めて考察する。本学は人口が最も多い福岡地域にある点から、立地はプラスの影響が高いと考えられ、同じ福岡地区に位置する競合大学としては1校である。当該競合大学の入学定員充足率は好調であり、理学療法学科・作業療法学科共に直近2年間のデータでは110%を超えている点からも、福岡地区のマーケット環境は良好であるといえる。なお、本学が独自に行ったアンケート結果でも、本学の理学療法学科・作業療法学科に「ぜひ受験したい」、「受験したい」、「受験先の候補として検討する」と回答した2,803名のうち626名(22.3%)が当該競合大学への進学も検討しており、3校の他の競合大学への進学を検討している者が340名程度(約12%)であることを比較しても当該競合大学は最も競争性が高いといえる。</u></p> <p><u>次に、教育上の特色について本学の優位性を考察する。理学療法学科・作業療法学科を有する4大学のうち、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみである。さらに、本学の理学療法学科・作業療法学科は近隣にあるグループ病院で臨床実習のほとんどを実施することから分かるように、隣接したグループ病院との強い連携の</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる</u><br/> <u>点は、募集が好調な競合大学と類似してお</u><br/> <u>り、入学志願者の志向性と合致している</u><br/> <u>と考える。また、1年次から4年次にわたって段</u><br/> <u>階的に専門職連携教育（Interprofessional</u><br/> <u>Education：IPE）を実践的に実施している競</u><br/> <u>合大学はなく、かつ、取得単位数も本学が最</u><br/> <u>も多く、こうした差別化要素を学生に分かり</u><br/> <u>やすく伝えることで、学生確保の見通しは立</u><br/> <u>つと考えている。設置認可後は本学の教育研</u><br/> <u>究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康</u><br/> <u>長寿社会の実現に貢献できる理学療法士・作</u><br/> <u>業療法士になりたい学生を広く募集してい</u><br/> <u>くこととする。</u></p> <p><u>（資料4 福岡県内大学同系統学科の入学定員</u><br/> <u>に対する志願者数）</u></p> <p><u>（資料15 福岡県内大学同系統学科の入学定員</u><br/> <u>充足率）</u></p> |   |



(是正事項) 看護学部 看護学科

19. 既設専門学校の学生確保の状況については、単年度のみの数値に基づく分析となっているため、過去5年程度の推移を示した上で説明すること。(是正事項)

(対応)

既設の専門学校における学生確保の状況についてのデータを「別紙資料5 既設の専門学校における学生確保の状況」にまとめます。それを踏まえて、本学の学生確保の見通しを改めて説明します。

#### 【別紙資料5】 既設の専門学校における学生確保の状況

(1) 既設の専門学校における近年の入試状況

##### ①福岡看護専門学校

本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、第1科・第2科共に100%を超えています。また、第1科における当該5年間の平均志願倍率は3.92倍であり、学生が十分に確保されていると考えます。

##### ②福岡和白リハビリテーション学院

本学リハビリテーション学部理学療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科（昼間コース）における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、78～117%を推移し、平均入学定員充足率は94.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.03倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考えます。

また、本学リハビリテーション学部作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院作業療法学科（昼間コース）における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、75～122%を推移しており、平均は103.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.13倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考えます。

(2) 既設の専門学校の入学状況を加味した学生確保の見通し

##### ①看護学部看護学科

本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学者は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間で、第1科と第2科を合わせた入学定員100名に対して、いずれの年度も100%を超えています。専門学校と大学との入学者層の差異を加味しても、競合大学のデータを鑑みれば、本学看護学部看護学科の入学定員は80名であることから学生確保の見通しは立つと考えています。

##### ②リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科

本学リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、理学療法学科（昼間コース）の入学定員80名、作業療法学科の入学定員40名に対して入学定員が充足

していない年度を認めます。しかし、下記の5点を根拠として、令和健康科学大学（仮称）における学生確保の見通しは立つと考えています。

#### i) 専門学校と比較して大学においては志願者の歩留りが違う点

専門学校は合格者の大半が入学する（歩留まりが良い）ことに対して、大学では入学を辞退する合格者が一定数存在します。この点につきましては、福岡県内の大学における看護学科の平均歩留り率が60.3%、理学療法学科の平均歩留り率が62.0%、作業療法学科の平均歩留り率が66.4%となっています。このデータから、入学者選抜によって入学定員の1.3～1.6倍の合格者を確保するために必要な志願者を確保することが必要であると考えられます。

#### ii) 専門学校と比較して大学においては入学定員充足に対する考え方が違う点

専門学校は管轄する福岡県より入学定員を超えないように指導がなされています。また、福岡県より入学定員を満たすための指導が強くされていないという実態があります。しかし、大学においては永続経営を目的とするため、管轄する文部科学省から定員充足が求められています。このような入学定員充足率に対する考え方の違いからも、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院において一部の年度で定員未充足であるという結果に繋がったと考えています。

#### iii) 母体となる専門学校と比較して令和健康科学大学（仮称）では入学者選抜の開催実態が違う点

ii) で述べた入学定員充足に対する考え方の違いは、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院の入試実態に表れている。すなわち、福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科では、出願者数が入学定員に達し次第、入学者選抜を打ち切っているため、出願者数が最大の年度であっても入学定員と同程度になり、出願者数が少ない年度を加味して平均を算出すれば100%を下回ることになります。別紙に示す福岡和白リハビリテーション学院における近年の入試日別出願者数をみると、早期に募集を締め切っている年度もあることから、大学同様に全ての入学者選抜を実施した場合は、出願者の増加を示唆するものと考察しています。

#### iv) 専門学校と比較して、大学においては志願者をより確保しやすい環境である点

福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科における志願倍率は1.0倍前後を推移しているのに対し、競合大学の理学療法学科・作業療法学科の志願倍率は4.0倍以上で推移していることから推察すれば、専門学校と比較して志願者数という観点において良化が見込めると考えます。

#### v) 専門学校から大学となる上で志願者層が変化する点

iv) で述べた志願倍率の推移にも影響していますが、専門学校と大学では以下のような志願者層の違いがあると分析しました。

|      |                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | ・実践教育を主体とし、3年で卒業できることから、就職への意識が強い層が志望する。                                                                           |
| 大学   | ・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。<br>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。<br>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。 |

このような志願者層の違いを踏まえつつ、本学が独自に行ったアンケート結果では、全体の56.1%が福岡県に理学療法学・作業療法学を学べる大学が「とても増えて欲しい」、「増えて欲しい」、「やや増えて欲しい」と回答している。こうした大学志向の高まりは社会構造の変化に伴って発生していると考え

られます。また、医療の多様化・複雑化を受けて、理学療法士・作業療法士に求められる能力が拡大しています。総じて、専門学校よりも大学に対する進学需要が高いことを加味し、学生確保の見通しが立つと分析しました。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《10～12 ページ》</p> <p>⑥既設専門学校の学生確保の状況</p> <p>(i) 既設の専門学校における近年の入試状況</p> <p>(a)福岡看護専門学校</p> <p>本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、第1科・第2科共に100%を超えている。また、第1科における当該5年間の平均志願倍率は3.92倍であり、学生が十分に確保されていると考える。</p> <p>(b)福岡和白リハビリテーション学院</p> <p>本学リハビリテーション学部理学療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科(昼間コース)における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、78～117%を推移し、平均入学定員充足率は94.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.03倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考える。</p> <p>また、本学リハビリテーション学部作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院作業療法学科(昼間コース)における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、75～122%を推移しており、平均は103.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.13倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあるこ</p> | <p>(5～6 ページ)</p> <p>⑥既設専門学校の学生確保の状況</p> <p>令和健康科学大学の母体である福岡看護専門学校の2019(令和元)年度の学生確保の状況は看護学科第1科～第2科まで入学定員を超える出願者数を確保しており、設置しようとする看護学科の母体となる3年課程全日制である看護学科第1科においては入学定員50名に対して出願者数215名と出願倍率は4倍を超えている。</p> <p>福岡和白リハビリテーション学院においても2019(令和元)年度の学生確保の状況について、理学療法学科は入学定員80名に対して出願者数96名、作業療法学科は入学定員40名に対して出願者数49名と入学定員を超える出願者数を確保している。また、今年度についても理学療法学科112名、作業療法学科43名と両学科ともに入学定員を超える出願者数を確保する見通しである。</p> <p>これらの既設の専門学校の学生確保の状況を踏まえても、大学へ移行した際も十分に定員を確保することができると判断した。</p> <p>また、専門学校運営で培われた広報体制及び広報資源を継承し、令和健康科学大学としての学生募集について適切な体制を構築することに加え、大学進学率の上昇や高校生を対象にしたアンケートにおいて看護学・理学療法学・作業療法学が学べる大学が増えて欲しいという回答が多く占めていたことから福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院の過去の学生確保の状況を上回る志願者数を確保することが可能であり、十分に定員を確保することが可能であると考えている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <p><u>とを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考える。</u></p> <p><u>(ii)既設の専門学校の入学状況を加味した学生確保の見通し</u></p> <p><u>(a)看護学部看護学科</u></p> <p><u>本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学者は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間で、第1科と第2科を合わせた入学定員100名に対して、いずれの年度も100%を超えている。専門学校と大学との入学者層の差異を加味しても、競合大学のデータを鑑みれば、本学看護学部看護学科の入学定員は80名であることから学生確保の見通しは立つと考えている。</u></p> <p><u>(b)リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科</u></p> <p><u>本学リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間において、理学療法学科（昼間コース）の入学定員80名、作業療法学科の入学定員40名に対して入学定員が充足していない年度を認める。しかし、下記の4点を根拠として、令和健康科学大学（仮称）における学生確保の見通しは立つと考えている。</u></p> <p><u>i）専門学校と比較して大学においては志願者の歩留りが違う点</u></p> <p><u>専門学校は合格者の大半が入学する（歩留まりが良い）ことに対して、大学では入学を辞退する合格者が一定数存在する。この点については、福岡県内の大学における看護学科の平均歩留り率が60.3%、理学療法学科の平均歩留り率が62.0%、作業療法学科の平均歩</u></p> | <p>(資料5 既設専門学校の学生確保の状況)</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>留り率が66.4%となっている。このデータから、入学者選抜によって入学定員の1.3～1.6倍の合格者を確保するために必要な志願者を確保することが必要であると考えられる。</u></p> <p><u>ii) 専門学校と比較して大学においては入学定員充足に対する考え方が違う点</u><br/> <u>専門学校は管轄する福岡県より入学定員を超えないように指導がなされている。また、福岡県より入学定員を満たすための指導が強くされていないという実態がある。しかし、大学においては永続経営を目的とするため、管轄する文部科学省から定員充足が求められている。このような入学定員充足率に対する考え方の違いからも、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院において一部の年度で定員未充足であるという結果に繋がったと考えている。</u></p> <p><u>iii) 母体となる専門学校と比較して令和健康科学大学（仮称）では入学者選抜の開催実態が違う点</u><br/> <u>ii) で述べた入学定員充足に対する考え方の違いは、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院の入試実態に表れている。すなわち、福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科では、出願者数が入学定員に達し次第、入学者選抜を打ち切っているため、出願者数が最大の年度であっても入学定員と同程度になり、出願者数が少ない年度を加味して平均を算出すれば100%を下回ることになる。別紙に示す福岡和白リハビリテーション学院における近年の入試日別出願者数をみると、早期に募集を締め切っている年度もあることから、大学同様に全ての入学者選抜を実施した場合は、出願者の増加を示唆するものと考察している。</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>iv) 専門学校と比較して、大学においては志願者をより確保しやすい環境である点</p> <p>福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科における志願倍率は 1.0 倍前後を推移しているのに対し、競合大学の理学療法学科・作業療法学科の志願倍率は 4.0 倍以上で推移していることから推察すれば、専門学校と比較して志願者数という観点において良化が見込めると考える。</p> <p>v) 専門学校から大学となる上で志願者層が変化する点</p> <p>iv) で述べた志願倍率の推移にも影響していますが、専門学校と大学では以下のような志願者層の違いがあると分析した。</p> <table border="1" data-bbox="193 985 802 1503"> <tr> <td data-bbox="193 985 304 1126">専門学校</td><td data-bbox="304 985 802 1126"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td data-bbox="193 1126 304 1503">大学</td><td data-bbox="304 1126 802 1503"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> </td></tr> </table> <p>このような志願者層の違いを踏まえつつ、本学が独自に行ったアンケート結果では、全体の 56.1% が福岡県に理学療法学・作業療法学を学べる大学が「とても増えて欲しい」、「増えて欲しい」、「やや増えて欲しい」と回答している。こうした大学志向の高まりは社会構造の変化に伴って発生していると考えられる。また、医療の多様化・複雑化を受けて、理学療法士・作業療法士に求められる能力が拡大している。総じて、専門学校よりも</p> | 専門学校                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul> | 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> |  |
| 専門学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul>                                                                                      |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |
| 大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |

| 新                                                                                                                                                     | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>大学に対する進学需要が高いことを加味し、<br/>学生確保の見通しが立つと分析した。</u></p> <p>(資料 5 既設専門学校の学生確保の状況)<br/>(資料 16 福岡県内大学同系統学科の歩留まり率)<br/>(資料 17 既設専門学校における近年の入試日別出願者数)</p> |   |

(是正事項) 看護学部 看護学科

20. 学生確保の見通しにおいて、中長期的なニーズの説明として、高等学校2年生に対し、今後短期大学や専門学校に比べて看護系大学を志望する生徒が増えるか等を質問し、その結果をもって説明しているが、高等学校の生徒に中長期的な看護系大学の志望者の推移について問うことが適切とは考えにくいと、適切かつ客観的に改めて説明すること。なお、その際には、看護系大学全体ではなく、本学科の学生の確保が中長期的に見込まれる旨を説明すること。(是正事項)

(対応)

下記の3点を根拠として本学科の学生の確保が中長期的に見込まれると考えています。

(1) 18歳人口の推移

本学の位置する福岡市における18歳人口は、2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて328人増加し、2.3%の増加率と推計されている。さらに、同年比較で東区も同様に161人増加し、5.6%の増加率と推計されている。一方、全国における18歳人口は、2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて12.6万人減少し、10.7%の減少率と推計されています。なお、福岡県における18歳人口は2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて2,337人減少するも、4.8%の減少率と推計されていることから、本学の位置する福岡市は18歳人口が中長期的に維持されることが見込まれており、マクロ的視点から分析した学生確保の状況の悪化要因とは考えにくいと考察しています。

(2) 競合大学における看護学科・理学療法学科・作業療法学科への志願者数推移

福岡県の競合大学における看護学科の志願者数は、2018(平成30)年度が6,229名から2020(令和2)年度は6,392名へと増加しています。同年比較で、理学療法学科の志願者数は、764名から1,055名へと増加し、作業療法学科の志願者数は330名から469名まで増加しています。すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科ともに、福岡県内のマーケット環境は良化していると考えています。

(3) 本学の特色と高校生のニーズの合致

以下の4点を根拠として、本学の特色と高校生の進路選択の際に重要視するニーズとの合致から本学への進学需要は十分にあると考えます。

なお、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学センサス2019 高校生の進路選択に関する調査」において、進学先検討時の重視項目の上位5項目は、「学びたい学部・学科・コースがあること(80.4%)」、「校風や雰囲気が良いこと(47.9%)」、「自分の興味や可能性が上げられること(46.6%)」、「就職に有利であること(45.0%)」、「自宅から通えること(38.6%)」となっています。これらの5項目が本学の特色に合致することで高校生のニーズと合致していることを比較参照して説明します。

①新校舎による充実した学習環境

上述した株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査において、校風や雰囲気について「キャンパス」から感じているという回答が最も多い結果となっています。これを踏まえ、本学は大学設置に伴い新たな校舎を建設し、新型の教育器材等も購入しているため、最新の学修設備や教材が整っています。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「学びたい学部・学科・コースがあること」及び「校風や雰囲気が良いこと」に合致していると考えています。



## ②設置予定の学科構成

本学が設置しようとする看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科全てを擁する競合大学は福岡県内で1校のみです。加えて、本学では3学科合同で、かつ1年次から4年次にわたって段階的に学修するIPEを特色としています。多くの専門職との協働が必要とされる多様化かつ高度化した医療に貢献するために、そして関連する多くの専門職に対する理解を深めていくことが自身の将来像の形成にも寄与することをねらいとしてIPEを導入しています。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自分の興味や可能性が広げられること」に合致すると考えています。

## ③既設の専門学校の就職実績

本学の母体である福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院における直近3年の就職率は100%となっています。また、近年の当該専門学校に寄せられる求人数の推移から、看護学科では6倍以上、理学療法学科では25倍以上、作業療法学科では75倍以上の定員に対する求人が令和健康科学大学の母体となる専門学校に寄せられており、就職実績は優れていると捉えています。また、本学の設置主体は全国27のグループ病院を運営する医療法人であることは、本学の卒業生が就職面において有利な条件であり、このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「就職に有利であること」に合致すると考えています。

## ④本学の立地

本学が位置する福岡市は福岡県における中心都市といえます。福岡市の2019（令和元）年における18歳人口は13,979人であり、これは福岡県全体の18歳人口の28.5%を占めています。また、博多駅から本学の最寄駅である福工大前駅まではJR鹿児島本線で15分程度と福岡の主要ターミナルである博多駅からのアクセスも良好といえます。このような18歳人口が多く、かつ通学しやすい地域にあることは、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自宅から通えること」に合致すると考えています。

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <p>《16～17 ページ》</p> <p>⑧中長期的な学生確保</p> <p>下記の3点を根拠として本学科の学生の確保が中長期的に見込まれると考えている。</p> <p>（i）18歳人口の推移</p> <p>本学の位置する福岡市における18歳人口は、2019（令和元）年から2029（令和11）年にかけて328人増加し、2.3%の増加率と推計されている。さらに、同年比較で東区も同様に161人増加し、5.6%の増加率と推計されている。一方、全国における18歳人口は、2019（令和元）年から2029（令和11）年にかけて12.6万人減少し、10.7%の減少率と推</p> | <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>計されている。なお、福岡県における 18 歳人口は 2019（令和元）年から 2029（令和 11）年にかけて 2,337 人減少するも、4.8%の減少率と推計されていることから、本学の位置する福岡市は 18 歳人口が中長期的に維持されることが見込まれており、マクロ的視点から分析した学生確保の状況の悪化要因とは考えにくいと考察している。</p> <p>（ii）競合大学における看護学科・理学療法学科・作業療法学科への志願者数推移</p> <p>福岡県の競合大学における看護学科の志願者数は、2018（平成 30）年度が 6,229 名から 2020（令和 2）年度は 6,392 名へと増加している。同年比較で、理学療法学科の志願者数は、764 名から 1,055 名へと増加し、作業療法学科の志願者数は 330 名から 469 名まで増加している。すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科ともに、福岡県内のマーケット環境は良化していると考えている。</p> <p>（iii）本学の特色と高校生のニーズの合致</p> <p>以下の 4 点を根拠として、本学の特色と高校生の進路選択の際に重要視するニーズとの合致から本学への進学需要は十分にあると考えている。</p> <p>なお、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学センサス 2019 高校生の進路選択に関する調査」において、進学先検討時の重視項目の上位 5 項目は、「学びたい学部・学科・コースがあること（80.4%）」、「校風や雰囲気が良いこと（47.9%）」、「自分の興味や可能性が広げられること（46.6%）」、「就職に有利であること（45.0%）」、「自宅から通えること（38.6%）」となっている。これらの 5 項目が本学の特色に合致することで高校生のニーズと合致していることを比較参照して説明する。</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>(a)新校舎による充実した学習環境</p> <p><u>上述した株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査において、校風や雰囲気について「キャンパス」から感じているという回答が最も多い結果となっている。これを踏まえ、本学は大学設置に伴い新たな校舎を建設し、新型の教育器材等も購入しているため、最新の学修設備や教材が整っている。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「学びたい学部・学科・コースがあること」及び「校風や雰囲気が良いこと」に合致すると考えている。</u></p> <p>(b)設置予定の学科構成</p> <p><u>本学が設置しようとする看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科全てを擁する競合大学は福岡県内で1校のみである。加えて、本学では3学科合同で、かつ1年次から4年次にわたって段階的に学修するIPEを特色としている。多くの専門職との協働が必要とされる多様化かつ高度化した医療に貢献するために、そして関連する多くの専門職に対する理解を深めていくことが自身の将来像の形成にも寄与することをねらいとしてIPEを導入している。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自分の興味や可能性が広げられること」に合致すると考えている。</u></p> <p>(c)既設の専門学校の就職実績</p> <p><u>本学の母体である福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院における直近3年の就職率は100%となっている。また、近年の当該専門学校に寄せられる求人数の推移から、看護学科では6倍以上、理学療法学科では25倍以上、作業療法学科では75倍以上の定員に対する求人が令和健康科学大学の母体となる専門学校に寄せられており、就職実績は優れていると捉えている。また、本学</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>の設置主体は全国 27 のグループ病院を運営する医療法人であることは、本学の卒業生が就職面において有利な条件であり、このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「就職に有利であること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(d)本学の立地</u></p> <p><u>本学が位置する福岡市は福岡県における中心都市といえる。福岡市の 2019（令和元）年における 18 歳人口は 13,979 人であり、これは福岡県全体の 18 歳人口の 28.5%を占めている。また、博多駅から本学の最寄駅である福工大前駅までは JR 鹿児島本線で 15 分程度と福岡の主要ターミナルである博多駅からのアクセスも良好といえる。このような 18 歳人口が多く、かつ通学しやすい地域にあることは、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自宅から通えること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(資料 1 全国および福岡県、福岡市、東区の 18 歳人口統計)</u></p> <p><u>(資料 18 既設専門学校の就職実績)</u></p> |   |

(是正事項) 看護学部 看護学科

21. 本学科が養成する人材の社会的需要について、医療施設の採用担当者に移行調査を行い、294名採用可能との回答があったことを根拠に人材需要を説明しているが、意向調査では単年度の採用移行人数を確認しているのみと見受けられ、養成する人材の継続的な社会的需要が見込まれるかが必ずしも明らかでないため、客観的数値で改めて説明すること。(是正事項)

(対応)

施設へのアンケート調査の回答において、人材不足との回答が多く、採用予定年度を完成年度以降5年と明確にして採用予定人数を質問するアンケートを既設の専門学校における就職実績の高い施設に対して改めて実施しました。

なお、専門学校と大学とで就職先からの内定状況等に乖離を生じる懸念については、既設の専門学校での就職活動は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の全てにおいて、複数内定をいただくことはせず、就職試験も同時期に複数の受験をさせていないため、就職先との関係性が強く築かれていることから、大学へ移行した際にも急激な減少をすることは考えにくく、アンケート結果は本学を卒業した学生の社会的需要を妥当に反映しているものと考えています。

人材需要に関するアンケートに回答いただいた施設のうち、既設専門学校の看護学科、理学療法学科、作業療法学科における採用実績が特に多く、本学との関係性が極めて強いと考えられる24施設に対して、以下の追加質問を実施し、回答の分析により本学に対する中長期的な人材需要の見通しを説明します。

Q 令和健康科学大学（仮称）の卒業生に対して、2026（令和8）年度以降の5年で継続的な採用を予定されていますか？

1. 毎年採用する予定である。
2. 隔年程度で採用する予定である。
3. 採用する予定はない。

上記アンケートの結果、24施設の全てで「1. 毎年採用する予定である。」という回答が得られました。これを踏まえて、以下の追加質問も実施しました。

Q 前問で1または2を選択した方にお尋ねします。2026（令和8）年度以降の5年で、毎年何名の採用を予定されていますか？

|              | 看護師 | 理学療法士 | 作業療法士 |
|--------------|-----|-------|-------|
| 2026（令和8）年度  | 名   | 名     | 名     |
| 2027（令和9）年度  | 名   | 名     | 名     |
| 2028（令和10）年度 | 名   | 名     | 名     |
| 2029（令和11）年度 | 名   | 名     | 名     |
| 2030（令和12）年度 | 名   | 名     | 名     |

上記アンケートの結果、全ての施設で各職種における毎年の採用人数は同数で、看護師200名、理学

療法士 92 名、作業療法士 229 名の採用を予定しているとの回答が得られました。

加えて、アンケートの対象とした既設専門学校の採用実績が高い施設において、就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の卒業生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えております。

以上の根拠をもって、看護学科 80 名、理学療法学科 80 名、作業療法学科 60 名に対する継続的な社会的需要が見込まれると考えます。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《31～33 ページ》</p> <p>(v)中長期的ニーズ</p> <p>今後の看護師の人材需要について全体の 75.5% (40 施設) が「拡大する」と回答があった。また、理学療法士についても全体の 63.0% (34 施設) が「拡大する」と回答があり、作業療法士についても全体の 78.8% (41 施設) が「拡大する」と回答があった。</p> <p>この結果から、現在の人材需要が短期的でなく、今後も看護師・理学療法士・作業療法士の人材需要は拡大していく見通しがあるといえる。</p> <p><u>また、施設へのアンケート調査の回答において、人材不足との回答が多く、採用予定年度を完成年度以降 5 年と明確にして採用予定人数を質問するアンケートを既設の専門学校における就職実績の高い施設に対して改めて実施した。</u></p> <p><u>なお、専門学校と大学とで就職先からの内定状況等に乖離を生じる懸念については、既設の専門学校での就職活動は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の全てにおいて、複数内定をいただくことはせず、就職試験も同時期に複数の受験をさせていないため、就職先との関係性が強く築かれていることから、大学へ移行した際にも急激な減少をすることは考えにくく、アンケート結果は本学を卒業した学生の社会的需要を妥当に反映しているものと考えている。</u></p> | <p>《23 ページ》</p> <p>(v)中長期的ニーズ</p> <p>今後の看護師の人材需要について全体の 75.5% (40 施設) が「拡大する」と回答があった。また、理学療法士についても全体の 63.0% (34 施設) が「拡大する」と回答があり、作業療法士についても全体の 78.8% (41 施設) が「拡大する」と回答があった。</p> <p>この結果から、現在の人材需要が短期的でなく、今後も看護師・理学療法士・作業療法士の人材需要は拡大していく見通しがあるといえる。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 旧          |              |              |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|----------|----------|----------|---------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|--|
| <p><u>人材需要に関するアンケートに回答いただいた施設のうち、既設専門学校の看護学科、理学療法学科、作業療法学科における採用実績が特に多く、本学との関係性が極めて強いと考えられる 24 施設に対して、以下の追加質問を実施し、回答の分析により本学に対する中長期的な人材需要の見通しを説明する。</u></p> <p><u>Q 令和健康科学大学（仮称）の卒業生に対して、2026（令和 8）年度以降の 5 年で継続的な採用を予定されていますか？</u></p> <p><u>1. 毎年採用する予定である。</u></p> <p><u>2. 隔年程度で採用する予定である。</u></p> <p><u>3. 採用する予定はない。</u></p> <p><u>上記アンケートの結果、24 施設の全てで「1. 毎年採用する予定である。」という回答が得られた。これを踏まえて、以下の追加質問も実施した。</u></p> <p><u>Q 前問で 1 または 2 を選択した方にお尋ねします。2026（令和 8）年度以降の 5 年で、毎年何名の採用を予定されていますか？</u></p> <table><tr><th></th><th><u>看護師</u></th><th><u>理学療法士</u></th><th><u>作業療法士</u></th></tr><tr><td><u>2026（令和 8）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2027（令和 9）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2028（令和 10）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2029（令和 11）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2030（令和 12）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr></table> |            | <u>看護師</u>   | <u>理学療法士</u> | <u>作業療法士</u> | <u>2026（令和 8）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2027（令和 9）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2028（令和 10）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2029（令和 11）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2030（令和 12）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <u>看護師</u> | <u>理学療法士</u> | <u>作業療法士</u> |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2026（令和 8）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2027（令和 9）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2028（令和 10）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2029（令和 11）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2030（令和 12）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>上記アンケートの結果、全ての施設で各職種における毎年の採用人数は同数で、看護師200名、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を予定しているとの回答が得られた。</u></p> <p><u>加えて、アンケートの対象とした既設専門学校</u><br/><u>の採用実績が高い施設において、就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の卒業生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えている。</u></p> <p><u>以上の根拠をもって、看護学科80名、理学療法学科80名、作業療法学科60名に対する継続的な社会的需要が見込まれると考えている。</u></p> |   |



## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

### （目次） リハビリテーション学部 理学療法学科

1. 「専門学校教育から大学教育へ移行する理由」として、「①質の高い医療専門職の育成」、「②健康科学の学問的発展」、「③効果的な IPE」、「④一般教養科目群の拡充」の4つが掲げられているが、それらの意義が必ずしも明らかでなく、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程にどのように反映されているか明確ではないので、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 129
2. 養成する人材像として、「多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人」をあげているが、根拠とされている中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切に改めること。（是正事項） ..... 141
3. 大学設置の必要性として、種々の社会的背景や地域からの要望が掲げられているが、教育研究上の目的との関係が必ずしも明らかではなく、例えば、「医療の対象者が性的マイノリティや外国人等に多様化していること」などの社会的背景として想定される課題に対する対応についても、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにどのように反映されているか不明確である。これらのことから、大学設置の必要性や社会的背景における説明と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を具体的に説明し、必要に応じて、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程等について適切に改めること。（是正事項） ..... 148
4. 学科ごとに設定する養成人材像や3つのポリシー等について、多くが同様の内容であるため、授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう適切に改めること。（是正事項） ... 152
5. 教育課程の編成においては、専門学校の授業と比較し、「幅広い知識と深い教養と総合的判断力を養うため、基幹分野を中心として大幅な科目増を行う」との説明がなされているが、具体的にどの授業科目が対応している科目なのか説明すること。また、これらの科目が移行理由として説明されている、「質の高い医療専門職の育成」「健康科学の学問的発展」「効果的な IPE」「一般教養科目群を拡充する」にどのように対応しているのか、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 173
6. 履修モデルの説明において、履修に当たっての選択科目の考え方として、3つのモデルが示されているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係性が明らかではなく、また、3つのモデルに分ける趣旨や養成する人材像の違いなどが明らかでないことから、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 185
7. 「医療の多様化と複雑化等の社会的背景を踏まえると、医療専門職には連携・協働の能力が必要である」こと等、医療専門職の連携に関する課題を大学設置の必要性の1つとして説明し、ディプロマ・ポリシーにおいても「多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力」を掲げているが、具体的な対応科目は専門職連携教育Ⅰ～Ⅳのみと見受けられることに加え、いずれも演習科目となっている。これらの科目のみで十分に目標を達成できるか不明確であるため、

教育課程全体で医療専門職の連携に関する課題についてどのように対応するのか、具体的に説明すること。(是正事項) ..... 190

8. 専門職連携教育Ⅰ～Ⅳについては複数の教員が担当することとなっているが、主担当の教員や教員連携の在り方について不明確であるため、具体的に説明すること。また、全員が同時に参加できる施設・設備が備わっていないように見受けられるため、具体的な実施形態について詳細に説明すること。(是正事項) ..... 193

9. 理学療法学科の特色の1つとして、「予防と医工連携の観点から健康にアプローチするための科目を開設」とあるが、具体的な科目が定かでないため、対応科目を示すとともに、その授業内容のどのような点が本学の特色であるのか、具体的に説明すること。(是正事項) ..... 204

10. 理学療法学科の授業科目について、運動器系・神経系の授業科目に比べて、循環器など内部障害系の授業科目は講義科目1科目と少なく、また、教員を専門性に基づき「基礎理学療法」「神経理学療法」「運動器理学療法」「ヘルスプロモーション」のユニットに大別し、学生に選択させる仕組みとなっているが、内部障害に関するユニットは設けられておらず、教育課程が不十分であると見受けられる。このことについて、具体的に説明するとともに、必要に応じて、内部障害に関する教育課程の充実を図ること。(是正事項) ..... 207

11. 臨床実習において、一部の科目については3か所の実習施設のみで実施することとなっており、多くの学生を同時に受け入れる想定となっている。各学科の実習要項や実習の手引で定める実習指導者数等、十分な指導体制が整っているのかを具体的に説明すること。(是正事項) ..... 210

12. 学習成果の評価について、以下について説明すること。(是正事項) ..... 213

(1)「各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す」とあるが、趣旨が不明確であるため、例を示しながら具体的に説明すること。 ..... 213

(2)GPAについては導入することのみが記載されており、内容が不明確であるため、詳細に説明すること。 ..... 215

(3)シラバスに記載された成績評価指標について、「客観試験」「技術試験」「定期試験」等の趣旨の不明確な指標が見受けられることから、客観的評価が可能な指標かについても検討の上、適切に改めるとともに、評価方法ごとの割合などについては、シラバスにも記載し、学生に適切に周知すること。 ..... 216

13. シラバスにオフィスアワーに関する記載がなされていないため、明確にすること。(改善事項) ..... 217

14. 設置の趣旨の説明において、本学の特色の一つに「充実したICT環境による自由度の高い学習支援 (ICT教育)」を掲げているが、教育課程をみると、1年次の「医療と情報リテラシー」のみと見受けられ、また、「一部の授業について学習用動画を作成し」「学修できる教材を整備する」、「遠隔教育の整備をする」等、ICTの活用が強調されているが、講義・演習・実習科目等多様な授業形態が

|                                                                                                                                                                                                                                                   |     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| ある中でどの授業でどのように活用されるか不明確であるため、その妥当性も含め具体的に説明すること。(是正事項) .....                                                                                                                                                                                      | 218 |
| 1 5. 語学教育として、英語に加えて中国語又は韓国語が必修科目とされている趣旨について説明すること。(改善事項) .....                                                                                                                                                                                   | 221 |
| 1 6. 科目の名称について、「カウンセリング」など、大学の科目の名称らしくないものが散見されるため、適切に修正すること。(改善事項) .....                                                                                                                                                                         | 222 |
| 1 7. 入学者選抜について、例えば、「学校推薦型選抜(一般)」においては「面接、調査書、小論文を主たる判定資料とする」とある等、評価に関する項目が明確ではないため、各項目の評価割合なども含め、アドミッション・ポリシーに記載されている内容をどのように担保するのか、試験区分ごとに具体的に説明すること。また、学力試験において、数学等の教科名のみが記載されているものは、必要な科目名まで明示すること。(是正事項) .....                                | 223 |
| 1 8. 理学療法士の有資格者のうち、指定規則に定める教員資格を満たしていないとする2名の専任教員については、「完成年度まで」ではなく、指定規則における経過措置終了までには教員要件を満たすようにすること。(是正事項) .....                                                                                                                                | 228 |
| 1 9. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(是正事項) .....                                                                                                                                                                | 229 |
| 2 0. 「習得」や「学習」等、シラバスに誤字が散見される他、「設置認可等に関わる組織の移行表」では、他に設置する専門学校の名称の多くが同じものになっている等、書類上に誤記と思われる内容が散見されるため、網羅的に確認をした上で、適切に修正すること。(改善事項) .....                                                                                                          | 231 |
| 2 1. 学生確保の見通しにおける分析について、例えば県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率等は必ずしも理学療法・作業療法等の学科に細分化したものとなっておらず不十分であるため、細分化して分析すること。(是正事項) .....                                                                                                                                 | 233 |
| 2 2. 既設専門学校の学生確保の状況については、単年度のみの数値に基づく分析となっているため、過去5年程度の推移を示した上で説明すること。(是正事項) .....                                                                                                                                                                | 242 |
| 2 3. 学生確保の見通しにおいて、中長期的なニーズの説明として、高等学校2年生に対し、今後短期大学や専門学校に比べて看護系やリハビリテーション系の大学を志望する生徒が増えるか等を質問し、その結果をもって説明しているが、高等学校の生徒に中長期的な志望者の推移について問うことが適切とは考えにくいと、適切かつ客観的に改めて説明すること。なお、その際には、看護系やリハビリテーション系の大学全体ではなく、本学科の学生の確保が中長期的に見込まれる旨を説明すること。(是正事項) ..... | 249 |
| 2 4. 本学科が養成する人材の社会的需要について、医療施設の採用担当者に移行調査を行い、294名採用可能との回答があったことを根拠に人材需要を説明しているが、意向調査では単に単年度の採用                                                                                                                                                    |     |

移行人数を確認しているのみと見受けられ、養成する人材の継続的な社会的需要が見込まれるかが必ずしも明らかでないため、客観的数値で改めて説明すること。(是正事項) ..... 254

2 5. 社会的・地域的な人材需要の動向として、福岡県内の医療技術者の求人状況や福岡市健康先進都市戦略等が示されているが、具体的に県内においてどの程度の理学療法士が不足しているのかといったことに加え、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」にて示された需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」とされていること等が踏まえられておらず、中長期的に人材需要があるか不明確である。ついては、最新のデータを用いて地域的な需給関係等を再度検討した上で、人材需要の見通しについて改めて明確に説明すること。(是正事項) ..... 258

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

1. 「専門学校教育から大学教育へ移行する理由」として、「①質の高い医療専門職の育成」、「②健康科学の学問的発展」、「③効果的な IPE」、「④一般教養科目群の拡充」の4つが掲げられているが、それらの意義が必ずしも明らかでなく、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程にどのように反映されているか明確ではないので、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

専門学校教育から大学教育へ移行する理由として掲げた4つの意義(①質の高い医療専門職の育成(以下、「①」とします。)、②健康科学の学問的発展(以下、「②」とします。)、③効果的な IPE(以下、「③」とします。)、④一般教養科目群の拡充(以下、「④」とします。))に対して、養成する人材像、3つのポリシー、教育課程へは以下のとおり反映させています。

【意義】①について、専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えております。②について、健康科学は、1985(昭和60)年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っています。一方、健康の概念は広く、従来の学問領域では捉えることが困難となっています。そこで、本学では「探究心」を培うことで、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成します。③について、高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠です。そこで、本学では看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁しており、かつ3年制専門学校では各学科の臨地実習・臨床実習の時期の相違から、IPEは正課外等で実施できたとしても、1年次から各年次にわたって段階的に効果的な専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)を導入することが困難でした。そこで、本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働(Interprofessional Work: IPW)に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することで社会貢献ができる人材を育成します。④について、一般教養科目群の多くは学問として長い歴史をもち、十分に醸成された学問といえます。これらの学問を学修することは医療専門職にとっても基盤となる人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができると考えています。そして換言すれば、倫理観を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えています。

【養成する人材像】①について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「質の高い医療専門職の育成」は、下線部分に反映させています。②について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させています。③について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させています。④について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考

力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「一般教養科目群の拡充」は、下線部分に反映させている。

【ディプロマ・ポリシー】①について、「質の高い医療専門職の育成」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化・高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」及び「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」の下線部分に反映させています。②について、「健康科学の学問的発展」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させています。③について、「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させています。④について、「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させています。

【カリキュラム・ポリシー】①について、カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させています。②について、カリキュラム・ポリシーのうち、「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」の下線部分に反映させています。③について、カリキュラム・ポリシーのうち、「科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」、「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と関連させて学修する授業科目を開設する。」、「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させています。④について、カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させています。

【アドミッション・ポリシー】①について、アドミッション・ポリシーのうち、「健康及び医療に関心を持ち、深く学びたいという意欲のある者」の下線部分に反映させています。②について、アドミッション・ポリシーのうち、「医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者」の下線部分に反映させています。③について、アドミッション・ポリシーのうち、「人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、及び「人と関わることが好きで、人の話をよく聴くことができる者」の下線部分に反映させています。④について、アドミッション・ポリシーのうち、「本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者」の下線部分に反

映させています。

【教育課程】①について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（1単位・15時間）」、「理学療法臨床推論（1単位・15時間）」、「作業療法臨床推論（1単位・15時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（1単位・15時間）」、「高度先進医療論（1単位・15時間）」、「作業療法特論（1単位・15時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで反映させています。②について、基幹分野で根拠の導き方を学び、専門基礎分野で主な研究テーマや素材を学び、専門分野で研究と臨床との接点を学びます。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学部）、専門分野では卒業研究科目を開設したことで反映させています。③について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）」（1単位・30時間）を開設したことで反映させています。④について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで反映させています。

#### 4つの移行理由の意義と養成する人材像、3つのポリシー、教育課程への反映

| 反映する<br>事項 | ①質の高い医療専門職の育成                                                                                                           | ②健康科学の学問的発展                                                                                                                      | ③効果的な IPE                                                                                                                                                                                    | ④一般教養科目群の拡充                                                                                                              |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 意義         | 専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことから、より質の高い医療専門職を育成することができる。 | 健康科学は、1985（昭和60）年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っている。一方、健康が広い概念であるために、従来の学問領域では捉えることが困 | 高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠である。そこで、本学では看護学科、理学療法学科、作業療法学科を有しており、かつ3年制専門学校では臨床実習・臨床実習の時期の差異から、スポット的に IPE を実施できたとしても、1年次から各年次にわたって段階的に効果的な専門職連携教育（Interprofessional | 一般教養科目群の多くは長い歴史をもち、十分に醸成された学問である。これらの学問を学修することは人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができる。すなわち、倫理観の育成は、より質の高い医療専門職 |

|            |                                                                                                                                              |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                            |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            |                                                                                                                                              | <p>難となっている。</p> <p>そこで、本学では「探究心」を培い、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成する。</p>                                                                           | <p>Education：IPE）を導入することが困難であった。そこで本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することができる人材を育成する。</p> | <p>門職を育成することができる。</p>                                                                                                                      |
| 養成する人材像    | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>質の高い医療専門職の育成</u>」は、下線部分に反映させている。</p> | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>健康科学の学問的発展</u>」は、下線部分に反映させている。</p> | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>効果的な IPE</u>」は、下線部分に反映させている。</p>           | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「<u>一般教養科目群の拡充</u>」は、下線部分に反映させている。</p> |
| ディプロマ・ポリシー | <p>「<u>質の高い医療専門職の育成</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「①医療職として、<u>幅広い教養と人間愛（倫理観）</u>及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「③医療職として、<u>高度な知識と技術及び多くの専門職と連</u></p>     | <p>「<u>健康科学の学問的発展</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「②医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを<u>科学的に解決する能力</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                                | <p>「<u>効果的な IPE</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「③医療職として、<u>高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                             | <p>「<u>一般教養科目群の拡充</u>」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「①医療職として、<u>幅広い教養と人間愛（倫理観）</u>及び<u>生涯にわたり自己研鑽する態度</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                    |



|              |                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | 携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させている。                                                                                                                                              |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                 |
| カリキュラム・ポリシー  | 「質の高い医療専門職の育成」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「健康科学の学問的発展」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「効果的な IPE」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」、「③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。」、「④各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「一般教養科目群の拡充」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させている。 |
| アドミッション・ポリシー | 「質の高い医療専門職の育成」は、アドミッション・ポリシーのうち、「①医療に興                                                                                                                                                    | 「健康科学の学問的発展」は、アドミッション・ポリシーのうち、「⑤医療専門職の資格                                                                             | 「効果的な IPE」は、アドミッション・ポリシーのうち、「②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、                                                                                                                                                                                                                                                                    | 「一般教養科目群の拡充」は、アドミッション・ポリシーのうち、「④本学で学ぶために                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 味・関心をもち、<br><u>深く学びたいとい</u><br><u>う意欲のある者</u> 」<br>の下線部分に反映<br>させている。                                                                                                                                                                                                                                                                 | を取得し、 <u>広く社</u><br><u>会で貢献したいと</u><br><u>の意欲をもつ者</u> 」<br>の下線部分に反映<br>させている。                                                                                                                                                                                                                                                  | 及び「③人と関わるこ<br>とが好きで、人の <u>話</u> をよく<br><u>聴くことができる者</u> 」の<br>下線部分に反映させてい<br>る。                                                                                                                                                                                   | 必要な <u>基礎学力</u><br>( <u>思考力・判断</u><br><u>力・表現力等</u> )と<br><u>学修態度</u> を身につ<br>けている者」の下<br>線部分に反映させ<br>ている。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 教育課程 | 「質の高い医療<br>専門職の育成」<br>は、各専門職の養<br>成にかかる指定規<br>則に加えて、「看護<br>臨床推論（1単<br>位・15時間）」、<br>「理学療法臨床推<br>論（1単位・15時<br>間）」、「作業療法臨<br>床推論（1単位・<br>15時間）」等を開<br>設することで、ク<br>リティカルシンキ<br>ング（考える力）<br>を身につけ、「高度<br>先進医療看護学<br>（1単位・15時<br>間）」、「高度先進医<br>療論（1単位・15<br>時間）」、「作業療法<br>特論（1単位・15<br>時間）」を履修さ<br>せ、最新の知見を<br>学ぶ科目を開設し<br>たことで反映させ<br>ている。 | 「健康科学の学<br>問的発展」は、基<br>幹分野で根拠の導<br>き方を学び、専門<br>基礎分野で主な研<br>究テーマや素材を<br>学び、専門分野で<br>研究と臨床との接<br>点を学ぶ。すなわ<br>ち、各指定規則に<br>加えて、基幹分野<br>の「健康科学入門<br>（1単位・15時<br>間）」を開設したこ<br>と、専門基礎分野<br>の「健康科学医療<br>論（1単位・15時<br>間）」を開設したこ<br>と（看護学部）、一<br>般臨床医学系の時<br>間数を増大したこ<br>と（リハビリテー<br>ション学部）、専門<br>分野では卒業研究<br>科目を開設したこ<br>とで反映させてい<br>る。 | 「効果的な IPE」は、<br>各専門職の養成にか<br>かる指定規則に加<br>えて、「専門職連<br>携教育Ⅰ（専門職<br>連携の基礎）」（1<br>単位・30時間）、「<br>専門職連携教育Ⅱ<br>（専門職連携の構<br>築）」（1単位・30<br>時間）、「専門職連<br>携教育Ⅲ（専門職<br>連携における尊重<br>）（1単位・30時<br>間）」、「専門職連<br>携教育Ⅳ（専門職<br>連携における協働<br>）（1単位・30時<br>間）」を開設した<br>ことで反映させてい<br>る。 | 「一般教養科目<br>群の拡充」は、各<br>専門職の養成にか<br>かる指定規則に加<br>えて、幅広く多様<br>性に富む適応性を<br>高めるため、発達<br>心理学（1単位・<br>30時間）、ジェン<br>ダー論（1単位・<br>15時間）、法学<br>（1単位・15時<br>間）、経営学（1<br>単位・15時間）、<br>国際関係論（1<br>単位・15時間）等<br>を基幹分野に開設<br>したこと、保健・医<br>療・福祉分野を幅<br>広く学修するため<br>、「保健医療福祉<br>制度論（2単位・<br>30時間）」、「カウ<br>ンセリング論（1<br>単位・15時間）」<br>等の医療関連科目<br>を開設したことで<br>反映させている。 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <p>《14～18 ページ》</p> <p><b>1-4-1 質の高い医療専門職の育成</b></p> <p>① 意義</p> <p><u>専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えている。</u></p> <p>② 養成する人材像への反映</p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。なかんずく「質の高い医療専門職の育成」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ 3つのポリシーへの反映</p> <p><u>ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」及び「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> | <p>《7 ページ》</p> <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「健康及び医療に関心をもち、深く学びたいという意欲のある者」の下線部分に反映させている。</u></p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p><u>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（１単位・１５時間）」、「理学療法臨床推論（１単位・１５時間）」、「作業療法臨床推論（１単位・１５時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（１単位・１５時間）」、「高度先進医療論（１単位・１５時間）」、「作業療法特論（１単位・１５時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで反映させています。</u></p> <p><b>1-4-2 健康科学の学問的発展</b></p> <p>① <u>意義</u></p> <p><u>健康科学は、1985（昭和 60）年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っている。一方、健康の概念は広く、従来の学問領域では捉えることが困難となっています。そこで、本学では「探究心」を培うことで、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成する。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u></p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u><br/><u>かんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシーのうち、「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者」の下線部分に反映させている。</u></p> |   |
| <p>④ 教育課程への反映</p> <p><u>基幹分野で根拠の導き方を学び、専門基礎分野で主な研究テーマや素材を学び、専門分野で研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学部）、専門分野では卒業研究科目を開設したことで反映させている。</u></p>                                                                                                                               |   |
| <p><b>1-4-3 効果的な専門職連携教育（IPE）</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |   |
| <p>① 意義</p> <p><u>高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠となる。本学は看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁しており、かつ3年制専門学校では各学科の臨地実習・臨床実習の時期</u></p>                                                                                                                                                                                                                            |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>の相違から正課外等で実施する他は実施困難であった効果的な専門職連携教育</u><br/> <u>(Interprofessional Education : IPE) を 1 年次から各年次にわたって段階的に導入する。</u>加えて、<u>本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働 (Interprofessional Work : IPW) に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することで社会貢献ができる人材を育成する。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u><br/> <u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。なかんづく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u><br/> <u>「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させている。</u><br/> <u>カリキュラム・ポリシーのうち、「科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。」「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4 年次にわたって多</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、及び「人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者」の下線部分に反映させている。</u></p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p><u>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）」を開設したことで反映させている。</u></p> <p><b>1-4-4 一般教養科目群の拡充</b></p> <p>① <u>意義</u></p> <p><u>一般教養科目群の多くは学問として長い歴史をもち、十分に醸成された学問といえる。これらの学問を学修することは医療専門職にとっても基盤となる人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができると考えている。さらに換言すれば、倫理観を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えている。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u></p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>かんずく「一般教養科目群の拡充」は、<u>下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u></p> <p>「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させている。</p> <p>カリキュラム・ポリシーのうち、「<u>「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</u>」の下線部分に反映させている。</p> <p>アドミッション・ポリシーのうち、「<u>本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</u>」の下線部分に反映させている。</p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで反映させている。</p> |   |



(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

2. 養成する人材像として、「多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人」をあげているが、根拠とされている中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切に改めること。(是正事項)

(対応)

2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切なものとなるよう設置の趣旨等を記載した書類を以下のとおり改めます。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、生活者である人を対象とする職業であることから、【中略】、問題を追究していくクリティカルシンキング（考える力）を身につける必要がある。</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。これに必要となる能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</u></p> <p>《21 ページ》</p> <p>① 倫理観</p> <p>医療専門職の倫理観は、【中略】</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識</p> | <p>《9～10 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、生活者である人を対象とする職業であることから、【中略】、問題を追究していくクリティカルシンキング（考える力）を身につける必要がある。</p> <p>本学では多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人を養成する。</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成 17）年 1 月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別できる。</u></p> <p>《10 ページ》</p> <p>① 倫理観</p> <p>医療専門職の倫理観は、【中略】</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。</p> <p>② 探究心</p> <p>医療専門職の探究心は、【中略】</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが重要である。また、研究は次世代への課題を提起し、中長期的にみて新たな領域や産業を創出すると考え、本学の養成する人材像として「探究心」は重要なコンピテンシーである。</p> <p>③ 実践力</p> <p>医療専門職の実践力は、【中略】</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による<u>演習の導入により</u>、臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせる<u>能力を導き出す</u>。このように、専門性の深化や役割を学び続ける<u>探究心を培い、地域医療の発展へと展開する実践力を育成する</u>。</p> <p>《23～24 ページ》</p> <p><b>1-6-1 看護基礎教育における学士課程の必要性</b></p> <p>少子高齢社会の急速な進展や、【中略】</p> <p>教育基本法の第7条（大学）では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培う</p> | <p>が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、「知の創出」を巡らすうえで重要なことは、生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。ここで強調したいことは生命の尊厳を基盤とする倫理観なしには、医療専門職の「知の創出」は成し得ないということである。</p> <p>② 探究心</p> <p>医療専門職の探究心は、【中略】</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが「知の創出」につながるものと考ええる。</p> <p>③ 実践力</p> <p>医療専門職の実践力は、【中略】</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせるという新しい「知」として導き出される。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、「知の創出」へとつなげ、地域医療の発展へと展開する実践力を養成する。</p> <p>《12～13 ページ》</p> <p><b>1-6-1 看護基礎教育における学士課程の必要性</b></p> <p>少子高齢社会の急速な進展や、【中略】</p> <p>教育基本法の第7条（大学）では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培う</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>とともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」と規定されており、看護の体系化の基盤づくりを担う看護系大学の看護基礎教育における学士課程は、こうした社会の変遷に対応するうえにおいて必要かつ重要であり、その存在意義は大きい。加えて、アジアにおける看護基礎教育については、韓国、フィリピン、マカオは4年制大学教育のみとなっている。</p>            | <p>とともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」と規定されており、看護の知の創出と体系化の基盤づくりを担う看護系大学の看護基礎教育における学士課程は、こうした社会の変遷に対応するうえにおいて必要かつ重要であり、その存在意義は大きい。加えて、アジアにおける看護基礎教育については、韓国、フィリピン、マカオは4年制大学教育のみとなっている。</p> |
| <p>《51 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                          | <p>《35 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                    |
| <p><b>2 学部・学科等の特色</b></p>                                                                                                                                                                                                | <p><b>2 学部・学科等の特色</b></p>                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>2-1 令和健康科学大学（仮称）の特色</b></p>                                                                                                                                                                                        | <p><b>2-1 令和健康科学大学（仮称）の特色</b></p>                                                                                                                                                                                  |
| <p>2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                          | <p>2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                    |
| <p>【中略】</p>                                                                                                                                                                                                              | <p>【中略】</p>                                                                                                                                                                                                        |
| <p>2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                          | <p>2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                    |
| <p>「①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の 7 つの機能を併用する。」としている。</p>                                                                                   | <p>「①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学修機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の 7 つの機能を併用する。」としている。</p>                                                                             |
| <p>以上の内容を踏まえ、本学では「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うものとする。医療専門職に必要な倫理観、多様な価値観をもつ人間の理解、良好な人間関係の構築、問題解決能力、探究心、自己学修能力等の学士力を基盤にして専門教育につなげられるように、<u>これらの能力を体系的に育成する</u>。また、社会情勢を踏まえ、<u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応できる実践力を養う。<u>そのうえで、本学では超高齢</u></p> | <p>以上の内容を踏まえ、本学では②「高度専門職業人養成」及び③「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うものとする。医療専門職に必要な倫理観、多様な価値観をもつ人間の理解、良好な人間関係の構築、問題解決能力、探究心、自己学修能力等の学士力を基盤にして専門教育につなげられるように、<u>これらの能力を体系的に育成することで、「高度専門職業人」と「幅広い職業人」とを併せもつ人材を「養成」</u></p>          |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>社会において、あらゆる場における最適な生活（well-being）への包括的な健康支援が可能な、専門的知識・技術・態度を備えた医療専門職を育成するための教育課程を編成する。</p> <p>具体的には、【中略】</p> <p>上記5つを本学の特色とし、これに加えて各学部・学科の特色を策定することで、本学が養成する人材像のコンピテンシー（倫理観、探究心、実践力）を身につけた医療専門職（看護師、理学療法士、作業療法士）を育成する。</p>                                        | <p>できると考える。また、社会情勢を踏まえ、高度化・多様化する医療に対応できる実践力を養う。すなわち、本学では「幅広い教養と思考力、探究心を統合した実践力を備えた医療専門職の育成する」ため、特色ある教育課程を編成する。</p> <p>具体的には、【中略】</p> <p>上記5つを本学の特色とし、これに加えて各学部・学科の特色を策定することで、本学が養成する人材像のコンピテンシー（倫理観、探究心、実践力）を身につけた「高度専門職業人」である医療専門職（看護師、理学療法士、作業療法士）を育成する。</p> |
| <p>《85 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>《65 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p><b>5-1 教員の配置</b></p>                                                                                                                                                                                                                                              | <p><b>5-1 教員の配置</b></p>                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>本学の教員採用・承認は【中略】</p>                                                                                                                                                                                                                                               | <p>本学の教員採用・承認は、【中略】</p>                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>このことから、本学の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして多様性を備えた幅広い職業人の養成という目標に沿った教育課程の実現のために、専門分野、専門基礎分野を担当する専任教員には、豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置した。</p>                                                                                                                    | <p>このことから、本学の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして多様性を備えた高度専門職業人の養成という目標に沿った教育課程の実現のために、専門分野、専門基礎分野を担当する専任教員には、豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置した。</p>                                                                                                             |
| <p>《124～125 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>《101～102 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p><b>10-2-1 基本方針</b></p>                                                                                                                                                                                                                                            | <p><b>10-2-1 基本方針</b></p>                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>本学の養成する人材像は、多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「幅広い職業人」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へ</p> | <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p>                                  |

| 新        | 旧 |
|----------|---|
| と繋がっていく。 |   |

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20～22 ページ》</p> <p>(2) 令和健康科学大学の養成する人材像</p> <p>本学の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職</u>」である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《看護学部看護学科》</p> <p>看護学部看護学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u>おして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、<u>持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》</p> <p>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をと</u>おして<u>基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。</p> | <p>《12～13 ページ》</p> <p>(2) 令和健康科学大学の養成する人材像</p> <p>本学の養成する人材像は「<u>「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職</u>」である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《看護学部看護学科》</p> <p>看護学部看護学科の養成する人材像は「高い職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、地域の健康社会の実現に寄与する看護師」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》</p> <p>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する理学療法士」である。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。</p> <p>(3) 倫理観について<br/>医療専門職の倫理観は、<u>対象である生命の尊厳を尊重する姿勢である</u>。<u>こうした倫理観は、自己洞察と内省により獲得される</u>。<br/>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨地実習・臨床実習等をとおして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成され则认为る。<br/>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、<u>生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である</u>。</p> <p>(4) 探究心について</p> | <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。</p> <p>(3) 倫理観について<br/>医療専門職の倫理観は、人間の尊厳を基盤とする。これは医療専門職としてふさわしい職業倫理であり、理論や知識だけでなく、自己洞察と内省により獲得される。<br/>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨地実習・臨床実習等をとおして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成され则认为る。<br/>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そしてまた、医療は「人間」を対象とするため、そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、「<u>知の創出</u>」を巡らすうえで重要なことは、人間の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。ここで強調したいことは人間の尊厳を基盤とする倫理観なしには、医療専門職の「<u>知の創出</u>」は成し得ないということである。</p> <p>(4) 探究心について</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる<sup>と考える</sup>。</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが<u>重要である</u>。また、<u>研究は次世代への課題を提起し、中長期的にみて新たな領域や産業を創出すると考え、本学の養成する人材像として「探究心」は重要なコンピテンシーである</u>。</p> <p>（５）実践力について</p> <p>医療専門職の実践力は、倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものであるといえる。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、<u>臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う</u>。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせる<u>能力を導き出す</u>。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、地域医療の発展へと展開する実践力を<u>育成する</u>。</p> | <p>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる<sup>と考える</sup>。</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが「<u>知の創出</u>」につながるもの<sup>と考える</sup>。</p> <p>（５）実践力について</p> <p>医療専門職の実践力は、医療職としての倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものである。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、<u>実習における反復トレーニングを徹底的に行う</u>。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせるという新しい「<u>知</u>」として導き出される。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、「<u>知の創出</u>」へとつなげ、地域医療の発展へと展開する実践力を養成する。</p> |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

3. 大学設置の必要性として、種々の社会的背景や地域からの要望が掲げられているが、教育研究上の目的との関係が必ずしも明らかではなく、例えば、「医療の対象者が性的マイノリティや外国人等に多様化していること」などの社会的背景として想定される課題に対する対応についても、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにどのように反映されているか不明確である。これらのことから、大学設置の必要性や社会的背景における説明と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を具体的に説明し、必要に応じて、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程等について適切に改めること。(是正事項)

(対応)

大学設置の必要性と教育研究上の目的との関係が明らかな部分があり、当該部分について以下のとおり設置の趣旨等を記載した書類を適切に改めます。

大学設置の必要性について、本学では「健康の重要性向上と健康寿命の延伸に伴う医療専門職の不足」及び「医療の多様化と高度化」の2つの側面があると考えます。

(1) 健康の重要性向上と健康寿命の延伸に伴う医療専門職の不足

我が国において健康に対する重要性は年々向上しております。一方、生産年齢人口が減少していく中で、現在の医療制度を維持・発展させるためには、国民一人ひとりの健康寿命を延伸し、誰もが元気に暮らしていける社会の実現が望まれています。このような状況を鑑みて、「持続可能な健康長寿社会の実現」を一つのコンセプトとして本学を設置することにしました。即ち、「医療費の適正化」のために、「地域包括ケアの推進」が喫緊の課題と捉え、本学が地域・社会から求められている担い手として貢献することを目的としています。また、別の観点から、多様化かつ高度化する地域医療の担い手としては、専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）が必須であり、加えて専門職の質の向上が求められております。そこで、本学は専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって段階的に修得し、将来のIPWに円滑な移行ができるよう教育課程を編成しております。また、専門職の質の向上については、専門学校で精錬した教育をより充実させるため必要に応じ教授内容、科目数、時間数等を拡充すること、そして各職種の養成にかかる指定規則上の科目以外の科目を学科の特色として反映いたしました。

これらを解決するために主に必要な能力は、健康観のパラダイムシフトです。すなわち、「疾病でないこと」という狭義の健康観から、「予防も含めていわゆる健康な人々をも対象とする」という広義の健康観です。これらのことを十分に理解したうえで、各専門職の強みを発揮することが健康寿命の延伸につながると考えられます。

本学の養成する人材像では、「持続可能な健康長寿社会の実現」という部分とつながりをもち、ディプロマ・ポリシーでは「持続可能な健康長寿社会の実現に寄与」、カリキュラム・ポリシーでは「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて」という語句で反映させています。

主に関連する本学の教育課程は、看護学部では「健康科学入門（1単位・15時間）」、「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「地域看護学概論（2単位・30時間）」、リハビリテーション学部では「健康科学入門（1単位・15時間）」、「論理的思考法（1単位・15時間）」、「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「予防理学療法学（1単位・15時間）※理学療法学科のみ」、「ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）※作業療法学のみ」が該当します。



## (2) 医療の多様化と高度化

医療分野は日進月歩といわれるように、目覚ましい発展を遂げています。それに伴い、現代の医療は多様化し、かつ高度化してきております。多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味しています。高度化とは、救急医療に代表されるような高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味しています。

つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）の重要性が強調されるようになりました。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連関させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につけます。

本学の養成する人材像では、「多様化・高度化する医療において」という部分とつながりを持ち、ディプロマ・ポリシーでは「多様化かつ高度化する医療において」、カリキュラム・ポリシーでは「多様化かつ高度化する医療に対応するために」という語句で反映させています。

主に関連する本学の教育課程は、専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）＝「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携教育における尊重）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）」が該当します。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と高度化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>日進月歩といわれる近年の医療は多様化し、かつ高度化している。なお、多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味する。そして高度化とは、救急医療に代表されるように高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味する。</p> <p>つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）</p> | <p>《5 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と複雑化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>高齢者人口の増加と並行して、医療の対象者は、健康障害をもつ人や障害者だけでなく、性的マイノリティや外国人等にまで多様化しており、今後の医療は複雑化する。複雑化する医療に対応するためにも専門職連携協働が求められる。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>の重要性が強調されている。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連携させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につける。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |   |

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《24 ページ》</p> <p>（2）医療の多様化と複雑化</p> <p>近年、我が国では諸外国と比べ、例をみないスピードで高齢化が進行しており、2019（令和元）年版高齢社会白書（概要版）によれば、2018（平成30）年10月1日現在の我が国の総人口は1億2,644万人となった。そのうち65歳以上人口は3,558万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.1となる。なお、65～74歳人口は1,760万人、総人口に占める割合は13.9%であるのに対し、75歳以上人口は1,798万人、総人口に占める割合は14.2%で65～74歳人口を上回っている。また、高齢化率の将来推計では、2025（令和7年）には30.0%、2035（令和17）年には32.8%、2065（令和47）年には38.4%と増加の一途を辿る。</p> <p>日進月歩といわれる近年の医療は多様化し、かつ高度化している。なお、多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味する。そして高度化とは、救急医療に代表されるように高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味する。</p> | <p>《15～16 ページ》</p> <p>（2）医療の多様化と複雑化</p> <p>近年、我が国では諸外国と比べ、例をみないスピードで高齢化が進行しており、2019（令和元）年版高齢社会白書（概要版）によれば、2018（平成30）年10月1日現在の我が国の総人口は1億2,644万人となった。そのうち65歳以上人口は3,558万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.1となる。なお、65～74歳人口は1,760万人、総人口に占める割合は13.9%であるのに対し、75歳以上人口は1,798万人、総人口に占める割合は14.2%で65～74歳人口を上回っている。また、高齢化率の将来推計では、2025（令和7年）には30.0%、2035（令和17）年には32.8%、2065（令和47）年には38.4%と増加の一途を辿る。</p> <p>高齢者人口の増加と並行して、医療の対象者は、健康障害をもつ人や障害者だけでなく、性的マイノリティや外国人等にまで多様化しており、今後の医療は複雑化する。複雑化する医療に対応するためにも専門職連携協働が求められる。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                             | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）の重要性が強調されている。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と関連させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につける。</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

4. 学科ごとに設定する養成人材像や3つのポリシー等について、多くが同様の内容であるため、授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう適切に改めること。(是正事項)

(対応)

本審査意見を踏まえ、下記の方針により養成する人材像、3つのポリシーを授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう改めます。また、養成する人材像、3つのポリシーの変更に伴い、対応する資料を改めます。

【別紙資料1】 養成する人材像と3つのポリシー

(1) 養成する人材像について

本学の設置の趣旨を考慮し、令和健康科学大学の養成する人材像に「多様化・高度化する医療において、」「多様な対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する」を追加しました。また、大学全体の養成する人材像の変更に伴い、3学科の養成する人材像を修正しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれの養成する人材像に専門職種の特徴を踏まえ、適切な形に改めました。(表1. 養成する人材像の新旧対照表)

(2) ディプロマ・ポリシーについて

養成する人材像の変更に伴い、大学全体のディプロマ・ポリシーに「多様化かつ高度化する医療において、」「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」を追加しました。また、本審査意見や本学の教育理念を考慮し「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」を追加しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれのディプロマ・ポリシーについては大学全体のディプロマ・ポリシーの変更を反映すると共に、専門職種の特徴を踏まえ、適切な形に改めました。(表2. ディプロマ・ポリシーの新旧対照表)

(3) カリキュラム・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシーの変更に伴い、大学全体のカリキュラム・ポリシーに「多様化かつ高度化」「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、」を追加いたしました。また、より教育課程の内容と整合するように「基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に」を追加いたしました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれのカリキュラム・ポリシーについては、大学全体のカリキュラム・ポリシーを反映すると共に、専門職種の特徴を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを改めた点を反映し、より専門職種の特徴がでるよう修正をいたしました。なお、教育課程との整合も鑑み、より設置の趣旨や教育課程の内容を適切に反映できるようなポリシーとしたため、カリキュラム・ポリシーの変更に伴う教育課程の変更はありません。(表3. カリキュラム・ポリシーの新旧対照表)

(4) アドミッション・ポリシーについて

本学の設置の趣旨、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの変更に伴い、大学全体のアドミッション・ポリシーに「健康及び」を追加致しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科のアドミッション・ポリシーの変更はありません。(表4. アドミッション・ポリシーの新旧対照表)

表 1. 養成する人材像の新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                     | 旧                                                                          |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職</u>                               | 「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職                           |
| 看護<br>学科             | <u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をとおして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>        | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、健康社会の実現に寄与する看護師   |
| 理学<br>療法<br>学科       | <u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>           | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する理学療法士 |
| 作業<br>療法<br>学科       | <u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u> | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する作業療法士 |

表2. ディプロマ・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <p>①医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。</p> <p>②医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>④多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。</p> <p>⑤自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。</p>                            | <p>①医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。〔倫理観〕</p> <p>②医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。〔探究心〕</p> <p>③医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。〔実践力〕</p>                                                                                                                                         |
| 看護<br>学科             | <p>①健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>②生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍する能力を有している。</p> <p>⑥自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</p> | <p>①健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>②生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> <p>⑥生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> |
| 理<br>学               | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                            | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 療<br>法<br>学<br>科           | <p>②<u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、<u>先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をと</u>おし<u>て</u>広く社会に<u>貢献する</u>能力を有している。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の基本的動作能力の回復を図ること</u>でチームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥<u>自己実現を成し遂げるために</u>、生涯にわたって<u>人格の涵養に努め</u>、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p>                                                                       | <p>②対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を活用する能力を有している。</p> <p>③疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる理学療法が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥生涯にわたって理学療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                 |
| 作<br>業<br>療<br>法<br>学<br>科 | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>②<u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、<u>作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をと</u>おして広く社会に<u>貢献する</u>能力を有している。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ること</u>でチームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥<u>自己実現を成し遂げるために</u>、生涯にわたって<u>人格の涵養に努め</u>、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p> | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>②対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を活用する能力を有している。</p> <p>③価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる作業療法が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥生涯にわたって作業療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> |

表3. カリキュラム・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |
| 看護<br>学科             | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |



|        | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>④看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p>                                                                                                                                                      | <p>④看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                      |
| 理学療法学科 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> |

|        | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | ⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を <u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 作業療法学科 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、<u>専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</u></p> <p>④専門的な視点から<u>捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する</u>授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④専門的な視点から知らえた作業の知識と応用技術を身につけ課題解決能力を培うための授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |

表4. アドミッション・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                             |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | ①健康及び医療に関心をもち、深く学びたいという意欲のある者<br>②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者<br>③人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者<br>④本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者<br>⑤医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 | ①医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者<br>②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者<br>③人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者<br>④本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者<br>⑤医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、【中略】</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</u></p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-5-4-1 令和健康科学大学（仮称）のディプロマ・ポリシー</b></p> <p>本学では、医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）に基づいて対象者を全人的に捉え、<u>多様化かつ高度化している医療に対応すべく、チームの一員として、地域医療の向上に</u></p> | <p>《9～10 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、【中略】</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別できる。</p> <p>《11 ページ》</p> <p><b>1-5-4-1 令和健康科学大学（仮称）のディプロマ・ポリシー</b></p> <p>本学では、医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）に基づいて対象者を全人的に捉え、高度化・多様化している医療に対応すべく、チームの一員として、地域医療の向上に貢</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>貢献できる人材を育成するために、以下の<u>5つ</u>を本学のディプロマ・ポリシーとして設定する。</p> <p>① <u>医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。</u></p> <p>② <u>医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。</u></p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。</u></p> <p>④ <u>多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。</u></p> <p>⑤ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。</u></p> | <p>貢献できる人材を育成するために、以下の3つを本学のディプロマ・ポリシーとして設定する。</p> <p>① 医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。〔倫理観〕</p> <p>② 医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。〔探究心〕</p> <p>③ 医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。〔実践力〕</p> |
| <p>【資料 10】 社会的背景から養成する人材像、<u>ディプロマ・ポリシーのつながり</u></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>【資料 10】 社会的背景、養成する人材像、DP のつながり</p>                                                                                                                                                                                                        |
| <p>《22 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>《11 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| <p><b>1-5-4-2 令和健康科学大学（仮称）のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p><b>1-5-4-2 令和健康科学大学（仮称）のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                               |
| <p>本学では、ディプロマ・ポリシー達成のために、次の6つの方針（カリキュラム・ポリシー）で教育課程を編成する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>本学では、ディプロマ・ポリシー達成のために、次の6つの方針（カリキュラム・ポリシー）で教育課程を編成する。</p>                                                                                                                                                                                 |
| <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                                   |
| <p>② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                    |
| <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって</u></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって</p>                                                                                                                                                                                             |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>持続可能な健康長寿社会の実現に向けて</u>、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に</u>開設する。</p> <p>《23 ページ》</p> <p><b>1-5-4-3 令和健康科学大学（仮称）のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>本学では、建学の精神・教育理念の下、カリキュラム・ポリシーに沿った学びを行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術を修得するために必要となる、次の5つの能力や態度・資質を備えた入学者を求める。</p> <p>① <u>健康及び医療に関心</u>をもち、深く学びたいという意欲のある者</p> <p>② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者</p> <p>③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者</p> <p>④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</p> <p>⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者</p> <p>《26 ページ》</p> | <p>臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ 各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-5-4-3 令和健康科学大学（仮称）のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>本学では、建学の精神・教育理念の下、カリキュラム・ポリシーに沿った学びを行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術を修得するために必要となる、次の5つの能力や態度・資質を備えた入学者を求める。</p> <p>① 医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者</p> <p>② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者</p> <p>③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者</p> <p>④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</p> <p>⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者</p> <p>《15 ページ》</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1-6-4 看護学部・看護学科における養成する人材像</b></p> <p>看護学部・看護学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u>おして多様な対象者の抱える<u>個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> <p>《27 ページ》</p> <p><b>1-6-6 看護学部・看護学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科では、看護職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・看護に対応し医療チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できるとともに、地域医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍<u>する能力を有している</u>。</p> | <p><b>1-6-4 看護学部・看護学科における養成する人材像</b></p> <p>看護学部・看護学科の養成する人材像は「職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、健康社会の実現に寄与する看護師」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> <p>《16 ページ》</p> <p><b>1-6-6 看護学部・看護学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科では、看護職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・看護に対応し医療チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できるとともに、地域医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</u></p> <p>《27 ページ》</p> <p><b>1-6-7 看護学部・看護学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科のカリキュラム・ポリシーは以下の6つである。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</u></p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p> <p>《33 ページ》</p> <p><b>1-7-4 リハビリテーション学部の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育の目的を</p> | <p>⑥ 生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> <p>《16～17 ページ》</p> <p><b>1-6-7 看護学部・看護学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科のカリキュラム・ポリシーは以下の6つである。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-7-4 リハビリテーション学部の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育の目的を</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>踏まえ、人間の健康を科学し、健康長寿社会の実現に寄与することができる人材、すなわち、<u>「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的なリハビリテーションの探究と実践をとおりて対象者の生活の質（Quality of Life：QOL）の向上を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与するリハビリテーション専門職」</u>である。</p>                                                                           | <p>踏まえ、人間の健康を科学することができる人材、すなわち、「対象者を全人的に捉え、生命の尊厳を基盤とした倫理観のもと、保健・医療・福祉等の多様な場で、多くの専門職と連携・協働しながら、対象者の抱えるあらゆる健康課題をその個性に応じた科学的根拠に基づくリハビリテーション（EBR）の実践ができる理学療法士及び作業療法士のリーダーを育成する」ことに加えて、「生涯にわたりリハビリテーションを主体的に探究し、自己実現を目指す理学療法士及び作業療法士を育成する」こととする。</p>                                               |
| <p>《34～35 ページ》</p> <p><b>1-7-6-3 理学療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおりて基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                 | <p>《24 ページ》</p> <p><b>1-7-6-3 理学療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおりて、健康社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                                                               |
| <p>《36 ページ》</p> <p><b>1-7-6-5 理学療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>理学療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し、医療チームを構成する理学療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけて主体的に学修する態度を有している。</p> | <p>《25 ページ》</p> <p><b>1-7-6-5 理学療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>理学療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し、医療チームを構成する理学療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけて、主体的に学修する態度を有している。</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>② <u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をとって広く社会に貢献する能力を有している。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の基本的動作能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。</u></p> <p>⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p>                         | <p>② 対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を活用する能力を有している。</p> <p>③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる理学療法が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥ 生涯にわたって理学療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                         |
| <p>《36～37 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>《26 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p><b>1-7-6-6 理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p><b>1-7-6-6 理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うため</u>に、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                           | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                      |
| <p>《39 ページ》</p> <p><b>1-7-7-3 作業療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u>おして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、<u>持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> | <p>《28 ページ》</p> <p><b>1-7-7-3 作業療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をと</u>おして、健康社会の実現に寄与する作業療法士」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                                           |
| <p>《40 ページ》</p> <p><b>1-7-7-5 作業療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>作業療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し医療チームを構成する作業療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につ</p>                     | <p>《29～30 ページ》</p> <p><b>1-7-7-5 作業療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>作業療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し医療チームを構成する作業療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につ</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>け、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>② <u>多様性のある対象者の個別の健康課題</u>に対し、科学的根拠に基づく作業療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、<u>作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をとおして広く社会に貢献する能力</u>を有している。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力</u>を有している。</p> <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養</u>を有している。</p> | <p>け、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>② 対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を活用する能力を有している。</p> <p>③ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる作業療法が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥ 生涯にわたって作業療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                                    |
| <p>《40～41 ページ》</p> <p><b>1-7-7-6 作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 専門的な視点から<u>捉えた作業の知識と応用技術</u>を身につけ、<u>対象者の応用的動作能力</u></p>                               | <p>《29～30 ページ》</p> <p><b>1-7-7-6 作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                                                                       | <p>にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                     |
| <p>《65～66 ページ》</p> <p><b>4-2-2 看護学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学科の教育課程編成においては、</p> <p>【中略】</p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化</u>する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習・臨床実習と関連させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>《47～48 ページ》</p> <p><b>4-2-2 看護学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学科の教育課程編成においては、</p> <p>【中略】</p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4 年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p> | <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4 年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |
| <p>《71～72 ページ》</p>                                                                                                                                                                           | <p>《52～53 ページ》</p>                                                                                                                                               |
| <p><b>4-2-4 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                       | <p><b>4-2-4 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                           |
| <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の 3 つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p>                                                                                                              | <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の 3 つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p>                                                                                  |
| <p>理学療法学科では学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p>                                                                                              | <p>理学療法学科では学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p>                                                                  |
| <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                                                   | <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                       |
| <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p>                                                                                                                          | <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p>                                                                                              |
| <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                           | <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                      |
| <p>④ <u>対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を</u>培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p>                                                                                    | <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨</p>                                         |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>《77～78 ページ》</p> <p><b>4-2-6 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>《58～59 ページ》</p> <p><b>4-2-6 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p> <p>作業療法学科は学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化</u>する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな</p> | <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p> <p>作業療法学科は学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p> <p>《124～125 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。</u>なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「<u>幅広い職業人</u>」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《125～127 ページ》</p> <p><b>10-2-2 臨地実習計画の概要</b></p> <p>2) 臨地実習の段階と臨地実習内容</p> <p>看護学科の卒業要件単位は、基幹分野から必修科目16単位及び選択科目6単位（外国語系の選択必修科目2単位含む）以上、専門基礎分野から必修科目29単位及び選択科目3単位以</p> | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《101～102 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「<u>高度専門職業人</u>」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《103～105 ページ》</p> <p><b>10-2-2 臨地実習計画の概要</b></p> <p>2) 臨地実習の段階と臨地実習内容</p> <p>看護学科の卒業要件単位は、基幹分野から必修科目16単位及び選択科目6単位（外国語系の選択必修科目2単位含む）以上、専門基礎分野から必修科目29単位及び選択科目3単位以</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>上、専門分野から必修科目 73 単位及び選択科目 1 単位以上、合わせて 128 単位以上となる。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと科目の関係を資料に示す。</p> <div data-bbox="193 423 802 1081"> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</u></p> </div> | <p>上、専門分野から必修科目 73 単位及び選択科目 1 単位以上、合わせて 128 単位以上となる。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと科目の関係を資料に示す。</p> <div data-bbox="828 423 1437 1081"> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑥ 生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> </div> |
| <p><b>【中略】</b></p> <p>次に、以下のディプロマ・ポリシーに関連する臨地実習について説明する。</p> <div data-bbox="193 1361 802 1552"> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍<u>する能力を有している。</u></p> </div>                                                                                                                                                                                                                                          | <p><b>【中略】</b></p> <p>次に、以下のディプロマ・ポリシーに関連する臨地実習について説明する。</p> <div data-bbox="828 1361 1437 1507"> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                           |



(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

5. 教育課程の編成においては、専門学校の授業と比較し、「幅広い知識と深い教養と総合的判断力を養うため、基幹分野を中心として大幅な科目増を行う」との説明がなされているが、具体的にどの授業科目が対応している科目なのか説明すること。また、これらの科目が移行理由として説明されている、「質の高い医療専門職の育成」「健康科学の学問的発展」「効果的な IPE」「一般教養科目群を拡充する」にどのように対応しているのか、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目を以下「表 1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧」にて示しています。科目を新しく追加しただけでなく、科目の時間数が増加した科目や科目内容をより充実させた科目も掲載しています。

専門学校から大学へと移行するに伴い、廃止した科目も一部存在しますが、専門学校と比較して、大学では看護学科で 46 科目・49 単位、理学療法学科で 64 科目・68 単位、作業療法学科では 64 科目・72 単位の科目・単位の増加や授業内容の充実がみられ、専門学校と比較して大幅な科目増・授業内容の充実がなされています。

また、増加した科目と専門学校からの 4 つの移行理由との関係を「表 2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表」にて示します。4 つの移行理由それぞれに対し増加した科目の対応がみられます。

表 1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧

|      | 看護学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 理学療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 作業療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②発達心理学 (1 単位・30 時間)、③ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、④経営学 (1 単位・15 時間)、⑤コミュニケーション論 (1 単位・15 時間)、⑥国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑦アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑧福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑨健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑩統計学 (1 単位・30 時間) ⑪生物学 (1 単位・30 時間)、⑫物理学 (1 単位・30 時間)、⑬英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑭韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑮韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②教育学 (1 単位・15 時間)、③発達心理学 (1 単位・30 時間)、④ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、⑤法学 (1 単位・15 時間)、⑥経営学 (1 単位・15 時間)、⑦社会学 (1 単位・15 時間)、⑧倫理学 (1 単位・15 時間)、⑨人間関係論 (1 単位・15 時間)、⑩国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑪文化人類学 (1 単位・15 時間)、⑫アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑬福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑭健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑮論理的思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②教育学 (1 単位・15 時間)、③発達心理学 (1 単位・30 時間)、④ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、⑤法学 (1 単位・15 時間)、⑥経営学 (1 単位・15 時間)、⑦社会学 (1 単位・15 時間)、⑧倫理学 (1 単位・15 時間)、⑨人間関係論 (1 単位・15 時間)、⑩国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑪文化人類学 (1 単位・15 時間)、⑫アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑬福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑭健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑮論理的思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 間)、⑯中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、⑰中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、⑱スポーツ理論(1単位・15時間)、⑲スポーツ実践(1単位・30時間)【19科目・19単位・435時間】                                                                                                                                                                                                                      | 英語)(1単位・30時間)、⑱英語Ⅱ(医療文献読解)(1単位・30時間)、⑲韓国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、⑳韓国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉑中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉒中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉓スポーツ理論(1単位・15時間)、㉔スポーツ実践(1単位・30時間)【24科目・24単位・480時間】                                                                                                                                                                                                                        | 英語)(1単位・30時間)、⑱英語Ⅱ(医療文献読解)(1単位・30時間)、⑲韓国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉑韓国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉒中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉓中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉔スポーツ理論(1単位・15時間)、㉕スポーツ実践(1単位・30時間)【24科目・24単位・480時間】                                                                                                                                                                                                                        |
| 専門基礎分野 | ①放射線医学(1単位・15時間)、②感染症看護(1単位・15時間)、③食事療法学(1単位・15時間)、④リハビリテーション概論(1単位・15時間)、⑤健康科学医療論(1単位・15時間)、⑥看護統計学(1単位・15時間)、⑦保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑧家族看護論(1単位・15時間)、⑨カウンセリング論(1単位・15時間)、⑩専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑪専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、⑫専門職連携教育Ⅲ(専門職連携における尊重)(1単位・30時間)、⑬専門職連携教育Ⅳ(専門職連携教育における協働)(1単位・30時間)【13科目・14単位・270時間】 | ①解剖学実習(1単位・45時間)、②生理学実習(1単位・45時間)、③運動生理学(1単位・15時間)、④内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑤神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑥整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑦精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑧小児科学(1単位・30時間)、⑨老年学(1単位・30時間)、⑩救急救命医学(1単位・15時間)、⑪公衆衛生学(1単位・30時間)、⑫医療危機管理論(1単位・30時間)、⑬栄養学(1単位・15時間)、⑭薬理学(1単位・15時間)、⑮医用画像診断学(1単位・15時間)、⑯ケアマネジメント論(1単位・15時間)、⑰カウンセリング論(1単位・15時間)、⑱保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、㉑ | ①解剖学実習(1単位・45時間)、②生理学実習(1単位・45時間)、③運動生理学(1単位・15時間)、④内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑤神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑥整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑦精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑧小児科学(1単位・30時間)、⑨老年学(1単位・30時間)、⑩救急救命医学(1単位・15時間)、⑪公衆衛生学(1単位・30時間)、⑫医療危機管理論(1単位・30時間)、⑬栄養学(1単位・15時間)、⑭薬理学(1単位・15時間)、⑮医用画像診断学(1単位・15時間)、⑯ケアマネジメント論(1単位・15時間)、⑰カウンセリング論(1単位・15時間)、⑱保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、㉑ |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、②専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【22科目・23単位・555時間】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、②専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【21科目・22単位・555時間】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 専門分野 | ①看護倫理（1単位・15時間）、②地域看護学概論（2単位・30時間）、③地域看護学援助論（1単位・30時間）、④地域看護学演習（1単位・30時間）、⑤地域看護学実習（1単位・45時間）、⑥がん看護学（1単位・15時間）、⑦認知症看護論（1単位・15時間）、⑧認知症老年看護学実習（1単位・45時間）、⑨看護臨床推論（1単位・15時間）、⑩看護職のキャリア出発とキャリアデザイン（1単位・15時間）、⑪看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム（1単位・15時間）、⑫災害看護初期対応（1単位・15時間）、⑬高度先進医療看護学（1単位・15時間）、⑭卒業研究（2単位・60時間）【14科目・16単位・300時間】 | ①バイオメカニクス（1単位・15時間）、②病態運動学（1単位・30時間）、③基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）（1単位・30時間）、④基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）（1単位・30時間）、⑤医用画像評価学（1単位・15時間）、⑥理学療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦物理療法Ⅱ（1単位・30時間）、⑧理学療法技術学Ⅰ（総論）（2単位・30時間）、⑨理学療法技術学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）、⑩高次脳機能障害学（1単位・15時間）、⑪疼痛理学療法学（1単位・15時間）、⑫福祉住環境論（1単位・15時間）、⑬予防理学療法学（1単位・15時間）、⑭高度先進医療論（1単位・15時間）、⑮基礎臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑯検査測定臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑰卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）（2単位・60時間）、⑱卒業研究Ⅱ（研究の実践）（2単位・60時間）【18科目・21単位・495時間】 | ①作業科学（1単位・15時間）、②作業療法理論（1単位・15時間）、③作業療法研究法（1単位・30時間）、④精神機能評価学演習（1単位・30時間）、⑤発達期評価学演習（1単位・30時間）、⑥作業療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦生活行為向上マネジメント（2単位・30時間）、⑧発達期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑨高齢期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑩摂食・嚥下作業療法（1単位・15時間）、⑪感覚統合療法（1単位・15時間）、⑫認知症作業療法（1単位・15時間）、⑬リハビリテーション工学（1単位・15時間）、⑭作業療法特論（1単位・15時間）、⑮ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）、⑯職業リハビリテーション（1単位・15時間）、⑰総合臨床実習Ⅲ（6単位・270時間）、⑱卒業研究（1単位・30時間）、⑲卒業研究演習（2単位・60時間）【19科目・26単位・690時間】 |

表 2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表

|        | 「質の高い医療専門職の育成」                                                                                                                                                                                               | 「健康科学の学問的発展」                                                                                                                          | 「効果的な IPE」                                                                                                                              | 「一般教養科目群を拡充する」                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野   | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「国際関係論（1単位・15時間）」、「アジアの文学（1単位・15時間）」、「福岡の歴史と文化（1単位・15時間）」により多様性のある対象者を理解するための教養を身につけるための科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。                                          | 「健康科学入門（1単位・15時間）」、「統計学（1単位・30時間）」、「スポーツ理論（1単位・15時間）」、「スポーツ実践（1単位・30時間）」により健康を科学し、科学的に根拠を導く方法を身につけるための科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。 | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「経営学（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「人間関係論（1単位・15時間）」によりチームでの協調性を養うための幅広い知識を身につけるための科目を開設したことで「効果的な IPE」に対応させている。 | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。 |
| 専門基礎分野 | 看護学部では「放射線医学（1単位・15時間）」、「感染症看護（1単位・15時間）」、「食事療法学（1単位・15時間）」、「リハビリテーション概論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「内科学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理 | 看護学部では「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「看護統計学（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理            | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育            | 科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。看護学部では「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「家族看護論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「カウ                                                                                                          |

|      |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 位・30時間)」、「神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「小児科学(1単位・30時間)」、「老年学(1単位・30時間)」、「救急救命医学(1単位・15時間)」、等の医学の基礎となる科目を開設・増設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。                                    | 学(1単位・15時間)」、「医用画像診断学(1単位・15時間)」等で研究分野のうち基礎研究に該当する知識を修得し、研究の素材やテーマの知識を身につけることで「健康科学の学問的発展」に対応させている。                                                                                               | IV(専門職連携教育における協働)(1単位・30時間)」を開設したことで「効果的なIPE」に対応させている。                                                                                                  | ンセリング(1単位・15時間)」、「保健医療福祉制度論(2単位・30時間)」等の保健・医療・福祉にかかる幅広い科目を開設することで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。                                                                                           |
| 専門分野 | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論(1単位・15時間)」、「理学療法臨床推論(1単位・15時間)」、「作業療法臨床推論(1単位・15時間)」等を開設することで、クリティカルシンキング(考える力)を身につけ、「高度先進医療看護学(1単位・15時間)」、「高度先進医療論(1単位・15時間)」、「作業療法特論(1単位・15時間)」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育 | 基幹分野・専門基礎分野に連なり専門分野では研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門(1単位・15時間)」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論(1単位・15時間)」を開設したこと(看護学部)、一般臨床医学系の時間数を増大したこと(リハビリテーション学部)、専門分野では卒業研究科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。 | 全ての臨地実習・臨床実習を履修した後の4年後期に「専門職連携教育IV(専門職連携教育における協働)」開設したことで、臨地実習・臨床実習で経験してきた実践力を統合させ、卒後の専門職連携協働(IPW)へ円滑に実践することをねらいとしている。このように臨床実習と関連させて「効果的なIPE」に対応させている。 | 看護学科では「看護倫理(1単位・15時間)」、理学療法学科では「バイオメカニクス(1単位・15時間)」、「病態運動学(1単位・30時間)」、作業療法学科では「作業科学(1単位・15時間)」、「リハビリテーション工学(1単位・15時間)」により各専門分野科目群を学ぶ上で必要となる基礎的な教養科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。 |

|             |  |  |  |
|-------------|--|--|--|
| 成」に対応させている。 |  |  |  |
|-------------|--|--|--|

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 《43～48 ページ》                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 【新規】 |
| 1-8-2-4 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |
| 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目を以下「表1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧」にて示す。科目を新しく追加しただけでなく、科目の時間数が増加した科目や科目内容をより充実させた科目も掲載する。                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |
| 専門学校から大学へと移行するに伴い、廃止した科目も一部存在するものの、専門学校と比較して、大学では看護学科で 46 科目・49 単位、理学療法学科で 64 科目・68 単位、作業療法学科では 64 科目・72 単位の科目・単位の増加や授業内容の充実がみられ、専門学校と比較して大幅な科目増・授業内容の充実がなされている。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |
| 表1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |
|                                                                                                                                                                  | 看護学科                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 理学療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 作業療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                       |      |
| 基<br>幹<br>分<br>野                                                                                                                                                 | ①フレッシュャーズセミナー（1 単位・15 時間）、<br>②発達心理学（1 単位・30 時間）、③ジェンダー論（1 単位・15 時間）、<br>④経営学（1 単位・15 時間）、⑤コミュニケーション論（1 単位・15 時間）、⑥国際関係論（1 単位・15 時間）、⑦アジアの文学（1 単位・15 時間）、⑧福岡の歴史と文化（1 単位・15 時間）、<br>⑨健康科学入門（1 単位・15 時間）、⑩統計学（1 単位・30 時間）⑪生物学（1 単位・30 時間）、⑫物理学（1 単位・30 時間）、⑬英語Ⅱ（医療文献読解）（1 単位・30 時間）、⑭韓国語 | ①フレッシュャーズセミナー（1 単位・15 時間）、<br>②教育学（1 単位・15 時間）、③発達心理学（1 単位・30 時間）、④ジェンダー論（1 単位・15 時間）、⑤法学（1 単位・15 時間）、⑥経営学（1 単位・15 時間）、⑦社会学（1 単位・15 時間）、<br>⑧倫理学（1 単位・15 時間）、⑨人間関係論（1 単位・15 時間）、⑩国際関係論（1 単位・15 時間）、⑪文化人類学（1 単位・15 時間）、⑫アジアの文学（1 単位・15 時間）、⑬福岡の歴史と文化（1 単位・15 時間）、<br>⑭健康科学入門（1 単位・15 時間）、⑮論理的 | ①フレッシュャーズセミナー（1 単位・15 時間）、<br>②教育学（1 単位・15 時間）、③発達心理学（1 単位・30 時間）、④ジェンダー論（1 単位・15 時間）、⑤法学（1 単位・15 時間）、⑥経営学（1 単位・15 時間）、⑦社会学（1 単位・15 時間）、<br>⑧倫理学（1 単位・15 時間）、⑨人間関係論（1 単位・15 時間）、⑩国際関係論（1 単位・15 時間）、⑪文化人類学（1 単位・15 時間）、⑫アジアの文学（1 単位・15 時間）、⑬福岡の歴史と文化（1 単位・15 時間）、<br>⑭健康科学入門（1 単位・15 時間）、⑮論理的 |      |
|                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |

| 新      |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門基礎分野 | <p>I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑮韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、⑯中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑰中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、⑱スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、⑲スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【19 科目・19 単位・435 時間】</p>                                                                                                    | <p>思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療英語) (1 単位・30 時間)、⑱英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑲韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑳韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉑中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、㉒中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉓スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、㉔スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【24 科目・24 単位・480 時間】</p>       | <p>思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療英語) (1 単位・30 時間)、⑱英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑲韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑳韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉑中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、㉒中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉓スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、㉔スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【24 科目・24 単位・480 時間】</p>       |
|        | <p>①放射線医学 (1 単位・15 時間)、②感染症看護 (1 単位・15 時間)、③食事療法学 (1 単位・15 時間)、④リハビリテーション概論 (1 単位・15 時間)、⑤健康科学医療論 (1 単位・15 時間)、⑥看護統計学 (1 単位・15 時間)、⑦保健医療福祉制度論 (2 単位・30 時間)、⑧家族看護論 (1 単位・15 時間)、⑨カウンセリング論 (1 単位・15 時間)、⑩専門職連携教育 I (専門職連携の基礎) (1 単位・30 時間)、⑪専門職連携教育 II (専門職連携の構築) (1 単位・30 時間)</p> | <p>①解剖学実習 (1 単位・45 時間)、②生理学実習 (1 単位・45 時間)、③運動生理学 (1 単位・15 時間)、④内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑤神経内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑥整形外科 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑦精神医学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑧小児科学 (1 単位・30 時間)、⑨老年学 (1 単位・30 時間)、⑩救急救命医学 (1 単位・15 時間)、⑪公衆衛生学 (1 単位・30 時間)、⑫医療危機管理論 (1 単位・30 時間)</p> | <p>①解剖学実習 (1 単位・45 時間)、②生理学実習 (1 単位・45 時間)、③運動生理学 (1 単位・15 時間)、④内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑤神経内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、整形外科 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑥精神医学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑦小児科学 (1 単位・30 時間)、⑧老年学 (1 単位・30 時間)、⑨救急救命医学 (1 単位・15 時間)、⑩公衆衛生学 (1 単位・30 時間)、⑪医療危機管理論 (1 単位・30 時間)、</p> |

| 新    |                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>位・30 時間)、⑫専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1 単位・30 時間)、⑬専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1 単位・30 時間)【13 科目・14 単位・270 時間】</p>                                                                                             | <p>時間)、⑬栄養学（1 単位・15 時間)、⑭薬理学（1 単位・15 時間)、⑮医用画像診断学（1 単位・15 時間)、⑯ケアマネジメント論（1 単位・15 時間)、⑰カウンセリング論（1 単位・15 時間)、⑱保健医療福祉制度論（2 単位・30 時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1 単位・30 時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1 単位・30 時間)、㉑専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1 単位・30 時間)、㉒専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1 単位・30 時間)【22 科目・23 単位・555 時間】</p> | <p>⑫栄養学（1 単位・15 時間)、⑬薬理学（1 単位・15 時間)、⑭医用画像診断学（1 単位・15 時間)、⑮ケアマネジメント論（1 単位・15 時間)、⑯カウンセリング論（1 単位・15 時間)、⑰保健医療福祉制度論（2 単位・30 時間)、⑱専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1 単位・30 時間)、⑲専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1 単位・30 時間)、⑳専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1 単位・30 時間)、㉑専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1 単位・30 時間)【21 科目・22 単位・555 時間】</p> |
| 専門分野 | <p>①看護倫理（1 単位・15 時間)、②地域看護学概論（2 単位・30 時間)、③地域看護学援助論（1 単位・30 時間)、④地域看護学演習（1 単位・30 時間)、⑤地域看護学実習（1 単位・45 時間)、⑥がん看護学（1 単位・15 時間)、⑦認知症看護論（1 単位・15 時間)、⑧認知症老年看護学実習（1 単位・45 時間)、⑨看護臨床推論（1 単位・15 時間)、⑩看護職のキ</p> | <p>①バイオメカニクス（1 単位・15 時間)、②病態運動学（1 単位・30 時間)、③基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）（1 単位・30 時間)、④基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）（1 単位・30 時間)、⑤医用画像評価学（1 単位・15 時間)、⑥理学療法臨床推論（1 単位・15 時間)、⑦物理療法Ⅱ（1 単位・30 時間)、⑧理学療法技術学Ⅰ（総論）（2 単</p>                                                                                                  | <p>①作業科学（1 単位・15 時間)、②作業療理理論（1 単位・15 時間)、③作業療法研究法（1 単位・30 時間)、④精神機能評価学演習（1 単位・30 時間)、⑤発達期評価学演習（1 単位・30 時間)、⑥作業療法臨床推論（1 単位・15 時間)、⑦生活行為向上マネジメント（2 単位・30 時間)、⑧発達期作業療法学演習（1 単位・30 時間)、⑨高齢期作業療法</p>                                                                                               |



| 新                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>キャリア出発とキャリアデザイン（1単位・15時間）、⑪看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム（1単位・15時間）、⑫災害看護初期対応（1単位・15時間）、⑬高度先進医療看護学（1単位・15時間）、⑭卒業研究（2単位・60時間）【14科目・16単位・300時間】</p> | <p>位・30時間）、⑨理学療法技術学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）、⑩高次脳機能障害学（1単位・15時間）、⑪疼痛理学療法（1単位・15時間）、⑫福祉住環境論（1単位・15時間）、⑬予防理学療法（1単位・15時間）、⑭高度先進医療論（1単位・15時間）、⑮基礎臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑯検査測定臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑰卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）（2単位・60時間）、⑱卒業研究Ⅱ（研究の実践）（2単位・60時間）【18科目・21単位・495時間】</p> | <p>学演習（1単位・30時間）、⑩摂食・嚥下作業療法（1単位・15時間）、⑪感覚統合療法（1単位・15時間）、⑫認知症作業療法（1単位・15時間）、⑬リハビリテーション工学（1単位・15時間）、⑭作業療法特論（1単位・15時間）、⑮ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）、⑯職業リハビリテーション（1単位・15時間）、⑰総合臨床実習Ⅲ（6単位・270時間）、⑱卒業研究（1単位・30時間）、⑲卒業研究演習（2単位・60時間）【19科目・26単位・690時間】</p> |   |

### 1-8-2-5 大学で増加した科目と移行理由の対応表

増加した科目と専門学校からの4つの移行理由との関係を「表2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表」にて示す。4つの移行理由それぞれに対し増加した科目の対応がみられる。

表2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表

|                  | 「質の高い医療専門職の育成」                                                   | 「健康科学の学問的発展」                                                       | 「効果的な IPE」                                                            | 「一般教養科目群を拡充する」                                                   |
|------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 基<br>幹<br>分<br>野 | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「国際関係論（1単位・15時間）」、「アジア | 「健康科学入門（1単位・15時間）」、「統計学（1単位・30時間）」、「スポーツ理論（1単位・15時間）」、「スポーツ実践（1単位・ | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「経営学（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「人間関係論（1単位・ | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単 |

| 新      |                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             | 旧 |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|        | <p>の文学（1単位・15時間）、「福岡の歴史と文化（1単位・15時間）」により多様性のあ<br/>る対象者を理解するための教養を身につけるための科目を開設したこと<br/>で「質の高い医療専門職の育成」に<br/>対応させている。</p>                         | <p>30時間）」により健康を科学し、科学的に根拠を導く方法を身につけるための科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。</p>                                                                          | <p>15時間）」によりチームでの協調性を養うための幅広い知識を身につけるための科目を開設したことで「効果的な IPE」に対応させている。</p>                                                                           | <p>位・15時間)、法学（1単位・15時間)、経営学（1単位・15時間)、国際関係論（1単位・15時間)等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間)」、「カウンセリング論（1単位・15時間)」等の医療関連科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p> |   |
| 専門基礎分野 | <p>看護学部では「放射線医学（1単位・15時間)」、「感染症看護（1単位・15時間)」、「食事療法学（1単位・15時間)」、「リハビリテーション概論（1単位・15時間)」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「内科学Ⅱ（各論）（1単位・30時間)」、「神経内科学Ⅱ（各論）</p> | <p>看護学部では「健康科学医療論（1単位・15時間)」、「看護統計学（1単位・15時間)」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間)」、「医療危機管理論（1単位・30時間)」、「栄養学（1単位・15時間)」、「薬理学（1単位・15時間)」、「医用画像</p> | <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間)、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間)、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間)」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）</p> | <p>科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。看護学部では「保健医療福祉制度論（2単位・30時間)」、「家族看護論（1単位・15時間)」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「ケアマネジメント論（1単位・15時間)」、「カウンセリング（1単位・15時</p>                             |   |

| 新    |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                            | 旧 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|      | <p>(1単位・30時間)」、「整形外科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「小児科学(1単位・30時間)」、「老年学(1単位・30時間)」、「救急救命医学(1単位・15時間)」、等の医学の基礎となる科目を開設・増設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。</p> | <p>診断学(1単位・15時間)」等で研究分野のうち基礎研究に該当する知識を修得し、研究の素材やテーマの知識を身につけることで「健康科学の学問的発展」に対応させている。</p>                                                             | <p>(1単位・30時間)」を開設したことで「効果的なIPE」に対応させている。</p>                                                                                                         | <p>間)」、「保健医療福祉制度論(2単位・30時間)」等の保健・医療・福祉にかかる幅広い科目を開設することで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p>                                                                           |   |
| 専門分野 | <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論(1単位・15時間)」、「理学療法臨床推論(1単位・15時間)」、「作業療法臨床推論(1単位・15時間)」等を開設することで、クリティカルシンキング(考える力)を身につけ、「高度先進医療看護学(1単位・15時間)」、「高度先進医療論</p>             | <p>基幹分野・専門基礎分野に連なり専門分野では研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門(1単位・15時間)」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論(1単位・15時間)」を開設したこと(看護学部)、一般臨床医学系の時間数を増大したこと(リハ</p> | <p>全ての臨地実習・臨床実習を履修した後の4年後期に「専門職連携教育Ⅳ(専門職連携教育における協働)」開設したことで、臨地実習・臨床実習で経験してきた実践力を統合させ、卒後の専門職連携協働(IPW)へ円滑に実践することをねらいとしている。このように臨床実習と関連させて「効果的なIPE」</p> | <p>看護学科では「看護倫理(1単位・15時間)」、理学療法学科では「バイオメカニクス(1単位・15時間)」、「病態運動学(1単位・30時間)」、作業療法学科では「作業科学(1単位・15時間)」、「リハビリテーション工学(1単位・15時間)」により各専門分野科目群を学ぶ上で必要となる基礎的な教養科目</p> |   |

| 新 |                                                                                     |                                                             |                  |                                      | 旧 |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------|---|
|   | <p>（１単位・１５時間）、「作業療法特論（１単位・１５時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。</p> | <p>ビリテーション学部)、専門分野では卒業研究科目を開設したことで「健康科学の学問的发展」に対応させている。</p> | <p>に対応させている。</p> | <p>を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

6. 履修モデルの説明において、履修に当たっての選択科目の考え方として、3つのモデルが示されているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係性が明らかではなく、また、3つのモデルに分ける趣旨や養成する人材像の違いなどが明らかなでないことから、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

履修モデルの説明における3つは、選択科目の考え方を例示しているもので、学生が3つのうちから選択するものではありません。そのうえで理学療法学科では、医療機関や介護施設等で活躍する人材を育成することを趣旨とした「臨床系履修モデル」、地域社会で訪問リハビリテーションや障害予防の取り組みで活躍する人材を育成することを趣旨とした「地域系履修モデル」、理学療法士教育や研究領域で活躍する人材を育成することを趣旨とした「教育研究系履修モデル」3つを例示しました。

(1) 履修モデルと養成する人材像との関係性

臨床系履修モデルは、理学療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士」の下線部分に紐づいており、幅広い職業人という観点から質の高い人材を育成することを想定しています。

地域系履修モデルは、理学療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士」の下線部分に紐づいており、多様化かつ高度化する地域医療において、理学療法士の専門性を発揮することでチームに貢献できる人材を育成することを想定しています。

教育研究系履修モデルは、理学療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士」の下線部分に紐づいており、臨床で活躍する人材のみならず、教育・研究領域で次世代への継承や理学療法の更なる発展に貢献できる人材を育成することを想定しています。

(2) 履修モデルとディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関係性

また、ディプロマ・ポリシー（以下、DP とします。）やカリキュラム・ポリシー（以下、CP とします。）との主な関連性について説明します。

臨床系履修モデルは理学療法学科の DP にある「疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。」及び「多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。」に紐づいています。DP を達成するための CP として、理学療法学科の CP にある「対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。」及び「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。」に紐づいています。

地域系履修モデルは理学療法学科の DP にある「理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの

一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」及び「多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。」に紐づいています。DPを達成するためのCPとして、理学療法学科のCPにある「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。」及び「対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。」に紐づいています。

教育研究系履修モデルは理学療法学科のDPにある「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。」及び「多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。」に紐づいています。DPを達成するためのCPとして、理学療法学科のCPにある「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」及び「対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。」に紐づいています。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《97～100 ページ》</p> <p>1) 臨床系履修モデル</p> <p>この履修モデルは、医療施設や介護施設において活躍するとともに、【中略】</p> <p><u>この履修モデルは、理学療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をととして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士」の下線部分に紐づいており、幅広い職業人という観点から質の高い人材を育成することを想定している。</u></p> <p><u>また、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの主な関連性については、理学療法学科のディプロマ・ポリシーにある「疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。」及び「多様化かつ高度化す</u></p> | <p>《77～79 ページ》</p> <p>1) 臨床系履修モデル</p> <p>この履修モデルは、医療施設や介護施設において活躍するとともに、【中略】</p> <p>基幹分野では、「発達心理学」において、胎児期から老年期までの各期の発達の特徴や心理学的課題を学ぶことにより、幅広い年齢層の心身に対応し得る知識とコミュニケーション能力を身につける。【中略】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>る医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。」に紐づいている。ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーとして、理学療法学科のカリキュラム・ポリシーにある「対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。」及び「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連携させて学修できる授業科目を開設する。」に紐づいている。</p> <p>基幹分野では、「発達心理学」において、胎児期から老年期までの各期の発達的特徴や心理学的課題を学ぶことにより、幅広い年齢層の心身に対応し得る知識とコミュニケーション能力を身につける。【中略】</p> <p>2) 地域系履修モデル</p> <p>この履修モデルは、人種・性別・年齢・職業等が多様な地域社会において、【中略】</p> <p>この履修モデルは理学療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をととして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士」の下線部分に紐づいており、多様化かつ高度化する地域医療において、理学療法士の専門性を発揮することでチームに貢献できる人材を育成することを想定している。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの主な関連性については、理学療法学科のディプロマ・ポリシーにある「理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を</p> | <p>2) 地域系履修モデル</p> <p>この履修モデルは、人種・性別・年齢・職業等が多様な地域社会において、【中略】</p> <p>基幹分野では、【中略】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」及び「多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。」に紐づいている。ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーとして、理学療法学科のカリキュラム・ポリシーにある「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。」及び「対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。」に紐づいている。</p> <p>基幹分野では、【中略】</p> <p>3) 教育・研究系履修モデル</p> <p>この履修モデルは、理学療法養成校の教員または研究者として活躍し得る人材の養成を目的とし、【中略】</p> <p>この履修モデルは、理学療法学科の養成する人材像にある「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をととして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>」の下線部分に紐づいており、臨床で活躍する人材のみならず、教育・研究領域で次世代への継承や理学療法の更なる発展に貢献できる人材を育成することを想定している。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの主な関連性については、理学療法学科のディプロマ・ポリシーにある「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究</p> | <p>3) 教育・研究系履修モデル</p> <p>この履修モデルは、理学療法養成校の教員または研究者として活躍し得る人材の養成を目的とし、【中略】</p> <p>基幹分野では、【中略】</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p> <u>する素養を有している。」及び「多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。」に紐づいている。ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーとして、理学療法学科のカリキュラム・ポリシーにある「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」及び「対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。」に紐づいている。</u><br/>           基幹分野では、【中略】         </p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

7. 「医療の多様化と複雑化等の社会的背景を踏まえると、医療専門職には連携・協働の能力が必要である」こと等、医療専門職の連携に関する課題を大学設置の必要性の1つとして説明し、ディプロマ・ポリシーにおいても「多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力」を掲げているが、具体的な対応科目は専門職連携教育Ⅰ～Ⅳのみと見受けられることに加え、いずれも演習科目となっている。これらの科目のみで十分に目標を達成できるか不明確であるため、教育課程全体で医療専門職の連携に関する課題についてどのように対応するのか、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

本学の教育課程は「講義」→「演習」→「実習」という体系性により実践的な教育を展開しています。IPE 関連科目についても、全て演習科目ではありますが、一部は講義で伝達する内容も含まれており、更に、臨床実習とも関連させることで、本学の教育課程全体により「講義」→「演習」→「実習」という体系的な学びを考えています。また、IPE と臨床実習との関連は下記「表1. IPE と臨床実習の関連」の通りです。

専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）では、見学を主体とした基礎臨床実習と関連させ、早期臨床体験（early clinical exposure）を理学療法・作業療法の技術面だけでなく、専門職連携協働の一部分を見学することでイメージをつけることも目的としています。

専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）では、1年次に見学した実際場面を想起し、自身の今後の課題を見出し、学修のモチベーションにつなげることを授業のねらいとします。

専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）では、専門分野の学修の進行に伴い、各専門職の意見を議論し合う際に出会うジレンマを体験し、それを踏まえて評価実習等の実際的な臨床実習と関連させて学修します。

専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）では、全ての臨床実習を終えて、専門職連携教育（IPE）から専門職連携協働（IPW）へと移行するための基礎を培います。

表1. IPE と臨床実習の関連

|     | 1 年次 |      | 2 年次 |     | 3 年次 |           | 4 年次       |      |
|-----|------|------|------|-----|------|-----------|------------|------|
|     | 前期   | 後期   | 前期   | 後期  | 前期   | 後期        | 前期         | 後期   |
| PT  | 基礎Ⅰ  | 基礎Ⅱ  |      | 検測Ⅰ | 検測Ⅱ  | 地域<br>評価  | 総合Ⅰ<br>総合Ⅱ |      |
| OT  | 基礎   |      | 地域   |     |      | 評価<br>総合Ⅰ | 総合Ⅱ<br>総合Ⅲ |      |
| IPE |      | IPEⅠ | IPEⅡ |     | IPEⅢ |           |            | IPEⅣ |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類（ページ）

| 新                                           | 旧                       |
|---------------------------------------------|-------------------------|
| 《83～84 ページ》<br><b>4-3-4 専門職連携教育の体系性について</b> | 《64 ページ》<br><b>【新規】</b> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |      | 旧   |      |     |      |      |      |    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|------|-----|------|------|------|----|
| <p><b>(理学療法学科・作業療法学科)</b></p> <p>本学の教育課程は「講義」→「演習」→「実習」という体系的により実践的な教育を展開している。IPE 関連科目についても、全て演習科目であるが、一部は講義で伝達する内容も含まれており、更に、臨床実習とも関連させることで、本学の教育課程全体により「講義」→「演習」→「実習」という体系的な学びを考えている。また、IPE と臨床実習との関連は下記「表 1. IPE と臨床実習の関連」の通りである。</p> <p>専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）では、見学を主体とした基礎臨床実習と関連させ、早期臨床体験（early clinical exposure）を理学療法・作業療法の技術面だけでなく、専門職連携協働の一部分を見学することでイメージをつけることも目的としている。</p> <p>専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）では、1 年次に見学した実際場面を想起し、自身の今後の課題を見出し、学修のモチベーションにつなげることを授業のねらいとする。</p> <p>専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）では、専門分野の学修の進行に伴い、各専門職の意見を議論し合う際に出会うジレンマを体験し、それを踏まえて評価実習等の実際的な臨床実習と関連させて学修する。</p> <p>専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）では、全ての臨床実習を終えて、専門職連携教育（IPE）から専門職連携協働（IPW）へと移行するための基礎を培う。</p> |      |     |      |     |      |      |      |    |
| <p>表 1. IPE と臨床実習の関連</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |      |     |      |     |      |      |      |    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 1 年次 |     | 2 年次 |     | 3 年次 |      | 4 年次 |    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 前期   | 後期  | 前期   | 後期  | 前期   | 後期   | 前期   | 後期 |
| PT                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 基礎Ⅰ  | 基礎Ⅱ |      | 検測Ⅰ | 検測Ⅱ  | 地域評価 | 総合Ⅰ  |    |

| 新   |  |          |  |          |  |           |                            | 旧 |  |  |  |  |  |  |  |
|-----|--|----------|--|----------|--|-----------|----------------------------|---|--|--|--|--|--|--|--|
|     |  |          |  |          |  |           | 総<br>合<br>Ⅱ                |   |  |  |  |  |  |  |  |
| OT  |  | 基礎       |  | 地域       |  | 評価<br>総合Ⅰ | 総<br>合<br>Ⅱ<br>総<br>合<br>Ⅲ |   |  |  |  |  |  |  |  |
| IPE |  | IPE<br>Ⅰ |  | IPE<br>Ⅱ |  | IPE<br>Ⅲ  |                            |   |  |  |  |  |  |  |  |
|     |  |          |  |          |  |           |                            |   |  |  |  |  |  |  |  |

## (是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

8. 専門職連携教育Ⅰ～Ⅳについては複数の教員が担当することとなっているが、主担当の教員や教員連携の在り方について不明確であるため、具体的に説明すること。また、全員が同時に参加できる施設・設備が備わっていないように見受けられるため、具体的な実施形態について詳細に説明すること。(是正事項)

## (対応)

専門職連携教育Ⅰ～Ⅳについて、主担当の教員はシラバス上で下線を附して明確にします。

教員連携の在り方については、授業の開講前に主担当教員が中心となって三学科の担当教員が合同で打ち合わせを行い、各教員の役割を検討・確認する。また、学生の様子などは適宜申し送りを行い、各学科の教員が当該学科に所属する学生の態度等を共有できるよう記録と伝達を行うこととしています。

また、220名が参加する専門職連携教育は大人数を一堂に会して授業する形式で行うことを原則とせず(発表会やオリエンテーション等の講義形式を除く)、教育効果が最大限に得られる人数を対象として複数回に分けて行う形式とします。

## ①講義形式の場合(主として専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ)

1号館5階の講堂あるいは2号館1階のメインホールにて実施します。

## ②演習形式の場合(主として専門職連携教育Ⅲ・Ⅳ)

グループワークや発表会等であれば全員を一堂に会して実施するため1号館5階の講堂あるいは2号館1階のメインホールを使用します。実技演習の必要がある場合は、2号館3階のシミュレーションセンターでデモンストレーションしている映像を各教室へ配信するか、または、教育効果を鑑みて幾つかのグループをユニットとして、当該ユニット単位で授業を複数回実施します。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《80～81 ページ》</p> <p><b>4-3 専門職連携教育</b></p> <p>教育の特色として掲げる専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)は、対象者の疾病のみに視点を注ぐのではなく、生活する人として全人的に捉えてケアするという「患者・利用者のための医療」の実現に向けて、<u>専門職間の連携能力を段階的に身につけることを目的とし、将来の専門職連携協働へと円滑に実践できるよう看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科合同による教育体系を編成している。</u></p> <p>1年次には、「看護学概論(1年前期・必修科目・2単位)」、「理学療法学概論(1年前期・必修科目・1単位)」、「作業療法学概論(1年</p> | <p>《62 ページ》</p> <p><b>4-3 専門職連携教育</b></p> <p>教育の特色として掲げる専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)は、対象者の疾病のみに視点を注ぐのではなく、生活する人として全人的に捉えてケアするという「患者・利用者のための医療」の実現に向けて、<u>専門職間の連携能力を段階的に身につけることを目的とし、将来の専門職連携協働へと円滑に実践できるよう看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科合同による教育体系を編成している。</u></p> <p>1年次には、「看護学概論(1年前期・必修科目・2単位)」、「理学療法学概論(1年前期・必修科目・1単位)」、「作業療法学概論(1年</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>前期・必修科目・2単位)」等で自職種について概要を理解し、看護学科の「生活援助実習（1年後期・必修科目・1単位）」、理学療法学科の「基礎臨床実習Ⅰ（1年前期・必修科目・1単位）」・「基礎臨床実習Ⅱ（1年後期・必修科目・1単位）」、作業療法学科の「基礎臨床実習（1年通年・必修科目・1単位）」をとおして、専門職としての倫理観や態度、基礎的な技術を体験的に身につける。これと並行して3学部に通に開設した、1年次の「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1年後期・必修科目・1単位）」では、専門職連携についての基本的な考え方や医療専門職の種類や機能を学び、2年次の「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（2年前期・必修科目・1単位）」では、専門職連携の根幹となるチーム医療・ケアの理念に基づいたチームを形成することを体験する。3年次の「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（3年前期・必修科目・1単位）」においては、各専門職種により生じるジレンマや意見の対立に対して、専門職連携協働の意義やチームの一員として果たす役割を探究することで、他専門職種を尊重することを学ぶ。4年次の「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）（4年後期・必修科目・1単位）」では、各専門職が対等な立場で協力して、患者・利用者を全人的にアセスメントし、チームでケア計画を立案することを学修する。</p> <p>本学の近隣には、グループ病院である福岡和白病院、香椎丘リハビリテーション病院、福岡新水巻病院があり、専門職連携教育Ⅱにおいて現職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等と連携を図る。臨地実習・臨床実習においては、上述の病院だけでなく、関連施設である株式会社シダー、NPO法人列島会、社会福祉法人あきの会が運営するデイケア・デイサービス施設等の介護・福祉関連施設との連携も積極的に実施していくことで、臨床と密接に連携した</p> | <p>前期・必修科目・2単位)」等で自職種について概要を理解し、看護学科の「生活援助実習（1年後期・必修科目・1単位）」、理学療法学科の「基礎臨床実習Ⅰ（1年前期・必修科目・1単位）」・「基礎臨床実習Ⅱ（1年後期・必修科目・1単位）」、作業療法学科の「基礎臨床実習（1年通年・必修科目・1単位）」をとおして、専門職としての倫理観や態度、基礎的な技術を体験的に身につける。これと並行して3学部に通に開設した、1年次の「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1年後期・必修科目・1単位）」では、専門職連携についての基本的な考え方や医療専門職の種類や機能を学び、2年次の「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（2年前期・必修科目・1単位）」では、専門職連携の根幹となるチーム医療・ケアの理念に基づいたチームを形成することを体験する。3年次の「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（3年前期・必修科目・1単位）」においては、各専門職種により生じるジレンマや意見の対立に対して、専門職連携協働の意義やチームの一員として果たす役割を探究することで、他専門職種を尊重することを学ぶ。4年次の「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）（4年後期・必修科目・1単位）」では、各専門職が対等な立場で協力して、患者・利用者を全人的にアセスメントし、チームでケア計画を立案することを学修する。</p> <p>本学の近隣には、グループ病院である福岡和白病院、香椎丘リハビリテーション病院、福岡新水巻病院があり、専門職連携教育Ⅱにおいて現職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等と連携を図る。臨地実習・臨床実習においては、上述の病院だけでなく、関連施設である株式会社シダー、NPO法人列島会、社会福祉法人あきの会が運営するデイケア・デイサービス施設等の介護・福祉関連施設との連携も積極的に実施していくことで、臨床と密接に連携した</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p>独自の教育環境のもと専門職連携教育を展開する。</p> <p><u>また、220 名が参加する専門職連携教育は</u><br/><u>大人数を一堂に会して授業する形式で行うこ</u><br/><u>とを原則とせず（発表会やオリエンテーショ</u><br/><u>ン等の講義形式を除く）、教育効果が最大限に</u><br/><u>得られる人数を対象として複数回に分けて行</u><br/><u>う形式としする。以下に、授業形態ごとの実</u><br/><u>施形態について説明する。</u></p> <p><b>【科目名】専門職連携教育Ⅰ～Ⅳ</b></p> <p><u>①講義形式の場合（主として専門職連携教育</u><br/><u>Ⅰ・Ⅱ）</u></p> <p><u>1 号館 5 階の講堂あるいは 2 号館 1 階のメ</u><br/><u>インホールにて実施する。</u></p> <p><u>②演習形式の場合（主として専門職連携教育</u><br/><u>Ⅲ・Ⅳ）</u></p> <p><u>グループワークや発表会等であれば全員を</u><br/><u>一堂に会して実施するため 1 号館 5 階の講堂</u><br/><u>あるいは 2 号館 1 階のメインホールを使用す</u><br/><u>る。実技演習の必要がある場合は、2 号館 3</u><br/><u>階のシミュレーションセンターでデモンスト</u><br/><u>レーションしている映像を各教室へ配信する</u><br/><u>か、または、教育効果を鑑みて幾つかのグル</u><br/><u>ープをユニットとして、当該ユニット単位で</u><br/><u>授業を複数回実施する。</u></p> <p>以下に年次ごとの科目構成とそれぞれの教育目的について学科ごとに記載する。</p> | <p>独自の教育環境のもと専門職連携教育を展開する。</p> <p>以下に年次ごとの科目構成とそれぞれの教育目的について学科ごとに記載する。</p> |

(新旧対照)

【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」

| 授 業 科 目 名          | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                       |
|--------------------|------|-----------------|-------|---------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 1 年後期 | <u>白石裕子</u> 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠<br>阿波那彦 <u>松本典久</u> 中山広宣 江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。 |       |         |       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
| 9. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる<br>10. チームビルディングの理論と実際について説明できる<br>11. 各医療専門職の種類と機能について説明できる<br>12. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる                                                                                    |       |         |       |
| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修                                                                                                                                                                                                                 |       |         |       |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む                                                                                                                                                                                                        |       |         |       |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする                                                                                                                                                                                                    |       |         |       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                          | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
|                                                                                                                                                                                                                                   | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                 | 内 容                                                  | 担当教員 |
|----|--------|---------------------|------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | オリエンテーション           | ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？<br>・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 国際疾病分類の理念           | ・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識1<br>・国際疾病分類（WHO ICF）の理念   | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | チーム医療とチームビルディング     | ・チーム医療のあり方、メンバーシップとは<br>・チームビルディングの理論と実際             | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | チームビルディングの実際        | チームを作り課題に取り組む（チームメンバー発表 自己紹介）                        | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームで討議              | 課題に対する評価（計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等）             | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | IPE の基礎             | ・IPE 展開のための基礎知識<br>・医療と福祉の接点                         | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能①        | 医師、放射線技師、管理栄養士の役割・教育・機能                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能②        | 看護師、薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能                               | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能③        | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能                          | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 医療福祉専門職間の連携         | 専門職連携の理論と実際                                          | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学修 GW                                          | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学修 GW                                          | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | ふれあい体験振り返り          | 体験学修を振り返り意見交換を行う 発表準備                                | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | グループ発表              | 各グループ発表                                              | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 総括                  | 自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる                        | 全員   |

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%)                     |
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |



## 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」

| 授 業 科 目 名          | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                         |
|--------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 1 年後期 | 白石裕子 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠<br>阿波那彦 野中紘士 中山広宣 江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。 |       |         |       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
| 13. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる<br>14. チームビルディングの理論と実際について説明できる<br>15. 各医療専門職の種類と機能について説明できる<br>16. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる                                                                                   |       |         |       |
| 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習                                                                                                                                                                                                                 |       |         |       |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめる                                                                                                                                                                        |       |         |       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                          | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
|                                                                                                                                                                                                                                   | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                 | 内 容                                                  | 担当教員 |
|----|--------|---------------------|------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | オリエンテーション           | ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？<br>・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 国際疾病分類の理念           | ・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識1<br>・国際疾病分類（WHO ICF）の理念   | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | チーム医療とチームビルディング     | ・チーム医療のあり方、メンバーシップとは<br>・チームビルディングの理論と実際             | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | チームビルディングの実際        | チームを作り課題に取り組む（チームメンバー発表 自己紹介）                        | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームで討議              | 課題に対する評価（計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等）             | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | IPE の基礎             | ・IPE 展開のための基礎知識<br>・医療と福祉の接点                         | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能①        | 医師、放射線技師、管理栄養士の役割・教育・機能                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能②        | 看護師、薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能                               | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能③        | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能                          | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 医療福祉専門職間の連携         | 専門職連携の理論と実際                                          | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学習 GW                                          | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学習 GW                                          | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | ふれあい体験振り返り          | 体験学習を振り返り意見交換を行う 発表準備                                | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | グループ発表              | 各グループ発表                                              | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 総括                  | 自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる                        | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%) |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

## 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」

| 授 業 科 目 名          | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                               |
|--------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 2 年前期 | 白石裕子 田中裕二 竹元仁美 寺岡祥子 松本宗賢<br>池田敏子 岩倉真由美 開田ひとみ 弓岡光徳<br>溝田勝彦 永崎孝之 田中真一 阿波那彦 古後晴基<br>中山広宣 小西紀一 山根伸吾 江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                    |       |         |       |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|--|
| 保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。 |       |         |       |  |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                    |       |         |       |  |
| 1. ICF の概念を活用して事例の課題を抽出することができる<br>2. 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる<br>3. 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる<br>4. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる<br>5. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べるができる                                 |       |         |       |  |
| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修                                                                                                                                                                                                          |       |         |       |  |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む                                                                                                                                                                                                 |       |         |       |  |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                                                       |       |         |       |  |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                   | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |  |
|                                                                                                                                                                                                                            | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |  |

| 回数 | 日程     | 単 元                    | 内 容                                                         | 担当教員 |
|----|--------|------------------------|-------------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業ガイダンス                | 授業の概要 ICF（国際生活機能分類）について グループワークの進め方<br>教員紹介、自己紹介、学科紹介の検討・準備 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | ICF に基づく仮題の明確化（アセスメント） | 事例紹介、事例についての検討<br>（ディスカッションに基づいた事例についての ICF を用いた課題抽出）       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | 総合サービスの計画（計画立案）        | 事例についての検討（ディスカッションに基づいたグループでの目標設定、総合サービスの計画<br>作成、他職種の理解）   | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | プレゼンテーション（実施）          | グループごとに中間発表、意見交換                                            | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | プレゼンテーション（総括）          | 予選会で選ばれた 5 グループで全体発表を行う                                     | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 総合評価                   | 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する                                     | 全員   |

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 評 価      | 課題レポート（100%）                     |
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

| 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」                                                                                                                                                                                               |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                  | 授業形態         | 単位数<br>(時間数)           | 配当年次                                                        | 担 当 教 員                                                                                               |
| 専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）                                                                                                                                                                                                         | 演習           | 1 単位<br>(30 時間)        | 2 年前期                                                       | 白石裕子 田中裕二 竹元仁美 寺岡祥子 松本宗賢<br>池田敏子 岩倉真由美 開田ひとみ 弓岡光徳<br>溝田勝彦 永崎孝之 田中真一 阿波那彦 野中紘士<br>中山広宣 小西紀一 山根伸吾 江口喜久雄 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                    |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。 |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                    |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 6. ICF の概念を活用して事例の課題を抽出することができる<br>7. 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる<br>8. 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる<br>9. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる<br>10. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べるができる                                |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習                                                                                                                                                                                                          |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む                                                                                                                                                                                                 |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事後学習：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                                                       |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                   | (DP1)        | (DP2)                  | (DP3)                                                       |                                                                                                       |
|                                                                                                                                                                                                                            | (DP4)        | ◎ (DP5)                | (DP6)                                                       |                                                                                                       |
| 回数                                                                                                                                                                                                                         | 日程           | 単 元                    | 内 容                                                         | 担当教員                                                                                                  |
| 1                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 授業ガイダンス                | 授業の概要 ICF（国際生活機能分類）について グループワークの進め方<br>教員紹介、自己紹介、学科紹介の検討・準備 | 全員                                                                                                    |
| 2                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 3                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 4                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 5                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | ICF に基づく仮題の明確化（アセスメント） | 事例紹介、事例についての検討<br>（ディスカッションに基づいた事例についての ICF を用いた課題抽出）       | 全員                                                                                                    |
| 6                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 総合サービスの計画（計画立案）        | 事例についての検討（ディスカッションに基づいたグループでの目標設定、総合サービスの計画作成、他職種の理解）       | 全員                                                                                                    |
| 7                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 8                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 9                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | プレゼンテーション（実施）          | グループごとに中間発表、意見交換                                            | 全員                                                                                                    |
| 10                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 11                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 12                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 13                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 14                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | プレゼンテーション（総括）          | 予選会で選ばれた 5 グループで全体発表を行う                                     | 全員                                                                                                    |
| 15                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | 総合評価                   | 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する                                     | 全員                                                                                                    |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                        | 課題レポート（100%） |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                        | 講師資料         |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                      |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                       |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                   |              |                        |                                                             |                                                                                                       |

【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|------|-----------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 3 年前期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香<br>岩倉真由美 中本亮 松井聡子 大村由紀美<br>八谷瑞紀 岡真一郎 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡太<br>岡本伸弘 松本典久 弓岡光徳 原田伸哉 坪内優太<br>中山広宣 田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾<br>江口喜久雄、角田孝行、太田研吾 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。 |

| 訓 達 目 標                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>2. チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる<br>3. チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる<br>4. 自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる<br>5. 他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる |

| 事前学修・事後学修                  |       |   |       |       |
|----------------------------|-------|---|-------|-------|
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む |       |   |       |       |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする |       |   |       |       |
| 対応<br>DP                   | (DP1) |   | (DP2) | (DP3) |
|                            | (DP4) | ◎ | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元           | 内 容                                      | 担当教員 |
|----|--------|---------------|------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 検討事例の決定       | チーム作り（自己紹介 チームリーダー選択 メンバーの役割決定）<br>事例の共有 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | 協働実施（計画立案）    | 看護、理学、作業の分野で実施する計画を討議する                  | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 実施            | シミュレーションで実施                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 評価            | 実施状況をビデオで振り返る。                           | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 専門職連携について全体討議 | 各グループ発表を通して全体で討議                         | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 患者の立場から       | 患者の立場からみた専門職連携の現状と課題                     | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 専門職連携の現状と課題   | 専門職連携の現状と課題                              | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 行政の役割         | 行政から見た専門職連携の必要性和課題                       | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携について     | まとめ                                      | 全員   |

| 評 価      | 課題レポート（100%）                     |
|----------|----------------------------------|
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

## 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」

| 授業科目名                 | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|------|-----------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 3 年前期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香<br>岩倉真由美 中本亮 松井聡子 大村由紀美<br>八谷瑞紀 光武翼 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡太<br>岡本伸弘 野中嘉代子 大田瑞穂 原田伸哉 坪内優太<br>中山広宣 田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾<br>江口喜久雄、角田孝行、太田研吾 |

| 授業概要                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。 |

| 到達目標                                           |
|------------------------------------------------|
| 6. 選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる |
| 7. チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる                      |
| 8. チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる                     |
| 9. 自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる                 |
| 10. 他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる    |

| 事前学習・事後学習                  |       |   |       |       |
|----------------------------|-------|---|-------|-------|
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む |       |   |       |       |
| 事後学習：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする |       |   |       |       |
| 対応<br>DP                   | (DP1) |   | (DP2) | (DP3) |
|                            | (DP4) | ◎ | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程  | 単 元           | 内 容                                      | 担当教員 |
|----|-----|---------------|------------------------------------------|------|
| 1  | 月 日 | 検討事例の決定       | チーム作り（自己紹介 チームリーダー選択 メンバーの役割決定）<br>事例の共有 | 全員   |
| 2  | 月 日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 3  | 月 日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 4  | 月 日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 5  | 月 日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 6  | 月 日 | 協働実施（計画立案）    | 看護、理学、作業の分野で実施する計画を討議する                  | 全員   |
| 7  | 月 日 | 実施            | シミュレーションで実施                              | 全員   |
| 8  | 月 日 | 評価            | 実施状況をビデオで振り返る。                           | 全員   |
| 9  | 月 日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 10 | 月 日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 11 | 月 日 | 専門職連携について全体討議 | 各グループ発表を通して全体で討議                         | 全員   |
| 12 | 月 日 | 患者の立場から       | 患者の立場からみた専門職連携の現状と課題                     | 全員   |
| 13 | 月 日 | 専門職連携の現状と課題   | 専門職連携の現状と課題                              | 全員   |
| 14 | 月 日 | 行政の役割         | 行政から見た専門職連携の必要性と課題                       | 全員   |
| 15 | 月 日 | 専門職連携について     | まとめ                                      | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート（100%） |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

## 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香 岩倉真由美<br>中本亮 松井聡子 大村由紀美 八谷瑞紀 岡真一郎<br>齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 松本典久<br>弓岡光徳 原田伸哉 坪内優太 近藤敏 中山広宣<br>田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾 近藤昭彦<br>江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                                    |       |         |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実践についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。 |       |         |       |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                       |       |         |       |
| 1. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる<br>2. チームメンバーおよび関わる多様な専門職と、良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる<br>3. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>4. 患者への全人的評価に基づいた計画を、チームとして立案できる<br>5. 専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識をチーム計画に反映できる                                  |       |         |       |
| 事前学修・事後学修                                                                                                                                                                                                                                  |       |         |       |
| 事前学修：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる                                                                                                                                                                                                        |       |         |       |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                         | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
| DP                                                                                                                                                                                                                                         | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                | 内 容                                                      | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|----------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業概要               | 授業ガイダンス<br>事例を割り当ててグループを分ける                              | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 患者情報収集①            | 対象の背景の情報をカルテより情報収集を行い、患者、利用者から必要となる情報収集の内容（問診、身体所見）を整理する | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 患者情報収集②            | シミュレーション下で患者（シミュレーター or 模擬患者）から情報収集を行う。                  | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 自職種のアセスメント         | 自職種で患者の問題点を明確にする                                         | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームでの問題の明確化        | 目標を決定し、実践、計画について議論する                                     | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チーム計画①             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | チーム計画②             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 学修成果発表の準備          | 学修成果発表の準備                                                | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅰ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅱ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅲ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 学修成果の発表Ⅳ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携の実践<br>授業のまとめ | 専門職連携の実践 今後の課題と IPW に向けて、授業の振り返り                         | 全員   |

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%)                     |
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

## 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香 岩倉真由美<br>中本亮 松井聡子 大村由紀美 八谷瑞紀 光武翼<br>齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 野中嘉代子<br>大田瑞穂 原田伸哉 坪内優太 近藤敏 中山広宣<br>田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾 近藤昭彦<br>江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                                    |       |         |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実践についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。 |       |         |       |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                       |       |         |       |
| 6. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる<br>7. チームメンバーおよび関わる多様な専門職と、良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる<br>8. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>9. 患者への全人的評価に基づいた計画を、チームとして立案できる<br>10. 専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識をチーム計画に反映できる                                 |       |         |       |
| 事前学習・事後学習                                                                                                                                                                                                                                  |       |         |       |
| 事前学習：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる<br>事後学習：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                                    |       |         |       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                                   | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
|                                                                                                                                                                                                                                            | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                | 内 容                                                      | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|----------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業概要               | 授業ガイダンス<br>事例を割り当ててグループを分ける                              | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 患者情報収集①            | 対象の背景の情報をカルテより情報収集を行い、患者、利用者から必要となる情報収集の内容（問診、身体所見）を整理する | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 患者情報収集②            | シミュレーション下で患者（シミュレーター or 模擬患者）から情報収集を行う。                  | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 自職種のアセスメント         | 自職種で患者の問題点を明確にする                                         | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームでの問題の明確化        | 目標を決定し、実践、計画について議論する                                     | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チーム計画①             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | チーム計画②             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 学習成果発表の準備          | 学習成果発表の準備                                                | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅰ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅱ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅲ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅳ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携の実践<br>授業のまとめ | 専門職連携の実践 今後の課題と IPW に向けて、授業の振り返り                         | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%) |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

9. 理学療法学科の特色の1つとして、「予防と医工連携の観点から健康にアプローチするための科目を開設」とあるが、具体的な科目が定かでないため、対応科目を示すとともに、その授業内容のどのような点が本学の特色であるのか、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

具体的には、以下の科目が予防と医工連携の観点から健康にアプローチするための科目になります。

|      |                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 年次 | 「福祉住環境論」(前期・1 単位・15 時間・選択科目)<br>「生活技術学」(後期・2 単位・30 時間・必修科目)<br>「疼痛理学療法学」(後期・1 単位・15 時間・選択科目)          |
| 3 年次 | 「予防理学療法学」(前期・1 単位・15 時間・必修科目)<br>「理学療法技術学Ⅱ (各論)」(後期・1 単位・15 時間・選択科目)<br>「高度先進医療論」(後期・1 単位・15 時間・選択科目) |

理学療法士が健康寿命の延伸に寄与する領域としましては、医療・福祉施設のみならず、住み慣れた地域に在住する高齢者の転倒予防や健康教室等が挙げられます。そして、これらの領域は今後、ますます拡大していくと思われます。

このような多様なニーズに応えるため、2 年次に生活環境の評価方法や各種福祉用具について学修する「福祉住環境論」と日常生活に必要な動作の成り立ちについて学修する「生活技術学」を開設しました。また、近年では独力で日常生活が可能であっても、腰痛や膝関節痛など慢性的な痛みを有する高齢者も多く、日常生活活動を障害する症候の代表ともいえる疼痛の発生機序、病態やそのマネジメントについて学修する「疼痛理学療法学」を開設しました。さらに、これらの2 年次に学修した知識を踏まえて、3 年次には実際場面に即した予防の観点から捉えた理学療法の現状や在り方について学修する「予防理学療法学」を開設し、予防理学療法の定義と関連法規、地域社会や医療との関係について理解を深めることを可能としています。併せて、「高度先進医療論」において、理学療法の対象領域における先進的な医工連携の実践について学修するとともに、「理学療法技術学Ⅱ (各論)」において身体の器官系に対する治療技術理論の概要を学修することにより、人々の健康にアプローチするための知識と技術を包括的に学修できるようにしました。

授業内容の特色としましては、「高度先進医療論」ではオムニバス形式にて各教員(教授)の専攻分野・領域に関して、近隣にある工学系の大学(福岡工業大学、九州産業大学等)の教員と連携した共同研究について医工連携の観点から教授・説明し、学生が理解を深めるための動機づけを行う計画です。

また、将来的には教員間から大学間へと波及させて連携する構想です。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                      | 旧                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 《55～59 ページ》<br><b>2-3-1 理学療法学科の特色</b><br>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br>【中略】 | 《39～41 ページ》<br><b>2-3-1 理学療法学科の特色</b><br>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br>【中略】 |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                     |                                                                                              |      |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 従来の身体障害に対するアプローチに加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチするための科目を開設</p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では以下の科目を予防と医工連携の観点から健康にアプローチする特色科目として設置する。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 533 300 813">2 年次</td><td data-bbox="316 533 794 813"> 「福祉住環境論」(前期・1 単位・15 時間・選択科目)<br/> 「生活技術学」(後期・2 単位・30 時間・必修科目)<br/> 「疼痛理学療法学」(後期・1 単位・15 時間・選択科目) </td></tr> <tr> <td data-bbox="225 813 300 1093">3 年次</td><td data-bbox="316 813 794 1093"> 「予防理学療法学」(前期・1 単位・15 時間・必修科目)<br/> 「理学療法技術学Ⅱ (各論)」(後期・1 単位・15 時間・選択科目)<br/> 「高度先進医療論」(後期・1 単位・15 時間・選択科目) </td></tr> </table> <p>理学療法士が健康寿命の延伸に寄与する領域としては、医療・福祉施設のみならず、住み慣れた地域に在住する高齢者の転倒予防や健康教室等が挙げられる。そして、これらの領域は今後、ますます拡大していくと思われる。</p> <p>このような多様なニーズに応えるため、2 年次に生活環境の評価方法や各種福祉用具について学修する「福祉住環境論」と日常生活に必要な動作の成り立ちについて学修する「生活技術学」を開設した。また、近年では独力で日常生活が可能であっても、腰痛や膝関節痛など慢性的な痛みを有する高齢者も多く、日常生活活動を障害する症候の代表ともいえる疼痛の発生機序、病態やそのマネジメントについて学修する「疼痛理学療法学」を開設した。さらに、これらの 2 年次に学修した知識を踏まえて、3 年次には実際場面に即した予防の観点から捉えた理学療法の現状や在り方について学修する「予防理学療法学」</p> | 2 年次                                                                                                  | 「福祉住環境論」(前期・1 単位・15 時間・選択科目)<br>「生活技術学」(後期・2 単位・30 時間・必修科目)<br>「疼痛理学療法学」(後期・1 単位・15 時間・選択科目) | 3 年次 | 「予防理学療法学」(前期・1 単位・15 時間・必修科目)<br>「理学療法技術学Ⅱ (各論)」(後期・1 単位・15 時間・選択科目)<br>「高度先進医療論」(後期・1 単位・15 時間・選択科目) | <p>1) 従来の身体障害に対するアプローチに加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチするための科目を開設</p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では専門分野に「疼痛理学療法学」(15 時間・1 単位・必修科目)、「予防理学療法」(15 時間・1 単位・選択科目)を予防と医工連携の観点から健康にアプローチする特色科目として設置する。</p> <p>その他、「実践力」を育成する特色科目として、「基礎理学療法演習Ⅰ (キャリアデザイン)」(30 時間・1 単位・必修科目)、「基礎理学療法演習Ⅱ (検査・測定)」(30 時間・1 単位・必修科目)、「基礎理学療法演習Ⅲ (問題解決)」(30 時間・1 単位・必修科目)、「基礎理学療法演習Ⅴ (スキルシミュレーション)」(30 時間・1 単位・必修科目)、「医用画像評価学」(15 時間・1 単位・必修科目)、「動作分析学」(15 時間・選択科目)、「理学療法臨床推論」(15 時間・1 単位・選択科目)、「運動療法学」(30 時間・1 単位・必修科目)、「理学療法技術学Ⅰ (総論)」(30 時間・1 単位・必修科目)、「理学療法技術学Ⅱ (各論)」(15 時間・1 単位・選択科目)を設置する。</p> |
| 2 年次                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 「福祉住環境論」(前期・1 単位・15 時間・選択科目)<br>「生活技術学」(後期・2 単位・30 時間・必修科目)<br>「疼痛理学療法学」(後期・1 単位・15 時間・選択科目)          |                                                                                              |      |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 3 年次                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 「予防理学療法学」(前期・1 単位・15 時間・必修科目)<br>「理学療法技術学Ⅱ (各論)」(後期・1 単位・15 時間・選択科目)<br>「高度先進医療論」(後期・1 単位・15 時間・選択科目) |                                                                                              |      |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>を開設し、予防理学療法の定義と関連法規、地域社会や医療との関係について理解を深めることを可能としている。併せて、「高度先進医療論」において、理学療法の対象領域における先進的な医工連携の実際について学修するとともに、「理学療法技術学Ⅱ（各論）」において身体の器官系に対する治療技術理論の概要を学修することにより、人々の健康にアプローチするための知識と技術を包括的に学修できるようにした。</p> <p>授業内容の特色としては、「高度先進医療論」ではオムニバス形式にて各教員（教授）の専攻分野・領域に関して、近隣にある工学系の大学（福岡工業大学、九州産業大学等）の教員と連携した共同研究について医工連携の観点から教授・説明し、学生が理解を深めるための動機づけを行う計画である。</p> <p>また、将来的には教員間から大学間へと波及させて連携する構想である。</p> <p>その他、「実践力」を育成する特色科目として、【以下略】</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

10. 理学療法学科の授業科目について、運動器系・神経系の授業科目に比べて、循環器など内部障害系の授業科目は講義科目1科目と少なく、また、教員を専門性に基づき「基礎理学療法」「神経理学療法」「運動器理学療法」「ヘルスプロモーション」のユニットに大別し、学生に選択させる仕組みとなっているが、内部障害に関するユニットは設けられておらず、教育課程が不十分であると見受けられる。このことについて、具体的に説明するとともに、必要に応じて、内部障害に関する教育課程の充実を図ること。(是正事項)

(対応)

内部障害理学療法学をユニットとして分離・独立させ、循環器系理学療法学（心臓リハビリテーション）領域の科目の充実を図ります。ユニットは①基礎理学療法学、②運動器系理学療法学、③神経系理学療法学、④内部系理学療法学、⑤地域理学療法学の5ユニットとして考えています。

また、「循環器系理学療法学」を15時間・1単位から30時間・1単位へと増加して内部障害理学療法学領域を拡充させます。

循環器系理学療法学の授業につきましては、「心疾患の病態と治療」については「心臓弁膜症と心筋症の病態と治療」「大動脈疾患の病態と治療と理学療法」「末梢動脈疾患の病態と治療と理学療法」として細分化し、「虚血性疾患の心電図」については「虚血性心疾患の病態・検査と治療」「虚血性心疾患の理学療法」として拡充し、「心不全の病態と理学療法」については「心不全の病態・検査と治療」「心不全の理学療法」として拡充しています。また、「運動耐容能とその評価」「心臓リハビリテーション総論」「運動療法の実施プログラムと疾病管理および患者教育」を新規に増加させて、計30時間を構成しており、全体的に循環器疾患の理学療法学の授業を充実させています。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《55～57 ページ》</p> <p><b>2-3-1 理学療法学科の特色</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>2) 4年間をとおしたゼミナール制により、高度な知識のみならず、思考力や判断力、問題の想起と解決方法の提案といった探究心（研究力）を育成</p> <p>各教員の専門性に基づいて、専任教員を「基礎理学療法」「神経理学療法」「運動器理学療法」「内部系理学療法」「地域理学療法」の5ユニットに配置し、専門性の高い高度な知識と技術を教授するとともに、思考力や判断力、問題の想起と解決方法の提案といった能力を育成する。</p> | <p>《39～40 ページ》</p> <p><b>2-3-1 理学療法学科の特色</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>2) 4年間をとおしたゼミナール制により、高度な知識のみならず、思考力や判断力、問題の想起と解決方法の提案といった探究心（研究力）を育成</p> <p>各教員の専門性に基づいて、専任教員を「基礎理学療法」「神経理学療法」「運動器理学療法」「ヘルスプロモーション」の4ユニットに配置し、専門性の高い高度な知識と技術を教授するとともに、思考力や判断力、問題の想起と解決方法の提案といった能力を育成する。</p> <p>1年次は各ユニットの特長の紹介から始め</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 年次は各ユニットの特長の紹介から始める。そして、2 年次はユニット・ローテートと称して、各ユニットにおける代表的な実験や計測を体験する。完成年度まではこれらを理学療法学科の専任教員が主体となって実施するが、それ以降は3 年生・4 年生も参加して学生同士が協同して実施することにより、他者と協同する能力や後進を指導する能力を育成する。</p> <p>3 年次は「卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）」（60 時間・2 単位・必修科目）で学生が興味・関心のあるユニットを選択し、研究計画を立案する。4 年次は「卒業研究Ⅱ（研究の実践）」（60 時間・2 単位・必修科目）で研究を実践する。</p> <p>このように、卒業研究を理学療法学科専任教員の専門領域であるユニット単位で指導することにより、高度な知識のみならず、思考力や判断力、問題の想起と解決方法提案といった探究心（研究力）を育成する。また、卒業研究を論文化し、加えて大学院進学への動機づけを図ることも目的とする。</p> | <p>る。そして、2 年次はユニット・ローテートと称して、各ユニットにおける代表的な実験や計測を体験する。完成年度まではこれらを理学療法学科の専任教員が主体となって実施するが、それ以降は3 年生・4 年生も参加して学生同士が協同して実施することにより、他者と協同する能力や後進を指導する能力を育成する。</p> <p>3 年次は「卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）」（60 時間・2 単位・必修科目）で学生が興味・関心のあるユニットを選択し、研究計画を立案する。4 年次は「卒業研究Ⅱ（研究の実践）」（60 時間・2 単位・必修科目）で研究を実践する。</p> <p>このように、卒業研究を理学療法学科専任教員の専門領域であるユニット単位で指導することにより、高度な知識のみならず、思考力や判断力、問題の想起と解決方法提案といった探究心（研究力）を育成する。また、卒業研究を論文化し、加えて大学院進学への動機づけを図ることも目的とする。</p> |
| <p>《75～76 ページ》</p> <p><b>4-2-5-2 教育方法</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>5) 複数の教員によるチームティーチングの実践</p> <p>多くの専門科目において、複数の教員によるチームティーチングを実践する。1 人の教員が全体の講義または演習を主導しつつ、別の教員は学修が進まない一部の学生を支援したり、学生のグループ活動や技術練習を複数の教員で同時に支援したりすることにより、学生個々の学びをきめ細やかに支援する。また、教員の専門性に基づいて教員を「基礎理学療法」「神経理学療法」「運動器理学療法」「<u>内部系理学療法</u>」「<u>地域理学療法</u>」の5 ユニッ<br/><u>ット</u>に大別し、学生の卒業研究をユニット単</p>                                                                    | <p>《56～58 ページ》</p> <p><b>4-2-5-2 教育方法</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>5) 複数の教員によるチームティーチングの実践</p> <p>多くの専門科目において、複数の教員によるチームティーチングを実践する。1 人の教員が全体の講義または演習を主導しつつ、別の教員は学修が進まない一部の学生を支援したり、学生のグループ活動や技術練習を複数の教員で同時に支援したりすることにより、学生個々の学びをきめ細やかに支援する。また、教員の専門性に基づいて教員を「基礎理学療法」「神経理学療法」「運動器理学療法」「ヘルスプロモーション」の4 ユニッ<br/><u>ット</u>に大別し、学生の卒業研究をユニット単位で</p>                                                                 |

| 新                         | 旧                       |
|---------------------------|-------------------------|
| 位で支援することにより、学生の研究力の向上を図る。 | 支援することにより、学生の研究力の向上を図る。 |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

11. 臨床実習において、一部の科目については3か所の実習施設のみで実施することとなっており、多くの学生を同時に受け入れる想定となっている。各学科の実習要項や実習の手引で定める実習指導者数等、十分な指導体制が整っているのかを具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

実習指導者数等につきましては以下の実績があります。なお、表中のST比は(学生数)÷(指導者数)で求めた数値の小数点第3位を四捨五入した数値を記載し、また予定の指導者数は2019～2021年度の3年間における平均値を記載しています。

《理学療法学科》

|        | 福岡和白病院 |     |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |     |      | 福岡新水巻病院 |     |      |
|--------|--------|-----|------|----------------|-----|------|---------|-----|------|
|        | 指導者数   | 学生数 | ST比  | 指導者数           | 学生数 | ST比  | 指導者数    | 学生数 | ST比  |
| 予定     | 38名    | 30名 | 0.79 | 32名            | 26名 | 0.81 | 25名     | 18名 | 0.72 |
| 2021年度 | 33名    | 28名 | 0.85 | 36名            | 30名 | 0.83 | 23名     | 15名 | 0.65 |
| 2020年度 | 41名    | 30名 | 0.73 | 33名            | 25名 | 0.76 | 25名     | 18名 | 0.72 |
| 2019年度 | 40名    | 33名 | 0.83 | 29名            | 24名 | 0.83 | 27名     | 23名 | 0.85 |

《作業療法学科》

|        | 福岡和白病院 |     |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |     |      | 福岡新水巻病院 |     |      |
|--------|--------|-----|------|----------------|-----|------|---------|-----|------|
|        | 指導者数   | 学生数 | ST比  | 指導者数           | 学生数 | ST比  | 指導者数    | 学生数 | ST比  |
| 予定     | 26名    | 25名 | 0.96 | 25名            | 25名 | 1.00 | 17名     | 10名 | 0.59 |
| 2021年度 | 27名    | 12名 | 0.44 | 26名            | 12名 | 0.46 | 17名     | 8名  | 0.47 |
| 2020年度 | 24名    | 8名  | 0.33 | 24名            | 8名  | 0.33 | 16名     | 4名  | 0.25 |
| 2019年度 | 27名    | 8名  | 0.30 | 25名            | 12名 | 0.48 | 20名     | 8名  | 0.40 |

理学療法士作業療法士養成施設指導要領の8(2)に「実習施設における実習人員と当該施設の実習指導者数の対比は二対一程度とすることが望ましいこと。」とあり、すなわちST比は2.0以下が望ましいとされています。また、上記実習施設は福岡和白リハビリテーション学院の閉校に伴い、本学に移行して受け入れる予定です。ゆえに、本学の臨床実習においては理学療法学科、作業療法学科ともに1.0以下となる見込みです。

以上より、令和健康科学大学（仮称）の理学療法学科80名、作業療法学科60名の臨床実習を受け入れるにあたり、実習指導者数等十分な指導体制が整っていると考えます。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                         | 旧                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 《145～148 ページ》<br><b>10-3-2 臨床実習体制</b><br>各施設における臨床実習指導は、【中略】<br>7) 保険等の加入 | 《122～124 ページ》<br><b>10-3-2 臨床実習体制</b><br>各施設における臨床実習指導は、【中略】<br>7) 保険等の加入 |

| 新                                                                                                                      |        |     |      |                |     |      |         |     |      | 旧                                                                                                               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----|------|----------------|-----|------|---------|-----|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 臨床実習において医療事故等が生じた場合、学生であっても責任を問われることを考え、入学と同時に学生の保険加入を義務付ける。また、学生が事故の被害者となることも考慮し、臨床実習以外の通学中における事故等にも対応した保険とする。        |        |     |      |                |     |      |         |     |      | 臨床実習において医療事故等が生じた場合、学生であっても責任を問われることを考え、入学と同時に学生の保険加入を義務付ける。また、学生が事故の被害者となることも考慮し、臨床実習以外の通学中における事故等にも対応した保険とする。 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 8) 中核臨床実習施設の指導体制について                                                                                                   |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 実習指導者数等については以下の実績がある。なお、表中の ST 比は（学生数）／（指導者数）で求めた数値の小数点第 3 位を四捨五入した数値を記載し、また予定の指導者数は 2019～2021 年度の 3 年間における平均値を記載している。 |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 《理学療法学科》                                                                                                               |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 福岡和白病院 |     |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |     |      | 福岡新水巻病院 |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 指導者数   | 学生数 | ST 比 | 指導者数           | 学生数 | ST 比 | 指導者数    | 学生数 | ST 比 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 予定                                                                                                                     | 38名    | 30名 | 0.79 | 32名            | 26名 | 0.81 | 25名     | 18名 | 0.72 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2021 年度                                                                                                                | 33名    | 28名 | 0.85 | 36名            | 30名 | 0.83 | 23名     | 15名 | 0.65 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2020 年度                                                                                                                | 41名    | 30名 | 0.73 | 33名            | 25名 | 0.76 | 25名     | 18名 | 0.72 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2019 年度                                                                                                                | 40名    | 33名 | 0.83 | 29名            | 24名 | 0.83 | 27名     | 23名 | 0.85 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 《作業療法学科》                                                                                                               |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 福岡和白病院 |     |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |     |      | 福岡新水巻病院 |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 指導者数   | 学生数 | ST 比 | 指導者数           | 学生数 | ST 比 | 指導者数    | 学生数 | ST 比 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 予定                                                                                                                     | 26名    | 25名 | 0.96 | 25名            | 25名 | 1.00 | 17名     | 10名 | 0.59 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2021 年度                                                                                                                | 27名    | 12名 | 0.44 | 26名            | 12名 | 0.46 | 17名     | 8名  | 0.47 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                       |                      |             |                       |                       |             |                       |                      |             | 旧 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|----------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|-------------|-----------------------|----------------------|-------------|---|
| <u>2020</u><br><u>年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <u>24</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u> | <u>0.33</u> | <u>24</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u>  | <u>0.33</u> | <u>16</u><br><u>名</u> | <u>4</u><br><u>名</u> | <u>0.25</u> |   |
| <u>2019</u><br><u>年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <u>27</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u> | <u>0.30</u> | <u>25</u><br><u>名</u> | <u>12</u><br><u>名</u> | <u>0.48</u> | <u>20</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u> | <u>0.40</u> |   |
| <p><u>理学療法士作業療法士養成施設指導要領の 8 (2)に</u><br/><u>「実習施設における実習人員と当該施設の実習指導者</u><br/><u>数の対比は二対一程度とすることが望ましいこと。」と</u><br/><u>あり、すなわち ST 比は 2.0 以下が望ましいとされてい</u><br/><u>る。また、上記実習施設は福岡和白リハビリテーショ</u><br/><u>ン学院の閉校に伴い、本学に移行して受け入れる予定</u><br/><u>である。ゆえに、本学の臨床実習においては理学療法</u><br/><u>学科、作業療法学科ともに 1.0 以下となる見込みであ</u><br/><u>る。</u></p> <p><u>以上より、令和健康科学大学（仮称）の理学療法学</u><br/><u>科 80 名、作業療法学科 60 名の臨床実習を受け入れる</u><br/><u>にあたり、実習指導者数等十分な指導体制が整ってい</u><br/><u>ると考えている。</u></p> |                       |                      |             |                       |                       |             |                       |                      |             |   |



(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

12. 学習成果の評価について、以下について説明すること。(是正事項)

(1)「各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す」とあるが、趣旨が不明確であるため、例を示しながら具体的に説明すること。

(対応)

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 (平成 30) 年 11 月 26 日 中央教育審議会答申)によると、大学教育の質の保証をするために、第一義的には大学自らが率先して教育の質の保証に取り組むことが重要であると述べられており、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営(教学マネジメント)」の確立が求められています。

本学も教学マネジメントの確立のため、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を展開します。各科目とディプロマ・ポリシーの関係性を吟味し、科目の到達目標がディプロマ・ポリシーに示される能力に反映できるかを定量的に検討することを趣旨として、学修成果の評価に「学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。」と記載しました。

具体的には、①各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させること、②各科目の到達目標に対する達成度を提出物・期末試験等の評価を通じて定量的に行うこと等を実施し、各科目への評価を通じ、ディプロマ・ポリシーに記載された能力が確実に身につくよう評価を実施します。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《64 ページ》</p> <p><b>4-2 教育課程編成の基本的な考え方</b></p> <p>令和健康科学大学（仮称）において教育課程の編成は学則で定める。学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また、学年を分けて2学期制とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>授業科目は、基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つに区分する。</p> <p>各授業科目の単位を定めるにあたっては、大学設置基準〈文部省令第28号・1956（昭和31）年10月22日〉（以下、設置基準という）に基づき、講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とし、実習（学内での実習は45時間をもって1単位としている。なお、講義は講師（指導者）が学修内容を伝達する手法を主とする授業形態であり、演習は学修内容を模擬的・総合的に学修者に体験さ</p> | <p>《46 ページ》</p> <p><b>4-2 教育課程編成の基本的な考え方</b></p> <p>令和健康科学大学（仮称）において教育課程の編成は学則で定める。学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また、学年を分けて2学期制とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>授業科目は、基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つに区分する。</p> <p>各授業科目の単位を定めるにあたっては、大学設置基準〈文部省令第28号・1956（昭和31）年10月22日〉（以下、設置基準という）に基づき、講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とし、実習（学内での実習は45時間をもって1単位としている。なお、講義は講師（指導者）が学修内容を伝達する手法を主とする授業形態であり、演習は学修内容を模擬的・総合的に学修者に体験さ</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>せ伝える手法を主とした授業形態としている。<br/>即ち、主体的・対話的で深い学びの視点を主とした場合、本学では演習に相当するものと定義する。</p> <p>各授業科目の授業は前期 15 週、後期 15 週を基本としている。</p> <p><u>「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 (平成 30) 年 11 月 26 日 中央教育審議会答申)によると、大学教育の質の保証をするために、第一義的には大学自らが率先して教育の質の保証に取り組むことが重要であると述べられており、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営（教学マネジメント）」の確立が求められている。</u></p> <p><u>本学も教学マネジメントの確立のため、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を展開する。各科目とディプロマ・ポリシーの関係性を吟味し、科目の到達目標がディプロマ・ポリシーに示される能力に反映できるかを定量的に検討し、学修成果の評価あたる。</u></p> <p>《70 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。<u>具体的には「各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させること」「各科目の到達目標に対する達成度を提出物・期末試験等の評価を通じて定量的に行うこと」等を実施し、各科目への評価を通じ、ディプロマ・ポリシーに記載された能力が確実に身につくよう評価を実施する。</u></p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の</p> | <p>せ伝える手法を主とした授業形態としている。<br/>即ち、主体的・対話的で深い学びの視点を主とした場合、本学では演習に相当するものと定義する。</p> <p>各授業科目の授業は前期 15 週、後期 15 週を基本としている。</p> <p>《52 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> |

| 新        | 旧 |
|----------|---|
| 改善に役立てる。 |   |

(2)GPA については導入することのみが記載されており、内容が不明確であるため、詳細に説明すること。

(対応)

各学期（前期・後期）に区分して履修した全科目について、1 単位当たりの成績の平均値を 5 点満点の評価値（Grade Point Average：GPA）に換算し、当該値を成績評価に用います。

GPA を求めるため、各科目の粗点を 10 で除した後に 5 を減じた値を GP（Grade Point）として変換します（ただし、 $GP \geq 0$  とし、 $GP < 0$  の場合は全て 0 とします）。

全科目の GP と単位数の合計との積を履修登録した科目の単位の合計で除した値を GPA とします。得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者選定、特待生制度の継続判定、学生自身の目標に対する自己評価指標等の際にも参考値として用いる予定です。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《70～71 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA（Grade Point Average）を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> <p><u>GPA を求めるため、各科目の粗点を 10 で除した後に 5 を減じた値を GP（Grade Point）として変換しする（ただし、<math>GP \geq 0</math> とし、<math>GP &lt; 0</math> の場合は全て 0 とする）。</u></p> <p><u>全科目の GP と単位数の合計との積を履修登録した科目の単位の合計で除した値を GPA とする。得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配</u></p> | <p>《52 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA（Grade Point Average）を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> |

| 新                                                                                            | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <u>置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者<br/>選定、特待生制度の継続判定、学生自身の<br/>目標に対する自己評価指標等の際にも参考<br/>値として用いる予定である。</u> |   |

(3)シラバスに記載された成績評価指標について、「客観試験」「技術試験」「定期試験」等の趣旨の不明確な指標が見受けられることから、客観的評価が可能な指標かについても検討の上、適切に改めるとともに、評価方法ごとの割合などについては、シラバスにも記載し、学生に適切に周知すること。

(対応)

シラバスに「客観試験」、「技術試験」、「定期試験」等の表記揺れや、趣旨の不明確な指標が認められます。客観的評価が可能である成績評価指標であることを再度学内で検討し、下記の通り、評価指標を統一しました。

また、各科目における成績判定については、当該評価指標の割合についてシラバスにも記載し、学生に適切に周知することとします。

(新旧対照表) シラバス 評価 (看護学部看護学科)

| 新    | 旧    |
|------|------|
| 筆記試験 | 客観試験 |
| 実技試験 | 技術試験 |

(新旧対照表) シラバス 評価 (リハビリテーション学部 作業療法学科)

| 新    | 旧    |
|------|------|
| 筆記試験 | 客観試験 |
| 筆記試験 | 定期試験 |
| 筆記試験 | 期末試験 |

(新旧対照表) シラバス 評価 (リハビリテーション学部 理学療法学科)

| 新    | 旧      |
|------|--------|
| 筆記試験 | 定期試験   |
| 筆記試験 | 試験     |
| 筆記試験 | 最終試験   |
| 筆記試験 | 期末試験   |
| 筆記試験 | 期末筆記試験 |
| 筆記試験 | 記述試験   |

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

13. シラバスにオフィスアワーに関する記載がなされていないため、明確にすること。(改善事項)

(対応)

各シラバスのオフィスアワーを空欄にしていたため、担当教員の授業、会議、研究等の予定と照合しながら現時点での状況で記載しました。

## (是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

14. 設置の趣旨の説明において、本学の特色の一つに「充実した ICT 環境による自由度の高い学習支援 (ICT 教育)」を掲げているが、教育課程をみると、1 年次の「医療と情報リテラシー」のみと見受けられ、また、「一部の授業について学習用動画を作成し」「学修できる教材を整備する」、「遠隔教育の整備をする」等、ICT の活用が強調されているが、講義・演習・実習科目等多様な授業形態がある中でどの授業でどのように活用されるか不明確であるため、その妥当性も含め具体的に説明すること。(是正事項)

## (対応)

全学生及び全教員に iPad®等のタブレットデバイスを整備し、誰でも、どこでも、何度でも利用・学修できる環境とします。また、授業の出欠管理・連絡の伝達や履修状況の確認等もタブレット端末を用いて行わせることとします。

可能な限り教科書を電子書籍とし、各授業のダイジェストを 5～10 分程度の動画として本学の限定公開とし、学生の予習・復習に利用させ、学修効果をより高まるようにします。

学内の学修において、実際の臨床場面の現実感 (reality) をもたせるため、AR (Augmented reality: 拡張現実) や VR (virtual reality: 仮想現実) といった技術を取り入れることで、技術・技能の向上のみならず、モチベーションを高める効果を期待します。

授業形態ごとの ICT の活用については以下を想定しております。

|      |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義形式 | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理 (ファイリング) することで知識の整理を容易にします。 |
| 演習形式 | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にします。                |
| 実習形式 | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子カルテに対応できるようにします。                                         |

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《55～58 ページ》</p> <p><b>2-3-1 理学療法学科の特色</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>4) 充実した ICT 環境による自由度の高い学修支援 (ICT 教育)</p> <p>情報の収集・分析・評価・要約・創造・表現能力を重点目的として、本学は iPad®等のタブレット端末を学生及び教員に 1 人 1 台ずつ整備し ICT 教育の充実を図る。教員主導の</p> | <p>《39～41 ページ》</p> <p><b>2-3-1 理学療法学科の特色</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>4) 充実した ICT 環境による自由度の高い学修支援 (ICT 教育)</p> <p>情報の収集・分析・評価・要約・創造・表現能力を重点目的として、本学はタブレット端末を学生に 1 人 1 台ずつ整備し ICT 教育の充実を図る。教員主導の教育から学修者中心</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------|------|----------------------------|--|
| <p>教育から学修者中心の教育へ移行すべく、教員の一齐指導から学生の自己調整と協働へ転換を図る。そして、授業時にとどまらず、自宅での学修や日常生活場面においても ICT を活用できる能力を高めていく。<u>また、学内の学修において、実際の臨床場面の現実感 (reality) をもたせるため、AR (Augmented reality : 拡張現実) や VR (virtual reality : 仮想現実) といった技術を取り入れることで、技術・技能の向上のみならず、モチベーションを高める効果を期待できる。</u></p> <p><u>可能な限り教科書を電子書籍とし、対象となる授業については学修用動画や 5～10 分程度の授業ダイジェストを本学の限定公開とし、「いつでも」・「どこでも」・「何度でも」学修できる教材を整備するとともに、学年を跨いだ自由度の高い学修環境を構築することを目標とする。</u></p> <p>国家試験合格に向けた学修教材としてのドリルや、日々の学修記録活動の実施、臨床実習用の模擬カルテの作成（認知スキルルーブリック、運動スキルチェックリストを含む）等にも ICT 教育を導入していく予定である。</p> <p><u>授業形態ごとの具体的な ICT 活用については以下を想定している。</u></p> | <p>の教育へ移行すべく、教員の一齐指導から学生の自己調整と協働へ転換を図る。そして、授業時にとどまらず、自宅での学修や日常生活場面においても ICT を活用できる能力を高めていく。</p> <p>対象となる授業については学修用動画を作成し、「いつでも」・「どこでも」・「何度でも」学修できる教材を整備するとともに、学年を跨いだ自由度の高い学修環境を構築することを目標とする。</p> <p>国家試験合格に向けた学修教材としてのドリルや、日々の学修記録活動の実施、臨床実習用の模擬カルテの作成（認知スキルルーブリック、運動スキルチェックリストを含む）等にも ICT 教育を導入していく予定である。</p> |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 1402 384 1682">講義形式</td><td data-bbox="384 1402 799 1682">配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理（ファイリング）することで知識の整理を容易にする</td></tr> <tr> <td data-bbox="225 1682 384 1917">演習形式</td><td data-bbox="384 1682 799 1917">デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にする</td></tr> <tr> <td data-bbox="225 1917 384 2018">実習形式</td><td data-bbox="384 1917 799 2018">授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子</td></tr> </table>                                                                                             | 講義形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理（ファイリング）することで知識の整理を容易にする | 演習形式 | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にする | 実習形式 | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子 |  |
| 講義形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理（ファイリング）することで知識の整理を容易にする                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
| 演習形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にする                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |
| 実習形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                |      |                                                                   |      |                            |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                | 旧                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                            | カルテに対応できるようにする |                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>5) 担任制とチューター制を併用したきめ細やかな学修及び生活指導</p> <p>一人の学生に対して、担任とチューターを配置することで、いつでも相談しやすい環境を整備し、教育の充実を図る。</p> <p>前述のとおり ICT を活用した国家試験合格に向けた学修、ICT を活用した日々の学修記録活動による自己調整学修能力の育成、ICT を活用した学生カルテの作成（成績・面談記録等）を補助的に用いて面談を実施し学生の状況把握に努めるものとする。<u>また、授業の出欠管理・連絡の伝達や履修状況の確認等もタブレット端末を用いて行わせることとする。</u></p> |                | <p>5) 担任制とチューター制を併用したきめ細やかな学修及び生活指導</p> <p>一人の学生に対して、担任とチューターを配置することで、いつでも相談しやすい環境を整備し、教育の充実を図る。</p> <p>前述のとおり ICT を活用した国家試験合格に向けた学修、ICT を活用した日々の学修記録活動による自己調整学修能力の育成、ICT を活用した学生カルテの作成（成績・面談記録等）を補助的に用いて面談を実施し学生の状況把握に努めるものとする。</p> |



## (改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

15. 語学教育として、英語に加えて中国語又は韓国語が必修科目とされている趣旨について説明すること。(改善事項)

## (対応)

本学は福岡県に位置しており、学生の大半は福岡県より募集し、かつ、福岡県に就職することを想定しています。2018（平成30）年12月末における福岡県内の在留外国人数は総数77,044人であり、国籍別順位をみると第1位が中国で20,580人（26.7%）、第2位が韓国・朝鮮の16,797人（21.8%）と、中国人または韓国・朝鮮人で全体の約半数を占めています。本学の位置する福岡県においては、医療を必要とする外国人の約5割は中国人或いは韓国・朝鮮人が占めていると考えられ、英語を必修とすると共に、中国語または韓国語を選択必修にすることで、本学が輩出する看護師、理学療法士、作業療法士は治療対象となる外国人へ何らかしらの意思疎通やコミュニケーションができるようになることを趣旨としています。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と高度化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> <p><u>2018（平成30）年12月末における福岡県内の在留外国人数は総数77,044人であり、国籍別順位をみると第1位が中国で20,580人（26.7%）、第2位が韓国・朝鮮の16,797人（21.8%）と全体の約半数を占めている。本学を設置しようとする福岡県においては、医療を必要とする外国人の約5割は中国人及び韓国人が占めていると考えられ、英語と共に中国語・韓国語といった言語の必要性は高い。本学では英語を必修とすると共に、中国語または韓国語を選択必修にすることで、本学が輩出する看護師、理学療法士、作業療法士は治療対象となる外国人へ何らかしらの意思疎通やコミュニケーションができるようになることを期待している。</u></p> | <p>《5 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と複雑化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

16. 科目の名称について、「カウンセリング」など、大学の科目の名称らしくないものが散見されるため、適切に修正すること。(改善事項)

(対応)

全科目の名称を網羅的に確認したうえで、専門的にみて一般的で、かつ大学の科目として相応しいものとなるよう一部の科目の名称について修正します。修正した内容は下記「表1. 科目名の新旧対照表」にまとめます。

表1. 科目名の新旧対照表

| 新         | 旧        |
|-----------|----------|
| ケアマネジメント論 | ケアマネジメント |
| カウンセリング論  | カウンセリング  |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

17. 入学者選抜について、例えば、「学校推薦型選抜（一般）」においては「面接、調査書、小論文を主たる判定資料とする」とある等、評価に関する項目が明確ではないため、各項目の評価割合なども含め、アドミッション・ポリシーに記載されている内容をどのように担保するのか、試験区分ごとに具体的に説明すること。また、学力試験において、数学等の教科名のみが記載されているものは、必要な科目名まで明示すること。(是正事項)

(対応)

本審査意見を踏まえ、入学者選抜における評価項目（判定資料）とその評価割合を示します。なお、アドミッション・ポリシーとの関係も含めて、申請時の「設置の趣旨等を記載した書類」の「【資料32-2】AP・DP・入学者選抜の関係（理学療法学科）」の内容を別紙のとおり改訂します。各評価割合につきましては、アドミッション・ポリシーの関係性から入学者選抜における多面的な評価を鑑みて重みづけを行っています。

#### 【別紙資料2】 AP・DP・入学者選抜の関係

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《119～122 ページ》</p> <p><b>8-3-1 入学者選抜方法</b></p> <p>入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的かつ総合的に判定し、かつ、アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため、学校教育法に定める高等学校における教育目標の一つである一般的な教養の修得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行うこととする。具体的な選抜方法として入学者選抜の多様性の観点から、①総合型選抜、②学校推薦型選抜（一般・指定校）、③一般選抜、④大学入学共通テスト利用選抜、⑤社会人選抜を行うこととし、学力の3要素である①「知識・技能の確実な修得」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を多角的・総合的に評価・選抜する。入試区分に応じて、活用する評価方法や比重等を募集要項等で明らかにする。<u>各評価割合については、アドミッション・ポリシーの関係性から入学者選抜における多面的な評価を考慮して重みづけを行った。</u></p> | <p>《97～99 ページ》</p> <p><b>8-3-1 入学者選抜方法</b></p> <p>入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的かつ総合的に判定し、かつ、アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため、学校教育法に定める高等学校における教育目標の一つである一般的な教養の修得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行うこととする。具体的な選抜方法として入学者選抜の多様性の観点から、①総合型選抜、②学校推薦型選抜（一般・指定校）、③一般選抜、④大学入学共通テスト利用選抜、⑤社会人選抜を行うこととし、学力の3要素である①「知識・技能の確実な修得」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を多角的・総合的に評価・選抜する。入試区分に応じて、活用する評価方法や比重等を募集要項等で明らかにする。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>8-3-1-1 総合型選抜</b></p> <p>入学志願者が本学で学びたいという意欲を重視するとともに学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、調査書、面接および小論文により総合的に判定する。</p> <p><u>アドミSSION・ポリシー①～③、アドミSSION・ポリシー⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u>総合型選抜の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 7 名（12%）とする。<u>評価割合については面接 60%、調査書 20%、小論文 20%とし、面接を重視した選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-2 学校推薦型選抜（一般）</b></p> <p>本学を専願し、入学志願者の出身高等学校長の推薦を得る等の出願条件を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、面接、<u>推薦書、調査書および小論文により総合的に判定する。</u><u>アドミSSION・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に高等学校からの推薦文も考慮し多面的な評価を行う。</u><u>アドミSSION・ポリシー②、③、⑤については、主に面接にて人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u><u>学校推薦型選抜（一般）の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 8 名（13%）とする。</u><u>評価割合については面接 50%、調査書 10%、小論文 30%、推薦</u></p> | <p><b>8-3-1-1 総合型選抜</b></p> <p>入学志願者が本学で学びたいという意欲を重視するとともに学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、調査書、面接および小論文により総合的に判定する。</p> <p>総合型選抜の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 7 名（12%）とする。</p> <p><b>8-3-1-2 学校推薦型選抜（一般）</b></p> <p>本学を専願し、入学志願者の出身高等学校長の推薦を得る等の出願条件を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、面接、調査書および小論文を主たる判定資料とする。</p> <p>学校推薦型選抜（一般）の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 8 名（13%）とする。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>書 10%とし、面接を重視しつつも、総合型選抜と比較して学校からの評価やより基礎学力を重視するような選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-3 学校推薦型選抜（指定校）</b></p> <p>本学が指定した高等学校（指定校）に対し推薦枠を与えるものである。入学志願者の出身高等学校長の推薦及び指定した平均評定を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に判定するため、面接、<u>推薦書、調査書及び小論文により総合的に判定する。</u><u>アドミッション・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に高等学校からの推薦文も考慮し多面的な評価を行う。</u><u>アドミッション・ポリシー②、③、⑤については、主に面接にて人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u>学校推薦型選抜（指定校）の定員割合は、看護学科 15 名（19%）、理学療法学科 15 名（19%）、作業療法学科 12 名（20%）とする。<u>評価割合については面接 40%、調査書 10%、小論文 30%、推薦書 20%とし、学校推薦型選抜（一般）と比較して高等学校から提出される推薦書をより重視し、高校からの評価に重きを置いた選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-4 一般選抜（前期・後期）</b></p> <p>一般選抜（前期）は、学力試験として英語を必修科目とし、国語、数学及び理科（物理基礎・物理・化学基礎・化学、生物基礎・生物）から 2 科目を選択する形式とし、入学志願者の学修能力を判定する。<u>アドミッション・ポリシー①～③、⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッ</u></p> | <p><b>8-3-1-3 学校推薦型選抜（指定校）</b></p> <p>本学が指定した高等学校（指定校）に対し推薦枠を与えるものである。入学志願者の出身高等学校長の推薦及び指定した平均評定を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に判定するため、面接、調査書及び小論文を主たる判定資料とする。学校推薦型選抜（指定校）の定員割合は、看護学科 15 名（19%）、理学療法学科 15 名（19%）、作業療法学科 12 名（20%）とする。</p> <p><b>8-3-1-4 一般選抜（前期・後期）</b></p> <p>一般選抜（前期）は、学力試験として英語を必修科目とし、国語、数学及び理科（物理基礎・物理・化学基礎・化学、生物基礎・生物）から 2 科目を選択する形式とし、入学志願者の学修能力を判定する。各学科のアドミッション・ポリシーにかかる①～③については面接により適切に判定する。</p> <p>一般選抜（前期）は特待生選抜を兼ねるもの</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>ション・ポリシー④については学力試験・調査書にて基礎学力と学修態度を確認する。</u></p> <p>一般選抜（前期）は特待生選抜を兼ねるものとする。また、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般・指定校）で合格を得た入学志願者に対しても特待生選抜の受験を認め、当該受験者に対しては合否を判定せず、特待生の可否のみを判定する。なお、特待生の種類としては、授業料の全額免除及び半額免除を若干名ずつ予定する。<u>評価割合については学力試験 60%、面接 30%、調査書 10%とし、より学力を重視した選抜方法とする。</u></p> <p>一般選抜（後期）は、多彩な学生の募集と受験生の受験機会の確保を目的とする。面接、小論文及び調査書により適切に判定する。<u>アドミッション・ポリシー①～③、⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。評価割合については面接 60%、調査書 10%、小論文 30%とし、多面的な能力を確認できる面接を重視することで多彩な学生募集を行う。また、一般選抜（後期）の実施により受験日程を広げ、受験生の受験機会の確保を行う。</u></p> <p>一般選抜（前期・後期）の定員割合は、看護学科 40 名（50%）、理学療法学科 40 名（50%）、作業療法学科 30 名（50%）とする。</p> <p><b>8-3-1-5 大学入学共通テスト利用選抜</b></p> <p>大学入学共通テスト利用選抜は、大学入学共通テストにおける国語及び英語を必修科目として、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）、数学から 1 科目を選択のうえ、計 3 科目が一定の学力水準に達しているかを判定に用いることとする。</p> <p><u>評価割合としてはアドミッション・ポリシー④を確認する学力試験が全体の 80%を占めるた</u></p> | <p>とする。また、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般・指定校）で合格を得た入学志願者に対しても特待生選抜の受験を認め、当該受験者に対しては合否を判定せず、特待生の可否のみを判定する。なお、特待生の種類としては、授業料の全額免除及び半額免除を若干名ずつ予定する。</p> <p>一般選抜（後期）は、多彩な学生の募集と受験生の受験機会の確保を目的とする。面接、小論文及び調査書により適切に判定する。</p> <p>一般選抜（前期・後期）の定員割合は、看護学科 40 名（50%）、理学療法学科 40 名（50%）、作業療法学科 30 名（50%）とする。</p> <p><b>8-3-1-5 大学入学共通テスト利用選抜</b></p> <p>大学入学共通テスト利用選抜は、大学入学共通テストにおける国語及び英語を必修科目として、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）、数学から 1 科目を選択のうえ、計 3 科目が一定の学力水準に達しているかを判定に用いることとする。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜の定員割合は、看護学科 5 名（6%）、理学療法学科 5 名</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>め、基礎学力、学習態度を重視する選抜方法となるが、アドミSSION・ポリシー①～③、⑤についても、調査書の「指導上の参考になる諸事項」等に記載された内容を加味し、大学入学前の意欲や多様な活動から確認を行う。評価割合については学力試験 80%、調査書 20%とし、学力を重視する選抜方法とする。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜の定員割合は、看護学科 5 名（6 %）、理学療法学科 5 名（6 %）、作業療法学科 3 名（5 %）とする。</p> <p><b>8-3-1-6 社会人選抜</b></p> <p>社会人としての職業経験をもち、かつ、看護学・理学療法学・作業療法学の修得に関する資質と能力を備え、学修意欲の旺盛な入学志願者を受け入れるため、学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、自己推薦文、面接及び小論文を主たる判定資料とする。アドミSSION・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に、志願者の自己推薦文も加味し、評価を行う。アドミSSION・ポリシー②、③については面接にて人を尊重する考えや共感力、調整力、協調性、傾聴力を確認する。アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて思考力・論理性等といった基礎学力や学修態度を確認する。アドミSSION・ポリシー⑤については面接と志願理由書から社会への貢献意識等を確認する。評価割合については面接 50%、調査書 5%、小論文 35%、志願理由書 5%、自己推薦文 5%とし、多様な判定資料により多面的な評価を実施する。社会人選抜の定員割合は、看護学科若干名、理学療法学科若干名、作業療法学科若干名とする。</p> | <p>（6 %）、作業療法学科 3 名（5 %）とする。</p> <p><b>8-3-1-6 社会人選抜</b></p> <p>社会人としての職業経験をもち、かつ、看護学・理学療法学・作業療法学の修得に関する資質と能力を備え、学修意欲の旺盛な入学志願者を受け入れるため、学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、自己推薦文、面接及び小論文を主たる判定資料とする。</p> <p>社会人選抜の定員割合は、看護学科若干名、理学療法学科若干名、作業療法学科若干名とする。</p> |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

18. 理学療法士の有資格者のうち、指定規則に定める教員資格を満たしていないとする2名の専任教員については、「完成年度まで」ではなく、指定規則における経過措置終了までには教員要件を満たすようにすること。(是正事項)

(対応)

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等の改正は2020（令和2）年4月の入学生から適用され、専任教員の経過措置は2年間です。

従いまして、当該指定規則に定める教員資格を満たしていない2名の専任教員については、2022（令和4）年4月の入学生まで、すなわち、「開学時点まで」に教員要件を満たすようにします。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《86 ページ》</p> <p><b>5-2-2 理学療法学科の教員組織編成</b></p> <p>理学療法学科の教員数は、【中略】。理学療法士の有資格者のうち、15名はPT/OT 指定規則で定める教員要件を満たしており、残りの2名も<u>開学時点（PT/OT 指定規則における経過措置終了）</u>までに教員要件を満たす見込みである。</p> | <p>《66 ページ》</p> <p><b>5-2-2 理学療法学科の教員組織編成</b></p> <p>理学療法学科の教員数は、【中略】。理学療法士の有資格者のうち、15名はPT/OT 指定規則で定める教員要件を満たしており、残りの2名も<u>完成年度</u>までに教員要件を満たす見込みである。</p> |



(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

19. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(是正事項)

(対応)

本学における教員組織編成については完成年度において本学定年年齢である 65 歳を超える教員が 22 名(看護学科 9 名、理学療法学科 7 名、作業療法学科 6 名)と比較的高齢の教員もおります。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するためです。65 歳を超える教員のうち、看護学科 7 名、理学療法学科 6 名(うち 4 名が医師)、作業療法学科 4 名の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものであります。

完成年度以降も踏まえて、比較的高齢の教員の後任者の採用方針は、大学運営の側面から鑑みた教員組織の継続性や活性化等を考慮し、年齢的な偏重を来さないようにすることとしています。加えて、後任者の選考につきましては、若手教員の登用を含めて採用を検討することとし、教育の質を確保できるよう段階的な若返りを図ることとします。つまり、教員組織の継続性と教育研究の質を一定水準以上に確保するという双方の観点からみても問題のないような形で構想しています。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《86～87 ページ》</p> <p><b>5-2-4 教員組織編成について</b></p> <p>本学における教員組織編成については、完成年度において本学定年年齢である 65 歳を超える教員が <u>22 名</u>(看護学科 <u>9 名</u>、理学療法学科 <u>7 名</u>、作業療法学科 <u>6 名</u>)と比較的高齢の教員もおります。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するためです。65 歳を超える教員のうち、看護学科 <u>7 名</u>、理学療法学科 <u>6 名</u>(うち 4 名が医師)、作業療法学科 <u>4 名</u>の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものである。</p> <p>完成年度以降も踏まえて、比較的高齢の教員の後任者の採用方針は、大学運営の側面から鑑みた教員組織の継続性や活性化等を考慮し、年齢的な偏重を来さないようにすることとしています。加えて、後任者の選考につきましては、若手教員の登用を含めて採用を検討することとし、教育の質を確保できるよう段階的な若返りを図ることとします。つまり、教員組織の継続性と教育研究の質を一定水準以上に確保すると</p> | <p>《67 ページ》</p> <p><b>5-2-4 教員組織編成について</b></p> <p>本学における教員組織編成については、本学定年年齢である 65 歳以上の教員が 17 名(看護学科 6 名、理学療法学科 6 名、作業療法学科 4 名)と比較的高齢の教員もいる。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するため、65 歳以上の教員のうち、看護学科 5 名、理学療法学科 5 名(うち 4 名が医師)、作業療法学科 2 名の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものである。</p> <p>【資料 24】 定年に関する規定に基づく特例教員一覧</p> |

いう双方の観点からみても問題のないような形で構想しています。

【資料 24】 定年に関する規定に基づく特例  
教員一覧

## (改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

20. 「習得」や「学習」等、シラバスに誤字が散見される他、「設置認可等に関わる組織の移行表」では、他に設置する専門学校の名称の多くが同じものになっている等、書類上に誤記と思われる内容が散見されるため、網羅的に確認をした上で、適切に修正すること。(改善事項)

## (対応)

本審査意見を踏まえ、改めて書類上の誤記を確認し、網羅的に改めました。特に「設置認可等に関わる組織の移行表」については以下のとおり修正しました。

## (新旧対照表) 学校法人巨樹の会 設置認可等に関わる組織の移行表

| 新                      |          |   |          | 旧               |          |   |          |
|------------------------|----------|---|----------|-----------------|----------|---|----------|
| 令和３年度                  |          |   |          | 令和３年度           |          |   |          |
| <u>福岡和白リハビリテーション学院</u> |          |   |          | 和白リハビリテーション専門学校 |          |   |          |
| 理学療法学科                 | 80       | - | 240      | 理学療法学科          | 80       | - | 240      |
| 作業療法学科                 | 40       | - | 120      | 作業療法学科          | 40       | - | 120      |
| 理学療法学科（夜間）             | 40       | - | 160      | 理学療法学科（夜間）      | 40       | - | 160      |
| 計                      | 160      | - | 520      | 計               | 160      | - | 520      |
| 令和４年度                  |          |   |          | 令和４年度           |          |   |          |
| <u>福岡和白リハビリテーション学院</u> |          |   |          | 和白リハビリテーション専門学校 |          |   |          |
|                        | <u>0</u> | - | <u>0</u> |                 | <u>0</u> | - | <u>0</u> |
|                        | <u>0</u> | - | <u>0</u> |                 | <u>0</u> | - | <u>0</u> |
|                        | <u>0</u> | - | <u>0</u> |                 | <u>0</u> | - | <u>0</u> |
| 計                      | <u>0</u> | - | <u>0</u> | 計               | <u>0</u> | - | <u>0</u> |
| <u>福岡水巻看護助産学校</u>      |          |   |          | 和白リハビリテーション専門学校 |          |   |          |
| 看護学科                   | 80       | - | 240      | 看護学科            | 80       | - | 240      |
| 助産学科                   | 25       | - | 25       | 助産学科            | 25       | - | 25       |
| 計                      | 105      | - | 265      | 計               | 105      | - | 265      |
| <u>下関看護リハビリテーション学校</u> |          |   |          | 和白リハビリテーション専門学校 |          |   |          |
| 理学療法学科                 | 80       | - | 240      | 理学療法学科          | 80       | - | 240      |
| 看護学科                   | 40       | - | 120      | 看護学科            | 40       | - | 120      |
| 計                      | 120      | - | 360      | 計               | 120      | - | 360      |
| <u>小倉リハビリテーション学院</u>   |          |   |          | 和白リハビリテーション専門学校 |          |   |          |
| 理学療法学科                 | 80       | - | 240      | 理学療法学科          | 80       | - | 240      |
| 作業療法学科                 | 40       | - | 120      | 作業療法学科          | 40       | - | 120      |
| 理学療法学科（夜間）             | 40       | - | 160      | 理学療法学科（夜間）      | 40       | - | 160      |
| 計                      | 160      | - | 520      | 計               | 160      | - | 520      |

リハビリテーション学部 理学療法学科

| 新                      |     |   |     | 旧               |     |   |     |
|------------------------|-----|---|-----|-----------------|-----|---|-----|
| <u>八千代リハビリテーション学院</u>  |     |   |     | 和白リハビリテーション専門学校 |     |   |     |
| 理学療法学科                 | 80  | - | 240 | 理学療法学科          | 80  | - | 240 |
| 作業療法学科                 | 40  | - | 120 | 作業療法学科          | 40  | - | 120 |
| 理学療法学科（夜間）             | 40  | - | 160 | 理学療法学科（夜間）      | 40  | - | 160 |
| 計                      | 160 | - | 520 | 計               | 160 | - | 520 |
| <u>武雄看護リハビリテーション学校</u> |     |   |     | 和白リハビリテーション専門学校 |     |   |     |
| 理学療法学科                 | 40  | - | 120 | 理学療法学科          | 40  | - | 120 |
| 看護学科                   | 40  | - | 120 | 看護学科            | 40  | - | 120 |
| 計                      | 80  | - | 240 | 計               | 80  | - | 240 |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

21. 学生確保の見通しにおける分析について、例えば県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率等は必ずしも理学療法・作業療法等の学科に細分化したものとなっておらず不十分であるため、細分化して分析すること。(是正事項)

(対応)

福岡県内の看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁する大学（以下、「競合大学」という。）における学科単位の入学状況に関するデータを「別紙資料4 競合大学の入学状況」にまとめます。それを踏まえて、学科ごとに学生確保の見通しについて改めて説明します。

【別紙資料4】 競合大学の入学状況

(1) 競合大学の学科単位の入学定員に対する入学者数

① 看護学科

福岡県内で看護学科を擁する大学は14校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、いずれの大学でも90%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も全ての大学において97%を超えています。また、14校における看護学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.5倍を超えており、平均で4.7倍となっています。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考えます。

② 理学療法学科

福岡県内で理学療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、1校を除く他の3校で100%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も1校を除く他の3校において100%を超えています。また、4校における理学療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.0倍を超えており、平均で4.1倍となっています。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考えます。

③ 作業療法学科

福岡県内で作業療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、うち2校が100%未満となった年度を認めます。特に、2020（令和2）年度における入学定員充足率は、1校が80%未満、もう1校では40%未満となっています。また、4校における作業療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも1.0倍を超えており、平均で2.6倍となっています。

(2) 競合大学との地域性及び教育の特色からみた学生確保の見通し

競合大学との地域性からみた学生確保の見通しについて説明します。歴史的・経済圏から福岡

県は「北九州地域」、「筑豊地域」、「福岡地域」、「筑後地域」の4地域に分けられます。福岡県人口移動調査によりますと、2021（令和2）年9月1日現在の人口は北九州地域で約125万人、筑豊地域で約40万人、福岡地域で約268万人、筑後地域で約79万人です。本学の位置する「福岡地域」は人口が最も多く、かつ増加している有利な位置にあるといえます。

#### ① 看護学科

福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっています。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加しています。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持しています。看護学部を擁する競合大学14校の入学定員充足率の平均値は、2018（平成30）年度は108.3%、2019（平成31）年は111.1%、2020（令和2）年度は102.7%と福岡県全体としてマーケット環境は良好であるといえます。

地域性から見た競合大学としては、本学が位置する福岡地区にある8校を想定しています。さらに、本学が独自に行ったアンケートの結果から、当該8校のうち3校は特に競合性が高いと捉えており、差別化を図る必要があると考えます。特に競合性が高い3校と比較した場合、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみです。また、本学は隣接するグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は有利と考え、加えて1年次から4年次にわたって段階的な専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）も本学のみの教育特色といえます。こうした差別化要素について、入学を志願する対象者に分かりやすく伝え、本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる看護師になりたい学生を広く募集していくこととします。

#### ② 理学療法学科・作業療法学科

福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっています。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加しています。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇しています。また、作業療法学科についても志願者数は2018（平成30）年度の330名から2020（令和2）年度には469名まで増加し、志願倍率も2.8倍から2.9倍へと上昇しています。

一方、4校の競合大学の入学定員充足率や志願倍率をみると各大学の差異が認められます。特に作業療法学科では入学定員充足率が最も低い40%から、最も高い110%まで幅があります。この要因としては、大学の立地、教育上の特色（学べる内容）等が考えられ、高校生を中心とした入学志願者の志向性によって大学を選択しているためと考えます。

##### i. 立地による影響

大学の立地が志願者数・入学者数に与える影響は大きいと考察しています。本学が位置する福岡地域は、最も人口が多く、九州地方の中心地といえる福岡地域は九州地方及び福岡県全域から人口が流入しやすく、学生確保においても有利といえます。2校の競合大学、とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も低い競合大学が位置する筑後地区は人口が約79万人とやや乏しく、マーケット環境は厳しいといえるため、入学定員充足率が低調である要

因と考察できます。

ii. 教育上の特色（学べる内容）

教育研究上の特色（学べる内容）も志願者数・入学者数に影響を与えていると考察しています。とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も高い競合大学では、同一のグループ病院・施設と連携して実践的な教育を提供できる点に学生は魅力を感じていると分析しています。これは、本学の教育の特色とも合致するため、本学でも学生確保の見通しが立つと分析しています。

以上の2つの要素を踏まえ、本学の学生確保の見通しについて改めて考察します。本学は人口が最も多い福岡地域にある点から、立地はプラスの影響が高いと考えられ、同じ福岡地区に位置する競合大学として1校あります。当該競合大学の入学定員充足率は好調であり、理学療法学科・作業療法学科共に直近2年間のデータでは110%を超えている点からも、福岡地区のマーケット環境は良好であるといえます。なお、本学が独自に行ったアンケート結果でも、本学の理学療法学科・作業療法学科に「ぜひ受験したい」、「受験したい」、「受験先の候補として検討する」と回答した2,803名のうち626名（22.3%）が当該競合大学への進学も検討しており、3校の他の競合大学への進学を検討している者が340名程度（約12%）であることを比較しても当該競合大学は最も競合性が高いといえます。

次に、教育上の特色について本学の優位性を考察します。理学療法学科・作業療法学科を有する4大学のうち、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみです。さらに、本学の理学療法学科・作業療法学科は近隣にあるグループ病院で臨床実習のほとんどを実施することから分かるように、隣接したグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は、募集が好調な競合大学と類似しており、入学志願者の志向性と合致していると考えます。また、1年次から4年次にわたって段階的に専門職連携教育

（Interprofessional Education：IPE）を実践的に実施している競合大学はなく、かつ、取得単位数も本学が最も多く、こうした差別化要素を学生に分かりやすく伝えることで、学生確保の見通しは立つと考えています。設置認可後は本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる理学療法士・作業療法士になりたい学生を広く募集していくこととします。

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《3～4 ページ》</p> <p><b>（1）定員充足の見込み</b></p> <p>本学では下記7点の根拠により、</p> <p><b>【中略】</b></p> <p>⑤福岡県内の看護学科および理学療法・作業療法学科が入学定員を上回る出願者数を確保できている点にある。福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっている。また、</p> | <p>《2 ページ》</p> <p><b>（1）定員充足の見込み</b></p> <p>本学では下記7点の根拠により、</p> <p><b>【中略】</b></p> <p>⑤福岡県内の看護学系および理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部が十分に定員を確保できている点にある。近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）における福岡県内の看護学系統の学科を擁する学部の志願倍率が</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加している。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持している。福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっている。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加している。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇していることから本学は定員を確保する見通しがあると判断した。</p> <p>《7～10 ページ》</p> <p>⑤福岡県内における看護学科、理学療法学科、作業療法学科の学生確保の状況</p> <p>（i）競合大学の学科単位の入学定員に対する入学者数</p> <p>（a）看護学科</p> <p>福岡県内で看護学科を擁する大学は14校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、いずれの大学でも90%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も全ての大学において97%を超えている。また、14校における看護学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.5倍を超えており、平均で4.7倍となっている。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考える。</p> | <p>2倍を下回ったことはなく、直近の志願倍率の平均は6.6倍であり、収容定員充足率の平均は106%である。また、近3年における福岡県内の理学療法・作業療法学系統を擁する学部の志願倍率も2倍を下回ったことはなく、直近の志願倍率の平均は2.9倍であり、収容定員充足率の平均は103%である。このことから本学は定員を確保する見通しがあると判断した。</p> <p>《5 ページ》</p> <p>⑤福岡県内の看護・理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部の学生確保の状況</p> <p>福岡県内の看護学系統の学科を擁する学部の志願倍率は近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）において2.5倍～26.4倍であり、2倍を下回る志願倍率の学部はなく、2019（令和元）年の志願倍率の平均は6.6倍と非常に高い志願倍率である。また、近3年の収容定員充足率も94%～120%であり、2019（令和元）年の収容定員充足率の平均は106%とほとんどの学部において収容定員充足率が100%を超えている。</p> <p>また、福岡県内の理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部の志願倍率は近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）において2.1倍～3.7倍であり、2倍を下回る志願倍率の学部はなく、2019（令和元）年の志願倍率の平均は2.9倍である。また、近3年の収容定員充足率も97%～113%であり、2019（令和元）年</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>(b)理学療法学科</u></p> <p><u>福岡県内で理学療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、1校を除く他の3校で100%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も1校を除く他の3校において100%を超えている。また、4校における理学療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.0倍を超えており、平均で4.1倍となっている。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考える。</u></p> <p><u>(c)作業療法学科</u></p> <p><u>福岡県内で作業療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、うち2校が100%未満となった年度を認める。特に、2020（令和2）年度における入学定員充足率は、1校が80%未満、もう1校では40%未満となっている。また、4校における作業療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも1.0倍を超えており、平均で2.6倍となっている。</u></p> <p><u>（ii）競合大学との地域性及び教育の特色からみた学生確保の見通し</u></p> <p><u>競合大学との地域性からみた学生確保の見通しについて説明する。歴史的・経済圏から福岡県は「北九州地域」、「筑豊地域」、「福岡地域」、「筑後地域」の4地域に分けられる。福岡県人</u></p> | <p>の収容定員充足率の平均は103%とほとんどの学部において収容定員充足率が100%を超えている。</p> <p>福岡県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率・収容定員充足率の推移を踏まえると福岡県内で本学が設置を構想している看護学部・リハビリテーション学部においても十分に定員を確保することができると判断した。</p> <p>（資料4 福岡県内大学同系統学科の入学定員に対する志願者数）</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>口移動調査によると、2021（令和2）年9月1日現在の人口は北九州地域で約125万人、筑豊地域で約40万人、福岡地域で約268万人、筑後地域で約79万人である。本学の位置する「福岡地域」は人口が最も多く、かつ増加している有利な位置にあるといえる。</p> <p><u>(a)看護学科</u></p> <p>福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっている。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加している。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持している。看護学部を擁する競合大学14校の入学定員充足率の平均値は、2018（平成30）年度は108.3%、2019（平成31）年は111.1%、2020（令和2）年度は102.7%と福岡県全体としてマーケット環境は良好であるといえる。</p> <p>地域性から見た競合大学としては、本学が位置する福岡地区にある8校を想定している。</p> <p>さらに、本学が独自に行ったアンケートの結果から、当該8校のうち3校は特に競合性が高いと捉えており、差別化を図る必要があると考えている。特に競合性が高い3校と比較した場合、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみである。また、本学は隣接するグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は有利と考え、加えて1年次から4年次にわたって段階的な専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）も本学のみの教育特色といえる。こうした差別化要素について、入学を志願する対象者に分かりやすく伝え、本学の教育研究上の理念や特色</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる看護師になりたい学生を広く募集していくこととする。</p> <p><u>(b)理学療法学科・作業療法学科</u></p> <p>福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域 1 校、福岡地域 1 校、筑豊地域 0 校、筑後地域 2 校となっている。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては 2018（平成 30）年度の 764 名から 2020（令和 2）年度には 1,055 名まで増加している。理学療法学科について、志願者数は 2018（平成 30）年度の 764 名から 2020（令和 2）年度には 1,055 名まで増加し、志願倍率も 3.2 倍から 4.6 倍へと上昇している。また、作業療法学科についても志願者数は 2018（平成 30）年度の 330 名から 2020（令和 2）年度には 469 名まで増加し、志願倍率も 2.8 倍から 2.9 倍へと上昇している。</p> <p>一方、4 校の競合大学の入学定員充足率や志願倍率をみると各大学の差異が認められる。特に作業療法学科では入学定員充足率が最も低い 40%から、最も高い 110%まで幅がある。この要因としては、大学の立地、教育上の特色（学べる内容）等が考えられ、高校生を中心とした入学志願者の志向性によって大学を選択しているためと考える。</p> <p><u>i) 立地による影響</u></p> <p>大学の立地が志願者数・入学者数に与える影響は大きいと考察している。本学が位置する福岡地域は、最も人口が多く、九州地方の中心地といえる福岡地域は九州地方及び福岡県全域から人口が流入しやすく、学生確保においても有利といえる。2 校の競合大学、とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も低い競合大学が位置する筑後地区は人口が約 79 万人とやや乏しく、マーケット環境は厳し</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>いといえるため、入学定員充足率が低調である要因と考察できる。</p> <p>ii) 教育上の特色（学べる内容）</p> <p>教育研究上の特色（学べる内容）も志願者数・入学者数に影響を与えていると考察している。とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も高い競合大学では、同一のグループ病院・施設と連携して実践的な教育を提供できる点に学生は魅力を感じていると分析している。これは、本学の教育の特色とも合致するため、本学でも学生確保の見通しが立つと分析している。</p> <p>以上の2つの要素を踏まえ、本学の学生確保の見通しについて改めて考察する。本学は人口が最も多い福岡地域にある点から、立地はプラスの影響が高いと考えられ、同じ福岡地区に位置する競合大学としては1校である。当該競合大学の入学定員充足率は好調であり、理学療法学科・作業療法学科共に直近2年間のデータでは110%を超えている点からも、福岡地区のマーケット環境は良好であるといえる。なお、本学が独自に行ったアンケート結果でも、本学の理学療法学科・作業療法学科に「ぜひ受験したい」、「受験したい」、「受験先の候補として検討する」と回答した2,803名のうち626名（22.3%）が当該競合大学への進学も検討しており、3校の他の競合大学への進学を検討している者が340名程度（約12%）であることを比較しても当該競合大学は最も競争性が高いといえる。</p> <p>次に、教育上の特色について本学の優位性を考察する。理学療法学科・作業療法学科を有する4大学のうち、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみである。さらに、本学の理学療法学科・作業療法学科は近隣にあるグループ病院で臨床実習のほとんどを実施することから分かるように、隣接したグループ病院との強い連携の</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる</u><br/> <u>点は、募集が好調な競合大学と類似してお</u><br/> <u>り、入学志願者の志向性と合致している</u><br/> <u>と考える。また、1年次から4年次にわたって段</u><br/> <u>階的に専門職連携教育（Interprofessional</u><br/> <u>Education：IPE）を実践的に実施している競</u><br/> <u>合大学はなく、かつ、取得単位数も本学が最</u><br/> <u>も多く、こうした差別化要素を学生に分かり</u><br/> <u>やすく伝えることで、学生確保の見通しは立</u><br/> <u>つと考えている。設置認可後は本学の教育研</u><br/> <u>究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康</u><br/> <u>長寿社会の実現に貢献できる理学療法士・作</u><br/> <u>業療法士になりたい学生を広く募集していく</u><br/> <u>こととする。</u></p> <p><u>（資料4 福岡県内大学同系統学科の入学定員</u><br/> <u>に対する志願者数）</u></p> <p><u>（資料15 福岡県内大学同系統学科の入学定員</u><br/> <u>充足率）</u></p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

22. 既設専門学校の学生確保の状況については、単年度のみの数値に基づく分析となっているため、過去5年程度の推移を示した上で説明すること。(是正事項)

(対応)

既設の専門学校における学生確保の状況についてのデータを「別紙資料5 既設の専門学校における学生確保の状況」にまとめます。それを踏まえて、本学の学生確保の見通しを改めて説明します。

【別紙資料5】 既設の専門学校における学生確保の状況

(1) 既設の専門学校における近年の入試状況

①福岡看護専門学校

本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、第1科・第2科共に100%を超えています。また、第1科における当該5年間の平均志願倍率は3.92倍であり、学生が十分に確保されていると考えます。

②福岡和白リハビリテーション学院

本学リハビリテーション学部理学療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科（昼間コース）における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、78～117%を推移し、平均入学定員充足率は94.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.03倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考えます。

また、本学リハビリテーション学部作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院作業療法学科（昼間コース）における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、75～122%を推移しており、平均は103.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.13倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考えます。

(2) 既設の専門学校の入学状況を加味した学生確保の見通し

①看護学部看護学科

本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学者は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間で、第1科と第2科を合わせた入学定員100名に対して、いずれの年度も100%を超えています。専門学校と大学との入学者層の差異を加味しても、競合大学のデータを鑑みれば、本学看護学部看護学科の入学定員は80名であることから学生確保の見通しは立つと考えています。

②リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科

本学リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、理学療法学科（昼間コース）の入学定員80名、作業療法学科の入学定員40名に対して入学定員が充足

していない年度を認めます。しかし、下記の5点を根拠として、令和健康科学大学（仮称）における学生確保の見通しは立つと考えています。

#### i) 専門学校と比較して大学においては志願者の歩留りが違う点

専門学校は合格者の大半が入学する（歩留まりが良い）ことに対して、大学では入学を辞退する合格者が一定数存在します。この点につきましては、福岡県内の大学における看護学科の平均歩留り率が60.3%、理学療法学科の平均歩留り率が62.0%、作業療法学科の平均歩留り率が66.4%となっています。このデータから、入学者選抜によって入学定員の1.3～1.6倍の合格者を確保するために必要な志願者を確保することが必要であると考えられます。

#### ii) 専門学校と比較して大学においては入学定員充足に対する考え方が違う点

専門学校は管轄する福岡県より入学定員を超えないように指導がなされています。また、福岡県より入学定員を満たすための指導が強くされていないという実態があります。しかし、大学においては永続経営を目的とするため、管轄する文部科学省から定員充足が求められています。このような入学定員充足率に対する考え方の違いからも、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院において一部の年度で定員未充足であるという結果に繋がったと考えています。

#### iii) 母体となる専門学校と比較して令和健康科学大学（仮称）では入学者選抜の開催実態が違う点

ii) で述べた入学定員充足に対する考え方の違いは、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院の入試実態に表れている。すなわち、福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科では、出願者数が入学定員に達し次第、入学者選抜を打ち切っているため、出願者数が最大の年度であっても入学定員と同程度になり、出願者数が少ない年度を加味して平均を算出すれば100%を下回ることになります。別紙に示す福岡和白リハビリテーション学院における近年の入試日別出願者数をみると、早期に募集を締め切っている年度もあることから、大学同様に全ての入学者選抜を実施した場合は、出願者の増加を示唆するものと考察しています。

#### iv) 専門学校と比較して、大学においては志願者をより確保しやすい環境である点

福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科における志願倍率は1.0倍前後を推移しているのに対し、競合大学の理学療法学科・作業療法学科の志願倍率は4.0倍以上で推移していることから推察すれば、専門学校と比較して志願者数という観点において良化が見込めると考えます。

#### v) 専門学校から大学となる上で志願者層が変化する点

iv) で述べた志願倍率の推移にも影響していますが、専門学校と大学では以下のような志願者層の違いがあると分析しました。

|      |                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | ・実践教育を主体とし、3年で卒業できることから、就職への意識が強い層が志望する。                                                                           |
| 大学   | ・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。<br>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。<br>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。 |

このような志願者層の違いを踏まえつつ、本学が独自に行ったアンケート結果では、全体の56.1%が福岡県に理学療法学・作業療法学を学べる大学が「とても増えて欲しい」、「増えて欲しい」、「やや増えて欲しい」と回答している。こうした大学志向の高まりは社会構造の変化に伴って発生していると考え

られます。また、医療の多様化・複雑化を受けて、理学療法士・作業療法士に求められる能力が拡大しています。総じて、専門学校よりも大学に対する進学需要が高いことを加味し、学生確保の見通しが立つと分析しました。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《10～12 ページ》</p> <p>⑥既設専門学校の学生確保の状況</p> <p>(i) 既設の専門学校における近年の入試状況</p> <p>(a)福岡看護専門学校</p> <p>本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、第1科・第2科共に100%を超えている。また、第1科における当該5年間の平均志願倍率は3.92倍であり、学生が十分に確保されていると考える。</p> <p>(b)福岡和白リハビリテーション学院</p> <p>本学リハビリテーション学部理学療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科(昼間コース)における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、78～117%を推移し、平均入学定員充足率は94.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.03倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考える。</p> <p>また、本学リハビリテーション学部作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院作業療法学科(昼間コース)における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、75～122%を推移しており、平均は103.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.13倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあるこ</p> | <p>(5～6 ページ)</p> <p>⑥既設専門学校の学生確保の状況</p> <p>令和健康科学大学の母体である福岡看護専門学校の2019(令和元)年度の学生確保の状況は看護学科第1科～第2科まで入学定員を超える出願者数を確保しており、設置しようとする看護学科の母体となる3年課程全日制である看護学科第1科においては入学定員50名に対して出願者数215名と出願倍率は4倍を超えている。</p> <p>福岡和白リハビリテーション学院においても2019(令和元)年度の学生確保の状況について、理学療法学科は入学定員80名に対して出願者数96名、作業療法学科は入学定員40名に対して出願者数49名と入学定員を超える出願者数を確保している。また、今年度についても理学療法学科112名、作業療法学科43名と両学科ともに入学定員を超える出願者数を確保する見通しである。</p> <p>これらの既設の専門学校の学生確保の状況を踏まえても、大学へ移行した際も十分に定員を確保することができると判断した。</p> <p>また、専門学校運営で培われた広報体制及び広報資源を継承し、令和健康科学大学としての学生募集について適切な体制を構築することに加え、大学進学率の上昇や高校生を対象にしたアンケートにおいて看護学・理学療法学・作業療法学が学べる大学が増えて欲しいという回答が多く占めていたことから福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院の過去の学生確保の状況を上回る志願者数を確保することが可能であり、十分に定員を確保することが可能であると考えている。</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <p><u>とを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考える。</u></p> <p><u>(ii)既設の専門学校の入学状況を加味した学生確保の見通し</u></p> <p><u>(a)看護学部看護学科</u><br/> <u>本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学者は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間で、第1科と第2科を合わせた入学定員100名に対して、いずれの年度も100%を超えている。専門学校と大学との入学者層の差異を加味しても、競合大学のデータを鑑みれば、本学看護学部看護学科の入学定員は80名であることから学生確保の見通しは立つと考えている。</u></p> <p><u>(b)リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科</u><br/> <u>本学リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間において、理学療法学科（昼間コース）の入学定員80名、作業療法学科の入学定員40名に対して入学定員が充足していない年度を認める。しかし、下記の4点を根拠として、令和健康科学大学（仮称）における学生確保の見通しは立つと考えている。</u></p> <p><u>i）専門学校と比較して大学においては志願者の歩留りが違う点</u><br/> <u>専門学校は合格者の大半が入学する（歩留まりが良い）ことに対して、大学では入学を辞退する合格者が一定数存在する。この点については、福岡県内の大学における看護学科の平均歩留り率が60.3%、理学療法学科の平均歩留り率が62.0%、作業療法学科の平均歩</u></p> | <p>(資料5 既設専門学校の学生確保の状況)</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>留り率が66.4%となっている。このデータから、入学者選抜によって入学定員の1.3～1.6倍の合格者を確保するために必要な志願者を確保することが必要であると考えられる。</u></p> <p><u>ii) 専門学校と比較して大学においては入学定員充足に対する考え方が違う点</u><br/> <u>専門学校は管轄する福岡県より入学定員を超えないように指導がなされている。また、福岡県より入学定員を満たすための指導が強くされていないという実態がある。しかし、大学においては永続経営を目的とするため、管轄する文部科学省から定員充足が求められている。このような入学定員充足率に対する考え方の違いからも、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院において一部の年度で定員未充足であるという結果に繋がったと考えている。</u></p> <p><u>iii) 母体となる専門学校と比較して令和健康科学大学（仮称）では入学者選抜の開催実態が違う点</u><br/> <u>ii) で述べた入学定員充足に対する考え方の違いは、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院の入試実態に表れている。すなわち、福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科では、出願者数が入学定員に達し次第、入学者選抜を打ち切っているため、出願者数が最大の年度であっても入学定員と同程度になり、出願者数が少ない年度を加味して平均を算出すれば100%を下回ることになる。別紙に示す福岡和白リハビリテーション学院における近年の入試日別出願者数をみると、早期に募集を締め切っている年度もあることから、大学同様に全ての入学者選抜を実施した場合は、出願者の増加を示唆するものと考察している。</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>iv) 専門学校と比較して、大学においては志願者をより確保しやすい環境である点</p> <p>福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科における志願倍率は 1.0 倍前後を推移しているのに対し、競合大学の理学療法学科・作業療法学科の志願倍率は 4.0 倍以上で推移していることから推察すれば、専門学校と比較して志願者数という観点において良化が見込めると考える。</p> <p>v) 専門学校から大学となる上で志願者層が変化する点</p> <p>iv) で述べた志願倍率の推移にも影響していますが、専門学校と大学では以下のような志願者層の違いがあると分析した。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="193 985 304 1122">専門学校</td><td data-bbox="304 985 799 1122"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td data-bbox="193 1122 304 1503">大学</td><td data-bbox="304 1122 799 1503"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> </td></tr> </table> <p>このような志願者層の違いを踏まえつつ、本学が独自に行ったアンケート結果では、全体の 56.1% が福岡県に理学療法学・作業療法学を学べる大学が「とても増えて欲しい」、「増えて欲しい」、「やや増えて欲しい」と回答している。こうした大学志向の高まりは社会構造の変化に伴って発生していると考えられる。また、医療の多様化・複雑化を受けて、理学療法士・作業療法士に求められる能力が拡大している。総じて、専門学校よりも</p> | 専門学校                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul> | 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> |  |
| 専門学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul>                                                                                      |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |
| 大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |

| 新                                                                                                                                                     | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>大学に対する進学需要が高いことを加味し、<br/>学生確保の見通しが立つと分析した。</u></p> <p>(資料 5 既設専門学校の学生確保の状況)<br/>(資料 16 福岡県内大学同系統学科の歩留まり率)<br/>(資料 17 既設専門学校における近年の入試日別出願者数)</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

23. 学生確保の見通しにおいて、中長期的なニーズの説明として、高等学校2年生に対し、今後短期大学や専門学校に比べて看護系やリハビリテーション系の大学を志望する生徒が増えるか等を質問し、その結果をもって説明しているが、高等学校の生徒に中長期的な志望者の推移について問うことが適切とは考えにくいと、適切かつ客観的に改めて説明すること。なお、その際には、看護系やリハビリテーション系の大学全体ではなく、本学科の学生の確保が中長期的に見込まれる旨を説明すること。(是正事項)

(対応)

下記の3点を根拠として本学科の学生の確保が中長期的に見込まれると考えています。

(1) 18歳人口の推移

本学の位置する福岡市における18歳人口は、2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて328人増加し、2.3%の増加率と推計されている。さらに、同年比較で東区も同様に161人増加し、5.6%の増加率と推計されている。一方、全国における18歳人口は、2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて12.6万人減少し、10.7%の減少率と推計されています。なお、福岡県における18歳人口は2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて2,337人減少するも、4.8%の減少率と推計されていることから、本学の位置する福岡市は18歳人口が中長期的に維持されることが見込まれており、マクロ的視点から分析した学生確保の状況の悪化要因とは考えにくいと考察しています。

(2) 競合大学における看護学科・理学療法学科・作業療法学科への志願者数推移

福岡県の競合大学における看護学科の志願者数は、2018(平成30)年度が6,229名から2020(令和2)年度は6,392名へと増加しています。同年比較で、理学療法学科の志願者数は、764名から1,055名へと増加し、作業療法学科の志願者数は330名から469名まで増加しています。すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科ともに、福岡県内のマーケット環境は良化していると考えています。

(3) 本学の特色と高校生のニーズの合致

以下の4点を根拠として、本学の特色と高校生の進路選択の際に重要視するニーズとの合致から本学への進学需要は十分にあると考えます。

なお、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学センサス2019 高校生の進路選択に関する調査」において、進学先検討時の重視項目の上位5項目は、「学びたい学部・学科・コースがあること(80.4%)」、「校風や雰囲気が良いこと(47.9%)」、「自分の興味や可能性が広げられること(46.6%)」、「就職に有利であること(45.0%)」、「自宅から通えること(38.6%)」となっています。これらの5項目が本学の特色に合致することで高校生のニーズと合致していることを比較参照して説明します。

①新校舎による充実した学習環境

上述した株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査において、校風や雰囲気について「キャンパス」から感じているという回答が最も多い結果となっています。これを踏まえ、本学は大学設置に伴い新たな校舎を建設し、新型の教育器材等も購入しているため、最新の学修設備や教材が整っています。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「学びたい学部・学科・コースがあること」及び「校風や雰囲気が良いこと」に合致していると考えています。

②設置予定の学科構成

本学が設置しようとする看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科全てを擁する競合大学は福岡県内で1校のみです。加えて、本学では3学科合同で、かつ1年次から4年次にわたって段階的に学修するIPEを特色としています。多くの専門職との協働が必要とされる多様化かつ高度化した医療に貢献するために、そして関連する多くの専門職に対する理解を深めていくことが自身の将来像の形成にも寄与することをねらいとしてIPEを導入しています。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自分の興味や可能性が広げられること」に合致すると考えています。

③既設の専門学校の就職実績

本学の母体である福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院における直近3年の就職率は100%となっています。また、近年の当該専門学校に寄せられる求人数の推移から、看護学科では6倍以上、理学療法学科では25倍以上、作業療法学科では75倍以上の定員に対する求人が令和健康科学大学の母体となる専門学校に寄せられており、就職実績は優れていると捉えています。また、本学の設置主体は全国27のグループ病院を運営する医療法人であることは、本学の卒業生が就職面において有利な条件であり、このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「就職に有利であること」に合致すると考えています。

④本学の立地

本学が位置する福岡市は福岡県における中心都市といえます。福岡市の2019（令和元）年における18歳人口は13,979人であり、これは福岡県全体の18歳人口の28.5%を占めています。また、博多駅から本学の最寄駅である福工大前駅まではJR鹿児島本線で15分程度と福岡の主要ターミナルである博多駅からのアクセスも良好といえます。このような18歳人口が多く、かつ通学しやすい地域にあることは、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自宅から通えること」に合致すると考えています。

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <p>《16～17 ページ》</p> <p><u>⑧中長期的な学生確保</u></p> <p><u>下記の3点を根拠として本学科の学生の確保が中長期的に見込まれると考えている。</u></p> <p><u>（i）18歳人口の推移</u></p> <p><u>本学の位置する福岡市における18歳人口は、2019（令和元）年から2029（令和11）年にかけて328人増加し、2.3%の増加率と推計されている。さらに、同年比較で東区も同様に161人増加し、5.6%の増加率と推計されている。一方、全国における18歳人口は、2019（令和元）年から2029（令和11）年にかけて12.6万人減少し、10.7%の減少率と推</u></p> | <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>計されている。なお、福岡県における 18 歳人口は 2019（令和元）年から 2029（令和 11）年にかけて 2,337 人減少するも、4.8%の減少率と推計されていることから、本学の位置する福岡市は 18 歳人口が中長期的に維持されることが見込まれており、マクロ的視点から分析した学生確保の状況の悪化要因とは考えにくいと考察している。</p> <p>（ii）競合大学における看護学科・理学療法学科・作業療法学科への志願者数推移</p> <p>福岡県の競合大学における看護学科の志願者数は、2018（平成 30）年度が 6,229 名から 2020（令和 2）年度は 6,392 名へと増加している。同年比較で、理学療法学科の志願者数は、764 名から 1,055 名へと増加し、作業療法学科の志願者数は 330 名から 469 名まで増加している。すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科ともに、福岡県内のマーケット環境は良化していると考えている。</p> <p>（iii）本学の特色と高校生のニーズの合致</p> <p>以下の 4 点を根拠として、本学の特色と高校生の進路選択の際に重要視するニーズとの合致から本学への進学需要は十分にあると考えている。</p> <p>なお、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学センサス 2019 高校生の進路選択に関する調査」において、進学先検討時の重視項目の上位 5 項目は、「学びたい学部・学科・コースがあること（80.4%）」、「校風や雰囲気が良いこと（47.9%）」、「自分の興味や可能性が広げられること（46.6%）」、「就職に有利であること（45.0%）」、「自宅から通えること（38.6%）」となっている。これらの 5 項目が本学の特色に合致することで高校生のニーズと合致していることを比較参照して説明する。</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>(a)新校舎による充実した学習環境</u></p> <p><u>上述した株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査において、校風や雰囲気について「キャンパス」から感じているという回答が最も多い結果となっている。これを踏まえ、本学は大学設置に伴い新たな校舎を建設し、新型の教育器材等も購入しているため、最新の学修設備や教材が整っている。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「学びたい学部・学科・コースがあること」及び「校風や雰囲気が良いこと」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(b)設置予定の学科構成</u></p> <p><u>本学が設置しようとする看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科全てを擁する競合大学は福岡県内で1校のみである。加えて、本学では3学科合同で、かつ1年次から4年次にわたって段階的に学修するIPEを特色としている。多くの専門職との協働が必要とされる多様化かつ高度化した医療に貢献するために、そして関連する多くの専門職に対する理解を深めていくことが自身の将来像の形成にも寄与することをねらいとしてIPEを導入している。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自分の興味や可能性が広げられること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(c)既設の専門学校の就職実績</u></p> <p><u>本学の母体である福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院における直近3年の就職率は100%となっている。また、近年の当該専門学校に寄せられる求人数の推移から、看護学科では6倍以上、理学療法学科では25倍以上、作業療法学科では75倍以上の定員に対する求人が令和健康科学大学の母体となる専門学校に寄せられており、就職実績は優れていると捉えている。また、本学</u></p> |   |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>の設置主体は全国 27 のグループ病院を運営する医療法人であることは、本学の卒業生が就職面において有利な条件であり、このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「就職に有利であること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(d)本学の立地</u></p> <p><u>本学が位置する福岡市は福岡県における中心都市といえる。福岡市の 2019（令和元）年における 18 歳人口は 13,979 人であり、これは福岡県全体の 18 歳人口の 28.5%を占めている。また、博多駅から本学の最寄駅である福工大前駅までは JR 鹿児島本線で 15 分程度と福岡の主要ターミナルである博多駅からのアクセスも良好といえる。このような 18 歳人口が多く、かつ通学しやすい地域にあることは、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自宅から通えること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(資料 1 全国および福岡県、福岡市、東区の 18 歳人口統計)</u></p> <p><u>(資料 18 既設専門学校の就職実績)</u></p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

24. 本学科が養成する人材の社会的需要について、医療施設の採用担当者に移行調査を行い、294名採用可能との回答があったことを根拠に人材需要を説明しているが、意向調査では単年度の採用移行人数を確認しているのみと見受けられ、養成する人材の継続的な社会的需要が見込まれるかが必ずしも明らかでないため、客観的数値で改めて説明すること。(是正事項)

(対応)

施設へのアンケート調査の回答において、人材不足との回答が多く、採用予定年度を完成年度以降5年と明確にして採用予定人数を質問するアンケートを既設の専門学校における就職実績の高い施設に対して改めて実施しました。

なお、専門学校と大学とで就職先からの内定状況等に乖離を生じる懸念については、既設の専門学校での就職活動は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の全てにおいて、複数内定をいただくことはせず、就職試験も同時期に複数の受験をさせていないため、就職先との関係性が強く築かれていることから、大学へ移行した際にも急激な減少をすることは考えにくく、アンケート結果は本学を卒業した学生の社会的需要を妥当に反映しているものと考えています。

人材需要に関するアンケートに回答いただいた施設のうち、既設専門学校の看護学科、理学療法学科、作業療法学科における採用実績が特に多く、本学との関係性が極めて強いと考えられる24施設に対して、以下の追加質問を実施し、回答の分析により本学に対する中長期的な人材需要の見通しを説明します。

Q 令和健康科学大学（仮称）の卒業生に対して、2026（令和8）年度以降の5年で継続的な採用を予定されていますか？

1. 毎年採用する予定である。
2. 隔年程度で採用する予定である。
3. 採用する予定はない。

上記アンケートの結果、24施設の全てで「1. 毎年採用する予定である。」という回答が得られました。これを踏まえて、以下の追加質問も実施しました。

Q 前問で1または2を選択した方にお尋ねします。2026（令和8）年度以降の5年で、毎年何名の採用を予定されていますか？

|              | 看護師 | 理学療法士 | 作業療法士 |
|--------------|-----|-------|-------|
| 2026（令和8）年度  | 名   | 名     | 名     |
| 2027（令和9）年度  | 名   | 名     | 名     |
| 2028（令和10）年度 | 名   | 名     | 名     |
| 2029（令和11）年度 | 名   | 名     | 名     |
| 2030（令和12）年度 | 名   | 名     | 名     |

上記アンケートの結果、全ての施設で各職種における毎年の採用人数は同数で、看護師200名、理学

療法士 92 名、作業療法士 229 名の採用を予定しているとの回答が得られました。

加えて、アンケートの対象とした既設専門学校の採用実績が高い施設において、就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の卒業生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えております。

以上の根拠をもって、看護学科 80 名、理学療法学科 80 名、作業療法学科 60 名に対する継続的な社会的需要が見込まれると考えます。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《31～33 ページ》</p> <p>(v)中長期的ニーズ</p> <p>今後の看護師の人材需要について全体の 75.5% (40 施設) が「拡大する」と回答があった。また、理学療法士についても全体の 63.0% (34 施設) が「拡大する」と回答があり、作業療法士についても全体の 78.8% (41 施設) が「拡大する」と回答があった。</p> <p>この結果から、現在の人材需要が短期的でなく、今後も看護師・理学療法士・作業療法士の人材需要は拡大していく見通しがあるといえる。</p> <p><u>また、施設へのアンケート調査の回答において、人材不足との回答が多く、採用予定年度を完成年度以降 5 年と明確にして採用予定人数を質問するアンケートを既設の専門学校における就職実績の高い施設に対して改めて実施した。</u></p> <p><u>なお、専門学校と大学とで就職先からの内定状況等に乖離を生じる懸念については、既設の専門学校での就職活動は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の全てにおいて、複数内定をいただくことはせず、就職試験も同時期に複数の受験をさせていないため、就職先との関係性が強く築かれていることから、大学へ移行した際にも急激な減少をすることは考えにくく、アンケート結果は本学を卒業した学生の社会的需要を妥当に反映しているものと考えている。</u></p> | <p>《23 ページ》</p> <p>(v)中長期的ニーズ</p> <p>今後の看護師の人材需要について全体の 75.5% (40 施設) が「拡大する」と回答があった。また、理学療法士についても全体の 63.0% (34 施設) が「拡大する」と回答があり、作業療法士についても全体の 78.8% (41 施設) が「拡大する」と回答があった。</p> <p>この結果から、現在の人材需要が短期的でなく、今後も看護師・理学療法士・作業療法士の人材需要は拡大していく見通しがあるといえる。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 旧          |              |              |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|----------|----------|----------|---------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|--|
| <p><u>人材需要に関するアンケートに回答いただいた施設のうち、既設専門学校の看護学科、理学療法学科、作業療法学科における採用実績が特に多く、本学との関係性が極めて強いと考えられる 24 施設に対して、以下の追加質問を実施し、回答の分析により本学に対する中長期的な人材需要の見通しを説明する。</u></p> <p><u>Q 令和健康科学大学（仮称）の卒業生に対して、2026（令和 8）年度以降の 5 年で継続的な採用を予定されていますか？</u></p> <p><u>1. 毎年採用する予定である。</u></p> <p><u>2. 隔年程度で採用する予定である。</u></p> <p><u>3. 採用する予定はない。</u></p> <p><u>上記アンケートの結果、24 施設の全てで「1. 毎年採用する予定である。」という回答が得られた。これを踏まえて、以下の追加質問も実施した。</u></p> <p><u>Q 前問で 1 または 2 を選択した方にお尋ねします。2026（令和 8）年度以降の 5 年で、毎年何名の採用を予定されていますか？</u></p> <table><tr><th></th><th><u>看護師</u></th><th><u>理学療法士</u></th><th><u>作業療法士</u></th></tr><tr><td><u>2026（令和 8）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2027（令和 9）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2028（令和 10）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2029（令和 11）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2030（令和 12）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr></table> |            | <u>看護師</u>   | <u>理学療法士</u> | <u>作業療法士</u> | <u>2026（令和 8）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2027（令和 9）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2028（令和 10）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2029（令和 11）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2030（令和 12）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <u>看護師</u> | <u>理学療法士</u> | <u>作業療法士</u> |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2026（令和 8）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2027（令和 9）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2028（令和 10）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2029（令和 11）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2030（令和 12）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>上記アンケートの結果、全ての施設で各職種における毎年の採用人数は同数で、看護師200名、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を予定しているとの回答が得られた。</u></p> <p><u>加えて、アンケートの対象とした既設専門学校</u><br/><u>の採用実績が高い施設において、就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の卒業生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えている。</u></p> <p><u>以上の根拠をもって、看護学科80名、理学療法学科80名、作業療法学科60名に対する継続的な社会的需要が見込まれると考えている。</u></p> |   |

## (是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科

25. 社会的・地域的な人材需要の動向として、福岡県内の医療技術者の求人状況や福岡市健康先進都市戦略等が示されているが、具体的に県内においてどの程度の理学療法士が不足しているのかといったことに加え、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」にて示された需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」とされていること等が踏まえられておらず、中長期的に人材需要があるか不明確である。ついては、最新のデータを用いて地域的な需給関係等を再度検討した上で、人材需要の見通しについて改めて明確に説明すること。(是正事項)

## (対応)

厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」による需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」と全国的な傾向が示されましたが、本学を開設する予定地については、「福岡県高齢者保健福祉計画（第8次）（平成30年3月）」による今後の取り組みとしては、「医療の分野にとどまらず、保健・医療・介護・福祉が一体となったサービス提供体制の整備が進む中で、訪問看護等の関連サービスとの連携など、幅広い分野で需要の拡大が予想されるため、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の育成、確保及び資質の向上に努めます。」と示されています。また、既設専門学校で就職者数実績の高い施設を対象として採用予定者数を調査する目的で実施した追加アンケートの結果において、本学が最初の学生を輩出する2026（令和8）年度以降の5年間について、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を毎年予定しているとの回答が得られました。加えて、アンケートの対象施設において就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の学生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えております。

また、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」では、数的需給バランスと併せて理学療法士・作業療法士の質の向上についても言及がなされており、大学教育の必要性が挙げられています。ゆえに、大学卒の理学療法士・作業療法士が求められていることが分かります。本学は専門学校から移行するものであるため、当該観点に合致していると捉えております。

これらの根拠をもちまして、本学の輩出する学生に対する中長期的な視点で捉えた人材需要の見通しは立つという考えに至りました。

## (新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                            | 旧           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <p>《34 ページ》</p> <p>（6）理学療法士・作業療法士の中長期的な人材需要</p> <p>厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」による需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」と全国的な傾向が示された。一方で、</p> | <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>本学を開設する予定地について、「福岡県高齢者保健福祉計画（第8次）（平成30年3月）」による今後の取り組みとしては、「医療の分野にとどまらず、保健・医療・介護・福祉が一体となったサービス提供体制の整備が進む中で、訪問看護等の関連サービスとの連携など、幅広い分野で需要の拡大が予想されるため、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の育成、確保及び資質の向上に努めます。」と示されている。また、既設専門学校で就職者数実績の高い施設を対象として採用予定者数を調査する目的で実施した追加アンケートの結果において、本学が最初の学生を輩出する2026（令和8）年度以降の5年間について、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を毎年予定しているとの回答が得られた。加えて、アンケートの対象施設において募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることは本学が実施した「令和健康科学大学（仮称）の人材需要に関する調査」で確認できているため、就職を希望する本学の学生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと判断している。</p> <p>また、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」では、数的需給バランスと併せて理学療法士・作業療法士の質の向上についても言及がなされており、大学教育の必要性が挙げられてることから、大学を卒業したの理学療法士・作業療法士が求められていることが分かる。本学は専門学校から移行するものであるため、当該観点に合致していると捉えている。</p> <p>これらの根拠から、本学の輩出する学生に対する中長期的な視点で捉えた人材需要の見通しは立つという考えに至った。</p> |   |

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

### （目次） リハビリテーション学部 作業療法学科

1. 「専門学校教育から大学教育へ移行する理由」として、「①質の高い医療専門職の育成」、「②健康科学の学問的発展」、「③効果的な IPE」、「④一般教養科目群の拡充」の4つが掲げられているが、それらの意義が必ずしも明らかでなく、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程にどのように反映されているか明確ではないので、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 263
2. 養成する人材像として、「多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人」をあげているが、根拠とされている中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切に改めること。（是正事項） ..... 275
3. 大学設置の必要性として、種々の社会的背景や地域からの要望が掲げられているが、教育研究上の目的との関係が必ずしも明らかではなく、例えば、「医療の対象者が性的マイノリティや外国人等に多様化していること」などの社会的背景として想定される課題に対する対応についても、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにどのように反映されているか不明確である。これらのことから、大学設置の必要性や社会的背景における説明と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を具体的に説明し、必要に応じて、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程等について適切に改めること。（是正事項） ..... 282
4. 学科ごとに設定する養成人材像や3つのポリシー等について、多くが同様の内容であるため、授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう適切に改めること。（是正事項） ... 286
5. 教育課程の編成においては、専門学校の授業と比較し、「幅広い知識と深い教養と総合的判断力を養うため、基幹分野を中心として大幅な科目増を行う」との説明がなされているが、具体的にどの授業科目が対応している科目なのか説明すること。また、これらの科目が移行理由として説明されている、「質の高い医療専門職の育成」「健康科学の学問的発展」「効果的な IPE」「一般教養科目群を拡充する」にどのように対応しているのか、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 307
6. 履修モデルの説明において、履修に当たっての選択科目の考え方として、3つのモデルが示されているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係性が明らかではなく、また、3つのモデルに分ける趣旨や養成する人材像の違いなどが明らかでないことから、具体的に説明すること。（是正事項） ..... 319
7. 「医療の多様化と複雑化等の社会的背景を踏まえると、医療専門職には連携・協働の能力が必要である」こと等、医療専門職の連携に関する課題を大学設置の必要性の1つとして説明し、ディプロマ・ポリシーにおいても「多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力」を掲げているが、具体的な対応科目は専門職連携教育Ⅰ～Ⅳのみと見受けられることに加え、いずれも演習科目となっている。これらの科目のみで十分に目標を達成できるか不明確であるため、



教育課程全体で医療専門職の連携に関する課題についてどのように対応するのか、具体的に説明すること。(是正事項) ..... 324

8. 専門職連携教育Ⅰ～Ⅳについては複数の教員が担当することとなっているが、主担当の教員や教員連携の在り方について不明確であるため、具体的に説明すること。また、全員が同時に参加できる施設・設備が備わっていないように見受けられるため、具体的な実施形態について詳細に説明すること。(是正事項) ..... 327

9. 臨床実習において、一部の科目については3か所の実習施設のみで実施することとなっており、多くの学生を同時に受け入れる想定となっている。各学科の実習要項や実習の手引で定める実習指導者数等、十分な指導体制が整っているのかを具体的に説明すること。(是正事項) ..... 338

10. 学習成果の評価について、以下について説明すること。(是正事項) ..... 341

(1)「各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す」とあるが、趣旨が不明確であるため、例を示しながら具体的に説明すること。 ..... 341

(2)GPAについては導入することのみが記載されており、内容が不明確であるため、詳細に説明すること。 ..... 343

(3)シラバスに記載された成績評価指標について、「客観試験」「技術試験」「定期試験」等の趣旨の不明確な指標が見受けられることから、客観的評価が可能な指標かについても検討の上、適切に改めるとともに、評価方法ごとの割合などについては、シラバスにも記載し、学生に適切に周知すること。 ..... 344

11. シラバスにオフィスアワーに関する記載がなされていないため、明確にすること。(改善事項) ..... 345

12. 設置の趣旨の説明において、本学の特色の一つに「充実したICT環境による自由度の高い学習支援 (ICT教育)」を掲げているが、教育課程をみると、1年次の「医療と情報リテラシー」のみと見受けられ、また、「一部の授業について学習用動画を作成し」「学修できる教材を整備する」、「遠隔教育の整備をする」等、ICTの活用が強調されているが、講義・演習・実習科目等多様な授業形態がある中でどの授業でどのように活用されるか不明確であるため、その妥当性も含め具体的に説明すること。(是正事項) ..... 346

13. 語学教育として、英語に加えて中国語又は韓国語が必修科目とされている趣旨について説明すること。(改善事項) ..... 349

14. 科目の名称について、「カウンセリング」など、大学の科目の名称らしくないものが散見されるため、適切に修正すること。(改善事項) ..... 350

15. 入学者選抜について、例えば、「学校推薦型選抜 (一般)」においては「面接、調査書、小論文を主たる判定資料とする」とある等、評価に関する項目が明確ではないため、各項目の評価割合なども

含め、アドミッション・ポリシーに記載されている内容をどのように担保するのか、試験区分ごとに具体的に説明すること。また、学力試験において、数学等の教科名のみが記載されているものは、必要な科目名まで明示すること。(是正事項) ..... 351

1 6. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項) ..... 356

1 7. 「習得」や「学習」等、シラバスに誤字が散見される他、「設置認可等に関わる組織の移行表」では、他に設置する専門学校の名称の多くが同じものになっている等、書類上に誤記と思われる内容が散見されるため、網羅的に確認をした上で、適切に修正すること。(改善事項) ..... 358

1 8. 学生確保の見通しにおける分析について、例えば県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率等は必ずしも理学療法・作業療法等の学科に細分化したものとなっておらず不十分であるため、細分化して分析すること。(是正事項) ..... 360

1 9. 既設専門学校の学生確保の状況については、単年度のみの数値に基づく分析となっているため、過去5年程度の推移を示した上で説明すること。(是正事項) ..... 369

2 0. 学生確保の見通しにおいて、中長期的なニーズの説明として、高等学校2年生に対し、今後短期大学や専門学校に比べて看護系やリハビリテーション系の大学を志望する生徒が増えるか等を質問し、その結果をもって説明しているが、高等学校の生徒に中長期的な志望者の推移について問うことが適切とは考えにくいと、適切かつ客観的に改めて説明すること。なお、その際には、看護系やリハビリテーション系の大学全体ではなく、本学科の学生の確保が中長期的に見込まれる旨を説明すること。(是正事項) ..... 376

2 1. 本学科が養成する人材の社会的需要について、医療施設の採用担当者に移行調査を行い、294名採用可能との回答があったことを根拠に人材需要を説明しているが、意向調査では単に単年度の採用移行人数を確認しているのみと見受けられ、養成する人材の継続的な社会的需要が見込まれるかが必ずしも明らかでないため、客観的数値で改めて説明すること。(是正事項) ..... 381

2 2. 社会的・地域的な人材需要の動向として、福岡県内の医療技術者の求人状況や福岡市健康先進都市戦略等が示されているが、具体的に県内においてどの程度の理学療法士が不足しているのかといったことに加え、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会(平成31年4月5日)」にて示された需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」とされていること等が踏まえられておらず、中長期的に人材需要があるか不明確である。ついては、最新のデータを用いて地域的な需給関係等を再度検討した上で、人材需要の見通しについて改めて明確に説明すること。(是正事項) ..... 385

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

1. 「専門学校教育から大学教育へ移行する理由」として、「①質の高い医療専門職の育成」、「②健康科学の学問的発展」、「③効果的な IPE」、「④一般教養科目群の拡充」の4つが掲げられているが、それらの意義が必ずしも明らかでなく、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程にどのように反映されているか明確ではないので、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

専門学校教育から大学教育へ移行する理由として掲げた4つの意義(①質の高い医療専門職の育成(以下、「①」とします。)、②健康科学の学問的発展(以下、「②」とします。)、③効果的な IPE(以下、「③」とします。)、④一般教養科目群の拡充(以下、「④」とします。))に対して、養成する人材像、3つのポリシー、教育課程へは以下のとおり反映させています。

【意義】①について、専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えております。②について、健康科学は、1985(昭和60)年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っています。一方、健康の概念は広く、従来の学問領域では捉えることが困難となっています。そこで、本学では「探究心」を培うことで、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成します。③について、高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠です。そこで、本学では看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁しており、かつ3年制専門学校では各学科の臨地実習・臨床実習の時期の相違から、IPEは正課外等で実施できたとしても、1年次から各年次にわたって段階的に効果的な専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)を導入することが困難でした。そこで、本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働(Interprofessional Work: IPW)に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することで社会貢献ができる人材を育成します。④について、一般教養科目群の多くは学問として長い歴史をもち、十分に醸成された学問といえます。これらの学問を学修することは医療専門職にとっても基盤となる人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができると考えています。そして換言すれば、倫理観を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えています。

【養成する人材像】①について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「質の高い医療専門職の育成」は、下線部分に反映させています。②について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させています。③について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させています。④について、本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考

力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」です。なかんずく「一般教養科目群の拡充」は、下線部分に反映させている。

【ディプロマ・ポリシー】①について、「質の高い医療専門職の育成」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」及び「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」の下線部分に反映させています。②について、「健康科学の学問的発展」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させています。③について、「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させています。④について、「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させています。

【カリキュラム・ポリシー】①について、カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させています。②について、カリキュラム・ポリシーのうち、「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」の下線部分に反映させています。③について、カリキュラム・ポリシーのうち、「科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」、「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と関連させて学修する授業科目を開設する。」、「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させています。④について、カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させています。

【アドミッション・ポリシー】①について、アドミッション・ポリシーのうち、「健康及び医療に関心を持ち、深く学びたいという意欲のある者」の下線部分に反映させています。②について、アドミッション・ポリシーのうち、「医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者」の下線部分に反映させています。③について、アドミッション・ポリシーのうち、「人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、及び「人と関わることが好きで、人の話をよく聴くことができる者」の下線部分に反映させています。④について、アドミッション・ポリシーのうち、「本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者」の下線部分に反

映させています。

【教育課程】①について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（1単位・15時間）」、「理学療法臨床推論（1単位・15時間）」、「作業療法臨床推論（1単位・15時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（1単位・15時間）」、「高度先進医療論（1単位・15時間）」、「作業療法特論（1単位・15時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで反映させています。②について、基幹分野で根拠の導き方を学び、専門基礎分野で主な研究テーマや素材を学び、専門分野で研究と臨床との接点を学びます。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学部）、専門分野では卒業研究科目を開設したことで反映させています。③について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）」（1単位・30時間）を開設したことで反映させています。④について、各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで反映させています。

#### 4つの移行理由の意義と養成する人材像、3つのポリシー、教育課程への反映

| 反映する<br>事項 | ①質の高い医療専門職の育成                                                                                                           | ②健康科学の学問的発展                                                                                                                      | ③効果的な IPE                                                                                                                                                                                    | ④一般教養科目群の拡充                                                                                                              |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 意義         | 専門学校の修業年限が3年であるのに対し、大学教育は4年であることから、より充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことから、より質の高い医療専門職を育成することができる。 | 健康科学は、1985（昭和60）年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っている。一方、健康が広い概念であるために、従来の学問領域では捉えることが困 | 高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠である。そこで、本学では看護学科、理学療法学科、作業療法学科を有しており、かつ3年制専門学校では臨床実習・臨床実習の時期の差異から、スポット的に IPE を実施できたとしても、1年次から各年次にわたって段階的に効果的な専門職連携教育（Interprofessional | 一般教養科目群の多くは長い歴史をもち、十分に醸成された学問である。これらの学問を学修することは人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができる。すなわち、倫理観の育成は、より質の高い医療専門職 |

|            |                                                                                                                                   |                                                                                                                       |                                                                                                                                                    |                                                                                                                  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            |                                                                                                                                   | <p>難となっている。<br/>そこで、本学では「探究心」を培い、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成する。</p>                                                         | <p>Education：IPE）を導入することが困難であった。そこで本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することができる人材を育成する。</p> | <p>門職を育成することができる。</p>                                                                                            |
| 養成する人材像    | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なかんずく「質の高い医療専門職の育成」は、下線部分に反映させている。</p>                  | <p>本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「倫理観」及び「<u>探究心</u>」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なかんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させている。</p> | <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なかんずく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させている。</p>                                       | <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なかんずく「一般教養科目群の拡充」は、下線部分に反映させている。</p>   |
| ディプロマ・ポリシー | <p>「質の高い医療専門職の育成」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「①医療職として、<u>幅広い教養と人間愛（倫理観）</u>及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「③医療職として、<u>高度な知識と技術及び多くの専門職と連</u></p> | <p>「健康科学の学問的発展」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「②医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを<u>科学的に解決する能力</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                  | <p>「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「③医療職として、<u>高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p>                                    | <p>「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「①医療職として、<u>幅広い教養と人間愛（倫理観）</u>及び<u>生涯にわたり自己研鑽する態度</u>を身につけている。」の下線部分に反映させている。</p> |

|              |                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | 携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させている。                                                                                                                                              |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                 |
| カリキュラム・ポリシー  | 「質の高い医療専門職の育成」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「健康科学の学問的発展」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「効果的な IPE」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」、「③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。」、「④各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。 | 「一般教養科目群の拡充」は、カリキュラム・ポリシーのうち、「①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」の下線部分に反映させている。 |
| アドミッション・ポリシー | 「質の高い医療専門職の育成」は、アドミッション・ポリシーのうち、「①医療に興                                                                                                                                                    | 「健康科学の学問的発展」は、アドミッション・ポリシーのうち、「⑤医療専門職の資格                                                                             | 「効果的な IPE」は、アドミッション・ポリシーのうち、「②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、                                                                                                                                                                                                                                                                    | 「一般教養科目群の拡充」は、アドミッション・ポリシーのうち、「④本学で学ぶために                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 味・関心をもち、<br><u>深く学びたいとい</u><br><u>う意欲のある者</u> 」<br>の下線部分に反映<br>させている。                                                                                                                                                                                                                                                                 | を取得し、 <u>広く社</u><br><u>会で貢献したいと</u><br><u>の意欲をもつ者</u> 」<br>の下線部分に反映<br>させている。                                                                                                                                                                                                                                                  | 及び「③人と関わるこ<br>とが好きで、人の <u>話</u> をよく<br><u>聴くことができる者</u> 」の<br>下線部分に反映させてい<br>る。                                                                                                                                                                                | 必要な <u>基礎学力</u><br>( <u>思考力・判断</u><br><u>力・表現力等</u> )と<br><u>学修態度</u> を身につ<br>けている者」の下<br>線部分に反映させ<br>ている。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 教育課程 | 「質の高い医療<br>専門職の育成」<br>は、各専門職の養<br>成にかかる指定規<br>則に加えて、「看護<br>臨床推論（1単<br>位・15時間）」、<br>「理学療法臨床推<br>論（1単位・15時<br>間）」、「作業療法臨<br>床推論（1単位・<br>15時間）」等を開<br>設することで、ク<br>リティカルシンキ<br>ング（考える力）<br>を身につけ、「高度<br>先進医療看護学<br>（1単位・15時<br>間）」、「高度先進医<br>療論（1単位・15<br>時間）」、「作業療法<br>特論（1単位・15<br>時間）」を履修さ<br>せ、最新の知見を<br>学ぶ科目を開設し<br>たことで反映させ<br>ている。 | 「健康科学の学<br>問的発展」は、基<br>幹分野で根拠の導<br>き方を学び、専門<br>基礎分野で主な研<br>究テーマや素材を<br>学び、専門分野で<br>研究と臨床との接<br>点を学ぶ。すなわ<br>ち、各指定規則に<br>加えて、基幹分野<br>の「健康科学入門<br>（1単位・15時<br>間）」を開設したこ<br>と、専門基礎分野<br>の「健康科学医療<br>論（1単位・15時<br>間）」を開設したこ<br>と（看護学部）、一<br>般臨床医学系の時<br>間数を増大したこ<br>と（リハビリテー<br>ション学部）、専門<br>分野では卒業研究<br>科目を開設したこ<br>とで反映させてい<br>る。 | 「効果的な IPE」は、<br>各専門職の養成にか<br>かる指定規則に加<br>えて、「専門職連携<br>教育Ⅰ（専門職連<br>携の基礎）」（1単<br>位・30時間）、「専<br>門職連携教育Ⅱ（<br>専門職連携の構築<br>）」（1単位・30時<br>間）、「専門職連携<br>教育Ⅲ（専門職連<br>携における尊重）<br>（1単位・30時間）」、「専門職<br>連携教育Ⅳ（専門<br>職連携における協<br>働）」（1単位・30<br>時間）」を開設し<br>たことで反映させ<br>ている。 | 「一般教養科目<br>群の拡充」は、各<br>専門職の養成にか<br>かる指定規則に加<br>えて、幅広く多様<br>性に富む適応性を<br>高めるため、発達<br>心理学（1単位・<br>30時間）、ジェン<br>ダー論（1単位・<br>15時間）、法学<br>（1単位・15時<br>間）、経営学（1<br>単位・15時間）、<br>国際関係論（1<br>単位・15時間）等<br>を基幹分野に開設<br>したこと、保健・医<br>療・福祉分野を幅<br>広く学修するため<br>、「保健医療福祉<br>制度論（2単位・<br>30時間）」、「カウ<br>ンセリング論（1<br>単位・15時間）」<br>等の医療関連科目<br>を開設したことで<br>反映させている。 |



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <p>《14～18 ページ》</p> <p><b>1-4-1 質の高い医療専門職の育成</b></p> <p>① 意義</p> <p><u>専門学校</u>の修業年限が3年であるのに対し、<u>大学教育</u>は4年であることから、より<u>充実した教育体制を構築し、また、教育・研究・社会貢献</u>といった幅広い教養を教授でき、それらを思考する能力を培うことで、より<u>質の高い医療専門職を育成</u>することができると考えている。</p> <p>② 養成する人材像への反映</p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>多様化・高度化する医療</u>において、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する<u>医療専門職</u>」である。なにかんづく「<u>質の高い医療専門職の育成</u>」は、下線部分に反映させている。</p> <p>③ 3つのポリシーへの反映</p> <p><u>ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」及び「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」</u>の下線部分に反映させている。</p> <p><u>カリキュラム・ポリシーのうち、「「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」</u>の下線部分に反映させている。</p> | <p>《7 ページ》</p> <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「健康及び医療に関心をもち、深く学びたいという意欲のある者」の下線部分に反映させている。</u></p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p><u>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論（１単位・１５時間）」、「理学療法臨床推論（１単位・１５時間）」、「作業療法臨床推論（１単位・１５時間）」等を開設することで、クリティカルシンキング（考える力）を身につけ、「高度先進医療看護学（１単位・１５時間）」、「高度先進医療論（１単位・１５時間）」、「作業療法特論（１単位・１５時間）」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで反映させています。</u></p> <p><b>1-4-2 健康科学の学問的発展</b></p> <p>① <u>意義</u></p> <p><u>健康科学は、1985（昭和 60）年に「一般社団法人日本健康科学学会」という学術研究団体が設立されたように、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っている。一方、健康の概念は広く、従来の学問領域では捉えることが困難となっています。そこで、本学では「探究心」を培うことで、健康科学の学問的発展に寄与できる人材を育成する。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u></p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u><br/><u>かんずく「健康科学の学問的発展」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシーのうち、「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者」の下線部分に反映させている。</u></p> |   |
| <p>④ 教育課程への反映</p> <p><u>基幹分野で根拠の導き方を学び、専門基礎分野で主な研究テーマや素材を学び、専門分野で研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門（1単位・15時間）」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論（1単位・15時間）」を開設したこと（看護学部）、一般臨床医学系の時間数を増大したこと（リハビリテーション学部）、専門分野では卒業研究科目を開設したことで反映させている。</u></p>                                                                                                                               |   |
| <p><b>1-4-3 効果的な専門職連携教育（IPE）</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |   |
| <p>① 意義</p> <p><u>高度化・複雑化する医療に対応し、地域包括ケアシステムを充実したものとするために、専門職の有機的な協働が不可欠となる。本学は看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁しており、かつ3年制専門学校では各学科の臨地実習・臨床実習の時期</u></p>                                                                                                                                                                                                                            |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>の相違から正課外等で実施する他は実施困難であった効果的な専門職連携教育</u><br/> <u>(Interprofessional Education : IPE) を1年次から各年次にわたって段階的に導入する。</u>加えて、<u>本学では学部・学科の領域を超えた「実践力」を培い、専門職連携協働 (Interprofessional Work : IPW) に直接的に作用する IPE、すなわち、効果的な IPE を実践することで社会貢献ができる人材を育成する。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u><br/> <u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。なかんづく「効果的な IPE」は、下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u><br/> <u>「効果的な IPE」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。」の下線部分に反映させている。</u><br/> <u>カリキュラム・ポリシーのうち、「科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。」「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。」「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。」及び「理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」の下線部分に反映させている。</u></p> <p><u>アドミッション・ポリシーのうち、「人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者」、及び「人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者」の下線部分に反映させている。</u></p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p><u>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）」を開設したことで反映させている。</u></p> <p><b>1-4-4 一般教養科目群の拡充</b></p> <p>① <u>意義</u></p> <p><u>一般教養科目群の多くは学問として長い歴史をもち、十分に醸成された学問といえる。これらの学問を学修することは医療専門職にとっても基盤となる人格形成に大きく関与すると考えられ、一般教養科目群の拡充を図ることで「倫理観」を培うことができると考えている。さらに換言すれば、倫理観を培うことで、より質の高い医療専門職を育成することができると考えている。</u></p> <p>② <u>養成する人材像への反映</u></p> <p><u>本学の養成する人材像は、「多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職」である。な</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>かんずく「一般教養科目群の拡充」は、<u>下線部分に反映させている。</u></p> <p>③ <u>3つのポリシーへの反映</u></p> <p>「一般教養科目群の拡充」は、ディプロマ・ポリシーのうち、「医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」の下線部分に反映させている。</p> <p>カリキュラム・ポリシーのうち、「<u>「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</u>」の下線部分に反映させている。</p> <p>アドミッション・ポリシーのうち、「<u>本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</u>」の下線部分に反映させている。</p> <p>④ <u>教育課程への反映</u></p> <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで反映させている。</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

2. 養成する人材像として、「多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人」をあげているが、根拠とされている中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切に改めること。(是正事項)

(対応)

2005（平成 17）年 1 月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」では「高度専門職業人」は修士課程や専門職学位課程において養成する人材であるとされているため、適切なものとなるよう設置の趣旨等を記載した書類を以下のとおり改めます。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、生活者である人を対象とする職業であることから、【中略】、問題を追究していくクリティカルシンキング（考える力）を身につける必要がある。</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。これに必要となる能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</u></p> <p>《21 ページ》</p> <p>① 倫理観</p> <p>医療専門職の倫理観は、【中略】</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識</p> | <p>《9～10 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、生活者である人を対象とする職業であることから、【中略】、問題を追究していくクリティカルシンキング（考える力）を身につける必要がある。</p> <p>本学では多様化かつ高度化する医療及び健康社会で医療チームのリーダーとして「知の創出」ができる高度専門職業人を養成する。</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成 17）年 1 月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別できる。</u></p> <p>《10 ページ》</p> <p>① 倫理観</p> <p>医療専門職の倫理観は、【中略】</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。</p> <p>② 探究心</p> <p>医療専門職の探究心は、【中略】</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが<u>重要である。また、研究は次世代への課題を提起し、中長期的にみて新たな領域や産業を創出すると考え、本学の養成する人材像として「探究心」は重要なコンピテンシーである。</u></p> <p>③ 実践力</p> <p>医療専門職の実践力は、【中略】</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による<u>演習の導入により、臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせる能力を導き出す。</u>このように、専門性の深化や役割を学び続ける<u>探究心を培い、地域医療の発展へと展開する実践力を育成する。</u></p> <p>《23～24 ページ》</p> <p><b>1-6-1 看護基礎教育における学士課程の必要性</b></p> <p>少子高齢社会の急速な進展や、【中略】</p> <p>教育基本法の第7条（大学）では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培う</p> | <p>が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、「知の創出」を巡らすうえで重要なことは、生命の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。ここで強調したいことは生命の尊厳を基盤とする倫理観なしには、医療専門職の「知の創出」は成し得ないということである。</p> <p>② 探究心</p> <p>医療専門職の探究心は、【中略】</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが「知の創出」につながるものと考える。</p> <p>③ 実践力</p> <p>医療専門職の実践力は、【中略】</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせるという新しい「知」として導き出される。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、「知の創出」へとつなげ、地域医療の発展へと展開する実践力を養成する。</p> <p>《12～13 ページ》</p> <p><b>1-6-1 看護基礎教育における学士課程の必要性</b></p> <p>少子高齢社会の急速な進展や、【中略】</p> <p>教育基本法の第7条（大学）では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門能力を培う</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>とともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」と規定されており、看護の体系化の基盤づくりを担う看護系大学の看護基礎教育における学士課程は、こうした社会の変遷に対応するうえにおいて必要かつ重要であり、その存在意義は大きい。加えて、アジアにおける看護基礎教育については、韓国、フィリピン、マカオは4年制大学教育のみとなっている。</p>            | <p>とともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」と規定されており、看護の知の創出と体系化の基盤づくりを担う看護系大学の看護基礎教育における学士課程は、こうした社会の変遷に対応するうえにおいて必要かつ重要であり、その存在意義は大きい。加えて、アジアにおける看護基礎教育については、韓国、フィリピン、マカオは4年制大学教育のみとなっている。</p> |
| <p>《51 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                          | <p>《35 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                    |
| <p><b>2 学部・学科等の特色</b></p>                                                                                                                                                                                                | <p><b>2 学部・学科等の特色</b></p>                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>2-1 令和健康科学大学（仮称）の特色</b></p>                                                                                                                                                                                        | <p><b>2-1 令和健康科学大学（仮称）の特色</b></p>                                                                                                                                                                                  |
| <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                             | <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                       |
| <p>【中略】</p>                                                                                                                                                                                                              | <p>【中略】</p>                                                                                                                                                                                                        |
| <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                             | <p>2005（平成17）年1月に中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」で、各大学は機能別文化を念頭に、他大学と異なる個性・特色の明確化を目指す必要性が問われている。</p>                                                                                                                       |
| <p>「①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の7つの機能を併用する。」としている。</p>                                                                                     | <p>「①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学修機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の7つの機能を併用する。」としている。</p>                                                                               |
| <p>以上の内容を踏まえ、本学では「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うものとする。医療専門職に必要な倫理観、多様な価値観をもつ人間の理解、良好な人間関係の構築、問題解決能力、探究心、自己学修能力等の学士力を基盤にして専門教育につなげられるように、<u>これらの能力を体系的に育成する</u>。また、社会情勢を踏まえ、<u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応できる実践力を養う。<u>そのうえで、本学では超高齢</u></p> | <p>以上の内容を踏まえ、本学では②「高度専門職業人養成」及び③「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うものとする。医療専門職に必要な倫理観、多様な価値観をもつ人間の理解、良好な人間関係の構築、問題解決能力、探究心、自己学修能力等の学士力を基盤にして専門教育につなげられるように、<u>これらの能力を体系的に育成することで、「高度専門職業人」と「幅広い職業人」とを併せもつ人材を「養成」</u></p>          |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>社会において、あらゆる場における最適な生活（well-being）への包括的な健康支援が可能<br/>な、専門的知識・技術・態度を備えた医療専門職を育成するための教育課程を編成する。</p> <p>具体的には、【中略】</p> <p>上記5つを本学の特色とし、これに加えて各学部・学科の特色を策定することで、本学が養成する人材像のコンピテンシー（倫理観、探究心、実践力）を身につけた医療専門職（看護師、理学療法士、作業療法士）を育成する。</p> <p>《85 ページ》</p> <p><b>5-1 教員の配置</b></p> <p>本学の教員採用・承認は【中略】</p> <p>このことから、本学の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして多様性を備えた幅広い職業人の養成という目標に沿った教育課程の実現のために、専門分野、専門基礎分野を担当する専任教員には、豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置した。</p> <p>《124～125 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「幅広い職業人」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> | <p>できると考える。また、社会情勢を踏まえ、高度化・多様化する医療に対応できる実践力を養う。すなわち、本学では「幅広い教養と思考力、探究心を統合した実践力を備えた医療専門職の育成する」ため、特色ある教育課程を編成する。</p> <p>具体的には、【中略】</p> <p>上記5つを本学の特色とし、これに加えて各学部・学科の特色を策定することで、本学が養成する人材像のコンピテンシー（倫理観、探究心、実践力）を身につけた「高度専門職業人」である医療専門職（看護師、理学療法士、作業療法士）を育成する。</p> <p>《65 ページ》</p> <p><b>5-1 教員の配置</b></p> <p>本学の教員採用・承認は、【中略】</p> <p>このことから、本学の教員は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、倫理性そして多様性を備えた高度専門職業人の養成という目標に沿った教育課程の実現のために、専門分野、専門基礎分野を担当する専任教員には、豊かな人間性と専門分野における十分な教育研究業績及び臨床経験を有する教員を配置した。</p> <p>《101～102 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでの「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> |

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20～22 ページ》</p> <p>(2) 令和健康科学大学の養成する人材像<br/>         本学の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職</u>」である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《看護学部看護学科》<br/>         看護学部看護学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をとおして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/>         リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》</p> | <p>《12～13 ページ》</p> <p>(2) 令和健康科学大学の養成する人材像<br/>         本学の養成する人材像は「<u>「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職</u>」である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《看護学部看護学科》<br/>         看護学部看護学科の養成する人材像は「<u>高い職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、地域の健康社会の実現に寄与する看護師</u>」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》<br/>         リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。</p> <p>《リハビリテーション学部理学療法学科》</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u>おして<u>応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。</p>                                                                                                                                                                                                                         | <p>リハビリテーション学部理学療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をと</u>おして、<u>健康社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>(3) 倫理観について</p> <p>医療専門職の倫理観は、<u>対象である生命の尊厳を尊重する姿勢である</u>。<u>こうした倫理観は、自己洞察と内省により獲得される</u>。</p> <p>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨地実習・臨床実習等をとおして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成され则认为る。</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、<u>生命</u>の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。</p> | <p>(3) 倫理観について</p> <p>医療専門職の倫理観は、人間の尊厳を基盤とする。これは医療専門職としてふさわしい職業倫理であり、理論や知識だけでなく、自己洞察と内省により獲得される。</p> <p>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨地実習・臨床実習等をとおして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成され则认为る。</p> <p>医療専門職において専門性を深化させ、探究していくことが専門性の発展につながる。そしてまた、医療は「人間」を対象とするため、そこには倫理観に基づく専門性の深化と呼ぶべき、いわば常識が存在する。しかし、かつての常識が現代の非常識になることもあり得る。すなわち、「<u>知の創出</u>」を巡らすうえで重要なことは、人間の尊厳を常に尊び、そのためには何をすべきか、何が必要かを考えることが重要である。ここで強調したいことは人間の尊厳を基盤とする倫理観なしには、医療専門職の「<u>知の創出</u>」は成し得ないということである。</p> |
| <p>(4) 探究心について</p> <p>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>(4) 探究心について</p> <p>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる考える。</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが<u>重要である。また、研究は次世代への課題を提起し、中長期的にみて新たな領域や産業を創出すると考え、本学の養成する人材像として「探究心」は重要なコンピテンシーである。</u></p> <p>（５）実践力について</p> <p>医療専門職の実践力は、倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものであるといえる。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、<u>臨地実習・臨床実習における反復トレーニングを徹底的に行う。</u>試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせる<u>能力を導き出す。</u>このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、地域医療の発展へと展開する実践力を<u>育成する。</u></p> | <p>門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる考える。</p> <p>真理を究める態度は、吟味して考えることに加えて思考過程を明確に示すことが必要である。これはクリティカルシンキング（考える力）とも換言できる。自ら課題を発見し、クリティカルシンキング（考える力）を継続し、積み上げることが「<u>知の創出</u>」につながるものと考え</p> <p>（５）実践力について</p> <p>医療専門職の実践力は、医療職としての倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものである。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。</p> <p>地域社会に寄与できる資質や能力を備えた医療専門職を養成するために、シミュレーション教育による演習や OSCE の導入、<u>実習における反復トレーニングを徹底的に行う。</u>試行錯誤の経験をもとに体得された能力は、応用力を働かせるという新しい「<u>知</u>」として導き出される。このように、専門性の深化や役割を学び続ける探究心を培い、「<u>知の創出</u>」へとつなげ、地域医療の発展へと展開する実践力を養成する。</p> |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

3. 大学設置の必要性として、種々の社会的背景や地域からの要望が掲げられているが、教育研究上の目的との関係が必ずしも明らかではなく、例えば、「医療の対象者が性的マイノリティや外国人等に多様化していること」などの社会的背景として想定される課題に対する対応についても、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにどのように反映されているか不明確である。これらのことから、大学設置の必要性や社会的背景における説明と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を具体的に説明し、必要に応じて、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程等について適切に改めること。(是正事項)

(対応)

大学設置の必要性と教育研究上の目的との関係が明らかな部分があり、当該部分について以下のとおり設置の趣旨等を記載した書類を適切に改めます。

大学設置の必要性について、本学では「健康の重要性向上と健康寿命の延伸に伴う医療専門職の不足」及び「医療の多様化と高度化」の2つの側面があると考えます。

(1) 健康の重要性向上と健康寿命の延伸に伴う医療専門職の不足

我が国において健康に対する重要性は年々向上しております。一方、生産年齢人口が減少していく中で、現在の医療制度を維持・発展させるためには、国民一人ひとりの健康寿命を延伸し、誰もが元気に暮らしていける社会の実現が望まれています。このような状況を鑑みて、「持続可能な健康長寿社会の実現」を一つのコンセプトとして本学を設置することにしました。即ち、「医療費の適正化」のために、「地域包括ケアの推進」が喫緊の課題と捉え、本学が地域・社会から求められている担い手として貢献することを目的としています。また、別の観点から、多様化かつ高度化する地域医療の担い手としては、専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）が必須であり、加えて専門職の質の向上が求められております。そこで、本学は専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって段階的に修得し、将来のIPWに円滑な移行ができるよう教育課程を編成しております。また、専門職の質の向上については、専門学校で精錬した教育をより充実させるため必要に応じ教授内容、科目数、時間数等を拡充すること、そして各職種の養成にかかる指定規則上の科目以外の科目を学科の特色として反映いたしました。

これらを解決するために主に必要な能力は、健康観のパラダイムシフトです。すなわち、「疾病でないこと」という狭義の健康観から、「予防も含めていわゆる健康な人々をも対象とする」という広義の健康観です。これらのことを十分に理解したうえで、各専門職の強みを発揮することが健康寿命の延伸につながると考えられます。

本学の養成する人材像では、「持続可能な健康長寿社会の実現」という部分とつながりをもち、ディプロマ・ポリシーでは「持続可能な健康長寿社会の実現に寄与」、カリキュラム・ポリシーでは「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて」という語句で反映させています。

主に関連する本学の教育課程は、看護学部では「健康科学入門（1単位・15時間）」、「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「地域看護学概論（2単位・30時間）」、リハビリテーション学部では「健康科学入門（1単位・15時間）」、「論理的思考法（1単位・15時間）」、「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「予防理学療法学（1単位・15時間）※理学療法学科のみ」、「ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）※作業療法学科のみ」が該当します。

## (2) 医療の多様化と高度化

医療分野は日進月歩といわれるように、目覚ましい発展を遂げています。それに伴い、現代の医療は多様化し、かつ高度化してきております。多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味しています。高度化とは、救急医療に代表されるような高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味しています。

つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）の重要性が強調されるようになりました。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連関させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につけます。

本学の養成する人材像では、「多様化・高度化する医療において」という部分とつながりを持ち、ディプロマ・ポリシーでは「多様化かつ高度化する医療において」、カリキュラム・ポリシーでは「多様化かつ高度化する医療に対応するために」という語句で反映させています。

主に関連する本学の教育課程は、専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）＝「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携教育における尊重）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）」が該当します。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と高度化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>日進月歩といわれる近年の医療は多様化し、かつ高度化している。なお、多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味する。そして高度化とは、救急医療に代表されるように高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味する。</p> <p>つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）</p> | <p>《5 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と複雑化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>高齢者人口の増加と並行して、医療の対象者は、健康障害をもつ人や障害者だけでなく、性的マイノリティや外国人等にまで多様化しており、今後の医療は複雑化する。複雑化する医療に対応するためにも専門職連携協働が求められる。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>の重要性が強調されている。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と連携させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につける。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |   |

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《24 ページ》</p> <p>（２）医療の多様化と複雑化</p> <p>近年、我が国では諸外国と比べ、例をみないスピードで高齢化が進行しており、2019（令和元）年版高齢社会白書（概要版）によれば、2018（平成30）年10月1日現在の我が国の総人口は1億2,644万人となった。そのうち65歳以上人口は3,558万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.1となる。なお、65～74歳人口は1,760万人、総人口に占める割合は13.9%であるのに対し、75歳以上人口は1,798万人、総人口に占める割合は14.2%で65～74歳人口を上回っている。また、高齢化率の将来推計では、2025（令和7年）には30.0%、2035（令和17）年には32.8%、2065（令和47）年には38.4%と増加の一途を辿る。</p> <p><u>日進月歩といわれる近年の医療は多様化し、かつ高度化している。なお、多様化とは、医療従事者の活躍の場が病院から地域（在宅）へと拡大し、かつ、取り扱う疾患も多種に及んでいることを意味する。そして高度化とは、救急医療に代表されるように高度な技術が求められることや、地域（在宅）医療においても対象者の重症化の傾向が認められ、同一職種でも、その</u></p> | <p>《15～16 ページ》</p> <p>（２）医療の多様化と複雑化</p> <p>近年、我が国では諸外国と比べ、例をみないスピードで高齢化が進行しており、2019（令和元）年版高齢社会白書（概要版）によれば、2018（平成30）年10月1日現在の我が国の総人口は1億2,644万人となった。そのうち65歳以上人口は3,558万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.1となる。なお、65～74歳人口は1,760万人、総人口に占める割合は13.9%であるのに対し、75歳以上人口は1,798万人、総人口に占める割合は14.2%で65～74歳人口を上回っている。また、高齢化率の将来推計では、2025（令和7年）には30.0%、2035（令和17）年には32.8%、2065（令和47）年には38.4%と増加の一途を辿る。</p> <p>高齢者人口の増加と並行して、医療の対象者は、健康障害をもつ人や障害者だけでなく、性的マイノリティや外国人等にまで多様化しており、今後の医療は複雑化する。複雑化する医療に対応するためにも専門職連携協働が求められる。</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>専門性（専門領域）が分化・特化していることを意味する。</p> <p>つまり、近年のこのような多様化かつ高度化した医療において、対象者の健康を回復するためには、多くの医療専門職の連携・協働する専門職連携協働（Interprofessional Work：IPW）の重要性が強調されている。そのため、本学では臨地実習・臨床実習と関連させた専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を1年次から4年次にわたって開設することでIPWを実践するための能力を身につける。</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

4. 学科ごとに設定する養成人材像や3つのポリシー等について、多くが同様の内容であるため、授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう適切に改めること。(是正事項)

(対応)

本審査意見を踏まえ、下記の方針により養成する人材像、3つのポリシーを授与する学位や養成する専門職種の特徴を踏まえたものとなるよう改めます。また、養成する人材像、3つのポリシーの変更に伴い、対応する資料を改めます。

【別紙資料1】 養成する人材像と3つのポリシー

(1) 養成する人材像について

本学の設置の趣旨を考慮し、令和健康科学大学の養成する人材像に「多様化・高度化する医療において、」「多様な対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する」を追加しました。また、大学全体の養成する人材像の変更に伴い、3学科の養成する人材像を修正しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれの養成する人材像に専門職種の特徴を踏まえ、適切な形に改めました。(表1. 養成する人材像の新旧対照表)

(2) ディプロマ・ポリシーについて

養成する人材像の変更に伴い、大学全体のディプロマ・ポリシーに「多様化かつ高度化する医療において、」「多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。」を追加しました。また、本審査意見や本学の教育理念を考慮し「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。」を追加しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれのディプロマ・ポリシーについては大学全体のディプロマ・ポリシーの変更を反映すると共に、専門職種の特徴を踏まえ、適切な形に改めました。(表2. ディプロマ・ポリシーの新旧対照表)

(3) カリキュラム・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシーの変更に伴い、大学全体のカリキュラム・ポリシーに「多様化かつ高度化」「持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、」を追加いたしました。また、より教育課程の内容と整合するように「基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に」を追加いたしました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科それぞれのカリキュラム・ポリシーについては、大学全体のカリキュラム・ポリシーを反映すると共に、専門職種の特徴を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを改めた点を反映し、より専門職種の特徴がでるよう修正をいたしました。なお、教育課程との整合も鑑み、より設置の趣旨や教育課程の内容を適切に反映できるようなポリシーとしたため、カリキュラム・ポリシーの変更に伴う教育課程の変更はありません。(表3. カリキュラム・ポリシーの新旧対照表)

(4) アドミッション・ポリシーについて

本学の設置の趣旨、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの変更に伴い、大学全体のアドミッション・ポリシーに「健康及び」を追加致しました。看護学科、理学療法学科、作業療法学科のアドミッション・ポリシーの変更はありません。(表4. アドミッション・ポリシーの新旧対照表)

表 1. 養成する人材像の新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                    | 旧                                                                          |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のあ</u><br><u>る対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職</u>                                   | 「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職                           |
| 看護<br>学科             | <u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u><br><u>おして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長</u><br><u>寿社会の実現に寄与する看護師</u> | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、健康社会の実現に寄与する看護師   |
| 理学<br>療法<br>学科       | <u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をと</u><br><u>おして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>               | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する理学療法士 |
| 作業<br>療法<br>学科       | <u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u><br><u>おして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>     | 職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をとおして、健康社会の実現に寄与する作業療法士 |

表2. ディプロマ・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <p>①医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。</p> <p>②医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>④多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。</p> <p>⑤自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。</p>                            | <p>①医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。〔倫理観〕</p> <p>②医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。〔探究心〕</p> <p>③医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。〔実践力〕</p>                                                                                                                                         |
| 看護<br>学科             | <p>①健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>②生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍する能力を有している。</p> <p>⑥自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</p> | <p>①健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>②生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> <p>⑥生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> |
| 理<br>学               | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                            | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 療<br>法<br>学<br>科           | <p>②<u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、<u>先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をと</u>おし<u>て</u>広く社会に<u>貢献する</u>能力を有している。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の基本的動作能力の回復を図ること</u>でチームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥<u>自己実現を成し遂げるために</u>、生涯にわたって<u>人格の涵養に努め</u>、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p>                                                                       | <p>②対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を活用する能力を有している。</p> <p>③疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる理学療法が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥生涯にわたって理学療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                 |
| 作<br>業<br>療<br>法<br>学<br>科 | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>②<u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、<u>作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をと</u>おして広く社会に<u>貢献する</u>能力を有している。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ること</u>でチームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥<u>自己実現を成し遂げるために</u>、生涯にわたって<u>人格の涵養に努め</u>、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p> | <p>①幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>②対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を活用する能力を有している。</p> <p>③価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる作業療法が実践できる。</p> <p>⑤多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥生涯にわたって作業療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> |

表3. カリキュラム・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |
| 看護<br>学科             | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |

|        | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>④看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p>                                                                                                                                                      | <p>④看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                      |
| 理学療法学科 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> |

|        | 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | ⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を <u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 作業療法学科 | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③多様化かつ高度化する医療に対応するために、<u>専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</u></p> <p>④専門的な視点から<u>捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する</u>授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p> | <p>①「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>②科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④専門的な視点から知らえた作業の知識と応用技術を身につけ課題解決能力を培うための授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |



表4. アドミッション・ポリシーの新旧対照表

|                      | 新                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                             |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和<br>健康<br>科学<br>大学 | ①健康及び医療に関心をもち、深く学びたいという意欲のある者<br>②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者<br>③人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者<br>④本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者<br>⑤医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 | ①医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者<br>②人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者<br>③人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者<br>④本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者<br>⑤医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《20 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、【中略】</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</u></p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-5-4-1 令和健康科学大学（仮称）のディプロマ・ポリシー</b></p> <p>本学では、医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）に基づいて対象者を全人的に捉え、<u>多様化かつ高度化している医療に対応すべく、チームの一員として、地域医療の向上に</u></p> | <p>《9～10 ページ》</p> <p><b>1-5-3 令和健康科学大学（仮称）の養成する人材像</b></p> <p>医療専門職は、【中略】</p> <p>以上から、本学の養成する人材像は、「<u>幅広い教養と思考力</u>」を基盤とし、「<u>倫理観</u>」及び「<u>探究心</u>」を統合した「<u>実践力</u>」を備えた医療専門職である。なお、ここでいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「高度専門職業人」に該当する。医療専門職が必要とする能力は「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別できる。</p> <p>《11 ページ》</p> <p><b>1-5-4-1 令和健康科学大学（仮称）のディプロマ・ポリシー</b></p> <p>本学では、医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）に基づいて対象者を全人的に捉え、高度化・多様化している医療に対応すべく、チームの一員として、地域医療の向上に貢</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>貢献できる人材を育成するために、以下の<u>5つ</u>を本学のディプロマ・ポリシーとして設定する。</p> <p>① <u>医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。</u></p> <p>② <u>医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。</u></p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。</u></p> <p>④ <u>多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している。</u></p> <p>⑤ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。</u></p> | <p>貢献できる人材を育成するために、以下の3つを本学のディプロマ・ポリシーとして設定する。</p> <p>① 医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。〔倫理観〕</p> <p>② 医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。〔探究心〕</p> <p>③ 医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。〔実践力〕</p> |
| <p>【資料10】 社会的背景から養成する人材像、<u>ディプロマ・ポリシーのつながり</u></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>【資料10】 社会的背景、養成する人材像、DPのつながり</p>                                                                                                                                                                                                          |
| <p>《22 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>《11 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| <p><b>1-5-4-2 令和健康科学大学（仮称）のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p><b>1-5-4-2 令和健康科学大学（仮称）のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                               |
| <p>本学では、ディプロマ・ポリシー達成のために、次の6つの方針（カリキュラム・ポリシー）で教育課程を編成する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>本学では、ディプロマ・ポリシー達成のために、次の6つの方針（カリキュラム・ポリシー）で教育課程を編成する。</p>                                                                                                                                                                                 |
| <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                                   |
| <p>② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。</p>                                                                                                                                                                    |
| <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって</u></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって</p>                                                                                                                                                                                             |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>持続可能な健康長寿社会の実現に向けて</u>、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に</u>開設する。</p> <p>《23 ページ》</p> <p><b>1-5-4-3 令和健康科学大学（仮称）のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>本学では、建学の精神・教育理念の下、カリキュラム・ポリシーに沿った学びを行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術を修得するために必要となる、次の5つの能力や態度・資質を備えた入学者を求める。</p> <p>① <u>健康及び医療に関心</u>をもち、深く学びたいという意欲のある者</p> <p>② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者</p> <p>③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者</p> <p>④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</p> <p>⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者</p> <p>《26 ページ》</p> | <p>臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ 各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-5-4-3 令和健康科学大学（仮称）のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>本学では、建学の精神・教育理念の下、カリキュラム・ポリシーに沿った学びを行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技術を修得するために必要となる、次の5つの能力や態度・資質を備えた入学者を求める。</p> <p>① 医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者</p> <p>② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者</p> <p>③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者</p> <p>④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者</p> <p>⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者</p> <p>《15 ページ》</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1-6-4 看護学部・看護学科における養成する人材像</b></p> <p>看護学部・看護学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をと</u>おして多様な対象者の抱える<u>個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師</u>」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> <p>《27 ページ》</p> <p><b>1-6-6 看護学部・看護学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科では、看護職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・看護に対応し医療チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できるとともに、地域医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍<u>する能力を有している</u>。</p> | <p><b>1-6-4 看護学部・看護学科における養成する人材像</b></p> <p>看護学部・看護学科の養成する人材像は「職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、根拠のある看護を専門職と協働し、生涯にわたって人格の涵養に努め、健康社会の実現に寄与する看護師」である。これに必要な能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> <p>《16 ページ》</p> <p><b>1-6-6 看護学部・看護学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科では、看護職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・看護に対応し医療チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できるとともに、地域医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</u></p> <p>《27 ページ》</p> <p><b>1-6-7 看護学部・看護学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科のカリキュラム・ポリシーは以下の6つである。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。</u></p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。</u></p> <p>《33 ページ》</p> <p><b>1-7-4 リハビリテーション学部の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育の目的を</p> | <p>⑥ 生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> <p>《16～17 ページ》</p> <p><b>1-6-7 看護学部・看護学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学部・看護学科のカリキュラム・ポリシーは以下の6つである。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨地実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《22 ページ》</p> <p><b>1-7-4 リハビリテーション学部の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育の目的を</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>踏まえ、人間の健康を科学し、健康長寿社会の実現に寄与することができる人材、すなわち、<u>「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的なリハビリテーションの探究と実践をとおりて対象者の生活の質（Quality of Life：QOL）の向上を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与するリハビリテーション専門職」</u>である。</p>                                                                           | <p>踏まえ、人間の健康を科学することができる人材、すなわち、「対象者を全人的に捉え、生命の尊厳を基盤とした倫理観のもと、保健・医療・福祉等の多様な場で、多くの専門職と連携・協働しながら、対象者の抱えるあらゆる健康課題をその個性に応じた科学的根拠に基づくリハビリテーション（EBR）の実践ができる理学療法士及び作業療法士のリーダーを育成する」ことに加えて、「生涯にわたりリハビリテーションを主体的に探究し、自己実現を目指す理学療法士及び作業療法士を育成する」こととする。</p>                                               |
| <p>《34～35 ページ》</p> <p><b>1-7-6-3 理学療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおりて基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>               | <p>《24 ページ》</p> <p><b>1-7-6-3 理学療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・理学療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の活用をとおりて、健康社会の実現に寄与する理学療法士</u>」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                                                             |
| <p>《36 ページ》</p> <p><b>1-7-6-5 理学療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>理学療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し、医療チームを構成する理学療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけて主体的に学修する態度を有している。</p> | <p>《25 ページ》</p> <p><b>1-7-6-5 理学療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>理学療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し、医療チームを構成する理学療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけて、主体的に学修する態度を有している。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>② <u>多様性のある</u>対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をとって広く社会に貢献する能力を有している。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の基本的動作能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。</u></p> <p>⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。</p>                         | <p>② 対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を活用する能力を有している。</p> <p>③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる理学療法が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥ 生涯にわたって理学療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                         |
| <p>《36～37 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>《26 ページ》</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p><b>1-7-6-6 理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p><b>1-7-6-6 理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ <u>対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培う</u>ために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                           | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                      |
| <p>《39 ページ》</p> <p><b>1-7-7-3 作業療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科の養成する人材像は「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をと</u>おして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、<u>持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p> | <p>《28 ページ》</p> <p><b>1-7-7-3 作業療法学科の養成する人材像</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科の養成する人材像は「<u>職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の活用をと</u>おして、健康社会の実現に寄与する作業療法士」である。これに必要となる能力を「倫理観」、「探究心」、「実践力」の3つのコンピテンシーに大別して以下に述べる。</p>                                           |
| <p>《40 ページ》</p> <p><b>1-7-7-5 作業療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>作業療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し医療チームを構成する作業療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につ</p>                     | <p>《29～30 ページ》</p> <p><b>1-7-7-5 作業療法学科におけるディプロマ・ポリシー</b></p> <p>作業療法学科では、リハビリテーション職として、対象者を全人的に捉え、急速に進歩している医療・リハビリテーションに対応し医療チームを構成する作業療法部門のリーダーとして活躍できるとともに、医療の向上に貢献できる人材を育成することを目的としており、所定の単位を修得した以下の6つの知識・能力を身につけた学生に学士（作業療法学）の学位を授与する。</p> <p>① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につ</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>け、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>② <u>多様性のある対象者の個別の健康課題</u>に対し、科学的根拠に基づく作業療法を<u>実践</u>する能力を有している。</p> <p>③ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、<u>作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をとおして広く社会に貢献する能力</u>を有している。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、<u>対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力</u>を有している。</p> <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養</u>を有している。</p> | <p>け、主体的に学修する態度を有している。</p> <p>② 対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を活用する能力を有している。</p> <p>③ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、広く社会に貢献できる作業療法が実践できる。</p> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力を有している。</p> <p>⑥ 生涯にわたって作業療法の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p>                                                                    |
| <p>《40～41 ページ》</p> <p><b>1-7-7-6 作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 専門的な視点から<u>捉えた作業の知識と応用技術</u>を身につけ、<u>対象者の応用的動作能力</u></p>                               | <p>《29～30 ページ》</p> <p><b>1-7-7-6 作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーにて教育課程を編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                                                                       | <p>にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                     |
| <p>《65～66 ページ》</p> <p><b>4-2-2 看護学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学科の教育課程編成においては、</p> <p>【中略】</p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化</u>する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習・臨床実習と関連させて学修する授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> | <p>《47～48 ページ》</p> <p><b>4-2-2 看護学科のカリキュラム・ポリシー</b></p> <p>看護学科の教育課程編成においては、</p> <p>【中略】</p> <p>以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                            | 旧                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4 年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p> | <p>⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4 年次にわたって臨地実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> |
| <p>《71～72 ページ》</p>                                                                                                                                                                           | <p>《52～53 ページ》</p>                                                                                                                                               |
| <p><b>4-2-4 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                       | <p><b>4-2-4 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                           |
| <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p>                                                                                                                | <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p>                                                                                    |
| <p>理学療法学科では学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p>                                                                                              | <p>理学療法学科では学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p>                                                                  |
| <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                                                   | <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p>                                                                                                       |
| <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p>                                                                                                                          | <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p>                                                                                              |
| <p>③ <u>多様化かつ高度化する医療</u>に対応するために、専門職連携教育を1～4 年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                                            | <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4 年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p>                                                                                       |
| <p>④ <u>対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を</u>培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p>                                                                                    | <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨</p>                                         |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>《77～78 ページ》</p> <p><b>4-2-6 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>《58～59 ページ》</p> <p><b>4-2-6 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p> <p>作業療法学科は学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ <u>多様化かつ高度化</u>する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな</p> | <p>教育課程は基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野に大別する。各授業科目は必修科目と選択科目とに分けられ、適切な年次に配当して編成する。</p> <p>作業療法学科は学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するため、以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。</p> <p>② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。</p> <p>③ 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。</p> <p>④ 課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。</p> <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を<u>基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野</u>に開設する。</p> <p>《124～125 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、<u>多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職である。</u>なお、ここでのいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「<u>幅広い職業人</u>」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《125～127 ページ》</p> <p><b>10-2-2 臨地実習計画の概要</b></p> <p>2) 臨地実習の段階と臨地実習内容</p> <p>看護学科の卒業要件単位は、基幹分野から必修科目16単位及び選択科目6単位（外国語系の選択必修科目2単位含む）以上、専門基礎分野から必修科目29単位及び選択科目3単位以</p> | <p>⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。</p> <p>⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。</p> <p>《101～102 ページ》</p> <p><b>10-2-1 基本方針</b></p> <p>本学の養成する人材像は、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備えた医療専門職である。なお、ここでのいう「医療専門職」は2005（平成17）年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」でいう「<u>高度専門職業人</u>」に該当すると捉えており、これに必要な能力は「倫理観」「探究心」「実践力」の3つのコンピテンシーに大別でき、それぞれが相互に作用しながら本学の養成する人材像へと繋がっていく。</p> <p>《103～105 ページ》</p> <p><b>10-2-2 臨地実習計画の概要</b></p> <p>2) 臨地実習の段階と臨地実習内容</p> <p>看護学科の卒業要件単位は、基幹分野から必修科目16単位及び選択科目6単位（外国語系の選択必修科目2単位含む）以上、専門基礎分野から必修科目29単位及び選択科目3単位以</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>上、専門分野から必修科目 73 単位及び選択科目 1 単位以上、合わせて 128 単位以上となる。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと科目の関係を資料に示す。</p> <div data-bbox="193 427 802 1081"> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑥ <u>自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。</u></p> </div> | <p>上、専門分野から必修科目 73 単位及び選択科目 1 単位以上、合わせて 128 単位以上となる。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと科目の関係を資料に示す。</p> <div data-bbox="828 427 1437 1081"> <p>① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。</p> <p>② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。</p> <p>③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。</p> <p>④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。</p> <p>⑥ 生涯にわたって看護の本質を主体的に探究し、人格の涵養に努め、自己実現を成し遂げることができる。</p> </div> |
| <p><b>【中略】</b></p> <p>次に、以下のディプロマ・ポリシーに関連する臨地実習について説明する。</p> <div data-bbox="193 1361 802 1552"> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍<u>する能力を有している。</u></p> </div>                                                                                                                                                                                                                                          | <p><b>【中略】</b></p> <p>次に、以下のディプロマ・ポリシーに関連する臨地実習について説明する。</p> <div data-bbox="828 1361 1437 1507"> <p>⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍できる。</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                           |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

5. 教育課程の編成においては、専門学校の授業と比較し、「幅広い知識と深い教養と総合的判断力を養うため、基幹分野を中心として大幅な科目増を行う」との説明がなされているが、具体的にどの授業科目が対応している科目なのか説明すること。また、これらの科目が移行理由として説明されている、「質の高い医療専門職の育成」「健康科学の学問的発展」「効果的な IPE」「一般教養科目群を拡充する」にどのように対応しているのか、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目を以下「表 1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧」にて示しています。科目を新しく追加しただけでなく、科目の時間数が増加した科目や科目内容をより充実させた科目も掲載しています。

専門学校から大学へと移行するに伴い、廃止した科目も一部存在しますが、専門学校と比較して、大学では看護学科で 46 科目・49 単位、理学療法学科で 64 科目・68 単位、作業療法学科では 64 科目・72 単位の科目・単位の増加や授業内容の充実がみられ、専門学校と比較して大幅な科目増・授業内容の充実がなされています。

また、増加した科目と専門学校からの 4 つの移行理由との関係を「表 2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表」にて示します。4 つの移行理由それぞれに対し増加した科目の対応がみられます。

表 1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧

|      | 看護学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 理学療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 作業療法学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②発達心理学 (1 単位・30 時間)、③ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、④経営学 (1 単位・15 時間)、⑤コミュニケーション論 (1 単位・15 時間)、⑥国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑦アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑧福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑨健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑩統計学 (1 単位・30 時間) ⑪生物学 (1 単位・30 時間)、⑫物理学 (1 単位・30 時間)、⑬英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑭韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑮韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②教育学 (1 単位・15 時間)、③発達心理学 (1 単位・30 時間)、④ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、⑤法学 (1 単位・15 時間)、⑥経営学 (1 単位・15 時間)、⑦社会学 (1 単位・15 時間)、⑧倫理学 (1 単位・15 時間)、⑨人間関係論 (1 単位・15 時間)、⑩国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑪文化人類学 (1 単位・15 時間)、⑫アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑬福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑭健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑮論理的思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療 | ①フレッシュャーズセミナー (1 単位・15 時間)、②教育学 (1 単位・15 時間)、③発達心理学 (1 単位・30 時間)、④ジェンダー論 (1 単位・15 時間)、⑤法学 (1 単位・15 時間)、⑥経営学 (1 単位・15 時間)、⑦社会学 (1 単位・15 時間)、⑧倫理学 (1 単位・15 時間)、⑨人間関係論 (1 単位・15 時間)、⑩国際関係論 (1 単位・15 時間)、⑪文化人類学 (1 単位・15 時間)、⑫アジアの文学 (1 単位・15 時間)、⑬福岡の歴史と文化 (1 単位・15 時間)、⑭健康科学入門 (1 単位・15 時間)、⑮論理的思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 間)、⑯中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、⑰中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、⑱スポーツ理論(1単位・15時間)、⑲スポーツ実践(1単位・30時間)【19科目・19単位・435時間】                                                                                                                                                                                                                      | 英語)(1単位・30時間)、⑱英語Ⅱ(医療文献読解)(1単位・30時間)、⑲韓国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、⑳韓国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉑中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉒中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉓スポーツ理論(1単位・15時間)、㉔スポーツ実践(1単位・30時間)【24科目・24単位・480時間】                                                                                                                                                                                                                        | 英語)(1単位・30時間)、⑱英語Ⅱ(医療文献読解)(1単位・30時間)、⑲韓国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉑韓国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉒中国語Ⅰ(日常会話)(1単位・30時間)、㉓中国語Ⅱ(医療会話)(1単位・30時間)、㉔スポーツ理論(1単位・15時間)、㉕スポーツ実践(1単位・30時間)【24科目・24単位・480時間】                                                                                                                                                                                                                        |
| 専門基礎分野 | ①放射線医学(1単位・15時間)、②感染症看護(1単位・15時間)、③食事療法学(1単位・15時間)、④リハビリテーション概論(1単位・15時間)、⑤健康科学医療論(1単位・15時間)、⑥看護統計学(1単位・15時間)、⑦保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑧家族看護論(1単位・15時間)、⑨カウンセリング論(1単位・15時間)、⑩専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑪専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、⑫専門職連携教育Ⅲ(専門職連携における尊重)(1単位・30時間)、⑬専門職連携教育Ⅳ(専門職連携教育における協働)(1単位・30時間)【13科目・14単位・270時間】 | ①解剖学実習(1単位・45時間)、②生理学実習(1単位・45時間)、③運動生理学(1単位・15時間)、④内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑤神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑥整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑦精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑧小児科学(1単位・30時間)、⑨老年学(1単位・30時間)、⑩救急救命医学(1単位・15時間)、⑪公衆衛生学(1単位・30時間)、⑫医療危機管理論(1単位・30時間)、⑬栄養学(1単位・15時間)、⑭薬理学(1単位・15時間)、⑮医用画像診断学(1単位・15時間)、⑯ケアマネジメント論(1単位・15時間)、⑰カウンセリング論(1単位・15時間)、⑱保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、㉑ | ①解剖学実習(1単位・45時間)、②生理学実習(1単位・45時間)、③運動生理学(1単位・15時間)、④内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑤神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑥整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑦精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)、⑧小児科学(1単位・30時間)、⑨老年学(1単位・30時間)、⑩救急救命医学(1単位・15時間)、⑪公衆衛生学(1単位・30時間)、⑫医療危機管理論(1単位・30時間)、⑬栄養学(1単位・15時間)、⑭薬理学(1単位・15時間)、⑮医用画像診断学(1単位・15時間)、⑯ケアマネジメント論(1単位・15時間)、⑰カウンセリング論(1単位・15時間)、⑱保健医療福祉制度論(2単位・30時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ(専門職連携の基礎)(1単位・30時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ(専門職連携の構築)(1単位・30時間)、㉑ |



|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、②専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【22科目・23単位・555時間】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）、②専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1単位・30時間）【21科目・22単位・555時間】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 専門分野 | ①看護倫理（1単位・15時間）、②地域看護学概論（2単位・30時間）、③地域看護学援助論（1単位・30時間）、④地域看護学演習（1単位・30時間）、⑤地域看護学実習（1単位・45時間）、⑥がん看護学（1単位・15時間）、⑦認知症看護論（1単位・15時間）、⑧認知症老年看護学実習（1単位・45時間）、⑨看護臨床推論（1単位・15時間）、⑩看護職のキャリア出発とキャリアデザイン（1単位・15時間）、⑪看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム（1単位・15時間）、⑫災害看護初期対応（1単位・15時間）、⑬高度先進医療看護学（1単位・15時間）、⑭卒業研究（2単位・60時間）【14科目・16単位・300時間】 | ①バイオメカニクス（1単位・15時間）、②病態運動学（1単位・30時間）、③基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）（1単位・30時間）、④基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）（1単位・30時間）、⑤医用画像評価学（1単位・15時間）、⑥理学療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦物理療法Ⅱ（1単位・30時間）、⑧理学療法技術学Ⅰ（総論）（2単位・30時間）、⑨理学療法技術学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）、⑩高次脳機能障害学（1単位・15時間）、⑪疼痛理学療法学（1単位・15時間）、⑫福祉住環境論（1単位・15時間）、⑬予防理学療法学（1単位・15時間）、⑭高度先進医療論（1単位・15時間）、⑮基礎臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑯検査測定臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑰卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）（2単位・60時間）、⑱卒業研究Ⅱ（研究の実践）（2単位・60時間）【18科目・21単位・495時間】 | ①作業科学（1単位・15時間）、②作業療法理論（1単位・15時間）、③作業療法研究法（1単位・30時間）、④精神機能評価学演習（1単位・30時間）、⑤発達期評価学演習（1単位・30時間）、⑥作業療法臨床推論（1単位・15時間）、⑦生活行為向上マネジメント（2単位・30時間）、⑧発達期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑨高齢期作業療法学演習（1単位・30時間）、⑩摂食・嚥下作業療法（1単位・15時間）、⑪感覚統合療法（1単位・15時間）、⑫認知症作業療法（1単位・15時間）、⑬リハビリテーション工学（1単位・15時間）、⑭作業療法特論（1単位・15時間）、⑮ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）、⑯職業リハビリテーション（1単位・15時間）、⑰総合臨床実習Ⅲ（6単位・270時間）、⑱卒業研究（1単位・30時間）、⑲卒業研究演習（2単位・60時間）【19科目・26単位・690時間】 |

表 2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表

|        | 「質の高い医療専門職の育成」                                                                                                                                                                                               | 「健康科学の学問的発展」                                                                                                                          | 「効果的な IPE」                                                                                                                              | 「一般教養科目群を拡充する」                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基幹分野   | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「国際関係論（1単位・15時間）」、「アジアの文学（1単位・15時間）」、「福岡の歴史と文化（1単位・15時間）」により多様性のある対象者を理解するための教養を身につけるための科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。                                          | 「健康科学入門（1単位・15時間）」、「統計学（1単位・30時間）」、「スポーツ理論（1単位・15時間）」、「スポーツ実践（1単位・30時間）」により健康を科学し、科学的に根拠を導く方法を身につけるための科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。 | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「経営学（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「人間関係論（1単位・15時間）」によりチームでの協調性を養うための幅広い知識を身につけるための科目を開設したことで「効果的な IPE」に対応させている。 | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単位・15時間）、法学（1単位・15時間）、経営学（1単位・15時間）、国際関係論（1単位・15時間）等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。 |
| 専門基礎分野 | 看護学部では「放射線医学（1単位・15時間）」、「感染症看護（1単位・15時間）」、「食事療法学（1単位・15時間）」、「リハビリテーション概論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「内科学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理 | 看護学部では「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「看護統計学（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理            | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育            | 科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。看護学部では「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「家族看護論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「カウ                                                                                                          |

|      |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 位・30時間)」、「神経内科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「整形外科Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「小児科学(1単位・30時間)」、「老年学(1単位・30時間)」、「救急救命医学(1単位・15時間)」、等の医学の基礎となる科目を開設・増設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。                                    | 学(1単位・15時間)」、「医用画像診断学(1単位・15時間)」等で研究分野のうち基礎研究に該当する知識を修得し、研究の素材やテーマの知識を身につけることで「健康科学の学問的発展」に対応させている。                                                                                               | IV(専門職連携教育における協働)(1単位・30時間)」を開設したことで「効果的なIPE」に対応させている。                                                                                                  | ンセリング(1単位・15時間)」、「保健医療福祉制度論(2単位・30時間)」等の保健・医療・福祉にかかる幅広い科目を開設することで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。                                                                                           |
| 専門分野 | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論(1単位・15時間)」、「理学療法臨床推論(1単位・15時間)」、「作業療法臨床推論(1単位・15時間)」等を開設することで、クリティカルシンキング(考える力)を身につけ、「高度先進医療看護学(1単位・15時間)」、「高度先進医療論(1単位・15時間)」、「作業療法特論(1単位・15時間)」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育 | 基幹分野・専門基礎分野に連なり専門分野では研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門(1単位・15時間)」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論(1単位・15時間)」を開設したこと(看護学部)、一般臨床医学系の時間数を増大したこと(リハビリテーション学部)、専門分野では卒業研究科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。 | 全ての臨地実習・臨床実習を履修した後の4年後期に「専門職連携教育IV(専門職連携教育における協働)」開設したことで、臨地実習・臨床実習で経験してきた実践力を統合させ、卒後の専門職連携協働(IPW)へ円滑に実践することをねらいとしている。このように臨床実習と関連させて「効果的なIPE」に対応させている。 | 看護学科では「看護倫理(1単位・15時間)」、理学療法学科では「バイオメカニクス(1単位・15時間)」、「病態運動学(1単位・30時間)」、作業療法学科では「作業科学(1単位・15時間)」、「リハビリテーション工学(1単位・15時間)」により各専門分野科目群を学ぶ上で必要となる基礎的な教養科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。 |

|             |  |  |  |
|-------------|--|--|--|
| 成」に対応させている。 |  |  |  |
|-------------|--|--|--|

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 《43～48 ページ》                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  | 【新規】 |
| 1-8-2-4 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |
| 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目を以下「表1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧」にて示す。科目を新しく追加しただけでなく、科目の時間数が増加した科目や科目内容をより充実させた科目も掲載する。                                    |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |
| 専門学校から大学へと移行するに伴い、廃止した科目も一部存在するものの、専門学校と比較して、大学では看護学科で46科目・49単位、理学療法学科で64科目・68単位、作業療法学科では64科目・72単位の科目・単位の増加や授業内容の充実がみられ、専門学校と比較して大幅な科目増・授業内容の充実がなされている。 |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |
| 表1. 各学科における専門学校と比較して大学で増加した科目一覧                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |
|                                                                                                                                                         | 看護学科                                                                                                                                                                                                                                                          | 理学療法学科                                                                                                                                                                                                                                                           | 作業療法学科                                                                                                                                                                                                                                                           |      |
| 基<br>幹<br>分<br>野                                                                                                                                        | ①フレッシュャーズセミナー（1単位・15時間）、<br>②発達心理学（1単位・30時間）、③ジェンダー論（1単位・15時間）、<br>④経営学（1単位・15時間）、⑤コミュニケーション論（1単位・15時間）、⑥国際関係論（1単位・15時間）、⑦アジアの文学（1単位・15時間）、⑧福岡の歴史と文化（1単位・15時間）、<br>⑨健康科学入門（1単位・15時間）、⑩統計学（1単位・30時間）⑪生物学（1単位・30時間）、⑫物理学（1単位・30時間）、⑬英語II（医療文献読解）（1単位・30時間）、⑭韓国語 | ①フレッシュャーズセミナー（1単位・15時間）、<br>②教育学（1単位・15時間）、③発達心理学（1単位・30時間）、④ジェンダー論（1単位・15時間）、⑤法学（1単位・15時間）、⑥経営学（1単位・15時間）、⑦社会学（1単位・15時間）、<br>⑧倫理学（1単位・15時間）、⑨人間関係論（1単位・15時間）、⑩国際関係論（1単位・15時間）、⑪文化人類学（1単位・15時間）、⑫アジアの文学（1単位・15時間）、⑬福岡の歴史と文化（1単位・15時間）、<br>⑭健康科学入門（1単位・15時間）、⑮論理的 | ①フレッシュャーズセミナー（1単位・15時間）、<br>②教育学（1単位・15時間）、③発達心理学（1単位・30時間）、④ジェンダー論（1単位・15時間）、⑤法学（1単位・15時間）、⑥経営学（1単位・15時間）、⑦社会学（1単位・15時間）、<br>⑧倫理学（1単位・15時間）、⑨人間関係論（1単位・15時間）、⑩国際関係論（1単位・15時間）、⑪文化人類学（1単位・15時間）、⑫アジアの文学（1単位・15時間）、⑬福岡の歴史と文化（1単位・15時間）、<br>⑭健康科学入門（1単位・15時間）、⑮論理的 |      |
|                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |

| 新      |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門基礎分野 | <p>I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑮韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、⑯中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑰中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、⑱スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、⑲スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【19 科目・19 単位・435 時間】</p>                                                                                                    | <p>思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療英語) (1 単位・30 時間)、⑱英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑲韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑳韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉑中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、㉒中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉓スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、㉔スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【24 科目・24 単位・480 時間】</p>       | <p>思考法 (1 単位・15 時間)、⑯生物学 (1 単位・30 時間)、⑰英語 I (医療英語) (1 単位・30 時間)、⑱英語 II (医療文献読解) (1 単位・30 時間)、⑲韓国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、⑳韓国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉑中国語 I (日常会話) (1 単位・30 時間)、㉒中国語 II (医療会話) (1 単位・30 時間)、㉓スポーツ理論 (1 単位・15 時間)、㉔スポーツ実践 (1 単位・30 時間)【24 科目・24 単位・480 時間】</p>       |
|        | <p>①放射線医学 (1 単位・15 時間)、②感染症看護 (1 単位・15 時間)、③食事療法学 (1 単位・15 時間)、④リハビリテーション概論 (1 単位・15 時間)、⑤健康科学医療論 (1 単位・15 時間)、⑥看護統計学 (1 単位・15 時間)、⑦保健医療福祉制度論 (2 単位・30 時間)、⑧家族看護論 (1 単位・15 時間)、⑨カウンセリング論 (1 単位・15 時間)、⑩専門職連携教育 I (専門職連携の基礎) (1 単位・30 時間)、⑪専門職連携教育 II (専門職連携の構築) (1 単位・30 時間)</p> | <p>①解剖学実習 (1 単位・45 時間)、②生理学実習 (1 単位・45 時間)、③運動生理学 (1 単位・15 時間)、④内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑤神経内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑥整形外科 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑦精神医学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑧小児科学 (1 単位・30 時間)、⑨老年学 (1 単位・30 時間)、⑩救急救命医学 (1 単位・15 時間)、⑪公衆衛生学 (1 単位・30 時間)、⑫医療危機管理論 (1 単位・30 時間)</p> | <p>①解剖学実習 (1 単位・45 時間)、②生理学実習 (1 単位・45 時間)、③運動生理学 (1 単位・15 時間)、④内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑤神経内科学 II (各論) (1 単位・30 時間)、整形外科 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑥精神医学 II (各論) (1 単位・30 時間)、⑦小児科学 (1 単位・30 時間)、⑧老年学 (1 単位・30 時間)、⑨救急救命医学 (1 単位・15 時間)、⑩公衆衛生学 (1 単位・30 時間)、⑪医療危機管理論 (1 単位・30 時間)、</p> |

| 新    |                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>位・30 時間)、⑫専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1 単位・30 時間)、⑬専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1 単位・30 時間)【13 科目・14 単位・270 時間】</p>                                                                                             | <p>時間)、⑬栄養学（1 単位・15 時間)、⑭薬理学（1 単位・15 時間)、⑮医用画像診断学（1 単位・15 時間)、⑯ケアマネジメント論（1 単位・15 時間)、⑰カウンセリング論（1 単位・15 時間)、⑱保健医療福祉制度論（2 単位・30 時間)、⑲専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1 単位・30 時間)、⑳専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1 単位・30 時間)、㉑専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1 単位・30 時間)、㉒専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1 単位・30 時間)【22 科目・23 単位・555 時間】</p> | <p>⑫栄養学（1 単位・15 時間)、⑬薬理学（1 単位・15 時間)、⑭医用画像診断学（1 単位・15 時間)、⑮ケアマネジメント論（1 単位・15 時間)、⑯カウンセリング論（1 単位・15 時間)、⑰保健医療福祉制度論（2 単位・30 時間)、⑱専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1 単位・30 時間)、⑲専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（1 単位・30 時間)、⑳専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1 単位・30 時間)、㉑専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）（1 単位・30 時間)【21 科目・22 単位・555 時間】</p> |
| 専門分野 | <p>①看護倫理（1 単位・15 時間)、②地域看護学概論（2 単位・30 時間)、③地域看護学援助論（1 単位・30 時間)、④地域看護学演習（1 単位・30 時間)、⑤地域看護学実習（1 単位・45 時間)、⑥がん看護学（1 単位・15 時間)、⑦認知症看護論（1 単位・15 時間)、⑧認知症老年看護学実習（1 単位・45 時間)、⑨看護臨床推論（1 単位・15 時間)、⑩看護職のキ</p> | <p>①バイオメカニクス（1 単位・15 時間)、②病態運動学（1 単位・30 時間)、③基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）（1 単位・30 時間)、④基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）（1 単位・30 時間)、⑤医用画像評価学（1 単位・15 時間)、⑥理学療法臨床推論（1 単位・15 時間)、⑦物理療法Ⅱ（1 単位・30 時間)、⑧理学療法技術学Ⅰ（総論）（2 単</p>                                                                                                  | <p>①作業科学（1 単位・15 時間)、②作業療理理論（1 単位・15 時間)、③作業療法研究法（1 単位・30 時間)、④精神機能評価学演習（1 単位・30 時間)、⑤発達期評価学演習（1 単位・30 時間)、⑥作業療法臨床推論（1 単位・15 時間)、⑦生活行為向上マネジメント（2 単位・30 時間)、⑧発達期作業療法学演習（1 単位・30 時間)、⑨高齢期作業療法</p>                                                                                               |

| 新                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>キャリア出発とキャリアデザイン（1単位・15時間）、⑪看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム（1単位・15時間）、⑫災害看護初期対応（1単位・15時間）、⑬高度先進医療看護学（1単位・15時間）、⑭卒業研究（2単位・60時間）【14科目・16単位・300時間】</p> | <p>位・30時間）、⑨理学療法技術学Ⅱ（各論）（1単位・15時間）、⑩高次脳機能障害学（1単位・15時間）、⑪疼痛理学療法（1単位・15時間）、⑫福祉住環境論（1単位・15時間）、⑬予防理学療法（1単位・15時間）、⑭高度先進医療論（1単位・15時間）、⑮基礎臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑯検査測定臨床実習Ⅱ（1単位・45時間）、⑰卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）（2単位・60時間）、⑱卒業研究Ⅱ（研究の実践）（2単位・60時間）【18科目・21単位・495時間】</p> | <p>学演習（1単位・30時間）、⑩摂食・嚥下作業療法（1単位・15時間）、⑪感覚統合療法（1単位・15時間）、⑫認知症作業療法（1単位・15時間）、⑬リハビリテーション工学（1単位・15時間）、⑭作業療法特論（1単位・15時間）、⑮ヘルスプロモーション作業療法学（1単位・15時間）、⑯職業リハビリテーション（1単位・15時間）、⑰総合臨床実習Ⅲ（6単位・270時間）、⑱卒業研究（1単位・30時間）、⑲卒業研究演習（2単位・60時間）【19科目・26単位・690時間】</p> |   |

### 1-8-2-5 大学で増加した科目と移行理由の対応表

増加した科目と専門学校からの4つの移行理由との関係を「表2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表」にて示す。4つの移行理由それぞれに対し増加した科目の対応がみられる。

表2. 大学で増加した科目と移行理由の対応表

|                  | 「質の高い医療専門職の育成」                                                   | 「健康科学の学問的発展」                                                       | 「効果的な IPE」                                                            | 「一般教養科目群を拡充する」                                                   |
|------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 基<br>幹<br>分<br>野 | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「国際関係論（1単位・15時間）」、「アジア | 「健康科学入門（1単位・15時間）」、「統計学（1単位・30時間）」、「スポーツ理論（1単位・15時間）」、「スポーツ実践（1単位・ | 「ジェンダー論（1単位・15時間）」、「経営学（1単位・15時間）」、「コミュニケーション論（1単位・15時間）」、「人間関係論（1単位・ | 各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、幅広く多様性に富む適応性を高めるため、発達心理学（1単位・30時間）、ジェンダー論（1単 |

| 新      |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                             | 旧 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|        | <p>の文学（1単位・15時間）、「福岡の歴史と文化（1単位・15時間）」により多様性のあ<br/>る対象者を理解するための教養を身につけるための科目を開設したこと<br/>で「質の高い医療専門職の育成」に<br/>対応させている。</p>                          | <p>30時間）」により健康を科学し、科学的に根拠を導く方法を身につけるための科目を開設したことで「健康科学の学問的発展」に対応させている。</p>                                                                          | <p>15時間）」によりチームでの協調性を養うための幅広い知識を身につけるための科目を開設したことで「効果的な IPE」に対応させている。</p>                                                                            | <p>位・15時間)、法学（1単位・15時間)、経営学（1単位・15時間)、国際関係論（1単位・15時間)等を基幹分野に開設したこと、保健・医療・福祉分野を幅広く学修するため、「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「カウンセリング論（1単位・15時間）」等の医療関連科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p> |   |
| 専門基礎分野 | <p>看護学部では「放射線医学（1単位・15時間）」、「感染症看護（1単位・15時間）」、「食事療法学（1単位・15時間）」、「リハビリテーション概論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「内科学Ⅱ（各論）（1単位・30時間）」、「神経内科学Ⅱ（各論）」</p> | <p>看護学部では「健康科学医療論（1単位・15時間）」、「看護統計学（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「公衆衛生学（1単位・30時間）」、「医療危機管理論（1単位・30時間）」、「栄養学（1単位・15時間）」、「薬理学（1単位・15時間）」、「医用画像</p> | <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」（1単位・30時間）、「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（1単位・30時間）」、「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携教育における協働）」</p> | <p>科目を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。看護学部では「保健医療福祉制度論（2単位・30時間）」、「家族看護論（1単位・15時間）」等の科目を開設し、リハビリテーション学部では「ケアマネジメント論（1単位・15時間）」、「カウンセリング（1単位・15時</p>                             |   |



| 新    |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                            | 旧 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|      | <p>(1単位・30時間)」、「整形外科学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「精神医学Ⅱ(各論)(1単位・30時間)」、「小児科学(1単位・30時間)」、「老年学(1単位・30時間)」、「救急救命医学(1単位・15時間)」、等の医学の基礎となる科目を開設・増設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。</p> | <p>診断学(1単位・15時間)」等で研究分野のうち基礎研究に該当する知識を修得し、研究の素材やテーマの知識を身につけることで「健康科学の学問的発展」に対応させている。</p>                                                             | <p>(1単位・30時間)」を開設したことで「効果的なIPE」に対応させている。</p>                                                                                                         | <p>間)」、「保健医療福祉制度論(2単位・30時間)」等の保健・医療・福祉にかかる幅広い科目を開設することで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p>                                                                           |   |
| 専門分野 | <p>各専門職の養成にかかる指定規則に加えて、「看護臨床推論(1単位・15時間)」、「理学療法臨床推論(1単位・15時間)」、「作業療法臨床推論(1単位・15時間)」等を開設することで、クリティカルシンキング(考える力)を身につけ、「高度先進医療看護学(1単位・15時間)」、「高度先進医療論</p>             | <p>基幹分野・専門基礎分野に連なり専門分野では研究と臨床との接点を学ぶ。すなわち、各指定規則に加えて、基幹分野の「健康科学入門(1単位・15時間)」を開設したこと、専門基礎分野の「健康科学医療論(1単位・15時間)」を開設したこと(看護学部)、一般臨床医学系の時間数を増大したこと(リハ</p> | <p>全ての臨地実習・臨床実習を履修した後の4年後期に「専門職連携教育Ⅳ(専門職連携教育における協働)」開設したことで、臨地実習・臨床実習で経験してきた実践力を統合させ、卒後の専門職連携協働(IPW)へ円滑に実践することをねらいとしている。このように臨床実習と連携させて「効果的なIPE」</p> | <p>看護学科では「看護倫理(1単位・15時間)」、理学療法学科では「バイオメカニクス(1単位・15時間)」、「病態運動学(1単位・30時間)」、作業療法学科では「作業科学(1単位・15時間)」、「リハビリテーション工学(1単位・15時間)」により各専門分野科目群を学ぶ上で必要となる基礎的な教養科目</p> |   |

| 新 |                                                                                      |                                                             |                  |                                      | 旧 |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------|---|
|   | <p>(1単位・15時間)」、「作業療法特論(1単位・15時間)」を履修させ、最新の知見を学ぶ科目を開設したことで「質の高い医療専門職の育成」に対応させている。</p> | <p>ビリテーション学部)、専門分野では卒業研究科目を開設したことで「健康科学の学問的发展」に対応させている。</p> | <p>に対応させている。</p> | <p>を開設したことで「一般教養科目群の拡充」に対応させている。</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

6. 履修モデルの説明において、履修に当たっての選択科目の考え方として、3つのモデルが示されているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係性が明らかではなく、また、3つのモデルに分ける趣旨や養成する人材像の違いなどが明らかなでないことから、具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

履修モデルの説明における3つは、選択科目の考え方を例示しているもので、学生が3つのうちから選択するものではありません。その上で作業療法学科では、国際支援や被災地支援、起業等の多岐にわたる活躍の場を開拓する人材を育成することを趣旨とした「新分野開拓履修モデル（新分野系）」、発達期及び老年期における作業療法および関連領域の特殊な知識・技術を身につけて活躍する人材を育成することを趣旨とした「特殊技術履修モデル（医療系）」、地域性を活かし、その地域に住む人々が生涯にわたり仕事等の意味や価値のある生活行為をもって生活する社会の実現を目指す人材を育成することを趣旨とした「地域創生履修モデル（地域系）」3つを例示しました。

(1) 履修モデルと養成する人材像の関係性

新分野開拓履修モデル（新分野系）は、作業療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士」の下線部分に紐づいており、幅広い職業人という観点から質の高い人材を育成することを想定しています。

特殊技術履修モデル（医療系）は、作業療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士」の下線部分に紐づいており、多様化かつ高度化する地域医療において、作業療法士の専門性を発揮することでチームに貢献できる人材を育成することを想定しています。

地域創生履修モデル（地域系）は、作業療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士」の下線部分に紐づいており、臨床で活躍する人材のみならず、教育・研究領域で次世代への継承や理学療法の更なる発展に貢献できる人材を育成することを想定しています。

(2) 履修モデルとディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関係性

また、ディプロマ・ポリシー（以下、DP とします。）やカリキュラム・ポリシー（以下、CP とします。）との主な関連性について説明します。

新分野開拓履修モデル（新分野系）は作業療法学科の DP にある「多様化かつ高度化する医療において、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。」に紐づいています。DP を達成するための CP として、作業療法学科の CP にある「専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術

を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。」及び「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」に紐づいています。

特殊技術履修モデル（医療系）は作業療法学科の DP にある「多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。」及び「価値のある作業をとおし、人々を健康にできる作業療法が実践できる。」に紐づいています。DP を達成するための CP として、作業療法学科の CP にある「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。」及び「作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を 1～4 年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」に紐づいています。

地域創生履修モデル（地域系）は作業療法学科の DP にある「価値のある作業をとおし、人々を健康にできる作業療法が実践できる。」及び「多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。」に紐づいています。DP を達成するための CP として、作業療法学科の CP にある「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。」及び「専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。」に紐づいています。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《102～106 ページ》</p> <p>1) 新分野開拓履修モデル（新分野系）</p> <p>この履修モデルは、作業療法における新分野を開拓するための基礎的知識とその方法論を学修し、【中略】</p> <p><u>この履修モデルは、作業療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおし、応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士」の下線部分に紐づいており、幅広い職業人という観点から質の高い人材を育</u></p> | <p>《82～83 ページ》</p> <p>1) 新分野開拓履修モデル（新分野系）</p> <p>この履修モデルは、作業療法における新分野を開拓するための基礎的知識とその方法論を学修し、【中略】</p> <p>基幹分野では【中略】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 旧                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>成することを想定している。</p> <p><u>ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの主な関連性については作業療法学科のディプロマ・ポリシーにある「多様化かつ高度化する医療において、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。」及び「自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。」に紐づいている。ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーとして、作業療法学科のカリキュラム・ポリシーにある「専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。」及び「探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。」に紐づいている。</u></p> <p>基幹分野では【中略】</p> <p>2) 特殊技術履修モデル（医療系）</p> <p>この履修モデルは、発達期及び老年期における作業療法および関連領域の特殊な知識・技術を身につけることを目的とし、【中略】</p> <p><u>この履修モデルは、作業療法学科の養成する人材像にある「多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士」の下線部分に紐づいており、多様化かつ高度化する地域医療において、作業</u></p> | <p>2) 特殊技術履修モデル（医療系）</p> <p>この履修モデルは、発達期及び老年期における作業療法および関連領域の特殊な知識・技術を身につけることを目的とし、【中略】</p> <p>基幹分野では【中略】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p>療法士の専門性を発揮することでチームに貢献できる人材を育成することを想定している。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの主な関連性については、作業療法学科のディプロマ・ポリシーにある「多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。」及び「価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。」に紐づいている。ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーとして、作業療法学科のカリキュラム・ポリシーにある「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。」及び「作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。」に紐づいている。</p> <p>基幹分野では【中略】</p> <p>3) 地域創生履修モデル（地域系）</p> <p>この履修モデルでは、地域の特性を活かし、【中略】</p> <p>この履修モデルは、作業療法学科の養成する人材像にある「<u>多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士</u>」の下線部分に紐づいており、臨床で活躍する人材のみならず、教育・研究領域で次世代への継承や理学療法の更なる発展に貢献できる人材を育成することを想定している。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーやカリキュラ</p> | <p>3) 地域創生履修モデル（地域系）</p> <p>この履修モデルでは、地域の特性を活かし、【中略】</p> <p>基幹分野では【中略】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>ム・ポリシーとの主な関連性については、作業療法学科のディプロマ・ポリシーにある「価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。」及び「多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。」に紐づいています。ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーとして、作業療法学科のカリキュラム・ポリシーにある「多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と関連させて学修できる授業科目を開設する。」及び「専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する授業科目を専門分野に開設する。」に紐づいている。</p> <p>基幹分野では【中略】</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

7. 「医療の多様化と複雑化等の社会的背景を踏まえると、医療専門職には連携・協働の能力が必要である」こと等、医療専門職の連携に関する課題を大学設置の必要性の1つとして説明し、ディプロマ・ポリシーにおいても「多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、チームに貢献できる能力」を掲げているが、具体的な対応科目は専門職連携教育Ⅰ～Ⅳのみと見受けられることに加え、いずれも演習科目となっている。これらの科目のみで十分に目標を達成できるか不明確であるため、教育課程全体で医療専門職の連携に関する課題についてどのように対応するのか、具体的に説明すること。(是正事項)

本学の教育課程は「講義」→「演習」→「実習」という体系性により実践的な教育を展開しています。IPE 関連科目についても、全て演習科目ではありますが、一部は講義で伝達する内容も含まれており、更に、臨床実習とも関連させることで、本学の教育課程全体により「講義」→「演習」→「実習」という体系的な学びを考えています。また、IPE と臨床実習との関連は下記「表1. IPE と臨床実習の関連」の通りです。

専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）では、見学を主体とした基礎臨床実習と関連させ、早期臨床体験（early clinical exposure）を理学療法・作業療法の技術面だけでなく、専門職連携協働の一部分を見学することでイメージをつけることも目的としています。

専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）では、1年次に見学した実際場面を想起し、自身の今後の課題を見出し、学修のモチベーションにつなげることを授業のねらいとします。

専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）では、専門分野の学修の進行に伴い、各専門職の意見を議論し合う際に出会うジレンマを体験し、それを踏まえて評価実習等の実際的な臨床実習と関連させて学修します。

専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）では、全ての臨床実習を終えて、専門職連携教育（IPE）から専門職連携協働（IPW）へと移行するための基礎を培います。

表1. IPE と臨床実習の関連

|     | 1 年次 |      | 2 年次 |     | 3 年次 |           | 4 年次       |      |
|-----|------|------|------|-----|------|-----------|------------|------|
|     | 前期   | 後期   | 前期   | 後期  | 前期   | 後期        | 前期         | 後期   |
| PT  | 基礎Ⅰ  | 基礎Ⅱ  |      | 検測Ⅰ | 検測Ⅱ  | 地域<br>評価  | 総合Ⅰ<br>総合Ⅱ |      |
| OT  | 基礎   |      | 地域   |     |      | 評価<br>総合Ⅰ | 総合Ⅱ<br>総合Ⅲ |      |
| IPE |      | IPEⅠ | IPEⅡ |     | IPEⅢ |           |            | IPEⅣ |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                    | 旧                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 《83～84 ページ》<br><b>4-3-4 専門職連携教育の体系性について</b><br><b>(理学療法学科・作業療法学科)</b><br><u>本学の教育課程は「講義」→「演習」→「実</u> | 《64 ページ》<br><b>【新規】</b> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      |     |      | 旧   |      |      |            |    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|------|-----|------|------|------------|----|
| <p>習」という体系的により実践的な教育を展開している。IPE 関連科目についても、全て演習科目であるが、一部は講義で伝達する内容も含まれており、更に、臨床実習とも関連させることで、本学の教育課程全体により「講義」→「演習」→「実習」という体系的な学びを考えている。また、IPE と臨床実習との関連は下記「表 1. IPE と臨床実習の関連」の通りである。</p> <p>専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）では、見学を主体とした基礎臨床実習と関連させ、早期臨床体験（early clinical exposure）を理学療法・作業療法の技術面だけでなく、専門職連携協働の一部分を見学することでイメージをつけることも目的としている。</p> <p>専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）では、1 年次に見学した実際場面を想起し、自身の今後の課題を見出し、学修のモチベーションにつなげることを授業のねらいとする。</p> <p>専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）では、専門分野の学修の進行に伴い、各専門職の意見を議論し合う際に出会うジレンマを体験し、それを踏まえて評価実習等の実際的な臨床実習と関連させて学修する。</p> <p>専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）では、全ての臨床実習を終えて、専門職連携教育（IPE）から専門職連携協働（IPW）へと移行するための基礎を培う。</p> |      |     |      |     |      |      |            |    |
| 表 1. IPE と臨床実習の関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      |     |      |     |      |      |            |    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 1 年次 |     | 2 年次 |     | 3 年次 |      | 4 年次       |    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 前期   | 後期  | 前期   | 後期  | 前期   | 後期   | 前期         | 後期 |
| PT                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 基礎Ⅰ  | 基礎Ⅱ |      | 検測Ⅰ | 検測Ⅱ  | 地域評価 | 総合Ⅰ<br>総合Ⅱ |    |

| 新          |                        |                         |           |                          |                                    |                                                   | 旧 |  |
|------------|------------------------|-------------------------|-----------|--------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------|---|--|
| <u>OT</u>  | <u>基礎</u>              |                         | <u>地域</u> |                          | <u>評価</u><br><u>総合</u><br><u>I</u> | <u>総合</u><br><u>II</u><br><u>総合</u><br><u>III</u> |   |  |
| <u>IPE</u> | <u>IPE</u><br><u>I</u> | <u>IPE</u><br><u>II</u> |           | <u>IPE</u><br><u>III</u> |                                    | <u>IPE</u><br><u>IV</u>                           |   |  |
|            |                        |                         |           |                          |                                    |                                                   |   |  |

## (是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

8. 専門職連携教育Ⅰ～Ⅳについては複数の教員が担当することとなっているが、主担当の教員や教員連携の在り方について不明確であるため、具体的に説明すること。また、全員が同時に参加できる施設・設備が備わっていないように見受けられるため、具体的な実施形態について詳細に説明すること。(是正事項)

## (対応)

専門職連携教育Ⅰ～Ⅳについて、主担当の教員はシラバス上で下線を附して明確にします。

教員連携の在り方については、授業の開講前に主担当教員が中心となって三学科の担当教員が合同で打ち合わせを行い、各教員の役割を検討・確認する。また、学生の様子などは適宜申し送りを行い、各学科の教員が当該学科に所属する学生の態度等を共有できるよう記録と伝達を行うこととしています。

また、220名が参加する専門職連携教育は大人数を一堂に会して授業する形式で行うことを原則とせず(発表会やオリエンテーション等の講義形式を除く)、教育効果が最大限に得られる人数を対象として複数回に分けて行う形式とします。

## ①講義形式の場合(主として専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ)

1号館5階の講堂あるいは2号館1階のメインホールにて実施します。

## ②演習形式の場合(主として専門職連携教育Ⅲ・Ⅳ)

グループワークや発表会等であれば全員を一堂に会して実施するため1号館5階の講堂あるいは2号館1階のメインホールを使用します。実技演習の必要がある場合は、2号館3階のシミュレーションセンターでデモンストレーションしている映像を各教室へ配信するか、または、教育効果を鑑みて幾つかのグループをユニットとして、当該ユニット単位で授業を複数回実施します。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《80～81 ページ》</p> <p><b>4-3 専門職連携教育</b></p> <p>教育の特色として掲げる専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)は、対象者の疾病のみに視点を注ぐのではなく、生活する人として全人的に捉えてケアするという「患者・利用者のための医療」の実現に向けて、<u>専門職間の連携能力を段階的に身につけることを目的とし、将来の専門職連携協働へと円滑に実践できるよう看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科合同による教育体系を編成している。</u></p> <p>1年次には、「看護学概論(1年前期・必修科目・2単位)」、「理学療法学概論(1年前期・必修科目・1単位)」、「作業療法学概論(1年</p> | <p>《62 ページ》</p> <p><b>4-3 専門職連携教育</b></p> <p>教育の特色として掲げる専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)は、対象者の疾病のみに視点を注ぐのではなく、生活する人として全人的に捉えてケアするという「患者・利用者のための医療」の実現に向けて、<u>専門職間の連携能力を段階的に身につけることを目的とし、将来の専門職連携協働へと円滑に実践できるよう看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科合同による教育体系を編成している。</u></p> <p>1年次には、「看護学概論(1年前期・必修科目・2単位)」、「理学療法学概論(1年前期・必修科目・1単位)」、「作業療法学概論(1年</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>前期・必修科目・2単位)」等で自職種について概要を理解し、看護学科の「生活援助実習（1年後期・必修科目・1単位）」、理学療法学科の「基礎臨床実習Ⅰ（1年前期・必修科目・1単位）」・「基礎臨床実習Ⅱ（1年後期・必修科目・1単位）」、作業療法学科の「基礎臨床実習（1年通年・必修科目・1単位）」をとおして、専門職としての倫理観や態度、基礎的な技術を体験的に身につける。これと並行して3学部に通に開設した、1年次の「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1年後期・必修科目・1単位）」では、専門職連携についての基本的な考え方や医療専門職の種類や機能を学び、2年次の「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（2年前期・必修科目・1単位）」では、専門職連携の根幹となるチーム医療・ケアの理念に基づいたチームを形成することを体験する。3年次の「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（3年前期・必修科目・1単位）」においては、各専門職種により生じるジレンマや意見の対立に対して、専門職連携協働の意義やチームの一員として果たす役割を探究することで、他専門職種を尊重することを学ぶ。4年次の「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）（4年後期・必修科目・1単位）」では、各専門職が対等な立場で協力して、患者・利用者を全人的にアセスメントし、チームでケア計画を立案することを学修する。</p> <p>本学の近隣には、グループ病院である福岡和白病院、香椎丘リハビリテーション病院、福岡新水巻病院があり、専門職連携教育Ⅱにおいて現職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等と連携を図る。臨地実習・臨床実習においては、上述の病院だけでなく、関連施設である株式会社シダー、NPO法人列島会、社会福祉法人あきの会が運営するデイケア・デイサービス施設等の介護・福祉関連施設との連携も積極的に実施していくことで、臨床と密接に連携した</p> | <p>前期・必修科目・2単位)」等で自職種について概要を理解し、看護学科の「生活援助実習（1年後期・必修科目・1単位）」、理学療法学科の「基礎臨床実習Ⅰ（1年前期・必修科目・1単位）」・「基礎臨床実習Ⅱ（1年後期・必修科目・1単位）」、作業療法学科の「基礎臨床実習（1年通年・必修科目・1単位）」をとおして、専門職としての倫理観や態度、基礎的な技術を体験的に身につける。これと並行して3学部に通に開設した、1年次の「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）（1年後期・必修科目・1単位）」では、専門職連携についての基本的な考え方や医療専門職の種類や機能を学び、2年次の「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）（2年前期・必修科目・1単位）」では、専門職連携の根幹となるチーム医療・ケアの理念に基づいたチームを形成することを体験する。3年次の「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）（3年前期・必修科目・1単位）」においては、各専門職種により生じるジレンマや意見の対立に対して、専門職連携協働の意義やチームの一員として果たす役割を探究することで、他専門職種を尊重することを学ぶ。4年次の「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）（4年後期・必修科目・1単位）」では、各専門職が対等な立場で協力して、患者・利用者を全人的にアセスメントし、チームでケア計画を立案することを学修する。</p> <p>本学の近隣には、グループ病院である福岡和白病院、香椎丘リハビリテーション病院、福岡新水巻病院があり、専門職連携教育Ⅱにおいて現職の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等と連携を図る。臨地実習・臨床実習においては、上述の病院だけでなく、関連施設である株式会社シダー、NPO法人列島会、社会福祉法人あきの会が運営するデイケア・デイサービス施設等の介護・福祉関連施設との連携も積極的に実施していくことで、臨床と密接に連携した</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p>独自の教育環境のもと専門職連携教育を展開する。</p> <p><u>また、220 名が参加する専門職連携教育は大人数を一堂に会して授業する形式で行うことを原則とせず（発表会やオリエンテーション等の講義形式を除く）、教育効果が最大限に得られる人数を対象として複数回に分けて行う形式としする。以下に、授業形態ごとの実施形態について説明する。</u></p> <p><b>【科目名】専門職連携教育 I ～IV</b></p> <p><u>①講義形式の場合（主として専門職連携教育 I ・ II ）</u></p> <p><u>1 号館 5 階の講堂あるいは 2 号館 1 階のメインホールにて実施する。</u></p> <p><u>②演習形式の場合（主として専門職連携教育 III ・ IV ）</u></p> <p><u>グループワークや発表会等であれば全員を一堂に会して実施するため 1 号館 5 階の講堂あるいは 2 号館 1 階のメインホールを使用する。実技演習の必要がある場合は、2 号館 3 階のシミュレーションセンターでデモンストレーションしている映像を各教室へ配信するか、または、教育効果を鑑みて幾つかのグループをユニットとして、当該ユニット単位で授業を複数回実施する。</u></p> <p>以下に年次ごとの科目構成とそれぞれの教育目的について学科ごとに記載する。</p> | <p>独自の教育環境のもと専門職連携教育を展開する。</p> <p>以下に年次ごとの科目構成とそれぞれの教育目的について学科ごとに記載する。</p> |

(新旧対照)

【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」

| 授 業 科 目 名          | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                       |
|--------------------|------|-----------------|-------|---------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 1 年後期 | <u>白石裕子</u> 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠<br>阿波那彦 <u>松本典久</u> 中山広宣 江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。 |       |         |       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
| 17. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる<br>18. チームビルディングの理論と実際について説明できる<br>19. 各医療専門職の種類と機能について説明できる<br>20. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる                                                                                   |       |         |       |
| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修                                                                                                                                                                                                                 |       |         |       |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする                                                                                                                                                                      |       |         |       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                          | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
|                                                                                                                                                                                                                                   | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                 | 内 容                                                  | 担当教員 |
|----|--------|---------------------|------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | オリエンテーション           | ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？<br>・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 国際疾病分類の理念           | ・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識1<br>・国際疾病分類（WHO ICF）の理念   | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | チーム医療とチームビルディング     | ・チーム医療のあり方、メンバーシップとは<br>・チームビルディングの理論と実際             | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | チームビルディングの実際        | チームを作り課題に取り組む（チームメンバー発表 自己紹介）                        | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームで討議              | 課題に対する評価（計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等）             | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | IPE の基礎             | ・IPE 展開のための基礎知識<br>・医療と福祉の接点                         | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能①        | 医師、放射線技師、管理栄養士の役割・教育・機能                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能②        | 看護師、薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能                               | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能③        | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能                          | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 医療福祉専門職間の連携         | 専門職連携の理論と実際                                          | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | <u>ふれあい体験学修</u> GW                                   | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | <u>ふれあい体験学修</u> GW                                   | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | ふれあい体験振り返り          | 体験学修を振り返り意見交換を行う 発表準備                                | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | グループ発表              | 各グループ発表                                              | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 総括                  | 自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる                        | 全員   |

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%)                     |
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

## 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）」

| 授 業 科 目 名          | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                         |
|--------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 1 年後期 | 白石裕子 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠<br>阿波那彦 野中紘士 中山広宣 江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。 |       |         |       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
| 21. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる<br>22. チームビルディングの理論と実際について説明できる<br>23. 各医療専門職の種類と機能について説明できる<br>24. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる                                                                                   |       |         |       |
| 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習                                                                                                                                                                                                                 |       |         |       |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする                                                                                                                                                                      |       |         |       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                          | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
|                                                                                                                                                                                                                                   | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元                 | 内 容                                                  | 担当教員 |
|----|--------|---------------------|------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | オリエンテーション           | ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？<br>・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 国際疾病分類の理念           | ・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識1<br>・国際疾病分類（WHO ICF）の理念   | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | チーム医療とチームビルディング     | ・チーム医療のあり方、メンバーシップとは<br>・チームビルディングの理論と実際             | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | チームビルディングの実際        | チームを作り課題に取り組む（チームメンバー発表 自己紹介）                        | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームで討議              | 課題に対する評価（計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等）             | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | IPE の基礎             | ・IPE 展開のための基礎知識<br>・医療と福祉の接点                         | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能①        | 医師、放射線技師、管理栄養士の役割・教育・機能                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能②        | 看護師、薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能                               | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 医療専門職の種類と機能③        | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能                          | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 医療福祉専門職間の連携         | 専門職連携の理論と実際                                          | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学習 GW                                          | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験 | ふれあい体験学習 GW                                          | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | ふれあい体験振り返り          | 体験学習を振り返り意見交換を行う 発表準備                                | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | グループ発表              | 各グループ発表                                              | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 総括                  | 自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる                        | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%) |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

| 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」                                                                                                                                                                                               |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                  | 授業形態                             | 単位数<br>(時間数)           | 配当年次                                                        | 担 当 教 員                                                                                               |
| 専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）                                                                                                                                                                                                         | 演習                               | 1 単位<br>(30 時間)        | 2 年前期                                                       | 白石裕子 田中裕二 竹元仁美 寺岡祥子 松本宗賢<br>池田敏子 岩倉真由美 開田ひとみ 弓岡光徳<br>溝田勝彦 永崎孝之 田中真一 阿波那彦 古後晴基<br>中山広宣 小西紀一 山根伸吾 江口喜久雄 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                    |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。 |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                    |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 1 1. ICF の概念を活用して事例の課題を抽出することができる<br>2 2. 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる<br>3 3. 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる<br>4 4. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる<br>5 5. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べることができる                     |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修                                                                                                                                                                                                          |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学修：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                         |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                   | (DP1)                            | (DP2)                  | (DP3)                                                       |                                                                                                       |
|                                                                                                                                                                                                                            | (DP4)                            | ◎ (DP5)                | (DP6)                                                       |                                                                                                       |
| 回数                                                                                                                                                                                                                         | 日程                               | 単 元                    | 内 容                                                         | 担当教員                                                                                                  |
| 1                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 授業ガイダンス                | 授業の概要 ICF（国際生活機能分類）について グループワークの進め方<br>教員紹介、自己紹介、学科紹介の検討・準備 | 全員                                                                                                    |
| 2                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 3                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 4                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 5                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | ICF に基づく仮題の明確化（アセスメント） | 事例紹介、事例についての検討<br>（ディスカッションに基づいた事例についての ICF を用いた課題抽出）       | 全員                                                                                                    |
| 6                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | 総合サービスの計画（計画立案）        | 事例についての検討（ディスカッションに基づいたグループでの目標設定、総合サービスの計画<br>作成、他職種の理解）   | 全員                                                                                                    |
| 7                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 8                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 9                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日                           | プレゼンテーション（実施）          | グループごとに中間発表 、意見交換                                           | 全員                                                                                                    |
| 10                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 11                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 12                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 13                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 14                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | プレゼンテーション（総括）          | 予選会で選ばれた 5 グループで全体発表を行う                                     | 全員                                                                                                    |
| 15                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日                           | 総合評価                   | 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する                                     | 全員                                                                                                    |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                        | 課題レポート（100%）                     |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                        | 講師資料                             |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                      |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                       |                                  |                        |                                                             |                                                                                                       |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                   | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |                        |                                                             |                                                                                                       |



| 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）」                                                                                                                                                                                               |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授 業 科 目 名                                                                                                                                                                                                                  | 授業形態         | 単位数<br>(時間数)           | 配当年次                                                        | 担 当 教 員                                                                                               |
| 専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）                                                                                                                                                                                                         | 演習           | 1 単位<br>(30 時間)        | 2 年前期                                                       | 白石裕子 田中裕二 竹元仁美 寺岡祥子 松本宗賢<br>池田敏子 岩倉真由美 開田ひとみ 弓岡光徳<br>溝田勝彦 永崎孝之 田中真一 阿波那彦 野中紘士<br>中山広宣 小西紀一 山根伸吾 江口喜久雄 |
| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                    |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。 |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 到 達 目 標                                                                                                                                                                                                                    |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 1 6. ICF の概念を活用して事例の課題を抽出することができる<br>1 7. 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる<br>1 8. 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる<br>1 9. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる<br>2 0. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べるができる                       |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習                                                                                                                                                                                                          |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                         |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 対応<br>DP                                                                                                                                                                                                                   | (DP1)        | (DP2)                  | (DP3)                                                       |                                                                                                       |
|                                                                                                                                                                                                                            | (DP4)        | ◎ (DP5)                | (DP6)                                                       |                                                                                                       |
| 回数                                                                                                                                                                                                                         | 日程           | 単 元                    | 内 容                                                         | 担当教員                                                                                                  |
| 1                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 授業ガイダンス                | 授業の概要 ICF（国際生活機能分類）について グループワークの進め方<br>教員紹介、自己紹介、学科紹介の検討・準備 | 全員                                                                                                    |
| 2                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 3                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 4                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 職種の学びの場                | 各学科の紹介（グループによる学科の巡回）、質疑応答                                   | 全員                                                                                                    |
| 5                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | ICF に基づく仮題の明確化（アセスメント） | 事例紹介、事例についての検討<br>（ディスカッションに基づいた事例についての ICF を用いた課題抽出）       | 全員                                                                                                    |
| 6                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | 総合サービスの計画（計画立案）        | 事例についての検討（ディスカッションに基づいたグループでの目標設定、総合サービスの計画作成、他職種の理解）       | 全員                                                                                                    |
| 7                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 8                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | チームビルディング（計画立案）        | 事例についての検討（発表資料の作成）<br>グループ内でのチームビルディングの検討                   | 全員                                                                                                    |
| 9                                                                                                                                                                                                                          | 月<br>日       | プレゼンテーション（実施）          | グループごとに中間発表 、意見交換                                           | 全員                                                                                                    |
| 10                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 11                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | 評価と修正（評価）              | 中間発表の意見に基づいた発表資料の修正                                         | 全員                                                                                                    |
| 12                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 13                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | プレゼンテーション（評価）          | グループに分けて予選会を行う                                              | 全員                                                                                                    |
| 14                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | プレゼンテーション（総括）          | 予選会で選ばれた 5 グループで全体発表を行う                                     | 全員                                                                                                    |
| 15                                                                                                                                                                                                                         | 月<br>日       | 総合評価                   | 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する                                     | 全員                                                                                                    |
| 評 価                                                                                                                                                                                                                        | 課題レポート（100%） |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 教科書                                                                                                                                                                                                                        | 講師資料         |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 参考図書等                                                                                                                                                                                                                      |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| 留意事項                                                                                                                                                                                                                       |              |                        |                                                             |                                                                                                       |
| オフィスアワー等                                                                                                                                                                                                                   |              |                        |                                                             |                                                                                                       |

【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|------|-----------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 3 年前期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香<br>岩倉真由美 中本亮 松井聡子 大村由紀美<br>八谷瑞紀 岡真一郎 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡太<br>岡本伸弘 松本典久 弓岡光徳 原田伸哉 坪内優太<br>中山広宣 田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾<br>江口喜久雄、角田孝行、太田研吾 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。 |

| 訓 達 目 標                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 1. 選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>1 2. チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる<br>1 3. チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる<br>1 4. 自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる<br>1 5. 他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる |

| 事前学修・事後学修                   |       |   |       |       |
|-----------------------------|-------|---|-------|-------|
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  |       |   |       |       |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習・まとめるをする |       |   |       |       |
| 対応<br>DP                    | (DP1) |   | (DP2) | (DP3) |
|                             | (DP4) | ◎ | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元           | 内 容                                      | 担当教員 |
|----|--------|---------------|------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 検討事例の決定       | チーム作り（自己紹介 チームリーダー選択 メンバーの役割決定）<br>事例の共有 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | 協働実施（計画立案）    | 看護、理学、作業の分野で実施する計画を討議する                  | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 実施            | シミュレーションで実施                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 評価            | 実施状況をビデオで振り返る。                           | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 専門職連携について全体討議 | 各グループ発表を通して全体で討議                         | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 患者の立場から       | 患者の立場からみた専門職連携の現状と課題                     | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 専門職連携の現状と課題   | 専門職連携の現状と課題                              | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 行政の役割         | 行政から見た専門職連携の必要性和課題                       | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携について     | まとめ                                      | 全員   |

| 評 価      | 課題レポート（100%）                     |
|----------|----------------------------------|
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）」

| 授業科目名                 | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|------|-----------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 3 年前期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香<br>岩倉真由美 中本亮 松井聡子 大村由紀美<br>八谷瑞紀 光武翼 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡太<br>岡本伸弘 野中嘉代子 大田瑞穂 原田伸哉 坪内優太<br>中山広宣 田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾<br>江口喜久雄、角田孝行、太田研吾 |

| 授業概要                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。 |

| 到達目標                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 6. 選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>1 7. チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる<br>1 8. チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる<br>1 9. 自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる<br>2 0. 他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる |

| 事前学習・事後学習                                                |
|----------------------------------------------------------|
| 事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む<br>事後学習：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする |

|    |       |         |       |
|----|-------|---------|-------|
| 対応 | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
| DP | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程     | 単 元           | 内 容                                      | 担当教員 |
|----|--------|---------------|------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 検討事例の決定       | チーム作り（自己紹介 チームリーダー選択 メンバーの役割決定）<br>事例の共有 | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | アセスメント        | 対象の情報を自職種の内容に基づいてアセスメントする                | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | 計画立案          | 情報を整理して、自職種に関した介入計画を立案する                 | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | 協働実施（計画立案）    | 看護、理学、作業の分野で実施する計画を討議する                  | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | 実施            | シミュレーションで実施                              | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | 評価            | 実施状況をビデオで振り返る。                           | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 事例に基づき検討      | 各 G の内容を発表する                             | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 専門職連携について全体討議 | 各グループ発表を通して全体で討議                         | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 患者の立場から       | 患者の立場からみた専門職連携の現状と課題                     | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 専門職連携の現状と課題   | 専門職連携の現状と課題                              | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 行政の役割         | 行政から見た専門職連携の必要性和課題                       | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携について     | まとめ                                      | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート（100%） |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

## 【新】シラバス 「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香 岩倉真由美<br>中本亮 松井聡子 大村由紀美 八谷瑞紀 岡真一郎<br>齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 松本典久<br>弓岡光徳 原田伸哉 坪内優太 近藤敏 中山広宣<br>田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾 近藤昭彦<br>江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                                    |       |         |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|
| 患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実践についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。 |       |         |       |
| 到達目標                                                                                                                                                                                                                                       |       |         |       |
| 1 1. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる<br>1 2. チームメンバーおよび関わる多様な専門職と、良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる<br>1 3. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>1 4. 患者への全人的評価に基づいた計画を、チームとして立案できる<br>1 5. 専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識をチーム計画に反映できる                        |       |         |       |
| 事前学修・事後学修                                                                                                                                                                                                                                  |       |         |       |
| 事前学修：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる                                                                                                                                                                                                        |       |         |       |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する                                                                                                                                                                                                           |       |         |       |
| 対応                                                                                                                                                                                                                                         | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |
| DP                                                                                                                                                                                                                                         | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程  | 単 元                | 内 容                                                      | 担当教員 |
|----|-----|--------------------|----------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月 日 | 授業概要               | 授業ガイダンス<br>事例を割り当ててグループを分ける                              | 全員   |
| 2  | 月 日 | 患者情報収集①            | 対象の背景の情報をカルテより情報収集を行い、患者、利用者から必要となる情報収集の内容（問診、身体所見）を整理する | 全員   |
| 3  | 月 日 | 患者情報収集②            | シミュレーション下で患者（シミュレーター or 模擬患者）から情報収集を行う。                  | 全員   |
| 4  | 月 日 | 自職種のアセスメント         | 自職種で患者の問題点を明確にする                                         | 全員   |
| 5  | 月 日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 6  | 月 日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 7  | 月 日 | チームでの問題の明確化        | 目標を決定し、実践、計画について議論する                                     | 全員   |
| 8  | 月 日 | チーム計画①             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 9  | 月 日 | チーム計画②             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 10 | 月 日 | 学修成果発表の準備          | 学修成果発表の準備                                                | 全員   |
| 11 | 月 日 | 学修成果の発表Ⅰ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 12 | 月 日 | 学修成果の発表Ⅱ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 13 | 月 日 | 学修成果の発表Ⅲ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 14 | 月 日 | 学修成果の発表Ⅳ           | 学修成果の発表                                                  | 全員   |
| 15 | 月 日 | 専門職連携の実践<br>授業のまとめ | 専門職連携の実践 今後の課題と IPW に向けて、授業の振り返り                         | 全員   |

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%)                     |
| 教科書      | 講師資料                             |
| 参考図書等    |                                  |
| 留意事項     |                                  |
| オフィスアワー等 | 水曜日（17 時～19 時）・木曜日（17 時～18 時）研究室 |

## 【旧】シラバス 「専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）」

| 授 業 科 目 名             | 授業形態 | 単位数<br>(時間数)    | 配当年次  | 担 当 教 員                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|------|-----------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働） | 演習   | 1 単位<br>(30 時間) | 4 年後期 | 宮里邦子 勝野とわ子 辻慶子 田中裕二 竹元仁美<br>増山純二 開田ひとみ 寺岡祥子 池田敏子 児玉裕美<br>苑田祐樹 松本宗賢 斎藤嘉宏 猪狩明日香 岩倉真由美<br>中本亮 松井聡子 大村由紀美 八谷瑞紀 光武翼<br>齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 野中嘉代子<br>大田瑞穂 原田伸哉 坪内優太 近藤敏 中山広宣<br>田中悟郎 小西紀一 谷川良博 山根伸吾 近藤昭彦<br>江口喜久雄 |

| 授 業 概 要                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実践についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。 |

| 到達目標                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 6. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる<br>1 7. チームメンバーおよび関わる多様な専門職と、良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる<br>1 8. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる<br>1 9. 患者への全人的評価に基づいた計画を、チームとして立案できる<br>2 0. 専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識をチーム計画に反映できる |

| 事前学習・事後学習                           |       |         |       |  |
|-------------------------------------|-------|---------|-------|--|
| 事前学習：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる |       |         |       |  |
| 事後学習：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する    |       |         |       |  |
| 対応                                  | (DP1) | (DP2)   | (DP3) |  |
| DP                                  | (DP4) | ◎ (DP5) | (DP6) |  |

| 回数 | 日程     | 単 元                | 内 容                                                      | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|----------------------------------------------------------|------|
| 1  | 月<br>日 | 授業概要               | 授業ガイダンス<br>事例を割り当ててグループを分ける                              | 全員   |
| 2  | 月<br>日 | 患者情報収集①            | 対象の背景の情報をカルテより情報収集を行い、患者、利用者から必要となる情報収集の内容（問診、身体所見）を整理する | 全員   |
| 3  | 月<br>日 | 患者情報収集②            | シミュレーション下で患者（シミュレーター or 模擬患者）から情報収集を行う。                  | 全員   |
| 4  | 月<br>日 | 自職種のアセスメント         | 自職種で患者の問題点を明確にする                                         | 全員   |
| 5  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 6  | 月<br>日 | チームでのアセスメント        | 各分野で収集した情報と問題を持ち寄り、チームで患者の問題点を整理する                       | 全員   |
| 7  | 月<br>日 | チームでの問題の明確化        | 目標を決定し、実践、計画について議論する                                     | 全員   |
| 8  | 月<br>日 | チーム計画①             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 9  | 月<br>日 | チーム計画②             | 総合サービス計画の作成                                              | 全員   |
| 10 | 月<br>日 | 学習成果発表の準備          | 学習成果発表の準備                                                | 全員   |
| 11 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅰ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 12 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅱ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 13 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅲ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 14 | 月<br>日 | 学習成果の発表Ⅳ           | 学習成果の発表                                                  | 全員   |
| 15 | 月<br>日 | 専門職連携の実際<br>授業のまとめ | 専門職連携の実際 今後の課題と IPW に向けて、授業の振り返り                         | 全員   |

|          |              |
|----------|--------------|
| 評 価      | 課題レポート(100%) |
| 教科書      | 講師資料         |
| 参考図書等    |              |
| 留意事項     |              |
| オフィスアワー等 |              |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

9. 臨床実習において、一部の科目については3か所の実習施設のみで実施することとなっており、多くの学生を同時に受け入れる想定となっている。各学科の実習要項や実習の手引で定める実習指導者数等、十分な指導体制が整っているのかを具体的に説明すること。(是正事項)

(対応)

実習指導者数等につきましては以下の実績があります。なお、表中のST比は(学生数)／(指導者数)で求めた数値の小数点第3位を四捨五入した数値を記載し、また予定の指導者数は2019～2021年度の3年間における平均値を記載しています。

《理学療法学科》

|         | 福岡和白病院 |      |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |      |      | 福岡新水巻病院 |      |      |
|---------|--------|------|------|----------------|------|------|---------|------|------|
|         | 指導者数   | 学生数  | ST 比 | 指導者数           | 学生数  | ST 比 | 指導者数    | 学生数  | ST 比 |
| 予定      | 38 名   | 30 名 | 0.79 | 32 名           | 26 名 | 0.81 | 25 名    | 18 名 | 0.72 |
| 2021 年度 | 33 名   | 28 名 | 0.85 | 36 名           | 30 名 | 0.83 | 23 名    | 15 名 | 0.65 |
| 2020 年度 | 41 名   | 30 名 | 0.73 | 33 名           | 25 名 | 0.76 | 25 名    | 18 名 | 0.72 |
| 2019 年度 | 40 名   | 33 名 | 0.83 | 29 名           | 24 名 | 0.83 | 27 名    | 23 名 | 0.85 |

《作業療法学科》

|         | 福岡和白病院 |      |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |      |      | 福岡新水巻病院 |      |      |
|---------|--------|------|------|----------------|------|------|---------|------|------|
|         | 指導者数   | 学生数  | ST 比 | 指導者数           | 学生数  | ST 比 | 指導者数    | 学生数  | ST 比 |
| 予定      | 26 名   | 25 名 | 0.96 | 25 名           | 25 名 | 1.00 | 17 名    | 10 名 | 0.59 |
| 2021 年度 | 27 名   | 12 名 | 0.44 | 26 名           | 12 名 | 0.46 | 17 名    | 8 名  | 0.47 |
| 2020 年度 | 24 名   | 8 名  | 0.33 | 24 名           | 8 名  | 0.33 | 16 名    | 4 名  | 0.25 |
| 2019 年度 | 27 名   | 8 名  | 0.30 | 25 名           | 12 名 | 0.48 | 20 名    | 8 名  | 0.40 |

理学療法士作業療法士養成施設指導要領の8(2)に「実習施設における実習人員と当該施設の実習指導者数の対比は二対一程度とすることが望ましいこと。」とあり、すなわちST比は2.0以下が望ましいとされています。また、上記実習施設は福岡和白リハビリテーション学院の閉校に伴い、本学に移行して受け入れる予定です。ゆえに、本学の臨床実習においては理学療法学科、作業療法学科ともに1.0以下となる見込みです。

以上より、令和健康科学大学（仮称）の理学療法学科80名、作業療法学科60名の臨床実習を受け入れるにあたり、実習指導者数等十分な指導体制が整っていると考えます。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                         | 旧                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 《145～148 ページ》<br><b>10-3-2 臨床実習体制</b><br>各施設における臨床実習指導は、【中略】<br>7) 保険等の加入 | 《122～124 ページ》<br><b>10-3-2 臨床実習体制</b><br>各施設における臨床実習指導は、【中略】<br>7) 保険等の加入 |

| 新                                                                                                                      |        |     |      |                |     |      |         |     |      | 旧                                                                                                               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----|------|----------------|-----|------|---------|-----|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 臨床実習において医療事故等が生じた場合、学生であっても責任を問われることを考え、入学と同時に学生の保険加入を義務付ける。また、学生が事故の被害者となることも考慮し、臨床実習以外の通学中における事故等にも対応した保険とする。        |        |     |      |                |     |      |         |     |      | 臨床実習において医療事故等が生じた場合、学生であっても責任を問われることを考え、入学と同時に学生の保険加入を義務付ける。また、学生が事故の被害者となることも考慮し、臨床実習以外の通学中における事故等にも対応した保険とする。 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 8) 中核臨床実習施設の指導体制について                                                                                                   |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 実習指導者数等については以下の実績がある。なお、表中の ST 比は（学生数）／（指導者数）で求めた数値の小数点第 3 位を四捨五入した数値を記載し、また予定の指導者数は 2019～2021 年度の 3 年間における平均値を記載している。 |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 《理学療法学科》                                                                                                               |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 福岡和白病院 |     |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |     |      | 福岡新水巻病院 |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 指導者数   | 学生数 | ST 比 | 指導者数           | 学生数 | ST 比 | 指導者数    | 学生数 | ST 比 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 予定                                                                                                                     | 38名    | 30名 | 0.79 | 32名            | 26名 | 0.81 | 25名     | 18名 | 0.72 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2021 年度                                                                                                                | 33名    | 28名 | 0.85 | 36名            | 30名 | 0.83 | 23名     | 15名 | 0.65 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2020 年度                                                                                                                | 41名    | 30名 | 0.73 | 33名            | 25名 | 0.76 | 25名     | 18名 | 0.72 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2019 年度                                                                                                                | 40名    | 33名 | 0.83 | 29名            | 24名 | 0.83 | 27名     | 23名 | 0.85 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 《作業療法学科》                                                                                                               |        |     |      |                |     |      |         |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 福岡和白病院 |     |      | 香椎丘リハビリテーション病院 |     |      | 福岡新水巻病院 |     |      |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                                                                                                                        | 指導者数   | 学生数 | ST 比 | 指導者数           | 学生数 | ST 比 | 指導者数    | 学生数 | ST 比 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 予定                                                                                                                     | 26名    | 25名 | 0.96 | 25名            | 25名 | 1.00 | 17名     | 10名 | 0.59 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2021 年度                                                                                                                | 27名    | 12名 | 0.44 | 26名            | 12名 | 0.46 | 17名     | 8名  | 0.47 |                                                                                                                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                       |                      |             |                       |                       |             |                       |                      |             | 旧 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|----------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|-------------|-----------------------|----------------------|-------------|---|
| <u>2020</u><br><u>年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <u>24</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u> | <u>0.33</u> | <u>24</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u>  | <u>0.33</u> | <u>16</u><br><u>名</u> | <u>4</u><br><u>名</u> | <u>0.25</u> |   |
| <u>2019</u><br><u>年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <u>27</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u> | <u>0.30</u> | <u>25</u><br><u>名</u> | <u>12</u><br><u>名</u> | <u>0.48</u> | <u>20</u><br><u>名</u> | <u>8</u><br><u>名</u> | <u>0.40</u> |   |
| <p><u>理学療法士作業療法士養成施設指導要領の 8 (2)に</u><br/><u>「実習施設における実習人員と当該施設の実習指導者</u><br/><u>数の対比は二対一程度とすることが望ましいこと。」と</u><br/><u>あり、すなわち ST 比は 2.0 以下が望ましいとされてい</u><br/><u>る。また、上記実習施設は福岡和白リハビリテーショ</u><br/><u>ン学院の閉校に伴い、本学に移行して受け入れる予定</u><br/><u>である。ゆえに、本学の臨床実習においては理学療法</u><br/><u>学科、作業療法学科ともに 1.0 以下となる見込みであ</u><br/><u>る。</u></p> <p><u>以上より、令和健康科学大学（仮称）の理学療法学</u><br/><u>科 80 名、作業療法学科 60 名の臨床実習を受け入れる</u><br/><u>にあたり、実習指導者数等十分な指導体制が整ってい</u><br/><u>ると考えている。</u></p> |                       |                      |             |                       |                       |             |                       |                      |             |   |



(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

10. 学習成果の評価について、以下について説明すること。(是正事項)

(1)「各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す」とあるが、趣旨が不明確であるため、例を示しながら具体的に説明すること。

(対応)

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 (平成 30) 年 11 月 26 日 中央教育審議会答申)によると、大学教育の質の保証をするために、第一義的には大学自らが率先して教育の質の保証に取り組むことが重要であると述べられており、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営(教学マネジメント)」の確立が求められています。

本学も教学マネジメントの確立のため、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を展開します。各科目とディプロマ・ポリシーの関係性を吟味し、科目の到達目標がディプロマ・ポリシーに示される能力に反映できるかを定量的に検討することを趣旨として、学修成果の評価に「学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。」と記載しました。

具体的には、①各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させること、②各科目の到達目標に対する達成度を提出物・期末試験等の評価を通じて定量的に行うこと等を実施し、各科目への評価を通じ、ディプロマ・ポリシーに記載された能力が確実に身につくよう評価を実施します。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《64 ページ》</p> <p><b>4-2 教育課程編成の基本的な考え方</b></p> <p>令和健康科学大学（仮称）において教育課程の編成は学則で定める。学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また、学年を分けて2学期制とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>授業科目は、基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つに区分する。</p> <p>各授業科目の単位を定めるにあたっては、大学設置基準〈文部省令第28号・1956（昭和31）年10月22日〉（以下、設置基準という）に基づき、講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とし、実習（学内での実習は45時間をもって1単位としている。なお、講義は講師（指導者）が学修内容を伝達する手法を主とする授業形態であり、演習は学修内容を模擬的・総合的に学修者に体験さ</p> | <p>《46 ページ》</p> <p><b>4-2 教育課程編成の基本的な考え方</b></p> <p>令和健康科学大学（仮称）において教育課程の編成は学則で定める。学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また、学年を分けて2学期制とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>授業科目は、基幹分野、専門基礎分野、専門分野の3つに区分する。</p> <p>各授業科目の単位を定めるにあたっては、大学設置基準〈文部省令第28号・1956（昭和31）年10月22日〉（以下、設置基準という）に基づき、講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とし、実習（学内での実習は45時間をもって1単位としている。なお、講義は講師（指導者）が学修内容を伝達する手法を主とする授業形態であり、演習は学修内容を模擬的・総合的に学修者に体験さ</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>せ伝える手法を主とした授業形態としている。<br/>即ち、主体的・対話的で深い学びの視点を主とした場合、本学では演習に相当するものと定義する。</p> <p>各授業科目の授業は前期 15 週、後期 15 週を基本としている。</p> <p><u>「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 (平成 30) 年 11 月 26 日 中央教育審議会答申)によると、大学教育の質の保証をするために、第一義的には大学自らが率先して教育の質の保証に取り組むことが重要であると述べられており、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営（教学マネジメント）」の確立が求められている。</u></p> <p><u>本学も教学マネジメントの確立のため、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を展開する。各科目とディプロマ・ポリシーの関係性を吟味し、科目の到達目標がディプロマ・ポリシーに示される能力に反映できるかを定量的に検討し、学修成果の評価あたる。</u></p> <p>《70 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。<u>具体的には「各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させること」「各科目の到達目標に対する達成度を提出物・期末試験等の評価を通じて定量的に行うこと」等を実施し、各科目への評価を通じ、ディプロマ・ポリシーに記載された能力が確実に身につくよう評価を実施する。</u></p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の</p> | <p>せ伝える手法を主とした授業形態としている。<br/>即ち、主体的・対話的で深い学びの視点を主とした場合、本学では演習に相当するものと定義する。</p> <p>各授業科目の授業は前期 15 週、後期 15 週を基本としている。</p> <p>《52 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> |

| 新        | 旧 |
|----------|---|
| 改善に役立てる。 |   |

(2)GPA については導入することのみが記載されており、内容が不明確であるため、詳細に説明すること。

(対応)

各学期（前期・後期）に区分して履修した全科目について、1 単位当たりの成績の平均値を 5 点満点の評価値（Grade Point Average：GPA）に換算し、当該値を成績評価に用います。

GPA を求めるため、各科目の粗点を 10 で除した後に 5 を減じた値を GP（Grade Point）として変換します（ただし、 $GP \geq 0$  とし、 $GP < 0$  の場合は全て 0 とします）。

全科目の GP と単位数の合計との積を履修登録した科目の単位の合計で除した値を GPA とします。得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者選定、特待生制度の継続判定、学生自身の目標に対する自己評価指標等の際にも参考値として用いる予定です。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《70～71 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA（Grade Point Average）を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> <p><u>GPA を求めるため、各科目の粗点を 10 で除した後に 5 を減じた値を GP（Grade Point）として変換しする（ただし、<math>GP \geq 0</math> とし、<math>GP &lt; 0</math> の場合は全て 0 とする）。</u></p> <p><u>全科目の GP と単位数の合計との積を履修登録した科目の単位の合計で除した値を GPA とする。得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配</u></p> | <p>《52 ページ》</p> <p><b>4-2-3-3 学修成果の評価</b></p> <p>① 試験、レポート、実習成果、実技試験等に基づき、学修成果の到達度を厳格に評価する。</p> <p>② 学修成果の可視化並びに質保証を図るために、各科目とディプロマ・ポリシーの各項目の定量的対応関係並びに各項目の達成度を定量的に示す。</p> <p>③ 学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA（Grade Point Average）を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。</p> |

| 新                                                                             | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------|---|
| <u>置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者選定、特待生制度の継続判定、学生自身の目標に対する自己評価指標等の際にも参考値として用いる予定である。</u> |   |

(3)シラバスに記載された成績評価指標について、「客観試験」「技術試験」「定期試験」等の趣旨の不明確な指標が見受けられることから、客観的評価が可能な指標かについても検討の上、適切に改めるとともに、評価方法ごとの割合などについては、シラバスにも記載し、学生に適切に周知すること。

(対応)

シラバスに「客観試験」、「技術試験」、「定期試験」等の表記揺れや、趣旨の不明確な指標が認められます。客観的評価が可能である成績評価指標であることを再度学内で検討し、下記の通り、評価指標を統一しました。

また、各科目における成績判定については、当該評価指標の割合についてシラバスにも記載し、学生に適切に周知することとします。

(新旧対照表) シラバス 評価 (看護学部看護学科)

| 新    | 旧    |
|------|------|
| 筆記試験 | 客観試験 |
| 実技試験 | 技術試験 |

(新旧対照表) シラバス 評価 (リハビリテーション学部 作業療法学科)

| 新    | 旧    |
|------|------|
| 筆記試験 | 客観試験 |
| 筆記試験 | 定期試験 |
| 筆記試験 | 期末試験 |

(新旧対照表) シラバス 評価 (リハビリテーション学部 理学療法学科)

| 新    | 旧      |
|------|--------|
| 筆記試験 | 定期試験   |
| 筆記試験 | 試験     |
| 筆記試験 | 最終試験   |
| 筆記試験 | 期末試験   |
| 筆記試験 | 期末筆記試験 |
| 筆記試験 | 記述試験   |

(改善事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

1 1. シラバスにオフィスアワーに関する記載がなされていないため、明確にすること。(改善事項)

(対応)

各シラバスのオフィスアワーを空欄にしていたため、担当教員の授業、会議、研究等の予定と照合しながら現時点での状況で記載しました。

## (是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

12. 設置の趣旨の説明において、本学の特色の一つに「充実した ICT 環境による自由度の高い学習支援 (ICT 教育)」を掲げているが、教育課程をみると、1 年次の「医療と情報リテラシー」のみと見受けられ、また、「一部の授業について学習用動画を作成し」「学修できる教材を整備する」、「遠隔教育の整備をする」等、ICT の活用が強調されているが、講義・演習・実習科目等多様な授業形態がある中でどの授業でどのように活用されるか不明確であるため、その妥当性も含め具体的に説明すること。(是正事項)

## (対応)

全学生及び全教員に iPad®等のタブレットデバイスを整備し、誰でも、どこでも、何度でも利用・学修できる環境とします。また、授業の出欠管理・連絡の伝達や履修状況の確認等もタブレット端末を用いて行わせることとします。

可能な限り教科書を電子書籍とし、各授業のダイジェストを 5～10 分程度の動画として本学の限定公開とし、学生の予習・復習に利用させ、学修効果をより高まるようにします。

学内の学修において、実際の臨床場面の現実感 (reality) をもたせるため、AR (Augmented reality: 拡張現実) や VR (virtual reality: 仮想現実) といった技術を取り入れることで、技術・技能の向上のみならず、モチベーションを高める効果を期待します。

授業形態ごとの ICT の活用については以下を想定しております。

|      |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義形式 | 配布物をできるだけペーパーレスとし、PDF®ファイル等の電子媒体として配信し、e-ポートフォリオを用いて整理 (ファイリング) することで知識の整理を容易にします。 |
| 演習形式 | デモンストレーションを各自のタブレットデバイスへ配信して見落としを最小限とし、書き込みや描画を可能とすることで記憶を記録可能にします。                |
| 実習形式 | 授業での記録はタブレット端末を用いて行い、将来の電子カルテに対応できるようにします。                                         |

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《59～60 ページ》</p> <p><b>2-3-2 作業療法学科の特色</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>3) 充実した ICT 環境による自由度の高い学修支援 (ICT 教育)</p> <p>情報の収集・分析・評価・要約・創造・表現能力を重点目的として本学は iPad®等のタブレット端末を学生及び教員に 1 人 1 台ずつ整備し ICT 教育の充実を図る。教員主導の教</p> | <p>《42～43 ページ》</p> <p><b>2-3-2 作業療法学科の特色</b></p> <p>リハビリテーション学部・作業療法学科では、<br/>【中略】</p> <p>3) 充実した ICT 環境による自由度の高い学修支援 (ICT 教育)</p> <p>情報の収集・分析・評価・要約・創造・表現能力を重点目的として本学はタブレット端末を学生に 1 人 1 台ずつ整備し ICT 教育の充実を図る。教員主導の教育から学修者中心の教育</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                    |      |                                                                                   |      |               |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------|------|---------------|--|
| <p>育から学修者中心の教育へ移行すべく、教員の<br/>一斉指導から学生の自己調整と協働へ転換<br/>を図る。そして、授業時にとどまらず、自宅<br/>での学修や日常生活場面においても ICT を活<br/>用できる能力を高めていく。<u>また、学内の学<br/>修において、実際の臨床場面の現実感</u><br/><u>(reality) をもたせるため、AR (Augmented<br/>reality : 拡張現実) や VR (virtual reality : 仮<br/>想現実) といった技術を取り入れることで、<br/>技術・技能の向上のみならず、モチベーショ<br/>ンを高める効果を期待できる。</u></p> <p><u>可能な限り教科書を電子書籍とし、対象と<br/>なる授業については学修用動画や 5～10 分程<br/>度の授業ダイジェストを本学の限定公開と<br/>し、「いつでも」・「どこでも」・「何度でも」学<br/>修できる教材を整備するとともに、学年を跨<br/>いだ自由度の高い学修環境を構築することを<br/>目標とする。</u></p> <p>国家試験合格に向けた学修教材としてのド<br/>リルや、日々の学修記録活動の実施、臨床実<br/>習用の模擬カルテの作成（認知スキルルー<br/>ブリック、運動スキルチェックリストを含む）<br/>等にも ICT 教育を導入していく予定である。</p> <p><u>授業形態ごとの具体的な ICT 活用について<br/>は以下を想定している。</u></p> | <p>へ移行すべく、教員の一斉指導から学生の自己<br/>調整と協働へ転換を図る。そして、授業時にと<br/>どまらず、自宅での学修や日常生活場面におい<br/>ても ICT を活用できる能力を高めていく。</p> <p>対象となる授業については学修用動画を作<br/>成し、「いつでも」・「どこでも」・「何度でも」<br/>学修できる教材を整備するとともに、学年を跨<br/>いだ自由度の高い学修環境を構築することを<br/>目標とする。</p> <p>国家試験合格に向けた学修教材としてのド<br/>リルや、日々の学修記録活動の実施、臨床実<br/>習用の模擬カルテの作成（認知スキルルー<br/>ブリック、運動スキルチェックリストを含む）<br/>等にも ICT 教育を導入していく予定である。</p> |                                                                                                    |      |                                                                                   |      |               |  |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 1451 384 1733">講義形式</td><td data-bbox="384 1451 799 1733">配布物をできるだけペーパー<br/>レスとし、PDF®ファイル等の<br/>電子媒体として配信し、e-ポー<br/>トフォリオを用いて整理（フ<br/>ァイリング）することで知識<br/>の整理を容易にする</td></tr> <tr> <td data-bbox="225 1733 384 1973">演習形式</td><td data-bbox="384 1733 799 1973">デモンストレーションを各自<br/>のタブレットデバイスへ配信<br/>して見落としを最小限とし、<br/>書き込みや描画を可能とする<br/>ことで記憶を記録可能にする</td></tr> <tr> <td data-bbox="225 1973 384 2024">実習形式</td><td data-bbox="384 1973 799 2024">授業での記録はタブレット端</td></tr> </table>                                                                                                                                                                          | 講義形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 配布物をできるだけペーパー<br>レスとし、PDF®ファイル等の<br>電子媒体として配信し、e-ポー<br>トフォリオを用いて整理（フ<br>ァイリング）することで知識<br>の整理を容易にする | 演習形式 | デモンストレーションを各自<br>のタブレットデバイスへ配信<br>して見落としを最小限とし、<br>書き込みや描画を可能とする<br>ことで記憶を記録可能にする | 実習形式 | 授業での記録はタブレット端 |  |
| 講義形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 配布物をできるだけペーパー<br>レスとし、PDF®ファイル等の<br>電子媒体として配信し、e-ポー<br>トフォリオを用いて整理（フ<br>ァイリング）することで知識<br>の整理を容易にする                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                    |      |                                                                                   |      |               |  |
| 演習形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | デモンストレーションを各自<br>のタブレットデバイスへ配信<br>して見落としを最小限とし、<br>書き込みや描画を可能とする<br>ことで記憶を記録可能にする                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                    |      |                                                                                   |      |               |  |
| 実習形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 授業での記録はタブレット端                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                    |      |                                                                                   |      |               |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                           | 旧                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p><u>末を用いて行い、将来の電子カルテに対応できるようにする</u></p> |                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>4) 担任制とチューター制を併用したきめ細やかな学修及び生活指導</p> <p>一人の学生に対して、担任とチューターを配置することで、いつでも相談しやすい環境を整備し、教育の充実を図る。</p> <p>前述のとおり ICT を活用した国家試験合格に向けた学修、ICT を活用した日々の学修記録活動による自己調整学修能力の育成、ICT を活用した学生カルテの作成（成績・面談記録等）を補助的に用いて面談を実施し学生の状況把握に努めるものとする。<u>また、授業の出欠管理・連絡の伝達や履修状況の確認等もタブレット端末を用いて行わせることとする。</u></p> |                                           | <p>4) 担任制とチューター制を併用したきめ細やかな学修及び生活指導</p> <p>一人の学生に対して、担任とチューターを配置することで、いつでも相談しやすい環境を整備し、教育の充実を図る。</p> <p>前述のとおり ICT を活用した国家試験合格に向けた学修、ICT を活用した日々の学修記録活動による自己調整学修能力の育成、ICT を活用した学生カルテの作成（成績・面談記録等）を補助的に用いて面談を実施し学生の状況把握に努めるものとする。</p> |



## (改善事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

13. 語学教育として、英語に加えて中国語又は韓国語が必修科目とされている趣旨について説明すること。(改善事項)

## (対応)

本学は福岡県に位置しており、学生の大半は福岡県より募集し、かつ、福岡県に就職することを想定しています。2018（平成30）年12月末における福岡県内の在留外国人数は総数77,044人であり、国籍別順位をみると第1位が中国で20,580人（26.7%）、第2位が韓国・朝鮮の16,797人（21.8%）と、中国人または韓国・朝鮮人で全体の約半数を占めています。本学の位置する福岡県においては、医療を必要とする外国人の約5割は中国人或いは韓国・朝鮮人が占めていると考えられ、英語を必修とすると共に、中国語または韓国語を選択必修にすることで、本学が輩出する看護師、理学療法士、作業療法士は治療対象となる外国人へ何らかしらの意思疎通やコミュニケーションができるようになることを趣旨としています。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《12 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と高度化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> <p>2018（平成30）年12月末における福岡県内の在留外国人数は総数77,044人であり、国籍別順位をみると第1位が中国で20,580人（26.7%）、第2位が韓国・朝鮮の16,797人（21.8%）と全体の約半数を占めている。本学を設置しようとする福岡県においては、医療を必要とする外国人の約5割は中国人及び韓国人が占めていると考えられ、英語と共に中国語・韓国語といった言語の必要性は高い。本学では英語を必修とすると共に、中国語または韓国語を選択必修にすることで、本学が輩出する看護師、理学療法士、作業療法士は治療対象となる外国人へ何らかしらの意思疎通やコミュニケーションができるようになることを期待している。</p> | <p>《5 ページ》</p> <p><b>1-2-2 医療の多様化と複雑化</b></p> <p>近年、【中略】</p> <p>国民の価値観の多様化等に対応して効果的に医療を提供するために、医療専門職は幅広い教養と視野が社会から求められている。</p> |

(改善事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

14. 科目の名称について、「カウンセリング」など、大学の科目の名称らしくないものが散見されるため、適切に修正すること。(改善事項)

(対応)

全科目の名称を網羅的に確認したうえで、専門的にみて一般的で、かつ大学の科目として相応しいものとなるよう一部の科目の名称について修正します。修正した内容は下記「表1. 科目名の新旧対照表」にまとめます。

表1. 科目名の新旧対照表

| 新         | 旧        |
|-----------|----------|
| ケアマネジメント論 | ケアマネジメント |
| カウンセリング論  | カウンセリング  |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

15. 入学者選抜について、例えば、「学校推薦型選抜（一般）」においては「面接、調査書、小論文を主たる判定資料とする」とある等、評価に関する項目が明確ではないため、各項目の評価割合なども含め、アドミッション・ポリシーに記載されている内容をどのように担保するのか、試験区分ごとに具体的に説明すること。また、学力試験において、数学等の教科名のみが記載されているものは、必要な科目名まで明示すること。(是正事項)

(対応)

本審査意見を踏まえ、入学者選抜における評価項目（判定資料）とその評価割合を示します。なお、アドミッション・ポリシーとの関係も含めて、申請時の「設置の趣旨等を記載した書類」の「【資料32-3】AP・DP・入学者選抜の関係（作業療法学科）」の内容を別紙のとおり改訂します。各評価割合につきましては、アドミッション・ポリシーの関係性から入学者選抜における多面的な評価を鑑みて重みづけを行っています。

## 【別紙資料2】 AP・DP・入学者選抜の関係

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《119～122 ページ》</p> <p><b>8-3-1 入学者選抜方法</b></p> <p>入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的かつ総合的に判定し、かつ、アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため、学校教育法に定める高等学校における教育目標の一つである一般的な教養の修得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行うこととする。具体的な選抜方法として入学者選抜の多様性の観点から、①総合型選抜、②学校推薦型選抜（一般・指定校）、③一般選抜、④大学入学共通テスト利用選抜、⑤社会人選抜を行うこととし、学力の3要素である①「知識・技能の確実な修得」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を多角的・総合的に評価・選抜する。入試区分に応じて、活用する評価方法や比重等を募集要項等で明らかにする。<u>各評価割合については、アドミッション・ポリシーの関係性から入学者選抜における多面的な評価を考慮して重みづけを行った。</u></p> | <p>《97～99 ページ》</p> <p><b>8-3-1 入学者選抜方法</b></p> <p>入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的かつ総合的に判定し、かつ、アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため、学校教育法に定める高等学校における教育目標の一つである一般的な教養の修得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行うこととする。具体的な選抜方法として入学者選抜の多様性の観点から、①総合型選抜、②学校推薦型選抜（一般・指定校）、③一般選抜、④大学入学共通テスト利用選抜、⑤社会人選抜を行うこととし、学力の3要素である①「知識・技能の確実な修得」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を多角的・総合的に評価・選抜する。入試区分に応じて、活用する評価方法や比重等を募集要項等で明らかにする。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>8-3-1-1 総合型選抜</b></p> <p>入学志願者が本学で学びたいという意欲を重視するとともに学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、調査書、面接および小論文により総合的に判定する。</p> <p><u>アドミSSION・ポリシー①～③、アドミSSION・ポリシー⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u>総合型選抜の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 7 名（12%）とする。<u>評価割合については面接 60%、調査書 20%、小論文 20%とし、面接を重視した選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-2 学校推薦型選抜（一般）</b></p> <p>本学を専願し、入学志願者の出身高等学校長の推薦を得る等の出願条件を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、面接、<u>推薦書、調査書および小論文により総合的に判定する。</u><u>アドミSSION・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に高等学校からの推薦文も考慮し多面的な評価を行う。</u><u>アドミSSION・ポリシー②、③、⑤については、主に面接にて人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミSSION・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u><u>学校推薦型選抜（一般）の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 8 名（13%）とする。</u><u>評価割合については面接 50%、調査書 10%、小論文 30%、推薦</u></p> | <p><b>8-3-1-1 総合型選抜</b></p> <p>入学志願者が本学で学びたいという意欲を重視するとともに学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、調査書、面接および小論文により総合的に判定する。</p> <p>総合型選抜の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 7 名（12%）とする。</p> <p><b>8-3-1-2 学校推薦型選抜（一般）</b></p> <p>本学を専願し、入学志願者の出身高等学校長の推薦を得る等の出願条件を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、面接、調査書および小論文を主たる判定資料とする。</p> <p>学校推薦型選抜（一般）の定員割合は、看護学科 10 名（13%）、理学療法学科 10 名（13%）、作業療法学科 8 名（13%）とする。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>書 10%とし、面接を重視しつつも、総合型選抜と比較して学校からの評価やより基礎学力を重視するような選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-3 学校推薦型選抜（指定校）</b></p> <p>本学が指定した高等学校（指定校）に対し推薦枠を与えるものである。入学志願者の出身高等学校長の推薦及び指定した平均評定を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に判定するため、面接、<u>推薦書、調査書及び小論文により総合的に判定する。</u><u>アドミッション・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に高等学校からの推薦文も考慮し多面的な評価を行う。</u><u>アドミッション・ポリシー②、③、⑤については、主に面接にて人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。</u>学校推薦型選抜（指定校）の定員割合は、看護学科 15 名（19%）、理学療法学科 15 名（19%）、作業療法学科 12 名（20%）とする。<u>評価割合については面接 40%、調査書 10%、小論文 30%、推薦書 20%とし、学校推薦型選抜（一般）と比較して高等学校から提出される推薦書をより重視し、高校からの評価に重きを置いた選抜方法とする。</u></p> <p><b>8-3-1-4 一般選抜（前期・後期）</b></p> <p>一般選抜（前期）は、学力試験として英語を必修科目とし、国語、数学及び理科（物理基礎・物理・化学基礎・化学、生物基礎・生物）から 2 科目を選択する形式とし、入学志願者の学修能力を判定する。<u>アドミッション・ポリシー①～③、⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッ</u></p> | <p><b>8-3-1-3 学校推薦型選抜（指定校）</b></p> <p>本学が指定した高等学校（指定校）に対し推薦枠を与えるものである。入学志願者の出身高等学校長の推薦及び指定した平均評定を満たす者に対し学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に判定するため、面接、調査書及び小論文を主たる判定資料とする。学校推薦型選抜（指定校）の定員割合は、看護学科 15 名（19%）、理学療法学科 15 名（19%）、作業療法学科 12 名（20%）とする。</p> <p><b>8-3-1-4 一般選抜（前期・後期）</b></p> <p>一般選抜（前期）は、学力試験として英語を必修科目とし、国語、数学及び理科（物理基礎・物理・化学基礎・化学、生物基礎・生物）から 2 科目を選択する形式とし、入学志願者の学修能力を判定する。各学科のアドミッション・ポリシーにかかる①～③については面接により適切に判定する。</p> <p>一般選抜（前期）は特待生選抜を兼ねるもの</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>ション・ポリシー④については学力試験・調査書にて基礎学力と学修態度を確認する。</u></p> <p>一般選抜（前期）は特待生選抜を兼ねるものとする。また、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般・指定校）で合格を得た入学志願者に対しても特待生選抜の受験を認め、当該受験者に対しては合否を判定せず、特待生の可否のみを判定する。なお、特待生の種類としては、授業料の全額免除及び半額免除を若干名ずつ予定する。<u>評価割合については学力試験 60%、面接 30%、調査書 10%とし、より学力を重視した選抜方法とする。</u></p> <p>一般選抜（後期）は、多彩な学生の募集と受験生の受験機会の確保を目的とする。面接、小論文及び調査書により適切に判定する。<u>アドミッション・ポリシー①～③、⑤については、主に面接にて志願者の意欲、人を尊重する考え、他者との調整力、協調性、社会貢献への意欲を確認し、アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて基礎学力と学修態度を確認する。評価割合については面接 60%、調査書 10%、小論文 30%とし、多面的な能力を確認できる面接を重視することで多彩な学生募集を行う。また、一般選抜（後期）の実施により受験日程を広げ、受験生の受験機会の確保を行う。</u></p> <p>一般選抜（前期・後期）の定員割合は、看護学科 40 名（50%）、理学療法学科 40 名（50%）、作業療法学科 30 名（50%）とする。</p> <p><b>8-3-1-5 大学入学共通テスト利用選抜</b></p> <p>大学入学共通テスト利用選抜は、大学入学共通テストにおける国語及び英語を必修科目として、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）、数学から 1 科目を選択のうえ、計 3 科目が一定の学力水準に達しているかを判定に用いることとする。</p> <p><u>評価割合としてはアドミッション・ポリシー④を確認する学力試験が全体の 80%を占めるた</u></p> | <p>とする。また、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般・指定校）で合格を得た入学志願者に対しても特待生選抜の受験を認め、当該受験者に対しては合否を判定せず、特待生の可否のみを判定する。なお、特待生の種類としては、授業料の全額免除及び半額免除を若干名ずつ予定する。</p> <p>一般選抜（後期）は、多彩な学生の募集と受験生の受験機会の確保を目的とする。面接、小論文及び調査書により適切に判定する。</p> <p>一般選抜（前期・後期）の定員割合は、看護学科 40 名（50%）、理学療法学科 40 名（50%）、作業療法学科 30 名（50%）とする。</p> <p><b>8-3-1-5 大学入学共通テスト利用選抜</b></p> <p>大学入学共通テスト利用選抜は、大学入学共通テストにおける国語及び英語を必修科目として、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）、数学から 1 科目を選択のうえ、計 3 科目が一定の学力水準に達しているかを判定に用いることとする。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜の定員割合は、看護学科 5 名（6%）、理学療法学科 5 名</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>め、基礎学力、学習態度を重視する選抜方法となるが、アドミッション・ポリシー①～③、⑤についても、調査書の「指導上の参考になる諸事項」等に記載された内容を加味し、大学入学前の意欲や多様な活動から確認を行う。評価割合については学力試験 80%、調査書 20%とし、学力を重視する選抜方法とする。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜の定員割合は、看護学科 5 名（6 %）、理学療法学科 5 名（6 %）、作業療法学科 3 名（5 %）とする。</p> <p><b>8-3-1-6 社会人選抜</b></p> <p>社会人としての職業経験をもち、かつ、看護学・理学療法学・作業療法学の修得に関する資質と能力を備え、学修意欲の旺盛な入学志願者を受け入れるため、学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、自己推薦文、面接及び小論文を主たる判定資料とする。アドミッション・ポリシー①については面接にて興味・関心を確認すると共に、志願者の自己推薦文も加味し、評価を行う。アドミッション・ポリシー②、③については面接にて人を尊重する考えや共感力、調整力、協調性、傾聴力を確認する。アドミッション・ポリシー④については調査書・小論文にて思考力・論理性等といった基礎学力や学修態度を確認する。アドミッション・ポリシー⑤については面接と志願理由書から社会への貢献意識等を確認する。評価割合については面接 50%、調査書 5%、小論文 35%、志願理由書 5%、自己推薦文 5%とし、多様な判定資料により多面的な評価を実施する。社会人選抜の定員割合は、看護学科若干名、理学療法学科若干名、作業療法学科若干名とする。</p> | <p>（6 %）、作業療法学科 3 名（5 %）とする。</p> <p><b>8-3-1-6 社会人選抜</b></p> <p>社会人としての職業経験をもち、かつ、看護学・理学療法学・作業療法学の修得に関する資質と能力を備え、学修意欲の旺盛な入学志願者を受け入れるため、学力試験を免除し、本学で教育を受けるために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、自己推薦文、面接及び小論文を主たる判定資料とする。</p> <p>社会人選抜の定員割合は、看護学科若干名、理学療法学科若干名、作業療法学科若干名とする。</p> |

## (改善事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

16. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項)

## (対応)

本学における教員組織編成については完成年度において本学定年年齢である 65 歳を超える教員が 22 名（看護学科 9 名、理学療法学科 7 名、作業療法学科 6 名）と比較的高齢の教員もおります。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するためです。65 歳を超える教員のうち、看護学科 7 名、理学療法学科 6 名（うち 4 名が医師）、作業療法学科 4 名の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものであります。

完成年度以降も踏まえて、比較的高齢の教員の後任者の採用方針は、大学運営の側面から鑑みた教員組織の継続性や活性化等を考慮し、年齢的な偏重を来さないようにすることとしています。加えて、後任者の選考につきましては、若手教員の登用を含めて採用を検討することとし、教育の質を確保できるよう段階的な若返りを図ることとします。つまり、教員組織の継続性と教育研究の質を一定水準以上に確保するという双方の観点からみても問題のないような形で構想しています。

## (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《87～88 ページ》</p> <p><b>5-2-4 教員組織編成について</b></p> <p>本学における教員組織編成については、完成年度において本学定年年齢である 65 歳を超える教員が <u>22 名</u>（看護学科 <u>9 名</u>、理学療法学科 <u>7 名</u>、作業療法学科 <u>6 名</u>）と比較的高齢の教員もおります。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するためです。65 歳を超える教員のうち、看護学科 <u>7 名</u>、理学療法学科 <u>6 名</u>（うち 4 名が医師）、作業療法学科 <u>4 名</u>の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものである。</p> <p>完成年度以降も踏まえて、比較的高齢の教員の<u>後任者の採用方針は、大学運営の側面から鑑みた教員組織の継続性や活性化等を考慮し、年齢的な偏重を来さないようにすることとしています。加えて、後任者の選考につきましては、若手教員の登用を含めて採用を検討することとし、教育の質を確保できるよう段階的な若返りを図ることとします。つまり、教員組織の継続性と教育研究の質を一定水準以上に確保すると</u></p> | <p>《67 ページ》</p> <p><b>5-2-4 教員組織編成について</b></p> <p>本学における教員組織編成については、本学定年年齢である 65 歳以上の教員が 17 名（看護学科 6 名、理学療法学科 6 名、作業療法学科 4 名）と比較的高齢の教員もいる。これは、大学にふさわしい質の高い教育と研究を実践するため、65 歳以上の教員のうち、看護学科 5 名、理学療法学科 5 名（うち 4 名が医師）、作業療法学科 2 名の教員は博士号を取得しており、臨床・研究・教育経験が豊富な教員を登用したことによるものである。</p> <p>【資料 24】 定年に関する規定に基づく特例教員一覧</p> |



| 新                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>いう双方の観点からみても問題のないような形で構想しています。</p> <p>【資料 24】 定年に関する規定に基づく特例教員一覧</p> |   |

## (改善事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

17. 「習得」や「学習」等、シラバスに誤字が散見される他、「設置認可等に関わる組織の移行表」では、他に設置する専門学校の名称の多くが同じものになっている等、書類上に誤記と思われる内容が散見されるため、網羅的に確認をした上で、適切に修正すること。(改善事項)

## (対応)

本審査意見を踏まえ、改めて書類上の誤記を確認し、網羅的に改めました。特に「設置認可等に関わる組織の移行表」については以下のとおり修正しました。

## (新旧対照表) 学校法人巨樹の会 設置認可等に関わる組織の移行表

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>令和3年度</b><br><u>福岡和白リハビリテーション学院</u><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <b>令和3年度</b><br><b>和白リハビリテーション専門学校</b><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <b>令和4年度</b><br><u>福岡和白リハビリテーション学院</u><br><div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <hr/> <div>計 0 - 0</div><br><u>福岡水巻看護助産学校</u><br><div>看護学科 80 - 240</div> <div>助産学科 25 - 25</div> <hr/> <div>計 105 - 265</div><br><u>下関看護リハビリテーション学校</u><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>看護学科 40 - 120</div> <hr/> <div>計 120 - 360</div><br><u>小倉リハビリテーション学院</u><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div> | <b>令和4年度</b><br><b>和白リハビリテーション専門学校</b><br><div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <div>0 - 0</div> <hr/> <div>計 0 - 0</div><br><b>和白リハビリテーション専門学校</b><br><div>看護学科 80 - 240</div> <div>助産学科 25 - 25</div> <hr/> <div>計 105 - 265</div><br><b>和白リハビリテーション専門学校</b><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>看護学科 40 - 120</div> <hr/> <div>計 120 - 360</div><br><b>和白リハビリテーション専門学校</b><br><div>理学療法学科 80 - 240</div> <div>作業療法学科 40 - 120</div> <div>理学療法学科（夜間） 40 - 160</div> <hr/> <div>計 160 - 520</div> |

リハビリテーション学部 作業療法学科

| 新                      |     |   |     | 旧               |     |   |     |
|------------------------|-----|---|-----|-----------------|-----|---|-----|
| <u>八千代リハビリテーション学院</u>  |     |   |     | 和白リハビリテーション専門学校 |     |   |     |
| 理学療法学科                 | 80  | - | 240 | 理学療法学科          | 80  | - | 240 |
| 作業療法学科                 | 40  | - | 120 | 作業療法学科          | 40  | - | 120 |
| 理学療法学科（夜間）             | 40  | - | 160 | 理学療法学科（夜間）      | 40  | - | 160 |
| 計                      | 160 | - | 520 | 計               | 160 | - | 520 |
| <u>武雄看護リハビリテーション学校</u> |     |   |     | 和白リハビリテーション専門学校 |     |   |     |
| 理学療法学科                 | 40  | - | 120 | 理学療法学科          | 40  | - | 120 |
| 看護学科                   | 40  | - | 120 | 看護学科            | 40  | - | 120 |
| 計                      | 80  | - | 240 | 計               | 80  | - | 240 |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

18. 学生確保の見通しにおける分析について、例えば県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率等は必ずしも理学療法・作業療法等の学科に細分化したものとなっておらず不十分であるため、細分化して分析すること。(是正事項)

(対応)

福岡県内の看護学科、理学療法学科、作業療法学科を擁する大学（以下、「競合大学」という。）における学科単位の入学状況に関するデータを「別紙資料 4 競合大学の入学状況」にまとめます。それを踏まえて、学科ごとに学生確保の見通しについて改めて説明します。

【別紙資料4】 競合大学の入学状況

(1) 競合大学の学科単位の入学定員に対する入学者数

① 看護学科

福岡県内で看護学科を擁する大学は14校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、いずれの大学でも90%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も全ての大学において97%を超えています。また、14校における看護学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.5倍を超えており、平均で4.7倍となっています。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考えます。

② 理学療法学科

福岡県内で理学療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、1校を除く他の3校で100%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も1校を除く他の3校において100%を超えています。また、4校における理学療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.0倍を超えており、平均で4.1倍となっています。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考えます。

③ 作業療法学科

福岡県内で作業療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、うち2校が100%未満となった年度を認めます。特に、2020（令和2）年度における入学定員充足率は、1校が80%未満、もう1校では40%未満となっています。また、4校における作業療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも1.0倍を超えており、平均で2.6倍となっています。

(2) 競合大学との地域性及び教育の特色からみた学生確保の見通し

競合大学との地域性からみた学生確保の見通しについて説明します。歴史的・経済圏から福岡県は「北九州地域」、「筑豊地域」、「福岡地域」、「筑後地域」の4地域に分けられます。福岡県人口移動調査によりますと、2021（令和2）年9月1日現在の人口は北九州地域で約125万人、筑豊地域で約40万人、福岡地域で約268万人、筑後地域で約79万人です。本学の位置する「福岡地域」は人口が最も多く、かつ増加している有利な位置にあるといえます。

#### ① 看護学科

福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっています。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加しています。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持しています。看護学部を擁する競合大学14校の入学定員充足率の平均値は、2018（平成30）年度は108.3%、2019（平成31）年は111.1%、2020（令和2）年度は102.7%と福岡県全体としてマーケット環境は良好であるといえます。

地域性から見た競合大学としては、本学が位置する福岡地区にある8校を想定しています。さらに、本学が独自に行ったアンケートの結果から、当該8校のうち3校は特に競合性が高いと捉えており、差別化を図る必要があると考えます。特に競合性が高い3校と比較した場合、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみです。また、本学は隣接するグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は有利と考え、加えて1年次から4年次にわたって段階的な専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）も本学のみの教育特色といえます。こうした差別化要素について、入学を志願する対象者に分かりやすく伝え、本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる看護師になりたい学生を広く募集していくこととします。

#### ② 理学療法学科・作業療法学科

福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっています。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加しています。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇しています。また、作業療法学科についても志願者数は2018（平成30）年度の330名から2020（令和2）年度には469名まで増加し、志願倍率も2.8倍から2.9倍へと上昇しています。

一方、4校の競合大学の入学定員充足率や志願倍率をみると各大学の差異が認められます。特に作業療法学科では入学定員充足率が最も低い40%から、最も高い110%まで幅があります。この要因としては、大学の立地、教育上の特色（学べる内容）等が考えられ、高校生を中心とした入学志願者の志向性によって大学を選択しているためと考えます。

##### i. 立地による影響

大学の立地が志願者数・入学者数に与える影響は大きいと考察しています。本学が位置する福岡地域は、最も人口が多く、九州地方の中心地といえる福岡地域は九州地方及び福岡県全域から人口が流入しやすく、学生確保においても有利といえます。2校の競合大学、とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も低い競合大学が位置する筑後地区は人口が約79

万人とやや乏しく、マーケット環境は厳しいといえるため、入学定員充足率が低調である要因と考察できます。

ii. 教育上の特色（学べる内容）

教育研究上の特色（学べる内容）も志願者数・入学者数に影響を与えていると考察しています。とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も高い競合大学では、同一のグループ病院・施設と連携して実践的な教育を提供できる点に学生は魅力を感じていると分析しています。これは、本学の教育の特色とも合致するため、本学でも学生確保の見通しが立つと分析しています。

以上の2つの要素を踏まえ、本学の学生確保の見通しについて改めて考察します。本学は人口が最も多い福岡地域にある点から、立地はプラスの影響が高いと考えられ、同じ福岡地区に位置する競合大学として1校あります。当該競合大学の入学定員充足率は好調であり、理学療法学科・作業療法学科共に直近2年間のデータでは110%を超えている点からも、福岡地区のマーケット環境は良好であるといえます。なお、本学が独自に行ったアンケート結果でも、本学の理学療法学科・作業療法学科に「ぜひ受験したい」、「受験したい」、「受験先の候補として検討する」と回答した2,803名のうち626名（22.3%）が当該競合大学への進学も検討しており、3校の他の競合大学への進学を検討している者が340名程度（約12%）であることを比較しても当該競合大学は最も競合性が高いといえます。

次に、教育上の特色について本学の優位性を考察します。理学療法学科・作業療法学科を有する4大学のうち、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみです。さらに、本学の理学療法学科・作業療法学科は近隣にあるグループ病院で臨床実習のほとんどを実施することから分かるように、隣接したグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は、募集が好調な競合大学と類似しており、入学志願者の志向性と合致していると考えます。また、1年次から4年次にわたって段階的に専門職連携教育

（Interprofessional Education：IPE）を実践的に実施している競合大学はなく、かつ、取得単位数も本学が最も多く、こうした差別化要素を学生に分かりやすく伝えることで、学生確保の見通しは立つと考えています。設置認可後は本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる理学療法士・作業療法士になりたい学生を広く募集していくこととします。

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                               | 旧                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《3～4 ページ》</p> <p><b>（1）定員充足の見込み</b></p> <p>本学では下記7点の根拠により、</p> <p><b>【中略】</b></p> <p>⑤福岡県内の看護学科および理学療法・作業療法学科が入学定員を上回る出願者数を確保できている点にある。福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊</p> | <p>《2 ページ》</p> <p><b>（1）定員充足の見込み</b></p> <p>本学では下記7点の根拠により、</p> <p><b>【中略】</b></p> <p>⑤福岡県内の看護学系および理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部が十分に定員を確保できている点にある。近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）における福岡県内</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>地域1校、筑後地域3校となっている。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加している。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持している。福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっている。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加している。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇していることから本学は定員を確保する見通しがあると判断した。</p> | <p>の看護学系統の学科を擁する学部の志願倍率が2倍を下回ったことはなく、直近の志願倍率の平均は6.6倍であり、収容定員充足率の平均は106%である。また、近3年における福岡県内の理学療法・作業療法学系統を擁する学部の志願倍率も2倍を下回ったことはなく、直近の志願倍率の平均は2.9倍であり、収容定員充足率の平均は103%である。このことから本学は定員を確保する見通しがあると判断した。</p>            |
| 《7～10 ページ》                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 《5 ページ》                                                                                                                                                                                                          |
| ⑤福岡県内における看護学科、理学療法学科、作業療法学科の学生確保の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ⑤福岡県内の看護・理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部の学生確保の状況                                                                                                                                                                           |
| (i)競合大学の学科単位の入学定員に対する入学者数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 福岡県内の看護学系統の学科を擁する学部の志願倍率は近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）において2.5倍～26.4倍であり、2倍を下回る志願倍率の学部はなく、2019（令和元）年の志願倍率の平均は6.6倍と非常に高い志願倍率である。また、近3年の収容定員充足率も94%～120%であり、2019（令和元）年の収容定員充足率の平均は106%とほとんどの学部において収容定員充足率が100%を超えている。 |
| (a)看護学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | また、福岡県内の理学療法・作業療法学系統の学科を擁する学部の志願倍率は近3年（2017（平成29）年～2019（令和元）年）において2.1倍～3.7倍であり、2倍を下回る志願倍率の学部はなく、2019（令和元）年の志願倍率の平均は2.9倍である。また、近3年の収容定員充                                                                          |
| <p>福岡県内で看護学科を擁する大学は14校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、いずれの大学でも90%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も全ての大学において97%を超えている。また、14校における看護学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.5倍を超えており、平均で4.7</p>                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>倍となっている。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考える。</u></p> <p><u>(b)理学療法学科</u></p> <p><u>福岡県内で理学療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、1校を除く他の3校で100%を超えており、当該3年間平均入学定員充足率も1校を除く他の3校において100%を超えている。また、4校における理学療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも2.0倍を超えており、平均で4.1倍となっている。以上から本学でも学生確保の見通しは立つと考える。</u></p> <p><u>(c)作業療法学科</u></p> <p><u>福岡県内で作業療法学科を擁する大学は4校あり、それぞれの2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、うち2校が100%未満となった年度を認める。特に、2020（令和2）年度における入学定員充足率は、1校が80%未満、もう1校では40%未満となっている。また、4校における作業療法学科の2018（平成30）年度から2020（令和2）年度までの入学定員に対する志願者数（志願倍率）（ただし、うち1校は志願者数非公開のため、入学定員に対する受験者数）は、いずれの大学でも1.0倍を超えており、平均で2.6倍となっている。</u></p> <p><u>（ii）競合大学との地域性及び教育の特色からみた学生確保の見通し</u></p> <p><u>競合大学との地域性からみた学生確保の見通しについて説明する。歴史的・経済圏から福岡</u></p> | <p>足率も97%～113%であり、2019（令和元）年の収容定員充足率の平均は103%とほとんどの学部において収容定員充足率が100%を超えている。</p> <p>福岡県内の同系統学科を擁する学部の志願倍率・収容定員充足率の推移を踏まえると福岡県内で本学が設置を構想している看護学部・リハビリテーション学部においても十分に定員を確保することができると判断した。</p> <p>（資料4 福岡県内大学同系統学科の入学定員に対する志願者数）</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>県は「北九州地域」、「筑豊地域」、「福岡地域」、「筑後地域」の4地域に分けられる。福岡県人口移動調査によると、2021（令和2）年9月1日現在の人口は北九州地域で約125万人、筑豊地域で約40万人、福岡地域で約268万人、筑後地域で約79万人である。本学の位置する「福岡地域」は人口が最も多く、かつ増加している有利な位置にあるといえる。</p> <p><u>(a)看護学科</u></p> <p>福岡県で看護学科を擁する大学は、北九州地域2校、福岡地域8校、筑豊地域1校、筑後地域3校となっている。また、看護学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の6,229名から2020（令和2）年度には6,392名まで増加している。志願倍率は新設学部の影響で5.0倍から4.8倍へとやや低下したものの、依然として高い倍率を維持している。看護学部を擁する競合大学14校の入学定員充足率の平均値は、2018（平成30）年度は108.3%、2019（平成31）年は111.1%、2020（令和2）年度は102.7%と福岡県全体としてマーケット環境は良好であるといえる。</p> <p>地域性から見た競合大学としては、本学が位置する福岡地区にある8校を想定している。</p> <p>さらに、本学が独自に行ったアンケートの結果から、当該8校のうち3校は特に競合性が高いと捉えており、差別化を図る必要があると考えている。特に競合性が高い3校と比較した場合、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみである。また、本学は隣接するグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は有利と考え、加えて1年次から4年次にわたって段階的な専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）も本学のみの教育特色といえる。こうした差別化要</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>素について、入学を志願する対象者に分かりやすく伝え、本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる看護師になりたい学生を広く募集していくこととする。</p> <p>(b)理学療法学科・作業療法学科</p> <p>福岡県で理学療法学科、作業療法学科を擁する大学は、北九州地域1校、福岡地域1校、筑豊地域0校、筑後地域2校となっている。また、理学療法学科・作業療法学科の志願者数について、福岡県全体としては2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加している。理学療法学科について、志願者数は2018（平成30）年度の764名から2020（令和2）年度には1,055名まで増加し、志願倍率も3.2倍から4.6倍へと上昇している。また、作業療法学科についても志願者数は2018（平成30）年度の330名から2020（令和2）年度には469名まで増加し、志願倍率も2.8倍から2.9倍へと上昇している。</p> <p>一方、4校の競合大学の入学定員充足率や志願倍率をみると各大学の差異が認められる。特に作業療法学科では入学定員充足率が最も低い40%から、最も高い110%まで幅がある。この要因としては、大学の立地、教育上の特色（学べる内容）等が考えられ、高校生を中心とした入学志願者の志向性によって大学を選択しているためと考える。</p> <p>i) 立地による影響</p> <p>大学の立地が志願者数・入学者数に与える影響は大きいと考察している。本学が位置する福岡地域は、最も人口が多く、九州地方の中心地といえる福岡地域は九州地方及び福岡県全域から人口が流入しやすく、学生確保においても有利といえる。2校の競合大学、とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も低い競合大学が位置する筑後地区は人口が約</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>79万人とやや乏しく、マーケット環境は厳しいといえるため、入学定員充足率が低調である要因と考察できる。</p> <p>ii) 教育上の特色（学べる内容）</p> <p>教育研究上の特色（学べる内容）も志願者数・入学者数に影響を与えていると考察している。とりわけ作業療法学科の入学定員充足率が最も高い競合大学では、同一のグループ病院・施設と連携して実践的な教育を提供できる点に学生は魅力を感じていると分析している。これは、本学の教育の特色とも合致するため、本学でも学生確保の見通しが立つと分析している。</p> <p>以上の2つの要素を踏まえ、本学の学生確保の見通しについて改めて考察する。本学は人口が最も多い福岡地域にある点から、立地はプラスの影響が高いと考えられ、同じ福岡地区に位置する競合大学としては1校である。当該競合大学の入学定員充足率は好調であり、理学療法学科・作業療法学科共に直近2年間のデータでは110%を超えている点からも、福岡地区のマーケット環境は良好であるといえる。なお、本学が独自に行ったアンケート結果でも、本学の理学療法学科・作業療法学科に「ぜひ受験したい」、「受験したい」、「受験先の候補として検討する」と回答した2,803名のうち626名（22.3%）が当該競合大学への進学も検討しており、3校の他の競合大学への進学を検討している者が340名程度（約12%）であることを比較しても当該競合大学は最も競合性が高いといえる。</p> <p>次に、教育上の特色について本学の優位性を考察する。理学療法学科・作業療法学科を有する4大学のうち、「持続可能な健康長寿社会の実現」をコンセプトとした大学は本学のみである。さらに、本学の理学療法学科・作業療法学科は近隣にあるグループ病院で臨床実習のほとんどを実施することから分かるよ</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>うに、隣接したグループ病院との強い連携の下で臨床現場に近い環境で学ぶことができる点は、募集が好調な競合大学と類似しており、入学志願者の志向性と合致していると考え。また、1年次から4年次にわたって段階的に専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）を実践的に実施している競合大学はなく、かつ、取得単位数も本学が最も多く、こうした差別化要素を学生に分かりやすく伝えることで、学生確保の見通しは立つと考えている。設置認可後は本学の教育研究上の理念や特色に共感し、持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる理学療法士・作業療法士になりたい学生を広く募集していくこととする。</u></p> <p><u>（資料4 福岡県内大学同系統学科の入学定員に対する志願者数）</u></p> <p><u>（資料15 福岡県内大学同系統学科の入学定員充足率）</u></p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

19. 既設専門学校の学生確保の状況については、単年度のみの数値に基づく分析となっているため、過去5年程度の推移を示した上で説明すること。(是正事項)

(対応)

既設の専門学校における学生確保の状況についてのデータを「別紙資料5 既設の専門学校における学生確保の状況」にまとめます。それを踏まえて、本学の学生確保の見通しを改めて説明します。

【別紙資料5】 既設の専門学校における学生確保の状況

(1) 既設の専門学校における近年の入試状況

①福岡看護専門学校

本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、第1科・第2科共に100%を超えています。また、第1科における当該5年間の平均志願倍率は3.92倍であり、学生が十分に確保されていると考えます。

②福岡和白リハビリテーション学院

本学リハビリテーション学部理学療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科（昼間コース）における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、78～117%を推移し、平均入学定員充足率は94.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.03倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考えます。

また、本学リハビリテーション学部作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院作業療法学科（昼間コース）における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、75～122%を推移しており、平均は103.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.13倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考えます。

(2) 既設の専門学校の入学状況を加味した学生確保の見通し

①看護学部看護学科

本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学者は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間で、第1科と第2科を合わせた入学定員100名に対して、いずれの年度も100%を超えています。専門学校と大学との入学者層の差異を加味しても、競合大学のデータを鑑みれば、本学看護学部看護学科の入学定員は80名であることから学生確保の見通しは立つと考えています。

②リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科

本学リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間に於いて、理学療法学科（昼間コース）の入学定員80名、作業療法学科の入学定員40名に対して入学定員が充足

していない年度を認めます。しかし、下記の5点を根拠として、令和健康科学大学（仮称）における学生確保の見通しは立つと考えています。

i) 専門学校と比較して大学においては志願者の歩留りが違う点

専門学校は合格者の大半が入学する（歩留まりが良い）ことに対して、大学では入学を辞退する合格者が一定数存在します。この点につきましては、福岡県内の大学における看護学科の平均歩留り率が60.3%、理学療法学科の平均歩留り率が62.0%、作業療法学科の平均歩留り率が66.4%となっています。このデータから、入学者選抜によって入学定員の1.3～1.6倍の合格者を確保するために必要な志願者を確保することが必要であると考えられます。

ii) 専門学校と比較して大学においては入学定員充足に対する考え方が違う点

専門学校は管轄する福岡県より入学定員を超えないように指導がなされています。また、福岡県より入学定員を満たすための指導が強くされていないという実態があります。しかし、大学においては永続経営を目的とするため、管轄する文部科学省から定員充足が求められています。このような入学定員充足率に対する考え方の違いからも、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院において一部の年度で定員未充足であるという結果に繋がったと考えています。

iii) 母体となる専門学校と比較して令和健康科学大学（仮称）では入学者選抜の開催実態が違う点

ii) で述べた入学定員充足に対する考え方の違いは、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院の入試実態に表れている。すなわち、福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科では、出願者数が入学定員に達し次第、入学者選抜を打ち切っているため、出願者数が最大の年度であっても入学定員と同程度になり、出願者数が少ない年度を加味して平均を算出すれば100%を下回ることになります。別紙に示す福岡和白リハビリテーション学院における近年の入試日別出願者数をみると、早期に募集を締め切っている年度もあることから、大学同様に全ての入学者選抜を実施した場合は、出願者の増加を示唆するものと考察しています。

iv) 専門学校と比較して、大学においては志願者をより確保しやすい環境である点

福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科における志願倍率は1.0倍前後を推移しているのに対し、競合大学の理学療法学科・作業療法学科の志願倍率は4.0倍以上で推移していることから推察すれば、専門学校と比較して志願者数という観点において良化が見込めると考えます。

v) 専門学校から大学となる上で志願者層が変化する点

iv) で述べた志願倍率の推移にも影響していますが、専門学校と大学では以下のような志願者層の違いがあると分析しました。

|      |                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門学校 | ・実践教育を主体とし、3年で卒業できることから、就職への意識が強い層が志望する。                                                                           |
| 大学   | ・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。<br>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。<br>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。 |

このような志願者層の違いを踏まえつつ、本学が独自に行ったアンケート結果では、全体の56.1%が福岡県に理学療法学・作業療法学を学べる大学が「とても増えて欲しい」、「増えて欲しい」、「やや増えて欲しい」と回答している。こうした大学志向の高まりは社会構造の変化に伴って発生していると考え

られます。また、医療の多様化・複雑化を受けて、理学療法士・作業療法士に求められる能力が拡大しています。総じて、専門学校よりも大学に対する進学需要が高いことを加味し、学生確保の見通しが立つと分析しました。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《10～12 ページ》</p> <p>⑥既設専門学校の学生確保の状況</p> <p>(i) 既設の専門学校における近年の入試状況</p> <p>(a)福岡看護専門学校</p> <p>本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、第1科・第2科共に100%を超えている。また、第1科における当該5年間の平均志願倍率は3.92倍であり、学生が十分に確保されていると考える。</p> <p>(b)福岡和白リハビリテーション学院</p> <p>本学リハビリテーション学部理学療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科(昼間コース)における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、78～117%を推移し、平均入学定員充足率は94.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.03倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあることを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考える。</p> <p>また、本学リハビリテーション学部作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院作業療法学科(昼間コース)における入学定員充足率は2015(平成27)年度から2019(令和元)年度までの5年間に於いて、75～122%を推移しており、平均は103.0%です。また、当該5年間の平均志願倍率は1.13倍であり、入学者が定員を満たした時点で入学者選抜を打ち切った年度もあるこ</p> | <p>(5～6 ページ)</p> <p>⑥既設専門学校の学生確保の状況</p> <p>令和健康科学大学の母体である福岡看護専門学校の2019(令和元)年度の学生確保の状況は看護学科第1科～第2科まで入学定員を超える出願者数を確保しており、設置しようとする看護学科の母体となる3年課程全日制である看護学科第1科においては入学定員50名に対して出願者数215名と出願倍率は4倍を超えている。</p> <p>福岡和白リハビリテーション学院においても2019(令和元)年度の学生確保の状況について、理学療法学科は入学定員80名に対して出願者数96名、作業療法学科は入学定員40名に対して出願者数49名と入学定員を超える出願者数を確保している。また、今年度についても理学療法学科112名、作業療法学科43名と両学科ともに入学定員を超える出願者数を確保する見通しである。</p> <p>これらの既設の専門学校の学生確保の状況を踏まえても、大学へ移行した際も十分に定員を確保することができると判断した。</p> <p>また、専門学校運営で培われた広報体制及び広報資源を継承し、令和健康科学大学としての学生募集について適切な体制を構築することに加え、大学進学率の上昇や高校生を対象にしたアンケートにおいて看護学・理学療法学・作業療法学が学べる大学が増えて欲しいという回答が多く占めていたことから福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院の過去の学生確保の状況を上回る志願者数を確保することが可能であり、十分に定員を確保することが可能であると考えている。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 旧                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <p><u>とを考慮すれば、総じて学生が確保されていると考える。</u></p> <p><u>(ii)既設の専門学校の入学状況を加味した学生確保の見通し</u></p> <p><u>(a)看護学部看護学科</u><br/> <u>本学看護学部看護学科の母体である福岡看護専門学校における入学者は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間で、第1科と第2科を合わせた入学定員100名に対して、いずれの年度も100%を超えている。専門学校と大学との入学者層の差異を加味しても、競合大学のデータを鑑みれば、本学看護学部看護学科の入学定員は80名であることから学生確保の見通しは立つと考えている。</u></p> <p><u>(b)リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科</u><br/> <u>本学リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科の母体である福岡和白リハビリテーション学院における入学定員充足率は2015（平成27）年度から2019（令和元）年度までの5年間において、理学療法学科（昼間コース）の入学定員80名、作業療法学科の入学定員40名に対して入学定員が充足していない年度を認める。しかし、下記の4点を根拠として、令和健康科学大学（仮称）における学生確保の見通しは立つと考えている。</u></p> <p><u>i）専門学校と比較して大学においては志願者の歩留りが違う点</u><br/> <u>専門学校は合格者の大半が入学する（歩留まりが良い）ことに対して、大学では入学を辞退する合格者が一定数存在する。この点については、福岡県内の大学における看護学科の平均歩留り率が60.3%、理学療法学科の平均歩留り率が62.0%、作業療法学科の平均歩</u></p> | <p>(資料5 既設専門学校の学生確保の状況)</p> |



| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>留り率が66.4%となっている。このデータから、入学者選抜によって入学定員の1.3～1.6倍の合格者を確保するために必要な志願者を確保することが必要であると考えられる。</u></p> <p><u>ii) 専門学校と比較して大学においては入学定員充足に対する考え方が違う点</u><br/> <u>専門学校は管轄する福岡県より入学定員を超えないように指導がなされている。また、福岡県より入学定員を満たすための指導が強くされていないという実態がある。しかし、大学においては永続経営を目的とするため、管轄する文部科学省から定員充足が求められている。このような入学定員充足率に対する考え方の違いからも、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院において一部の年度で定員未充足であるという結果に繋がったと考えている。</u></p> <p><u>iii) 母体となる専門学校と比較して令和健康科学大学（仮称）では入学者選抜の開催実態が違う点</u><br/> <u>ii) で述べた入学定員充足に対する考え方の違いは、本学の母体となる福岡和白リハビリテーション学院の入試実態に表れている。すなわち、福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科では、出願者数が入学定員に達し次第、入学者選抜を打ち切っているため、出願者数が最大の年度であっても入学定員と同程度になり、出願者数が少ない年度を加味して平均を算出すれば100%を下回ることになる。別紙に示す福岡和白リハビリテーション学院における近年の入試日別出願者数をみると、早期に募集を締め切っている年度もあることから、大学同様に全ての入学者選抜を実施した場合は、出願者の増加を示唆するものと考察している。</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>iv) 専門学校と比較して、大学においては志願者をより確保しやすい環境である点</p> <p>福岡和白リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科における志願倍率は 1.0 倍前後を推移しているのに対し、競合大学の理学療法学科・作業療法学科の志願倍率は 4.0 倍以上で推移していることから推察すれば、専門学校と比較して志願者数という観点において良化が見込めると考える。</p> <p>v) 専門学校から大学となる上で志願者層が変化する点</p> <p>iv) で述べた志願倍率の推移にも影響していますが、専門学校と大学では以下のような志願者層の違いがあると分析した。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="193 985 304 1126">専門学校</td><td data-bbox="304 985 802 1126"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td data-bbox="193 1126 304 1503">大学</td><td data-bbox="304 1126 802 1503"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> </td></tr> </table> <p>このような志願者層の違いを踏まえつつ、本学が独自に行ったアンケート結果では、全体の 56.1% が福岡県に理学療法学・作業療法学を学べる大学が「とても増えて欲しい」、「増えて欲しい」、「やや増えて欲しい」と回答している。こうした大学志向の高まりは社会構造の変化に伴って発生していると考えられる。また、医療の多様化・複雑化を受けて、理学療法士・作業療法士に求められる能力が拡大している。総じて、専門学校よりも</p> | 専門学校                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul> | 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> |  |
| 専門学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育を主体とし、3 年で卒業できることから、就職への意識が高い層が志望する。</li> </ul>                                                                                      |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |
| 大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願倍率が高く、受験・入学のハードルが高いため学習意欲の高い層が志望する。</li> <li>・研究能力を有しており、探究心をもった層が志望する。</li> <li>・目標志向性が高く、幅広い分野で活躍できる医療専門職になりたいと考える層が志望する。</li> </ul> |                                                                                             |    |                                                                                                                                                                                  |  |

| 新                                                                                                                                                     | 旧 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>大学に対する進学需要が高いことを加味し、<br/>学生確保の見通しが立つと分析した。</u></p> <p>(資料 5 既設専門学校の学生確保の状況)<br/>(資料 16 福岡県内大学同系統学科の歩留まり率)<br/>(資料 17 既設専門学校における近年の入試日別出願者数)</p> |   |

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

20. 学生確保の見通しにおいて、中長期的なニーズの説明として、高等学校2年生に対し、今後短期大学や専門学校に比べて看護系やリハビリテーション系の大学を志望する生徒が増えるか等を質問し、その結果をもって説明しているが、高等学校の生徒に中長期的な志望者の推移について問うことが適切とは考えにくいと、適切かつ客観的に改めて説明すること。なお、その際には、看護系やリハビリテーション系の大学全体ではなく、本学科の学生の確保が中長期的に見込まれる旨を説明すること。(是正事項)

(対応)

下記の3点を根拠として本学科の学生の確保が中長期的に見込まれると考えています。

(1) 18歳人口の推移

本学の位置する福岡市における18歳人口は、2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて328人増加し、2.3%の増加率と推計されている。さらに、同年比較で東区も同様に161人増加し、5.6%の増加率と推計されている。一方、全国における18歳人口は、2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて12.6万人減少し、10.7%の減少率と推計されています。なお、福岡県における18歳人口は2019(令和元)年から2029(令和11)年にかけて2,337人減少するも、4.8%の減少率と推計されていることから、本学の位置する福岡市は18歳人口が中長期的に維持されることが見込まれており、マクロ的視点から分析した学生確保の状況の悪化要因とは考えにくいと考察しています。

(2) 競合大学における看護学科・理学療法学科・作業療法学科への志願者数推移

福岡県の競合大学における看護学科の志願者数は、2018(平成30)年度が6,229名から2020(令和2)年度は6,392名へと増加しています。同年比較で、理学療法学科の志願者数は、764名から1,055名へと増加し、作業療法学科の志願者数は330名から469名まで増加しています。すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科ともに、福岡県内のマーケット環境は良化していると考えています。

(3) 本学の特色と高校生のニーズの合致

以下の4点を根拠として、本学の特色と高校生の進路選択の際に重要視するニーズとの合致から本学への進学需要は十分にあると考えます。

なお、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学センサス2019 高校生の進路選択に関する調査」において、進学先検討時の重視項目の上位5項目は、「学びたい学部・学科・コースがあること(80.4%)」、「校風や雰囲気が良いこと(47.9%)」、「自分の興味や可能性が広げられること(46.6%)」、「就職に有利であること(45.0%)」、「自宅から通えること(38.6%)」となっています。これらの5項目が本学の特色に合致することで高校生のニーズと合致していることを比較参照して説明します。

#### ①新校舎による充実した学習環境

上述した株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査において、校風や雰囲気について「キャンパス」から感じているという回答が最も多い結果となっています。これを踏まえ、本学は大学設置に伴い新たな校舎を建設し、新型の教育器材等も購入しているため、最新の学修設備や教材が整っています。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「学びたい学部・学科・コースがあること」及び「校風や雰囲気が良いこと」に合致していると考えています。

## ②設置予定の学科構成

本学が設置しようとする看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科全てを擁する競合大学は福岡県内で1校のみです。加えて、本学では3学科合同で、かつ1年次から4年次にわたって段階的に学修するIPEを特色としています。多くの専門職との協働が必要とされる多様化かつ高度化した医療に貢献するために、そして関連する多くの専門職に対する理解を深めていくことが自身の将来像の形成にも寄与することをねらいとしてIPEを導入しています。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自分の興味や可能性が広げられること」に合致すると考えています。

## ③既設の専門学校の就職実績

本学の母体である福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院における直近3年の就職率は100%となっています。また、近年の当該専門学校に寄せられる求人数の推移から、看護学科では6倍以上、理学療法学科では25倍以上、作業療法学科では75倍以上の定員に対する求人が令和健康科学大学の母体となる専門学校に寄せられており、就職実績は優れていると捉えています。また、本学の設置主体は全国27のグループ病院を運営する医療法人であることは、本学の卒業生が就職面において有利な条件であり、このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「就職に有利であること」に合致すると考えています。

## ④本学の立地

本学が位置する福岡市は福岡県における中心都市といえます。福岡市の2019（令和元）年における18歳人口は13,979人であり、これは福岡県全体の18歳人口の28.5%を占めています。また、博多駅から本学の最寄駅である福工大前駅まではJR鹿児島本線で15分程度と福岡の主要ターミナルである博多駅からのアクセスも良好といえます。このような18歳人口が多く、かつ通学しやすい地域にあることは、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自宅から通えること」に合致すると考えています。

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 旧           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <p>《16～17 ページ》</p> <p>⑧中長期的な学生確保</p> <p>下記の3点を根拠として本学科の学生の確保が中長期的に見込まれると考えている。</p> <p>（i）18歳人口の推移</p> <p>本学の位置する福岡市における18歳人口は、2019（令和元）年から2029（令和11）年にかけて328人増加し、2.3%の増加率と推計されている。さらに、同年比較で東区も同様に161人増加し、5.6%の増加率と推計されている。一方、全国における18歳人口は、2019（令和元）年から2029（令和11）年にかけて12.6万人減少し、10.7%の減少率と推</p> | <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>計されている。なお、福岡県における 18 歳人口は 2019（令和元）年から 2029（令和 11）年にかけて 2,337 人減少するも、4.8%の減少率と推計されていることから、本学の位置する福岡市は 18 歳人口が中長期的に維持されることが見込まれており、マクロ的視点から分析した学生確保の状況の悪化要因とは考えにくいと考察している。</p> <p>（ii）競合大学における看護学科・理学療法学科・作業療法学科への志願者数推移</p> <p>福岡県の競合大学における看護学科の志願者数は、2018（平成 30）年度が 6,229 名から 2020（令和 2）年度は 6,392 名へと増加している。同年比較で、理学療法学科の志願者数は、764 名から 1,055 名へと増加し、作業療法学科の志願者数は 330 名から 469 名まで増加している。すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科ともに、福岡県内のマーケット環境は良化していると考えている。</p> <p>（iii）本学の特色と高校生のニーズの合致</p> <p>以下の 4 点を根拠として、本学の特色と高校生の進路選択の際に重要視するニーズとの合致から本学への進学需要は十分にあると考えている。</p> <p>なお、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学センサス 2019 高校生の進路選択に関する調査」において、進学先検討時の重視項目の上位 5 項目は、「学びたい学部・学科・コースがあること（80.4%）」、「校風や雰囲気が良いこと（47.9%）」、「自分の興味や可能性が広げられること（46.6%）」、「就職に有利であること（45.0%）」、「自宅から通えること（38.6%）」となっている。これらの 5 項目が本学の特色に合致することで高校生のニーズと合致していることを比較参照して説明する。</p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>(a)新校舎による充実した学習環境</p> <p><u>上述した株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査において、校風や雰囲気について「キャンパス」から感じているという回答が最も多い結果となっている。これを踏まえ、本学は大学設置に伴い新たな校舎を建設し、新型の教育器材等も購入しているため、最新の学修設備や教材が整っている。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「学びたい学部・学科・コースがあること」及び「校風や雰囲気が良いこと」に合致すると考えている。</u></p> <p>(b)設置予定の学科構成</p> <p><u>本学が設置しようとする看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科全てを擁する競合大学は福岡県内で1校のみである。加えて、本学では3学科合同で、かつ1年次から4年次にわたって段階的に学修するIPEを特色としている。多くの専門職との協働が必要とされる多様化かつ高度化した医療に貢献するために、そして関連する多くの専門職に対する理解を深めていくことが自身の将来像の形成にも寄与することをねらいとしてIPEを導入している。このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自分の興味や可能性が広げられること」に合致すると考えている。</u></p> <p>(c)既設の専門学校の就職実績</p> <p><u>本学の母体である福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院における直近3年の就職率は100%となっている。また、近年の当該専門学校に寄せられる求人数の推移から、看護学科では6倍以上、理学療法学科では25倍以上、作業療法学科では75倍以上の定員に対する求人が令和健康科学大学の母体となる専門学校に寄せられており、就職実績は優れていると捉えている。また、本学</u></p> |   |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>の設置主体は全国 27 のグループ病院を運営する医療法人であることは、本学の卒業生が就職面において有利な条件であり、このことは株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「就職に有利であること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(d)本学の立地</u></p> <p><u>本学が位置する福岡市は福岡県における中心都市といえる。福岡市の 2019（令和元）年における 18 歳人口は 13,979 人であり、これは福岡県全体の 18 歳人口の 28.5%を占めている。また、博多駅から本学の最寄駅である福工大前駅までは JR 鹿児島本線で 15 分程度と福岡の主要ターミナルである博多駅からのアクセスも良好といえる。このような 18 歳人口が多く、かつ通学しやすい地域にあることは、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した調査でいうところの「自宅から通えること」に合致すると考えている。</u></p> <p><u>(資料 1 全国および福岡県、福岡市、東区の 18 歳人口統計)</u></p> <p><u>(資料 18 既設専門学校の就職実績)</u></p> |   |



(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

21. 本学科が養成する人材の社会的需要について、医療施設の採用担当者に移行調査を行い、294名採用可能との回答があったことを根拠に人材需要を説明しているが、意向調査では単年度の採用移行人数を確認しているのみと見受けられ、養成する人材の継続的な社会的需要が見込まれるかが必ずしも明らかでないため、客観的数値で改めて説明すること。(是正事項)

(対応)

施設へのアンケート調査の回答において、人材不足との回答が多く、採用予定年度を完成年度以降5年と明確にして採用予定人数を質問するアンケートを既設の専門学校における就職実績の高い施設に対して改めて実施しました。

なお、専門学校と大学とで就職先からの内定状況等に乖離を生じる懸念については、既設の専門学校での就職活動は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の全てにおいて、複数内定をいただくことはせず、就職試験も同時期に複数の受験をさせていないため、就職先との関係性が強く築かれていることから、大学へ移行した際にも急激な減少をすることは考えにくく、アンケート結果は本学を卒業した学生の社会的需要を妥当に反映しているものと考えています。

人材需要に関するアンケートに回答いただいた施設のうち、既設専門学校の看護学科、理学療法学科、作業療法学科における採用実績が特に多く、本学との関係性が極めて強いと考えられる24施設に対して、以下の追加質問を実施し、回答の分析により本学に対する中長期的な人材需要の見通しを説明します。

Q 令和健康科学大学（仮称）の卒業生に対して、2026（令和8）年度以降の5年で継続的な採用を予定されていますか？

1. 毎年採用する予定である。
2. 隔年程度で採用する予定である。
3. 採用する予定はない。

上記アンケートの結果、24施設の全てで「1. 毎年採用する予定である。」という回答が得られました。これを踏まえて、以下の追加質問も実施しました。

Q 前問で1または2を選択した方にお尋ねします。2026（令和8）年度以降の5年で、毎年何名の採用を予定されていますか？

|              | 看護師 | 理学療法士 | 作業療法士 |
|--------------|-----|-------|-------|
| 2026（令和8）年度  | 名   | 名     | 名     |
| 2027（令和9）年度  | 名   | 名     | 名     |
| 2028（令和10）年度 | 名   | 名     | 名     |
| 2029（令和11）年度 | 名   | 名     | 名     |
| 2030（令和12）年度 | 名   | 名     | 名     |

上記アンケートの結果、全ての施設で各職種における毎年の採用人数は同数で、看護師200名、理学

療法士 92 名、作業療法士 229 名の採用を予定しているとの回答が得られました。

加えて、アンケートの対象とした既設専門学校の採用実績が高い施設において、就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の卒業生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えております。

以上の根拠をもって、看護学科 80 名、理学療法学科 80 名、作業療法学科 60 名に対する継続的な社会的需要が見込まれると考えます。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 旧                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《31～33 ページ》</p> <p>(v)中長期的ニーズ</p> <p>今後の看護師の人材需要について全体の 75.5% (40 施設) が「拡大する」と回答があった。また、理学療法士についても全体の 63.0% (34 施設) が「拡大する」と回答があり、作業療法士についても全体の 78.8% (41 施設) が「拡大する」と回答があった。</p> <p>この結果から、現在の人材需要が短期的でなく、今後も看護師・理学療法士・作業療法士の人材需要は拡大していく見通しがあるといえる。</p> <p><u>また、施設へのアンケート調査の回答において、人材不足との回答が多く、採用予定年度を完成年度以降 5 年と明確にして採用予定人数を質問するアンケートを既設の専門学校における就職実績の高い施設に対して改めて実施した。</u></p> <p><u>なお、専門学校と大学とで就職先からの内定状況等に乖離を生じる懸念については、既設の専門学校での就職活動は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の全てにおいて、複数内定をいただくことはせず、就職試験も同時期に複数の受験をさせていないため、就職先との関係性が強く築かれていることから、大学へ移行した際にも急激な減少をすることは考えにくく、アンケート結果は本学を卒業した学生の社会的需要を妥当に反映しているものと考えている。</u></p> | <p>《23 ページ》</p> <p>(v)中長期的ニーズ</p> <p>今後の看護師の人材需要について全体の 75.5% (40 施設) が「拡大する」と回答があった。また、理学療法士についても全体の 63.0% (34 施設) が「拡大する」と回答があり、作業療法士についても全体の 78.8% (41 施設) が「拡大する」と回答があった。</p> <p>この結果から、現在の人材需要が短期的でなく、今後も看護師・理学療法士・作業療法士の人材需要は拡大していく見通しがあるといえる。</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 旧          |              |              |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|----------|----------|----------|---------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|----------------------|----------|----------|----------|--|
| <p><u>人材需要に関するアンケートに回答いただいた施設のうち、既設専門学校の看護学科、理学療法学科、作業療法学科における採用実績が特に多く、本学との関係性が極めて強いと考えられる 24 施設に対して、以下の追加質問を実施し、回答の分析により本学に対する中長期的な人材需要の見通しを説明する。</u></p> <p><u>Q 令和健康科学大学（仮称）の卒業生に対して、2026（令和 8）年度以降の 5 年で継続的な採用を予定されていますか？</u></p> <p><u>1. 毎年採用する予定である。</u></p> <p><u>2. 隔年程度で採用する予定である。</u></p> <p><u>3. 採用する予定はない。</u></p> <p><u>上記アンケートの結果、24 施設の全てで「1. 毎年採用する予定である。」という回答が得られた。これを踏まえて、以下の追加質問も実施した。</u></p> <p><u>Q 前問で 1 または 2 を選択した方にお尋ねします。2026（令和 8）年度以降の 5 年で、毎年何名の採用を予定されていますか？</u></p> <table><tr><th></th><th><u>看護師</u></th><th><u>理学療法士</u></th><th><u>作業療法士</u></th></tr><tr><td><u>2026（令和 8）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2027（令和 9）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2028（令和 10）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2029（令和 11）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr><tr><td><u>2030（令和 12）年度</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td><td><u>名</u></td></tr></table> |            | <u>看護師</u>   | <u>理学療法士</u> | <u>作業療法士</u> | <u>2026（令和 8）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2027（令和 9）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2028（令和 10）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2029（令和 11）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>2030（令和 12）年度</u> | <u>名</u> | <u>名</u> | <u>名</u> |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <u>看護師</u> | <u>理学療法士</u> | <u>作業療法士</u> |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2026（令和 8）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2027（令和 9）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2028（令和 10）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2029（令和 11）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |
| <u>2030（令和 12）年度</u>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <u>名</u>   | <u>名</u>     | <u>名</u>     |              |                     |          |          |          |                     |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |                      |          |          |          |  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 旧 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p><u>上記アンケートの結果、全ての施設で各職種における毎年の採用人数は同数で、看護師200名、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を予定しているとの回答が得られた。</u></p> <p><u>加えて、アンケートの対象とした既設専門学校</u><br/><u>の採用実績が高い施設において、就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の卒業生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えている。</u></p> <p><u>以上の根拠をもって、看護学科80名、理学療法学科80名、作業療法学科60名に対する継続的な社会的需要が見込まれると考えている。</u></p> |   |

## (是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

22. 社会的・地域的な人材需要の動向として、福岡県内の医療技術者の求人状況や福岡市健康先進都市戦略等が示されているが、具体的に県内においてどの程度の理学療法士が不足しているのかといったことに加え、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」にて示された需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」とされていること等が踏まえられておらず、中長期的に人材需要があるか不明確である。ついては、最新のデータを用いて地域的な需給関係等を再度検討した上で、人材需要の見通しについて改めて明確に説明すること。(是正事項)

## (対応)

厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」による需給推計において「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる」と全国的な傾向が示されましたが、本学を開設する予定地については、「福岡県高齢者保健福祉計画（第8次）（平成30年3月）」による今後の取り組みとしては、「医療の分野にとどまらず、保健・医療・介護・福祉が一体となったサービス提供体制の整備が進む中で、訪問看護等の関連サービスとの連携など、幅広い分野で需要の拡大が予想されるため、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の育成、確保及び資質の向上に努めます。」と示されています。また、既設専門学校で就職者数実績の高い施設を対象として採用予定者数を調査する目的で実施した追加アンケートの結果において、本学が最初の学生を輩出する2026（令和8）年度以降の5年間について、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を毎年予定しているとの回答が得られました。加えて、アンケートの対象施設において就職を募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることが前回のアンケートで確認できているため、就職を希望する本学の学生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと捉えております。

また、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」では、数的需給バランスと併せて理学療法士・作業療法士の質の向上についても言及がなされており、大学教育の必要性が挙げられています。ゆえに、大学卒の理学療法士・作業療法士が求められていることが分かります。本学は専門学校から移行するものであるため、当該観点に合致していると捉えております。

これらの根拠をもちまして、本学の輩出する学生に対する中長期的な視点で捉えた人材需要の見通しは立つという考えに至りました。

## (新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

| 新                                                                                                                                                | 旧           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <p>《34 ページ》</p> <p>（6）理学療法士・作業療法士の中長期的な人材需要</p> <p>厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」による需給推計において</p> <p>「2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍と</p> | <p>【新規】</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>なる」と全国的な傾向が示された。一方で、<br/> <u>本学を開設する予定地について、「福岡県高齢者保健福祉計画（第8次）（平成30年3月）」による今後の取り組みとしては、「医療の分野にとどまらず、保健・医療・介護・福祉が一体となったサービス提供体制の整備が進む中で、訪問看護等の関連サービスとの連携など、幅広い分野で需要の拡大が予想されるため、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の育成、確保及び資質の向上に努めます。」と示されている。</u>また、<u>既設専門学校で就職者数実績の高い施設を対象として採用予定者数を調査する目的で実施した追加アンケートの結果において、本学が最初の学生を輩出する2026（令和8）年度以降の5年間について、理学療法士92名、作業療法士229名の採用を毎年予定しているとの回答が得られた。</u>加えて、<u>アンケートの対象施設において募集する人材は本学の養成する人材像に合致していることは本学が実施した「令和健康科学大学（仮称）の人材需要に関する調査」で確認できているため、就職を希望する本学の学生と同等の競合大学の希望者との比較で優先的に採用していただけるものと判断している。</u></p> <p><u>また、厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会理学療法士・作業療法士分科会（平成31年4月5日）」では、数的需給バランスと併せて理学療法士・作業療法士の質の向上についても言及がなされており、大学教育の必要性が挙げられてることから、大学を卒業したの理学療法士・作業療法士が求められていることが分かる。</u>本学は専門学校から移行するものであるため、当該観点に合致していると捉えている。</p> <p><u>これらの根拠から、本学の輩出する学生に対する中長期的な視点で捉えた人材需要の見通しは立つという考えに至った。</u></p> |   |



審査意見への対応を記載した書類(3月)

資料目次

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 別紙資料1 | 養成する人材像と3つのポリシー    |
| 別紙資料2 | AP・DP・入学者選抜の関係     |
| 別紙資料3 | 実習科目別教員配置          |
| 別紙資料4 | 競合大学の入学状況          |
| 別紙資料5 | 既設の専門学校における学生確保の状況 |



|                          |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 養成<br>専門職<br>人<br>材<br>像 | 令和健康科学大学（仮称）                                                                                                                                                                                                     | 看護学部・看護学科                                                                                                                                                                                               | リハビリテーション学部・理学療法学科                                                                                                                                                                                                    | リハビリテーション学部・作業療法学科                                                                                                                                                                                                                         |
|                          | 多様化・高度化する医療において、「幅広い教養と思考力」を基盤とし、「倫理観」及び「探究心」を統合した「実践力」を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職                                                                                                                 | 多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、対象者を全人的に捉え、多くの専門職と協働し、科学的根拠に基づいた看護の探究と実践をとおして多様な対象者の抱える個別の健康課題を解決し、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する看護師                                                                                 | 多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な理学療法技術の探究と実践をとおして基本的動作能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する理学療法士                                                                                                  | 多様化・高度化する医療において、職業倫理と幅広い教養を有し、多様な対象者を全人的に捉え、科学的根拠に基づいた知識や専門的な作業療法技術の探究と実践をとおして応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図り、持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する作業療法士                                                                                                             |
|                          | ① 倫理観<br>医療専門職の倫理観は、対象である生命の尊厳を尊重する姿勢である。こうした倫理観は理論や知識だけでなく、自己洞察と内省により獲得される。<br>職業倫理は、各種職能団体が出す倫理指針（日本看護協会「看護者の倫理綱領」、日本理学療法士協会「倫理規程」、日本作業療法士協会「倫理綱領」）に基づき、臨床実習・臨床実習等をおとして主体的に自己を研鑽することで、専門職としてふさわしい人格が形成されたと考える。 | ① 倫理観<br>看護学科の養成する人材像は、生命の尊厳を基盤とした、看護師としてふさわしい職業倫理を有する。これは、あらゆる対象者がその人らしく生活できるよう、対象者を全人的に捉え、人間の生命と尊厳の尊重を基盤とした看護を実践するための能力である。<br>日本看護協会の「看護者の倫理綱領」に基づき、臨床実習をおとして主体的に自己を研鑽することで、看護師としてふさわしい人格が形成されたと考える。 | ① 倫理観<br>理学療法学科の養成する人材像は、生命の尊厳を基盤とした、理学療法士としてふさわしい職業倫理を有する。これは、多様な価値観を受容し、対象者の個別の健康課題を全人的に捉えるための能力である。<br>日本理学療法士協会の「倫理規程」に基づき、臨床実習をおとして主体的に自己を研鑽することで、理学療法士としてふさわしい人格が形成されたと考える。                                     | ① 倫理観<br>作業療法学科の養成する人材像は、生命の尊厳を基盤とした、作業療法士としてふさわしい職業倫理を有する。これは、多様な価値観を受容し、対象者の個別の健康課題を全人的に捉えるための能力である。<br>日本作業療法士協会の「倫理綱領」に基づき、臨床実習をおとして主体的に自己を研鑽することで、作業療法士としてふさわしい人格が形成されたと考える。                                                          |
|                          | ② 探究心<br>医療専門職の探究心は、真理を究める態度を基盤とする。これは教育と研究をとおして獲得される。倫理観に基づいた探究心は、医療の専門性を発展させるとともに、医療職としてふさわしい主体性を養う基盤となり、それを生涯にわたって継続することで、自己実現を成し遂げることができる。と考える。                                                              | ② 探究心<br>看護学科の養成する人材像は、真理を究める態度を基盤とした探究心を有する。これは、多様な対象者の健康課題に対して、幅広く情報を収集し、より質の高い看護を実践・研究することで健康を科学するための能力である。<br>主体的な教育と研究を生涯にわたって継続することで、看護師として活躍し、自己実現を成し遂げることができる。と考える。                             | ② 探究心<br>理学療法学科の養成する人材像は、真理を究める態度を基盤とした探究心を有する。これは、多様な対象者の健康課題に対して、高度な理学療法を実践・研究するための能力である。<br>主体的な教育と研究を生涯にわたって継続することで、健康に対する理学療法士の拡大・発展に貢献でき、理学療法士としての自己実現を成し遂げることができる。と考える。                                        | ② 探究心<br>作業療法学科の養成する人材像は、真理を究める態度を基盤とした探究心を有する。これは、多様な対象者の健康課題に対して、高度な作業療法を実践・研究するための能力である。<br>主体的な教育と研究を生涯にわたって継続することで、健康に対する作業療法の拡大・発展に貢献でき、作業療法士としての自己実現を成し遂げることができる。と考える。                                                              |
| 養成<br>専門職<br>人<br>材<br>像 | ③ 実践力<br>医療専門職の実践力は、倫理観と探究心を基盤として、科学的根拠に基づく臨床判断能力及び専門技術を活用する能力である。すなわち、「実践力」は「倫理観」、「探究心」を内包したものであるといえる。自己研鑽により得られた実践力は、健康を科学する医療専門職として広く地域社会に貢献できると考える。                                                          | ③ 実践力<br>看護学科の養成する人材像は、看護師としての実践力を有する。この実践力は、第一に対象者の個別の健康課題に対応した看護であること、第二に科学的根拠に基づく看護であること、第三に対象者のQOL向上に資する看護であることの3つが含まれた能力である。倫理観を軸とした探究心に基づく実践力は健康を科学する看護師として、多くの専門職と連携・協働することで広く社会に貢献できると考える。      | ③ 実践力<br>理学療法学科の養成する人材像は、理学療法士としての実践力を有する。この実践力は、第一に身体に障害のある対象者に基本的動作能力の回復を図るための科学的根拠に基づく理学療法であること、第二に疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法であることの2つが含まれた能力である。倫理観を軸とした探究心に基づく実践力は、健康を科学する理学療法士として、多くの専門職と連携・協働することで広く社会に貢献できると考える。 | ③ 実践力<br>作業療法学科の養成する人材像は、作業療法士としての実践力を有する。この実践力は、第一に身体または精神に障害のある対象者に応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図るための科学的根拠に基づく作業療法であること、第二に、目的や価値のある作業をおとして、人々を健康にできる作業療法であることの2つが含まれた能力である。倫理観を軸とした探究心に基づく実践力は、健康を科学する作業療法士として、多くの専門職と連携・協働することで広く社会に貢献できると考える。 |

|      |                                                                  |                                                              |                                                                  |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| ポリシー | 令和健康科学大学（仮称）                                                     | 看護学部・看護学科                                                    | リハビリテーション学部・理学療法学科                                               | リハビリテーション学部・作業療法学科                                                                 |
|      | ① 医療専門職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたって自己研鑽する態度を身につけている。              | ① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。             | ① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。                          | ① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。                                            |
|      | ② 医療専門職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。                    | ② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。                            | ② 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を実践する能力を有している。               | ② 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。                                 |
|      | ③ 多様化かつ高度化する医療において、多くの専門職と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。         | ③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。                   | ③ 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。                                | ③ 目的や価値のある作業をおとして、人々の健康と幸福に寄与できる作業療法が実践できる。                                        |
| ポリシー | ④ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、幅広い知識と専門的な実践で持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する能力を有している | ④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。         | ④ 多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をおとして広く社会に貢献する能力を有している。   | ④ 多様化かつ高度化する医療において、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をおとして広く社会に貢献する能力を有している。 |
|      | ⑤ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、専門職性を主体的に探究する素養を有している。           | ⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍する能力を有している。 | ⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の基本的動作能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 | ⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。          |
|      |                                                                  | ⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。      | ⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。        | ⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。                          |
|      |                                                                  |                                                              |                                                                  |                                                                                    |

|                |                                                                                               |                                                                                               |                                                                                                                 |                                                                                                                 |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カリキュラム<br>ポリシー | 令和健康科学大学（仮称）                                                                                  | 看護学部・看護学科                                                                                     | リハビリテーション学部・理学療法学科                                                                                              | リハビリテーション学部・作業療法学科                                                                                              |
|                | ① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。                                           | ① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。                                           | ① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。                                                             | ① 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。                                                             |
|                | ② 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。                            | ② 科学的根拠に基づく看護実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。                                       | ② 科学的根拠に基づく理学療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。                                                    | ② 科学的根拠に基づく作業療法実践の基盤として、基礎的及び専門的な知識・技術を学修する授業科目を専門基礎分野に開設する。                                                    |
|                | ③ 多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。                        | ③ 多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。                            | ③ 多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。                                              | ③ 多様化かつ高度化する医療に対応するために、専門職連携教育を1～4年次にわたって臨床実習と連関させて学修できる授業科目を開設する。                                              |
| カリキュラム<br>ポリシー | ④ 持続可能な健康長寿社会の実現に向けて、各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。                             | ④ 看護実践力を養うために、臨床実践中心型カリキュラムの中で、臨床推論を強化できるシミュレーション教育を取り入れた授業科目を専門分野に開設する。                      | ④ 対象者に対する基本的動作能力の回復を図ることを目標とした課題解決能力を培うために、従来の身体障害に加え、予防と医工連携の観点から健康にアプローチした授業科目を専門分野に開設する。                     | ④ 専門的な視点から捉えた作業の知識と応用技術を身につけ、課題解決能力を培うための授業科目を専門分野に開設する。                                                        |
|                | ⑤ 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4年次にわたって多様性のある臨床実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。         | ⑤ 看護の理論と実践の統合として、1～4年次にわたって臨床実習を多様な場で行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。                      | ⑤ 理学療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。 | ⑤ 作業療法の理論と実践の統合として、医療チームの一員となり実際の診療に参加できる臨床実習を1～4年次にわたって多様な対象者に行い、治療計画立案能力・実践能力を身につけるための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。 |
|                | ⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。 | ⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。 | ⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を基幹分野・専門基礎分野・専門分野の各分野に開設する。                   | ⑥ 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。                                         |
|                |                                                                                               |                                                                                               |                                                                                                                 |                                                                                                                 |

|                                                            |                                               |                                               |                                               |                                               |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| アドミ<br>ニ<br>ス<br>テ<br>シ<br>ョ<br>ン<br>・<br>ポ<br>リ<br>シ<br>ー | 令和健康科学大学（仮称）                                  | 看護学部・看護学科                                     | リハビリテーション学部・理学療法学科                            | リハビリテーション学部・作業療法学科                            |
|                                                            | ① 健康及び医療に興味をもち、深く学びたいという意欲のある者                | ① 看護に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者                 | ① 理学療法に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者               | ① 作業療法に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者               |
|                                                            | ② 人を尊重し、協調しようとする気持ちを有している者                    | ② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有している者                 | ② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有している者                 | ② 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有している者                 |
|                                                            | ③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者                  | ③ 人と関わり、環境との相互作用に関する調整力を有する者                  | ③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者                  | ③ 人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者                  |
| アドミ<br>ニ<br>ス<br>テ<br>シ<br>ョ<br>ン<br>・<br>ポ<br>リ<br>シ<br>ー | ④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 | ④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 | ④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 | ④ 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 |
|                                                            | ⑤ 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者             | ⑤ 看護師の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者               | ⑤ 理学療法士の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者             | ⑤ 作業療法士の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者             |
|                                                            |                                               |                                               |                                               |                                               |
|                                                            |                                               |                                               |                                               |                                               |

## 【別紙資料2 AP・DP・入学者選抜の関係】

### 《看護学部 看護学科》

| アドミッション・ポリシー（AP）・ディプロマ・ポリシー（DP）・入学者選抜の関係 |         |      |                                    |                                  |                          |                                                    |                                      |
|------------------------------------------|---------|------|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 対応するDP                                   |         |      | DP④<br>DP⑥                         | DP①<br>DP②                       | DP⑤                      | DP③                                                | DP⑥                                  |
| 入 学 者 選 抜<br>の 種 別                       | 判 定 資 料 | 評価割合 | ア ド ミ ッ シ ョ ン ・ ポ リ シ ー と の 関 係    |                                  |                          |                                                    |                                      |
|                                          |         |      | AP①<br>看護に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者 | AP②<br>人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者 | AP③<br>環境との相互作用の調整力を有する者 | AP④<br>本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 | AP⑤<br>看護師の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 |
| 総合型選抜                                    | 面接      | 60%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
|                                          | 調査書     | 20%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 小論文     | 20%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
| 学校推薦型選抜（一般）                              | 面接      | 50%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 小論文     | 30%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 推薦書     | 10%  | ○                                  |                                  |                          |                                                    |                                      |
| 学校推薦型選抜（指定校）                             | 面接      | 40%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 小論文     | 30%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 推薦書     | 20%  | ○                                  |                                  |                          |                                                    |                                      |
| 一般選抜（前期）                                 | 学力試験    | 60%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 面接      | 30%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
| 一般選抜（後期）                                 | 面接      | 60%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 小論文     | 30%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
| 大学入試共通テスト利用入試                            | 学力試験    | 80%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 調査書     | 20%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
| 社会人選抜                                    | 面接      | 50%  | ○                                  | ○                                | ○                        |                                                    | ○                                    |
|                                          | 調査書     | 5%   |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 小論文     | 35%  |                                    |                                  |                          | ○                                                  |                                      |
|                                          | 志願理由書   | 5%   |                                    |                                  |                          |                                                    | ○                                    |
|                                          | 自己推薦文   | 5%   | ○                                  |                                  |                          |                                                    |                                      |

#### 【看護学部 看護学科のディプロマ・ポリシー】

- ① 健康を科学するために、健康課題をもつ対象者に対し全人的に捉える能力を身につけることができる。
- ② 生命の尊厳を基盤とした倫理観に基づき、看護職として行動できる。
- ③ 多様な対象者の抱える個別の健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護が実践できる。
- ④ 多様化かつ高度化する医療において、発達段階に応じた人々の生活の質（QOL）を支える看護が実践できる。
- ⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの中で看護部門のリーダーとして活躍する能力を有している。
- ⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、看護の本質を主体的に探究する素養を有している。

## 【別紙資料2 AP・DP・入学者選抜の関係】

### 《リハビリテーション学部 理学療法学科》

| アドミッション・ポリシー（AP）・ディプロマ・ポリシー（DP）・入学者選抜の関係 |         |      |                                      |                                  |                                   |                                                    |                                        |
|------------------------------------------|---------|------|--------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 対応するDP                                   |         |      | DP④<br>DP⑥                           | DP①<br>DP②                       | DP⑤                               | DP③                                                | DP⑥                                    |
| 入 学 者 選 抜<br>の 種 別                       | 判 定 資 料 | 評価割合 | ア ド ミ ッ シ ョ ン ・ ポ リ シ ー と の 関 係      |                                  |                                   |                                                    |                                        |
|                                          |         |      | AP①<br>理学療法に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者 | AP②<br>人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者 | AP③<br>人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者 | AP④<br>本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 | AP⑤<br>理学療法士の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 |
| 総合型選抜                                    | 面接      | 60%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 20%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 20%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
| 学校推薦型選抜（一般）                              | 面接      | 50%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 30%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 推薦書     | 10%  | ○                                    |                                  |                                   |                                                    |                                        |
| 学校推薦型選抜（指定校）                             | 面接      | 40%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 30%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 推薦書     | 20%  | ○                                    |                                  |                                   |                                                    |                                        |
| 一般選抜（前期）                                 | 学力試験    | 60%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 面接      | 30%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
| 一般選抜（後期）                                 | 面接      | 60%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 30%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
| 大学入試共通テスト利用入試                            | 学力試験    | 80%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 調査書     | 20%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
| 社会人選抜                                    | 面接      | 50%  | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 5%   |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 35%  |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 志願理由書   | 5%   |                                      |                                  |                                   |                                                    | ○                                      |
|                                          | 自己推薦文   | 5%   | ○                                    |                                  |                                   |                                                    |                                        |

#### 【リハビリテーション学部 理学療法学科のディプロマ・ポリシー】

- 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
- 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく理学療法を実践する能力を有している。
- 疾病・障害の発症及び再発の予防を目指した理学療法が実践できる。
- 多様化かつ高度化する医療において、先進医療や医工連携に資する理学療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。
- 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の基本的動作能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。
- 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、理学療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

## 【別紙資料2 AP・DP・入学者選抜の関係】

### 《リハビリテーション学部 作業療法学科》

| アドミッション・ポリシー（AP）・ディプロマ・ポリシー（DP）・入学者選抜の関係 |         |         |                                      |                                  |                                   |                                                    |                                        |
|------------------------------------------|---------|---------|--------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 対応するDP                                   |         |         | DP④<br>DP⑥                           | DP①<br>DP②                       | DP⑤                               | DP③                                                | DP⑥                                    |
| 入 学 者 選 抜<br>の 種 別                       | 判 定 資 料 | 評 価 割 合 | ア ド ミ ッ シ ョ ン ・ ポ リ シ ー と の 関 係      |                                  |                                   |                                                    |                                        |
|                                          |         |         | AP①<br>作業療法に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者 | AP②<br>人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有する者 | AP③<br>人と関わるのが好きで、人の話をよく聴くことができる者 | AP④<br>本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力等）と学修態度を身につけている者 | AP⑤<br>作業療法士の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者 |
| 総合型選抜                                    | 面接      | 60%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 20%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 20%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
| 学校推薦型選抜（一般）                              | 面接      | 50%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 30%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 推薦書     | 10%     | ○                                    |                                  |                                   |                                                    |                                        |
| 学校推薦型選抜（指定校）                             | 面接      | 40%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 30%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 推薦書     | 20%     | ○                                    |                                  |                                   |                                                    |                                        |
| 一般選抜（前期）                                 | 学力試験    | 60%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 面接      | 30%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
| 一般選抜（後期）                                 | 面接      | 60%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 10%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 30%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
| 大学入試共通テスト利用入試                            | 学力試験    | 80%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 調査書     | 20%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
| 社会人選抜                                    | 面接      | 50%     | ○                                    | ○                                | ○                                 |                                                    | ○                                      |
|                                          | 調査書     | 5%      |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 小論文     | 35%     |                                      |                                  |                                   | ○                                                  |                                        |
|                                          | 志願理由書   | 5%      |                                      |                                  |                                   |                                                    | ○                                      |
|                                          | 自己推薦文   | 5%      | ○                                    |                                  |                                   |                                                    |                                        |

#### 【リハビリテーション学部 作業療法学科のディプロマ・ポリシー】

- ① 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
- ② 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
- ③ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。
- ④ 多様化かつ高度化する医療において、作業療法の新たな職域となる就労支援、被災地支援、途上国支援に資する作業療法の実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。
- ⑤ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。
- ⑥ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和7年度 実習科目別 教員配置表

## 1 年次実習

## 生活援助実習：福岡和白病院

| 実習種別                                                   | 年      | 令和 8 年（2026年） |        |
|--------------------------------------------------------|--------|---------------|--------|
|                                                        | 月      | 1 月           | 2 月    |
|                                                        | 週      | 44週           | 45週    |
| 生<br><br>活<br><br>援<br><br>助<br><br><br>実<br><br><br>習 | 生      | 学生 8 名        | 学生 8 名 |
|                                                        |        | 辻教授           | 辻教授    |
|                                                        |        | 助手 I          | 助手 I   |
|                                                        |        |               |        |
|                                                        | 活      | 学生 8 名        | 学生 8 名 |
|                                                        |        | 児玉准教授         | 児玉准教授  |
|                                                        |        | 助手K           | 助手K    |
|                                                        |        |               |        |
|                                                        | 援      | 学生 8 名        | 学生 8 名 |
|                                                        |        | 岩倉講師          | 岩倉講師   |
|                                                        |        | 助手 F          | 助手 F   |
|                                                        |        |               |        |
|                                                        | 助      | 学生 8 名        | 学生 8 名 |
|                                                        |        | 大村講師          | 大村講師   |
|                                                        |        | 助手 L          | 助手 L   |
|                                                        |        |               |        |
| 実                                                      | 学生 8 名 | 学生 8 名        |        |
|                                                        | 松井講師   | 松井講師          |        |
|                                                        | 助手 D   | 助手 D          |        |
|                                                        |        |               |        |

【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和7年度 実習科目別 教員配置表

1 年次実習

生活援助実習：福岡和白病院（「わじろ」と略）、国立九州医療センター（「きゅうせん」と略）

|                  |   |                |      |
|------------------|---|----------------|------|
| 実<br>習<br>種<br>別 | 年 | 令和 7 年（2025 年） |      |
|                  | 月 | 11 月           |      |
|                  | 週 | 33 週           | 34 週 |
| 生                | 生 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 辻教授<br>助手 C    |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 生                | 生 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 児玉准教授<br>助手 B  |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 活                | 活 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 松井講師<br>助手 H   |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 活                | 活 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 竹元教授<br>助手 A   |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 援                | 援 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 寺岡准教授<br>助手 F  |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 助                | 助 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 梅木准教授<br>助手 G  |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 助                | 助 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 川本准教授<br>中本講師  |      |
|                  |   | わじろ            |      |
| 実                | 実 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 松本講師<br>助手 K   |      |
|                  |   | きゅうせん          |      |
| 実                | 実 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 島村講師<br>別城助教   |      |
|                  |   | きゅうせん          |      |
| 習                | 習 | 学生 8 名         |      |
|                  |   | 大村講師<br>助手 L   |      |
|                  |   | きゅうせん          |      |

【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和6年度 実習科目別 教員配置表  
3 年次実習

|                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域看護学実習：月・火曜／福岡和白病院医療連携室、水曜／新宮町地域包括支援センター、木・金曜／福岡和白病院健診クリニック                                    |
| 在宅看護学実習：和白訪問看護ステーション（「わじろ」と略）、古賀訪問看護ステーション（「こが」と略）、えんまん訪問看護ステーション（「えんまん」と略）、なごみ訪問看護学実習（「なごみ」と略） |

| 実<br>習<br>種<br>別                               | 年                               | 令和6年（2024年）                        |     |                                                    |                       |                                                    |     |                                            |                                           |                        |
|------------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|-----|----------------------------------------------------|-----------------------|----------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------|
|                                                | 月                               | 10月                                |     |                                                    |                       | 11月                                                |     |                                            | 12月                                       |                        |
|                                                | 週                               | 28週                                | 29週 | 30週                                                | 31週                   | 33週                                                | 34週 | 35週                                        | 36週                                       | 37週                    |
| 地<br>域<br>・<br>在<br>宅<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 地<br>域<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 学生10名<br>池田准教授<br>猪狩助教             |     | 学生10名<br>池田准教授<br>助手D                              | 学生10名<br>猪狩助教<br>助手E  | 学生10名<br>池田准教授<br>助手D                              |     | 学生10名<br>池田准教授<br>猪狩助教                     |                                           | 学生10名<br>池田准教授<br>猪狩助教 |
|                                                | 在<br>宅<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 学生10名<br>開田准教授<br>助手D<br>わじろ<br>こが |     | 学生15名<br>開田准教授<br>猪狩助教<br>助手E<br>わじろ<br>こが<br>えんまん | 開田准教授<br>池田准教授<br>助手D | 学生15名<br>開田准教授<br>猪狩助教<br>助手E<br>わじろ<br>こが<br>えんまん |     | 学生15名<br>開田准教授<br>助手E<br>わじろ<br>こが<br>えんまん | 開田准教授<br>猪狩助教<br>助手D<br>わじろ<br>こが<br>えんまん | 開田准教授<br>なごみ           |
|                                                |                                 |                                    |     |                                                    |                       |                                                    |     |                                            |                                           |                        |

| 実<br>習<br>種<br>別                               | 年                               | 令和7年（2025年）                          |     |                        |                        |                                      |                                           |             |
|------------------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|-----|------------------------|------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------|-------------|
|                                                | 月                               | 1月                                   |     |                        | 2月                     |                                      |                                           |             |
|                                                | 週                               | 42週                                  | 43週 | 44週                    | 45週                    | 46週                                  | 47週                                       | 48週         |
| 地<br>域<br>・<br>在<br>宅<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 地<br>域<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 |                                      |     | 学生10名<br>池田准教授<br>猪狩助教 | 学生10名<br>池田准教授<br>猪狩助教 |                                      |                                           |             |
|                                                | 在<br>宅<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 学生10名<br>池田准教授<br>猪狩助教<br>わじろ<br>なごみ |     |                        |                        | 学生15名<br>開田准教授<br>助手E<br>わじろ<br>えんまん | 開田准教授<br>猪狩助教<br>助手D<br>わじろ<br>こが<br>えんまん | 開田准教授<br>こが |
|                                                |                                 |                                      |     |                        |                        |                                      |                                           |             |

【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和6年度 実習科目別 教員配置表  
3年次実習

成人看護学慢性期実習：福岡東医療センター（「ひがし」と略）、福岡和白病院（「わじろ」と略）

| 実習<br>種別   | 年     | 令和6年（2024年） |     |     |      |     |     | 令和7年（2025年） |     |     |
|------------|-------|-------------|-----|-----|------|-----|-----|-------------|-----|-----|
|            | 月     | 10月         |     | 11月 |      | 12月 |     | 1月          |     | 2月  |
|            | 週     | 30週         | 31週 | 32週 | 35週  | 36週 | 37週 | 43週         | 44週 | 45週 |
| 成人看護学慢性期実習 | 成人看護学 | 学生8名        |     |     | 学生8名 |     |     | 学生8名        |     |     |
|            |       | 神島教授        |     |     | 島村講師 |     |     | 神島教授        |     |     |
|            |       | 助手A         |     |     | 助手B  |     |     | 助手A         |     |     |
|            | 成人看護学 | ひがし         |     |     | わじろ  |     |     | ひがし         |     |     |
|            |       | 学生8名        |     |     | 学生8名 |     |     | 学生8名        |     |     |
|            |       | 川本准教授       |     |     | 別城助教 |     |     | 川本准教授       |     |     |
|            |       | 助手B         |     |     | 助手C  |     |     | 助手B         |     |     |
|            | 成人看護学 | ひがし         |     |     | わじろ  |     |     | ひがし         |     |     |
|            |       | 学生8名        |     |     |      |     |     | 学生8名        |     |     |
|            |       | 梅木准教授       |     |     |      |     |     | 梅木准教授       |     |     |
|            |       | 助手C         |     |     |      |     |     | 助手C         |     |     |
|            | 成人看護学 | ひがし         |     |     |      |     |     | ひがし         |     |     |
|            |       | 学生8名        |     |     |      |     |     | 学生8名        |     |     |
|            |       | 島村講師        |     |     |      |     |     | 島村講師        |     |     |
|            | 成人看護学 | 別城助教        |     |     |      |     |     | 別城助教        |     |     |
|            |       | ひがし         |     |     |      |     |     | ひがし         |     |     |

令和7年度 実習科目別 教員配置表  
4年次実習

成人看護学急性期実習：《周術期実習》福岡和白病院、《消防署実習》糟屋北部消防署

| 実習<br>種別   | 年     | 令和7年（2025年） |    |       |    |    |       |     |     |     |       |     |     |
|------------|-------|-------------|----|-------|----|----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|
|            | 月     | 4月          |    | 5月    |    |    | 6月    |     |     |     | 7月    |     |     |
|            | 週     | 4週          | 5週 | 7週    | 8週 | 9週 | 10週   | 11週 | 12週 | 13週 | 14週   | 15週 | 16週 |
| 成人看護学急性期実習 | 成人看護学 | 学生14名       |    | 学生14名 |    |    | 学生14名 |     |     |     | 学生10名 |     |     |
|            |       | 梅木准教授       |    | 別城助教  |    |    | 島村講師  |     |     |     | 別城助教  |     |     |
|            |       | 島村講師        |    | 助手B   |    |    | 助手A   |     |     |     | 助手G   |     |     |
|            | 成人看護学 | 助手F         |    | 助手C   |    |    | 助手C   |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    |       |    |    |       |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    | 学生14名 |    |    |       |     |     |     |       |     |     |
|            | 成人看護学 |             |    | 梅木准教授 |    |    |       |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    | 助手A   |    |    |       |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    | 助手J   |    |    |       |     |     |     |       |     |     |
|            | 成人看護学 | 学生14名       |    |       |    |    | 学生14名 |     |     |     | 学生10名 |     |     |
|            |       | 別城助教        |    |       |    |    | 梅木准教授 |     |     |     | 梅木准教授 |     |     |
|            |       | 助手A         |    |       |    |    | 助手A   |     |     |     | 助手F   |     |     |
|            | 成人看護学 | 助手C         |    |       |    |    | 島村講師  |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    |       |    |    | 助手B   |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    |       |    |    | 助手H   |     |     |     |       |     |     |
|            | 成人看護学 | 学生14名       |    |       |    |    | 学生14名 |     |     |     | 学生10名 |     |     |
|            |       | 梅木准教授       |    |       |    |    | 梅木准教授 |     |     |     | 梅木准教授 |     |     |
|            |       | 助手A         |    |       |    |    | 助手A   |     |     |     | 助手F   |     |     |
|            | 成人看護学 | 助手C         |    |       |    |    | 島村講師  |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    |       |    |    | 助手B   |     |     |     |       |     |     |
|            |       |             |    |       |    |    | 助手H   |     |     |     |       |     |     |

※「消防署実習」は、救急車に同乗しプレホスピタルケアを実習する。救急隊の到着から救急初療室もしくはICU/ERでの実習を行う。



【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和7年度 実習科目別 教員配置表  
4年次実習

成人看護学終末期実習：宗像医師会病院（「いしかい」と略）、国立九州がんセンター（「こくりつ」と略）

| 実習<br>種別   | 年  | 令和7年（2025年） |       |       |       |       |      |       |       |       |      |
|------------|----|-------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|
|            | 月  | 4月          |       | 6月    |       | 7月    |      |       |       | 8月    |      |
|            | 週  | 4週          | 5週    | 12週   | 13週   | 14週   | 15週  | 16週   | 17週   | 18週   | 19週  |
| 成人看護学終末期実習 | 学生 | 4名          | 4名    | 学生10名 | 学生10名 | 学生10名 | 学生6名 | 学生10名 | 学生10名 | 学生10名 | 学生6名 |
|            | 教員 | 川本准教授       | 川本准教授 | 川本准教授 | 島村講師  | 川本准教授 | 島村講師 | 川本准教授 | 島村講師  | 川本准教授 | 島村講師 |
|            | 実習 | いしかい        | いしかい  | 助手C   | 助手B   | 助手A   | 助手C  | 助手B   | 助手A   | 助手C   | 助手B  |
|            |    |             |       | こくりつ  | こくりつ  | こくりつ  | こくりつ | こくりつ  | こくりつ  | こくりつ  | こくりつ |

令和6年度 実習科目別 教員配置表  
3年次実習

老年看護学実習：和白デイサービスセンター（「わじろ」と略）、古賀デイサービスセンター（「こが」と略）、  
香住ヶ丘デイサービスセンター（「かすみ」と略）

認知症老年看護学実習：グループホーム楽園（「らくえん」と略）、グループホーム花うさぎ千早（「うさぎ」と略）

| 実習<br>種別   | 年  | 令和6年（2024年） |       |       |       |       |       |      |       |       |      |
|------------|----|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|
|            | 月  | 4月          |       | 5月    |       |       | 6月    |      |       |       | 7月   |
|            | 週  | 28週         | 29週   | 30週   | 32週   | 33週   | 34週   | 38週  | 42週   | 46週   | 47週  |
| 老年看護学実習    | 学生 | 5名          | 5名    | 学生5名  |       | 学生5名  | 学生5名  | 学生5名 | 学生5名  | 学生5名  | 学生5名 |
|            | 教員 | 勝野教授        | 勝野教授  | 勝野教授  |       | 勝野教授  | 勝野教授  | 岩倉講師 | 勝野教授  | 喜多助教  | 喜多助教 |
|            | 実習 | わじろ         | わじろ   | わじろ   |       | わじろ   | わじろ   | こが   | わじろ   | かすみ   | かすみ  |
|            | 学生 | 5名          | 学生5名  |       |       | 学生5名  | 学生5名  | 学生5名 |       |       |      |
|            | 教員 | 岩倉講師        | 岩倉講師  |       |       | 岩倉講師  | 岩倉講師  | 喜多助教 |       |       |      |
|            | 実習 | こが          | こが    |       |       | こが    | こが    | かすみ  |       |       |      |
| 認知症老年看護学実習 | 学生 | 5名          | 学生5名  |       |       |       |       |      |       |       |      |
|            | 教員 | 喜多助教        | 喜多助教  |       |       |       |       |      |       |       |      |
|            | 実習 | かすみ         | かすみ   |       |       |       |       |      |       |       |      |
|            | 学生 | 10名         | 学生10名 | 学生10名 | 学生10名 | 学生10名 | 学生10名 |      | 学生10名 | 学生10名 |      |
|            | 教員 | 川本准教授       | 川本准教授 | 岩倉講師  | 岩倉講師  | 喜多助教  | 喜多助教  |      | 岩倉講師  | 岩倉講師  |      |
|            | 実習 | 助手F         | 助手F   | 助手I   | 助手I   | 助手I   | 助手I   |      | 助手I   | 助手I   |      |
|            | 実習 | らくえん        | らくえん  | らくえん  | らくえん  | らくえん  | らくえん  |      | らくえん  | らくえん  |      |
|            | 実習 | うさぎ         | うさぎ   | うさぎ   | うさぎ   | うさぎ   | うさぎ   |      | うさぎ   | うさぎ   |      |

【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和6年度 実習科目別 教員配置表

3 年次実習

小児看護学実習（病院実習）：福岡市立こども病院（「こども」と略）、福岡徳洲会病院（「とくしゅう」と略）、  
国立福岡病院（「こくふく」と略）、国立九州大学病院（「きゅうだい」と略）

小児看護学実習（幼稚園・保育所実習）：美和台幼稚園（「みわだい」と略）、光和保育園（「こうわ」と略）

[illegible]

### 【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和7年度 実習科目別 教員配置表

4年次実習

母性看護学実習：そらレディースクリニック

| 実<br>習<br>種<br>別                | 年<br>月<br>週                     | 令和7年(2025年) |    |       |    |       |    |       |     |       |     |
|---------------------------------|---------------------------------|-------------|----|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|-----|
|                                 |                                 | 4月          |    | 5月    |    |       |    | 6月    |     |       |     |
|                                 |                                 | 4週          | 5週 | 6週    | 7週 | 8週    | 9週 | 10週   | 11週 | 12週   | 13週 |
| 母<br>性<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 母<br>性<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 学生10名       |    | 学生10名 |    | 学生10名 |    | 学生10名 |     | 学生10名 |     |
|                                 |                                 | 寺岡准教授       |    | 竹元教授  |    | 寺岡准教授 |    | 竹元教授  |     | 寺岡准教授 |     |
|                                 |                                 | 助手L         |    | 助手K   |    | 助手L   |    | 助手K   |     | 助手L   |     |
|                                 |                                 |             |    |       |    |       |    |       |     |       |     |

| 実<br>習<br>種<br>別                | 年<br>月<br>週                     | 令和7年(2025年) |     |       |     |       |     |
|---------------------------------|---------------------------------|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|
|                                 |                                 | 7月          |     |       |     | 8月    |     |
|                                 |                                 | 14週         | 15週 | 16週   | 17週 | 18週   | 19週 |
| 母<br>性<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 母<br>性<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 学生10名       |     | 学生10名 |     | 学生10名 |     |
|                                 |                                 | 竹元教授        |     | 寺岡准教授 |     | 竹元教授  |     |
|                                 |                                 | 助手K         |     | 助手L   |     | 助手K   |     |
|                                 |                                 |             |     |       |     |       |     |

【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和 6 年度 実習科目別 教員配置表  
3 年次実習

精神看護学実習：疋田病院

| 実<br>習<br>種<br>別                | 年      | 令和 6 年（2024 年） |      |         |      |         |      |         |      |         |      |  |
|---------------------------------|--------|----------------|------|---------|------|---------|------|---------|------|---------|------|--|
|                                 | 月      | 10 月           |      |         | 11 月 |         |      |         |      | 12 月    |      |  |
|                                 | 週      | 28 週           | 29 週 | 31 週    | 32 週 | 33 週    | 34 週 | 35 週    | 36 週 | 37 週    | 38 週 |  |
| 精<br>神<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 精      | 学生 10 名        |      | 学生 10 名 |      | 学生 10 名 |      | 学生 10 名 |      | 学生 10 名 |      |  |
|                                 | 神      | 齋藤講師           |      | 中本講師    |      | 白石教授    |      | 齋藤講師    |      | 中本講師    |      |  |
|                                 | 看      | 助手 J           |      | 助手 J    |      | 助手 J    |      | 助手 J    |      | 助手 J    |      |  |
| 精<br>神<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 護      |                |      |         |      |         |      |         |      |         |      |  |
|                                 | 学      |                |      |         |      |         |      |         |      |         |      |  |
|                                 | 実<br>習 |                |      |         |      |         |      |         |      |         |      |  |

| 実<br>習<br>種<br>別                | 年      | 令和 7 年（2025 年） |      |         |      |         |      |
|---------------------------------|--------|----------------|------|---------|------|---------|------|
|                                 | 月      | 1 月            |      |         | 2 月  |         |      |
|                                 | 週      | 42 週           | 43 週 | 44 週    | 45 週 | 46 週    | 47 週 |
| 精<br>神<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 精      | 学生 10 名        |      | 学生 10 名 |      | 学生 10 名 |      |
|                                 | 神      | 齋藤講師           |      | 白石教授    |      | 中本講師    |      |
|                                 | 看      | 助手 J           |      | 助手 J    |      | 助手 J    |      |
| 精<br>神<br>看<br>護<br>学<br>実<br>習 | 護      |                |      |         |      |         |      |
|                                 | 学      |                |      |         |      |         |      |
|                                 | 実<br>習 |                |      |         |      |         |      |

### 【別紙資料3 実習科目別教員配置】

令和7年度 実習科目別 教員配置表  
4年次実習

統合実習：福岡和白病院

| 実<br>習<br>種<br>別 | 年 | 令和7年（2025年） |     |      |     |
|------------------|---|-------------|-----|------|-----|
|                  | 月 | 7月          |     |      | 8月  |
|                  | 週 | 16週         | 17週 | 18週  | 19週 |
| 統<br>合<br>実<br>習 | 統 | 学生6名        |     | 学生6名 |     |
|                  |   | 宮里教授        |     | 宮里教授 |     |
|                  |   | 助手D         |     | 助手D  |     |
|                  | 統 | 学生6名        |     | 学生6名 |     |
|                  |   | 大村講師        |     | 大村講師 |     |
|                  |   | 助手E         |     | 助手E  |     |
|                  | 合 | 学生6名        |     | 学生6名 |     |
|                  |   | 別城助教        |     | 別城助教 |     |
|                  |   | 助手I         |     | 助手I  |     |
|                  | 実 | 学生6名        |     | 学生6名 |     |
|                  |   | 齋藤講師        |     | 齋藤講師 |     |
|                  |   | 猪狩助教        |     | 猪狩助教 |     |
|                  | 実 | 学生6名        |     | 学生6名 |     |
|                  |   | 中本講師        |     | 中本講師 |     |
|                  |   | 助手J         |     | 助手J  |     |
|                  | 習 | 学生5名        |     | 学生5名 |     |
|                  |   | 喜多助教        |     | 喜多助教 |     |
|                  |   | 助手H         |     | 助手H  |     |
|                  | 習 | 学生5名        |     | 学生5名 |     |
|                  |   | 松本講師        |     | 松本講師 |     |
|                  | 習 | 助手G         |     | 助手G  |     |

※統合実習は、「管理実習」「複数患者人数担当」「夜間実習」で構成されているが、大学に隣接している福岡和白病院で実施するためあらゆる対応が可能である。

【別紙資料4 競合大学の入学状況】

《入学定員に対する志願者数・志願倍率》

| (1) 福岡県内の看護学科の志願者状況 |          |           |     |        |        |       |       |       |       |      |      |      |
|---------------------|----------|-----------|-----|--------|--------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 大学                  | 学部       | 学科        | 地域  | 入学定員   |        |       | 志願者数  |       |       | 志願倍率 |      |      |
|                     |          |           |     | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |       |       |       |      |      |      |
| 九州大学                | 医学部      | 保健学科看護学専攻 | 福岡  | 68     | 68     | 68    | 248   | 193   | 170   | 3.6  | 2.8  | 2.5  |
| 福岡県立大学              | 看護学部     | 看護学科      | 筑豊  | 90     | 90     | 90    | 475   | 414   | 393   | 5.3  | 4.6  | 4.4  |
| 久留米大学               | 医学部      | 看護学科      | 筑後  | 110    | 110    | 110   | 792   | 867   | 838   | 7.2  | 7.9  | 7.6  |
| 産業医科大学              | 産業保健学部   | 看護学科      | 北九州 | 70     | 70     | 70    | 224   | 247   | 239   | 3.2  | 3.5  | 3.4  |
| 福岡大学                | 医学部      | 看護学科      | 福岡  | 104    | 104    | 104   | 1501  | 1529  | 1326  | 14.4 | 14.7 | 12.8 |
| 西南女学院大学             | 保健福祉学部   | 看護学科      | 北九州 | 90     | 90     | 90    | 334   | 345   | 368   | 3.7  | 3.8  | 4.1  |
| 日本赤十字九州国際看護大学       | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 367   | 362   | 453   | 3.9  | 3.6  | 4.5  |
| 聖マリア学院大学            | 看護学部     | 看護学科      | 筑後  | 100    | 100    | 100   | 275   | 302   | 272   | 2.8  | 3.0  | 2.7  |
| 福岡女学院看護大学           | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 373   | 361   | 370   | 3.7  | 3.6  | 3.7  |
| 純真学園大学              | 保健医療学部   | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 388   | 487   | 461   | 3.9  | 4.9  | 4.6  |
| 福岡看護大学              | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 393   | 426   | 398   | 3.9  | 4.3  | 4.0  |
| 帝京大学                | 福岡医療技術学部 | 看護学科      | 筑後  | 80     | 80     | 80    | 278   | 346   | 311   | 3.5  | 4.3  | 3.9  |
| 国際医療福祉大学            | 福岡看護学部   | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 561   | 498   | 595   | 5.6  | 5.0  | 6.0  |
| 第一薬科大学              | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | －      | －      | 80    | －     | －     | 198   | －    | －    | 2.5  |
|                     |          |           |     | 1,212  | 1,212  | 1,292 | 6,229 | 6,377 | 6,392 | 5.0  | 5.1  | 4.8  |
|                     |          |           |     |        |        |       | 6,229 | 6,377 | 6,392 | 5.0  | 5.1  | 4.8  |
|                     |          |           |     |        |        |       |       |       |       | 5.0  | 5.1  | 4.9  |

※受験者数

| 大学         | 学部          | 学科     | 地域  | 入学定員   |        |       | 志願者数 |     |      | 志願倍率 |     |     |
|------------|-------------|--------|-----|--------|--------|-------|------|-----|------|------|-----|-----|
|            |             |        |     | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |      |     |      |      |     |     |
| 九州栄養福祉大学   | リハビリテーション学部 | 理学療法学科 | 北九州 | 80     | 80     | 80    | 181  | 165 | 164  | 2.3  | 2.1 | 2.1 |
| 福岡国際医療福祉大学 | 医療学部        | 理学療法学科 | 福岡  | －      | 40     | 40    | －    | 181 | 260  | －    | 4.5 | 6.5 |
| 帝京大学       | 福岡医療技術学部    | 理学療法学科 | 筑後  | 80     | 80     | 80    | 202  | 161 | 168  | 2.5  | 2.0 | 2.1 |
| 国際医療福祉大学   | 福岡保健医療学部    | 理学療法学科 | 筑後  | 80     | 60     | 60    | 381  | 458 | 463  | 4.8  | 7.6 | 7.7 |
|            |             |        |     | 240    | 260    | 260   | 764  | 965 | 1055 | 3.2  | 4.1 | 4.6 |
|            |             |        |     |        |        |       | 764  | 965 | 1055 | 3.2  | 4.1 | 4.6 |
|            |             |        |     |        |        |       |      |     |      | 3.2  | 4.1 | 3.9 |

※受験者数

| 大学         | 学部          | 学科     | 地域  | 入学定員   |        |       | 志願者数 |     |     | 志願倍率 |     |     |
|------------|-------------|--------|-----|--------|--------|-------|------|-----|-----|------|-----|-----|
|            |             |        |     | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |      |     |     |      |     |     |
| 九州栄養福祉大学   | リハビリテーション学部 | 作業療法学科 | 北九州 | 40     | 40     | 40    | 68   | 45  | 69  | 1.7  | 1.1 | 1.7 |
| 福岡国際医療福祉大学 | 医療学部        | 作業療法学科 | 福岡  | －      | 40     | 40    | －    | 66  | 138 | －    | 1.7 | 3.5 |
| 帝京大学       | 福岡医療技術学部    | 作業療法学科 | 筑後  | 40     | 40     | 40    | 62   | 56  | 45  | 1.6  | 1.4 | 1.1 |
| 国際医療福祉大学   | 福岡保健医療学部    | 作業療法学科 | 筑後  | 40     | 40     | 40    | 200  | 174 | 217 | 5.0  | 4.4 | 5.4 |
|            |             |        |     | 120    | 160    | 160   | 330  | 341 | 469 | 2.8  | 2.1 | 2.9 |
|            |             |        |     |        |        |       | 330  | 341 | 469 | 2.8  | 2.1 | 2.9 |
|            |             |        |     |        |        |       |      |     |     | 2.8  | 2.1 | 2.6 |

※受験者数

(出典)各大学ホームページ

【別紙資料4 競合大学の入学状況】

《入学定員に対する入学者数・入学定員充足率》

| 大学            | 学部       | 学科        | 地域  | 入学定員   |        |       | 入学者数   |        |       | 入学定員充足率 |        |        | 3年平均<br>入学定員充足率 |
|---------------|----------|-----------|-----|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|--------|--------|-----------------|
|               |          |           |     | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度  | 平成31年度 | 令和2年度  |                 |
|               |          |           |     |        |        |       |        |        |       |         |        |        |                 |
| 九州大学          | 医学部      | 保健学科看護学専攻 | 福岡  | 68     | 68     | 68    | 74     | 72     | 68    | 108.8%  | 105.9% | 100.0% | 104.9%          |
| 福岡県立大学        | 看護学部     | 看護学科      | 筑富  | 90     | 90     | 90    | 101    | 96     | 90    | 112.2%  | 106.7% | 100.0% | 106.3%          |
| 久留米大学         | 医学部      | 看護学科      | 筑後  | 110    | 110    | 110   | 117    | 118    | 118   | 106.4%  | 107.3% | 107.3% | 107.0%          |
| 産業医科大学        | 産業保健学部   | 看護学科      | 北九州 | 70     | 70     | 70    | 71     | 70     | 70    | 101.4%  | 100.0% | 100.0% | 100.5%          |
| 福岡大学          | 医学部      | 看護学科      | 福岡  | 104    | 104    | 104   | －      | －      | 103   | －       | －      | 99.0%  | 99.0%           |
| 西南女学院大学       | 保健福祉学部   | 看護学科      | 北九州 | 90     | 90     | 90    | 110    | 93     | －     | 122.2%  | 103.3% | －      | 112.8%          |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 101    | 124    | 103   | 101.0%  | 124.0% | 103.0% | 109.3%          |
| 聖マリア学院大学      | 看護学部     | 看護学科      | 筑後  | 100    | 100    | 100   | 115    | 111    | 110   | 115.0%  | 111.0% | 110.0% | 112.0%          |
| 福岡女学院看護大学     | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 123    | 111    | 117   | 123.0%  | 111.0% | 117.0% | 117.0%          |
| 純真学園大学        | 保健医療学部   | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 101    | 118    | 97    | 101.0%  | 118.0% | 97.0%  | 105.3%          |
| 福岡看護大学        | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 113    | 109    | 107   | 113.0%  | 109.0% | 107.0% | 109.7%          |
| 帝京大学          | 福岡医療技術学部 | 看護学科      | 筑後  | 80     | 80     | 80    | 72     | 94     | 74    | 90.0%   | 117.5% | 92.5%  | 100.0%          |
| 国際医療福祉大学      | 福岡看護学部   | 看護学科      | 福岡  | 100    | 100    | 100   | 105    | 119    | 105   | 105.0%  | 119.0% | 105.0% | 109.7%          |
| 第一薬科大学        | 看護学部     | 看護学科      | 福岡  | －      | －      | 80    | －      | －      | 78    | －       | －      | 97.5%  | 97.5%           |
|               |          |           |     | 1,212  | 1,212  | 1,292 | 1,203  | 1,235  | 1,240 | 108.3%  | 111.1% | 102.7% | 107.3%          |

| 大学         | 学部          | 学科     | 地域  | 入学定員   |        |       | 入学者数   |        |       | 入学定員充足率 |        |        | 3年平均<br>入学定員充足率 |
|------------|-------------|--------|-----|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|--------|--------|-----------------|
|            |             |        |     | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度  | 平成31年度 | 令和2年度  |                 |
|            |             |        |     |        |        |       |        |        |       |         |        |        |                 |
| 九州栄養福祉大学   | リハビリテーション学部 | 理学療法学科 | 北九州 | 80     | 80     | 80    | 94     | 95     | 95    | 117.5%  | 118.8% | 118.8% | 118.3%          |
| 福岡国際医療福祉大学 | 医療学部        | 理学療法学科 | 福岡  | －      | 40     | 40    | －      | 49     | 44    | －       | 122.5% | 110.0% | 116.3%          |
| 帝京大学       | 福岡医療技術学部    | 理学療法学科 | 筑後  | 80     | 80     | 80    | 71     | 69     | 62    | 88.8%   | 86.3%  | 77.5%  | 84.2%           |
| 国際医療福祉大学   | 福岡保健医療学部    | 理学療法学科 | 筑後  | 80     | 60     | 60    | 80     | 94     | 64    | 100.0%  | 156.7% | 106.7% | 121.1%          |
|            |             |        |     | 240    | 260    | 260   | 245    | 307    | 265   | 102.1%  | 121.0% | 103.2% | 108.8%          |

| (3) 福岡県内の作業療法学科の入学者状況 |             |        |     |        |        |       |        |        |       |         |        |        |                 |
|-----------------------|-------------|--------|-----|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|--------|--------|-----------------|
| 大学                    | 学部          | 学科     | 地域  | 入学定員   |        |       | 入学者数   |        |       | 入学定員充足率 |        |        | 3年平均<br>入学定員充足率 |
|                       |             |        |     | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度  | 平成31年度 | 令和2年度  |                 |
| 九州栄養福祉大学              | リハビリテーション学部 | 作業療法学科 | 北九州 | 40     | 40     | 40    | 42     | 35     | 31    | 105.0%  | 87.5%  | 77.5%  | 90.0%           |
| 福岡国際医療福祉大学            | 医療学部        | 作業療法学科 | 福岡  | －      | 40     | 40    | －      | 47     | 44    | －       | 117.5% | 110.0% | 113.8%          |
| 帝京大学                  | 福岡医療技術学部    | 作業療法学科 | 筑後  | 40     | 40     | 40    | 32     | 22     | 16    | 80.0%   | 55.0%  | 40.0%  | 58.3%           |
| 国際医療福祉大学              | 福岡保健医療学部    | 作業療法学科 | 筑後  | 40     | 40     | 40    | 43     | 40     | 40    | 107.5%  | 100.0% | 100.0% | 102.5%          |
|                       |             |        |     | 120    | 160    | 160   | 117    | 144    | 131   | 97.5%   | 90.0%  | 81.9%  | 89.8%           |

出典：各大学ホームページ

【別紙資料4 競合大学の入学状況】

《合格者数に対する入学者数・歩留まり率》

| 大学            | 学部       | 学科        | 合格者数   |        |       | 入学者数   |        |       | 歩留まり率  |        |                |
|---------------|----------|-----------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|----------------|
|               |          |           | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度          |
|               |          |           |        |        |       |        |        |       |        |        | 3ヵ年平均<br>歩留まり率 |
| 九州大学          | 医学部      | 保健学科看護学専攻 | 79     | 76     | 73    | 74     | 72     | 68    | 93.7%  | 94.7%  | 93.2%          |
| 福岡県立大学        | 看護学部     | 看護学科      | 120    | 114    | 111   | 101    | 96     | 90    | 84.2%  | 84.2%  | 83.2%          |
| 久留米大学         | 医学部      | 看護学科      | 254    | 234    | 267   | 117    | 118    | 118   | 46.1%  | 50.4%  | 44.2%          |
| 産業医科大学        | 産業保健学部   | 看護学科      | 98     | 98     | 104   | 71     | 70     | 70    | 72.4%  | 71.4%  | 67.3%          |
| 福岡大学          | 医学部      | 看護学科      | －      | －      | 246   | －      | －      | 103   | －      | －      | 41.9%          |
| 西南女学院大学       | 保健福祉学部   | 看護学科      | 172    | 169    | －     | 110    | 93     | －     | 64.0%  | 55.0%  | －              |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 看護学部     | 看護学科      | 202    | 222    | 208   | 101    | 124    | 103   | 50.0%  | 55.9%  | 49.5%          |
| 聖マリア学院大学      | 看護学部     | 看護学科      | 178    | 174    | 186   | 115    | 111    | 110   | 64.6%  | 63.8%  | 59.1%          |
| 福岡女学院看護大学     | 看護学部     | 看護学科      | 217    | 216    | 211   | 123    | 111    | 117   | 56.7%  | 51.4%  | 55.5%          |
| 純真学園大学        | 保健医療学部   | 看護学科      | 236    | 245    | 228   | 101    | 118    | 97    | 42.8%  | 48.2%  | 42.5%          |
| 福岡看護大学        | 看護学部     | 看護学科      | 218    | 226    | 218   | 113    | 109    | 107   | 51.8%  | 48.2%  | 49.1%          |
| 帝京大学          | 福岡医療技術学部 | 看護学科      | 142    | 162    | 141   | 72     | 94     | 74    | 50.7%  | 58.0%  | 52.5%          |
| 国際医療福祉大学      | 福岡看護学部   | 看護学科      | 179    | 197    | 157   | 105    | 119    | 105   | 58.7%  | 60.4%  | 66.9%          |
| 第一薬科大学        | 看護学部     | 看護学科      | －      | －      | 163   | －      | －      | 78    | －      | －      | 47.9%          |
|               |          |           | 2,095  | 2,133  | 2,313 | 1,203  | 1,235  | 1,240 | 61.3%  | 61.8%  | 57.7%          |
|               |          |           |        |        |       |        |        |       |        |        | 60.3%          |

| 大学         | 学部          | 学科     | 合格者数   |        |       | 入学者数   |        |       | 歩留まり率  |        |                |
|------------|-------------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|----------------|
|            |             |        | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度          |
|            |             |        |        |        |       |        |        |       |        |        | 3ヵ年平均<br>歩留まり率 |
| 九州栄養福祉大学   | リハビリテーション学部 | 理学療法学科 | 158    | 152    | 132   | 94     | 95     | 95    | 59.5%  | 62.5%  | 72.0%          |
| 福岡国際医療福祉大学 | 医療学部        | 理学療法学科 | －      | －      | 76    | －      | 49     | 44    | －      | －      | 57.9%          |
| 帝京大学       | 福岡医療技術学部    | 理学療法学科 | 106    | 102    | 105   | 71     | 69     | 62    | 67.0%  | 67.6%  | 59.0%          |
| 国際医療福祉大学   | 福岡保健医療学部    | 理学療法学科 | 136    | 168    | 106   | 80     | 94     | 64    | 58.8%  | 56.0%  | 60.4%          |
|            |             |        | 400    | 422    | 419   | 245    | 307    | 265   | 61.8%  | 62.0%  | 62.3%          |

| (3) 福岡県内の作業療法学科の入学者状況 |             |        |        |        |       |        |        |       |        |        |       |
|-----------------------|-------------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| 大学                    | 学部          | 学科     | 合格者数   |        |       | 入学者数   |        |       | 歩留まり率  |        |       |
|                       |             |        | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |
| 九州栄養福祉大学              | リハビリテーション学部 | 作業療法学科 | 64     | 45     | 61    | 42     | 35     | 31    | 65.6%  | 77.8%  | 50.8% |
| 福岡国際医療福祉大学            | 医療学部        | 作業療法学科 | －      | －      | 59    | －      | 47     | 44    | －      | －      | 74.6% |
| 帝京大学                  | 福岡医療技術学部    | 作業療法学科 | 44     | 38     | 32    | 32     | 22     | 16    | 72.7%  | 57.9%  | 50.0% |
| 国際医療福祉大学              | 福岡保健医療学部    | 作業療法学科 | 53     | 62     | 65    | 43     | 40     | 40    | 81.1%  | 64.5%  | 61.5% |
|                       |             |        | 161    | 145    | 217   | 117    | 144    | 131   | 73.2%  | 66.7%  | 59.2% |
|                       |             |        |        |        |       |        |        |       |        |        | 66.4% |

出典：各大学ホームページ



# 【別紙資料 5 既設の専門学校における学生確保の状況】

## 《既設の専門学校における近年の入試状況》

福岡看護専門学校

|             |      | 令和元年度 |      | 平成30年度 |      | 平成29年度 |      | 平成28年度 |      | 平成27年度 |      |
|-------------|------|-------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
|             | 入学定員 | 出願者数  | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 |
| 看護学科<br>第1科 | 50   | 215   | 50   | 230    | 52   | 240    | 50   | 147    | 51   | 149    | 52   |
| 看護学科<br>第2科 | 50   | 69    | 50   | 96     | 50   | 179    | 50   | 129    | 50   | 146    | 50   |

福岡和白リハビリテーション学院

|                |      | 令和元年度 |      | 平成30年度 |      | 平成29年度 |      | 平成28年度 |      | 平成27年度 |      |
|----------------|------|-------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
|                | 入学定員 | 出願者数  | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 | 出願者数   | 入学者数 |
| 理学療法学科<br>(昼間) | 80   | 96    | 94   | 79     | 76   | 72     | 63   | 77     | 65   | 88     | 78   |
| 作業療法学科         | 40   | 49    | 43   | 53     | 49   | 32     | 30   | 46     | 41   | 46     | 43   |

## 《既設の専門学校における近年の入試日別出願者数》

|               |                     |        |       | 本年度（令和3年度） |      |      |            | 前年度（令和2年度） |      |      |            |
|---------------|---------------------|--------|-------|------------|------|------|------------|------------|------|------|------------|
| 和白リハビリテーション学院 | 学科                  | 試験日    | 試験区分  | 応募者数       | 受験者数 | 合格者数 | 入学<br>予定者数 | 応募者数       | 受験者数 | 合格者数 | 入学<br>予定者数 |
|               | 理学<br>（昼間）<br>【80名】 | 6月20日  | ＡＯ1期  | 5          | 5    | 5    | 5          | 3          | 3    | 3    | 3          |
|               |                     | 7月25日  | ＡＯ2期  | 5          | 5    | 5    | 5          | 4          | 4    | 3    | 3          |
|               |                     | 8月22日  | ＡＯ3期  | 9          | 9    | 8    | 7          | 6          | 6    | 5    | 5          |
|               |                     | 9月19日  | ＡＯ4期  | 11         | 10   | 6    | 6          | 11         | 11   | 11   | 11         |
|               |                     | 10月10日 | 指定校推薦 | 70         | 70   | 70   | 70         | 62         | 62   | 62   | 62         |
|               |                     | 10月10日 | 高校推薦  | 10         | 10   | 6    | 6          | 8          | 8    | 8    | 8          |
|               |                     | 10月10日 | 社会人   | 2          | 2    | 0    | 0          | 0          | 0    | 0    | 0          |
|               |                     | 11月14日 | 前期A   | 募集終了       |      |      |            | 試験実施無      |      |      |            |
|               |                     | 11月14日 | 特待生   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 12月5日  | 前期B   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     |        | 前期C   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 1月16日  | 後期A   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 2月6日   | 特待生   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 2月6日   | 後期B   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 3月6日   | 後期C   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 合 計    |       |            | 112  | 111  | 100        | 99         | 94   | 94   | 92         |
|               | 作業<br>（昼間）<br>【40名】 | 6月20日  | ＡＯ1期  | 0          | 0    | 0    | 0          | 2          | 2    | 2    | 2          |
|               |                     | 7月25日  | ＡＯ2期  | 0          | 0    | 0    | 0          | 1          | 1    | 2    | 2          |
|               |                     | 8月22日  | ＡＯ3期  | 6          | 5    | 3    | 3          | 4          | 4    | 3    | 3          |
|               |                     | 9月19日  | ＡＯ4期  | 4          | 4    | 6    | 6          | 4          | 4    | 4    | 4          |
|               |                     | 10月10日 | 指定校推薦 | 25         | 25   | 25   | 25         | 25         | 25   | 25   | 25         |
|               |                     | 10月10日 | 高校推薦  | 2          | 2    | 5    | 4          | 2          | 2    | 2    | 2          |
|               |                     | 10月10日 | 社会人   | 1          | 1    | 1    | 1          | 1          | 1    | 1    | 1          |
|               |                     | 11月14日 | 前期A   | 10         | 10   | 9    | 9          | 7          | 7    | 7    | 5          |
|               |                     | 11月14日 | 特待生   | 0          | 0    | 0    | 0          | 試験実施無      |      |      |            |
|               |                     | 12月5日  | 前期B   | 募集終了       |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     |        | 前期C   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 1月16日  | 後期A   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 2月6日   | 特待生   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 2月6日   | 後期B   |            |      |      |            |            |      |      |            |
|               |                     | 3月6日   | 後期C   |            |      |      |            |            |      |      |            |
| 合 計           |                     |        | 48    | 47         | 49   | 48   | 46         | 46         | 46   | 44   |            |

※応募者数・受験者数は第一志望の学生のみを記載。

第二志望で合格した学生の影響で一部の入試で「受験者数」より「合格者数」が多くなっている